平成１３年度研修事業の概要
（各研修事業別個表）

Ａ．一週間以上の中長期間の研修

１．教職員等中央研修講座
　第１回　校長、教頭等 …… １
　第２回　校長、教頭等 …… ３
　第３回　校長、教頭等 …… ５
　第４回　校長、教頭等 …… ７
　第１回　中堅教員 …… ９
　第２回　中堅教員 …… １１
　第３回　中堅教員 …… １３
　第４回　中堅教員 …… １５
２．洋上研修
　第１団 …… １７
　第２団 …… ２０
３．生徒指導総合研修講座 …… ２３
４．英語教育指導者講座
　第１・４ブロック …… ２５
　第３・８ブロック …… ２８
　第２ブロック …… ３１
　第５・７ブロック …… ３４
　第６ブロック …… ３７
　第９ブロック …… ４０
　第１０ブロック …… ４４
５．外国人児童生徒等日本語指導講習会
　前期 …… ４８
　後期 …… ５０
６．新産業技術等指導者養成講習
【新産業技術コース】
　農業：Ａ－１ …… ５２
　農業：Ａ－２ …… ５４
　工業：Ｂ－１ …… ５６
　工業：Ｂ－２ …… ５９
　商業：Ｃ－１ …… ６１
　商業：Ｃ－２ …… ６４
　水産：Ｄ－１ …… ６６
　家庭：Ｅ－１ …… ６８
　家庭：Ｅ－２ …… ７０
　家庭：Ｅ－３ …… ７２
　家庭：Ｅ－４ …… ７４
　看護：Ｆ－１－１ …… ７８
　看護：Ｆ－１－２ …… ８０
　看護：Ｆ－２ …… ８２
　技術：Ｇ－１ …… ８４
　技術：Ｇ－２－１ …… ８６
　技術：Ｇ－２－２ …… ８８
　技術：Ｇ－２－３ …… ９０
　技術：Ｇ－２－４ …… ９２
　技術：Ｇ－２－５ …… ９４
　技術：Ｇ－２－６ …… ９６
　家庭：Ｈ－１ …… ９８
【情報技術コース】
　工業：Ｉ－１ …… １００
　工業：Ｉ－２ …… １０２
　商業：Ｊ－１ …… １０４
　商業：Ｊ－２ …… １１０
７．学校安全教育指導者研修会
　第１回　交通安全 …… １１２
　第２回　防災・心の教育 …… １１４
８．公立小・中学校幹部事務職員研修講座 …… １１６

９．高等学校産業教育実習助手講習
農業 ……１１８
工業 ……１２０
10．会計事務研修
会計事務特別研修 ……１２２

Ｂ．派 遣 研 修

教職員派遣研修
【海　外】
短期派遣 ……１２４
若手派遣 ……１２６
日米国民交流・若手教員の米国派遣 ……１２８
英語担当派遣　１２月 ……１３０
英語担当派遣　　６月 ……１３２
【国　内】
理科教育（科学教育研究室研修生） ……１３４
産業教育（産業教育内地留学生） ……１３８

Ｃ．３日～１週間未満の研修

１．進路指導講座
東日本地区 ……１４２
西日本地区 ……１４４
２．公立高等学校事務職員幹部研修講座 ……１４６
３．教育情報化推進指導者養成研修
指導主事－全国１講座 ……１４８
指導主事－全国２講座 ……１５０
小 学 校－全国１講座 ……１５２
小 学 校－全国２講座 ……１５４
中学校・高等学校－全国講座 ……１５６
特　　殊－全国講座 ……１５８
小 学 校－東部１講座 ……１６０
小 学 校－東部２講座 ……１６２
小 学 校－中部１講座 ……１６４
小 学 校－中部２講座 ……１６６
小 学 校－西部１講座 ……１６８
小 学 校－西部２講座 ……１７０
中学校・高等学校－東部１講座 ……１７２
中学校・高等学校－東部２講座 ……１７４
中学校・高等学校－東部３講座 ……１７６
中学校・高等学校－東部４講座 ……１７８
中学校・高等学校－中部１講座 ……１８０
中学校・高等学校－中部２講座 ……１８２
中学校・高等学校－中部３講座 ……１８４
中学校・高等学校－西部１講座 ……１８６
中学校・高等学校－西部２講座 ……１８８
中学校・高等学校－西部３講座 ……１９０
４．「総合的な学習の時間」研修講座（小学校英語活動研修講座）
第１回 ……１９２
第２回 ……１９４
第３回 ……１９６
５．総合学科等新科目実技指導講座
第１回 ……１９８
第２回 ……２００
６．道徳教育連携・推進講座
第１回中央研修講座 ……２０２
第２回中央研修講座 ……２０４
７．環境教育担当教員講習会
東部地区 ……２０６
西部地区 ……２０８

８．自然体験活動担当教員講習会
東日本ブロック ……２１０
西日本ブロック ……２１２
９．学校体育指導者中央講習会
東部地区 ……２１４
中部地区 ……２１６
西部地区 ……２１８
10．健康教育指導者中央研修会 ……２２０
11．先端技術体験プログラム
工業：Ｋ－１ ……２２２
水産：Ｋ－２ ……２２４
12．公立小・中学校中堅事務職員研修講座 ……２２６
13．養護教諭中央研修会 ……２２８
14．保健室相談活動研修会 ……２３０
15．学校栄養職員等研修会 ……２３２
16．国立大学等部長級研修 ……２３４
17．国立大学等課長級研修 ……２３６
18．国立大学事務長研修 ……２３８
19．国立大学等課長補佐級研修 ……２４０
20．会計事務研修
【地区別会計事務研修】
北海道地区 ……２４２
東北地区 ……２４４
関東甲信越地区 ……２４６
東海・北陸地区 ……２４８
近畿地区 ……２５０
中国・四国地区 ……２５２
九州地区 ……２５４
21．留学生担当者研修会 ……２５６

Ｄ．１日～２日の短期間の研修

１．人権教育セミナー
第１回 ……２５８
第２回 ……２６０
２．エイズ・薬物乱用防止教育研修会 ……２６２
３．公立学校（高等学校・特殊教育諸学校）事務職員研修講座 ……２６４
４．衛生管理研修会 ……２６６
５．外国語指導助手に対する研修
【来日直後】
新規来日外国語指導助手研修（４月期） ……２６８
新規来日外国語指導助手研修（Ａ日程・Ｂ日程・第２次） ……２７０
【契約更新時】
契約更新予定者研修会（Ａ日程・Ｂ日程） ……２７３
６．留学生交流研究協議会
北海道、東北、関東地区 ……２７６
中部、近畿地区 ……２８１
中国、四国地区 ……２８６

Ｅ．その他（各都道府県に研修の実施を委託している研修）

１．道徳教育連携・推進講座
地区別研修講座 ……２９０
２．外国語指導助手に対する研修
【中間期】
招致期間中外国語指導助手研修（中間期） ……２９１
３．教員情報リテラシー向上プロジェクト事業 ……２９２

Ｆ．教員研修センターが実施した研修の一部を衛星で配信する研修

衛星配信研修 ……２９３

Ⅰ　研修概要

研 修 名	教職員等中央研修講座　（第１回校長、教頭等）						
研修目的（趣旨）	学校の管理運営、学習指導などの教育上の諸問題についての講義及び演習を行い、それぞれの職務における地域の中心的役割を果たす教職員を養成するための研修						
対 象	高等学校の校長、教頭						
開催期日	平成　１３　年　６月　２１　日　（木）　～　平成　１３　年　7月月　１２　日　（木）						
開催日数	２２　　日　間	計画人数	２００　人	受講者数	１９６　人	(参加率)	98.00　%
開催場所	独立行政法人　教員研修センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	１１４　人	58.16%	８０　人	40.82%	０　人	0.00%	２　人	1.02%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

(感　想)
- ○　一流の講師陣の多様な講義はすばらしい。
- ○　全体としてはよく計画されている。
- ○　レジュメのない講義はまとめに苦労する。
- ○　全国の先生から様々な情報を聞けて良かった。
- ○　職場を離れ腰を据えて研修でき意義があった。
- ○　最終日前日に文部科学省の講義を入れたことは疑問。
- ○　大学の講義のとりまとめのような内容はあまり参考にならなかった。

(要望・改善点等)
- ○　文部科学省の講師は早口で伝達的、講座に工夫を。
- ○　経済界やスポーツ等の方の話を伺いたかった。
- ○　講師の人選にひと工夫。
- ○　企業の管理運営についてのコマが欲しい。
- ○　外国人講師を入れて欲しい。
- ○　演習の時間を多く。
- ○　法規演習をもう少しいれたほうが良い。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度教職員等中央研修講座日程表：第１回校長・教頭等研修講座（２４９回）

参加者：高（長50）（頭150）合計２００名　　平成13年6月21日(木)～平成13年7月12日(木)

第１週	６／21(木)	／22(金)	／23(土)	／24(日)	／25(月)	／26(火)	／27(水)
	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）
午前 9:30～12:00	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ①	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ②	教育と法規 若井彌一	自由研修	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ③	班長会②	教育課題演習（１）
		世界と日本 黒岩徹			教育課程 相澤秀夫	教職員(1) 清水幹裕	
午後１ 13:30～15:00	開講式	地方教育行政制度の改善(文)	自由研修	自由研修	進路指導 木村　周	13:00～ 教職員(2) 清水幹裕	教育課題演習（２）
	教育改革の推進(文)★	★					
午後２ 15:15～16:45	写真撮影 ＧＫＫ	班別協議会①					
	班長会①				班別協議会②	学校管理運営研究①	学校管理運営研究②

第２週	６／28(木)	／29(金)	／30(土)	７／１(日)	／２(月)	／３(火)	／４(水)
	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）
午前 9:30～12:00	学校管理運営研究③	館外活動（選択）	学校管理運営研究⑤	自由研修	学校管理運営演習（１）	学校管理運営演習（３）	学校管理運営演習（５）
	危機管理 中本克美		人生論 金子満雄				
午後１ 13:30～15:00	ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論 木村政雄	館外活動（選択）	自由研修	自由研修	学校管理運営演習（２）	学校管理運営演習（４）	学校管理運営演習（６）
午後２ 15:15～16:45	学校管理運営研究④						学校の自主性・自律性の確保(文)

第３週	７／５(木)	／６(金)	／７(土)	／８(日)	／９(月)	／10(火)	／11(水)
	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）
午前 9:30～12:00	総合的な学習の時間 吉崎静夫 ★	館外活動（東京）	自由研修 (23日と交換)	自由研修	国際理解教育 田中則仁	情報教育 赤堀侃司 ★	不登校・いじめへの対応 金澤純三
午後１ 13:30～15:00	人権尊重の教育 森田明	館外活動（東京）	自由研修	自由研修	地方行財政制度（文）★	13:00～ 自然科学 養老孟司	児童の権利条約（文）★
午後２ 15:15～16:45	班長会③				生涯学習 渋谷英章	14:40～ 芸術 藤野カヨ 平田道子	自主課題研究

第４週	７／12(木)	◎　初日は現地（教員研修センター）集合です。 ◎　受付は１０：００～１０：４０に済ませてください。 ◎　初日のオリエンテーションは１０：４０から講堂で行います。 ★印：衛星配信
	科目名（講師名）	
午前 9:30～10:00	閉講式	

Ⅰ　研修概要

研修名	教職員等中央研修講座　（第２回校長、教頭等）						
研修目的（趣旨）	学校の管理運営、学習指導などの教育上の諸問題についての講義及び演習を行い、それぞれの職務における地域の中心的役割を果たす教職員を養成するための研修						
対象	中学校の校長、教頭、指導主事						
開催期日	平成　１３　年　７　月　１７　日（　火　）　～　平成　１３　年　８月　７日　（　火　）						
開催日数	２２　日　間	計画人数	１５０　人	受講者数	１４９　人	(参加率)	99.33　%
開催場所	独立行政法人　教員研修センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	８４　人	56.38%	６２　人	41.61%	０　人	0.00%	３　人	2.01%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

（感　想）
- ○　内容が豊富・充実しており、収穫は図りきれないほど大きかった。
- ○　よくここまで細かく現状を分析できるものかと感銘した。
- ○　中学校のみの研修会であったので情報交換しやすかった。
- ○　自分の進んできた方向が間違っていなかったことが確認できた。
- ○　適度な館外研修はよかった。

（要望・改善点等）
- ○　１人の話より、お互いの意見を討議させる取り組みのほうが参考になると思う。
- ○　学校管理演習は法規に重点をおいたほうがよいのではと思った。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度教職員等中央研修講座日程表：第２回校長・教頭等研修講座（２５０回）

参加者：中（長50）（頭50）・指（50）合計１５０名　　平成13年7月17日（火）～平成13年8月7日（火）

第１週	7／17（火） 科目名 （講師名）	／18（水） 科目名 （講師名）	／19（木） 科目名 （講師名）	／20（金） 科目名 （講師名）	／21（土） 科目名 （講師名）	／22（日） 科目名 （講師名）	／23（月） 科目名 （講師名）
午前 9:30～ 12:00	オリエンテーション①	オリエンテーション② 世界と日本 若林正人	オリエンテーション③ 教職員（1） 石津廣司	自由研修	自由研修 （28日交換）	自由研修	班長会② 教育課題 演習 （1）
午後１ 13:30～	開講式 教育改革の 推進（文）★	13:00～ 教育と法規 伊藤公一 ★	13:00～ 教職員（2） 石津廣司	自由研修 （海の日）	自由研修	自由研修	教育課題 演習 （2）
午後２ 15:15～ 16:45	写真撮影 ＧＫＫ 班長会①	班別協議会 ①	班別協議会 ②				学校管理運 営研究①

第２週	7／24（火） 科目名 （講師名）	／25（水） 科目名 （講師名）	／26（木） 科目名 （講師名）	／27（金） 科目名 （講師名）	／28（土） 科目名 （講師名）	／29（日） 科目名 （講師名）	／30（月） 科目名 （講師名）
午前 9:30～ 12:00	学校管理運 営研究② 危機管理 小島弘道	館外活動 （東京）	人権尊重の 教育 伊藤公雄	教育課程 安彦忠彦	総合的な学 習の時間 平野朝久	自由研修	学校管理運 営演習 （1）
午後１ 13:30～ 15:00	13:00～ 不登校・いじめへの対応 ★大木みわ	館外活動 （東京）	地方教育行政制度の改善（文）	スポーツ 君原健二	自由研修	自由研修	学校管理運 営演習 （2）
午後２ 15:15～ 16:45	学校管理運 営研究③		学校管理運 営研究 ④	学校管理運 営研究 ⑤			

第３週	7／31（火） 科目名 （講師名）	8／1（水） 科目名 （講師名）	／2（木） 科目名 （講師名）	／3（金） 科目名 （講師名）	／4（土） 科目名 （講師名）	／5（日） 科目名 （講師名）	／6（月） 科目名 （講師名）
午前 9:30～ 12:00	学校管理運 営演習 （3）	学校管理運 営演習 （5）	道徳教育 小寺正一	館外活動 （選択）	情報教育 鈴木克明	自由研修	ボランティア教育 中田武仁
午後１ 13:30～ 15:00	学校管理運 営演習 （4）	学校管理運 営演習 （6）	13:00～ 地方行財政 制度（文）	館外活動 （選択）	自由研修	自由研修	男女共同参 画社会 （文）★
午後２ 15:15～ 16:45		学校の自主性・自律性の確保（文） ★	14:40～ 芸術 藤野カヨ 平田道子				マネジメン ト論 松永良徳
			班長会③				

第４週	8／7（火） 科目名 （講師名）	◎　初日は現地（教員研修センター）集合です。 ◎　受付は１０：００～１０：４０に済ませてください。 ◎　初日のオリエンテーションは１０：４０から講堂で行います。 ★印：衛星配信
午前 9:30～ 10:00	閉講式	

Ⅰ　研修概要

研修名	教職員等中央研修講座　（第３回校長、教頭等）						
研修目的（趣旨）	学校の管理運営、学習指導などの教育上の諸問題についての講義及び演習を行い、それぞれの職務における地域の中心的役割を果たす教職員を養成するための研修						
対象	小学校の校長・教頭, 中学校の教頭、指導主事						
開催期日	平成　１４　年　１　月　８　日　（火）　～　平成　１４　年　１　月　２９　日　（火）						
開催日数	２２　日　間	計画人数	２５０　人	受講者数	２４８　人	(参加率)	99.20 %
開催場所	独立行政法人　教員研修センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	割合（%）	１５８　人	63.71%	８５　人	34.27%	０　人	0.00%	５　人	2.02%

2．研修内容に関する主な意見

(感想)
- ○　文部科学省より学習指導要領の改訂に伴う指導や、法規について詳細に説明してもらってよくわかった。
- ○　今日的な教育情報、課題を適切に内包した講義がほとんどでしたので参考になりました。
- ○　民間企業など異なる業界の講師の話が新鮮で得るところが多かった。
- ○　できるだけ具体的な事例を取り入れながら話をしていただくと、更に理解しやすいと思います。
- ○　文部科学省の講義の話し方、内容等をもう一度検討してもらいたい。
- ○　自分の教育理念の確立、教育実践の見直しの機会が与えられて良かった。
- ○　危機管理についての演習と講義はとても新鮮で、大変参考になった。
- ○　館外研修での施設見学や歌舞伎鑑賞がすばらしかった。
- ○　受講者相互の情報交換、意見交換が良い勉強になった。
- ○　学校管理運営演習では、学校運営の方向性を示唆してくださり非常に有意義だった。

(要望・改善点等)
- ○　芸術家、スポーツ選手、作家、科学者等の話も聞いてみたかった。
- ○　人選（講師・助言者）をよく考えて欲しい。
- ○　民間企業など教育界以外の方のお話をもっと多くしてもよいのではないでしょうか。
- ○　外国の教育学者から見た、日本の教育の現状と課題等の講義があるとよい。
- ○　学校管理運営演習の時間をもっと取れないだろうか。
- ○　危機管理に関する内容を増やし、様々な危機に関する対処の方法や危機意識の高揚に関する研修が深められるとよいのではないか。
- ○　生徒指導に関する多様な側面からの幅広い研修があればよいと思います。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度教職員等中央研修講座日程表：第３回校長・教頭等研修講座（２５４回）

参加者：小（長50）（頭75）・中（頭75）・指（50）合計２５０名　　平成14年1月8日（火）～平成14年1月29日（火）

	1／8（火）	／9（水）	／10（木）	／11（金）	／12（土）	／13（日）	／14（月）
第１週	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）
午前 9:30～12:00	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ①	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ②	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ③	班長会②	自由研修	自由研修	自由研修
		ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論 松永良典	教育と法規 伊藤公一	教育課題演習（１）			
午後１ 13:30～15:00	開講式 教育改革の推進（文）	地方教育行政制度の改善（文） ★	教育課程 児島邦宏 ★	教育課題演習（２）	自由研修	自由研修	自由研修（成人の日）
15:15～16:45	写真撮影 ＧＫＫ 班長会①	班別協議会①	班別協議会②	学校管理運営研究①			
	1／15（火）	／16（水）	／17（木）	／18（金）	／19（土）	／20（日）	／21（月）
第２週	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）
午前 9:30～12:00	教職員（1） 倭正市	学校管理運営研究③	道徳教育 伊藤啓一	館外活動（選択）	総合的な学習の時間 吉崎静夫	自由研修	学校管理運営演習（１）
		危機管理 田中正博					
午後１ 13:30～15:00	13:00～ 教職員（2） 倭正市	13:00～ 不登校・いじめへの対応 亀口憲治	13:00～ 地方行財政制度（文）	館外活動（選択）	自由研修	自由研修	学校管理運営演習（２）
午後２ 15:15～16:45		学校管理運営研究④	14:40～ 芸術 家田紀子 金井紀子				
	学校管理運営研究②		16:20～ 学校管理運営研究⑤				
	1／22（火）	／23（水）	／24（木）	／25（金）	／26（土）	／27（日）	／28（月）
第３週	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）
午前 9:30～12:00	学校管理運営演習（３）	学校管理運営演習（５）	情報教育 野々山隆幸	館外活動（東京）	自由研修	自由研修	環境教育 小澤紀美子
午後１ 13:30～15:00	学校管理運営演習（４）	学校管理運営演習（６）	人権尊重の教育 今野敏彦	館外活動（東京）	自由研修	自由研修	産業・経済 梶原豊 ★
午後２ 15:15～16:45		学校の自主性・自律性の確保（文） ★	生涯学習・保健体育行政の諸課題、その他（文） ★				スポーツ 太田章
			班長会③				
第４週	1／29（火）	◎　初日は現地（教員研修センター）集合です。 ◎　受付は１０：００～１０：４０に済ませてください。 ◎　初日のオリエンテーションは１０：４０から講堂で行います。 ★印：衛星配信					
	科目名（講師名）						
午前 9:30～10:00	閉講式						

Ⅰ　研修概要

研修名	教職員等中央研修講座　（第４回校長、教頭等）						
研修目的（趣旨）	学校の管理運営、学習指導などの教育上の諸問題についての講義及び演習を行い、それぞれの職務における地域の中心的役割を果たす教職員を養成するための研修						
対象	小学校の教頭、幼稚園園長、指導主事、センター指導主事						
開催期日	平成　１４　年　２　月　１２　日（火）～ 平成　１４　年　３　月　５　日（火）						
開催日数	２２　日間	計画人数	２００　人	受講者数	１９８　人	(参加率)	99.00 %
開催場所	独立行政法人　教員研修センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	１３３　人	67.17%	６２　人	31.31%	１　人	0.51%	２　人	1.01%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

(感想)
- ○　物事を理解していくために不可欠な多様な視点を得ることができ大変有意義であったと思いました。
- ○　それぞれの研修が教育改革につながりのある内容で、今の時期に受講できたことを幸せに思う。
- ○　講義と演習、遠足、音楽鑑賞とたくさんのメニューがあり、充実した毎日でした。
- ○　専門的な知識をもたれている一流の講師の方から多くのことを学ぶことができました。
- ○　各講義の講師の先生方のお話は、高い専門性と豊かな経験を基にエネルギッシュな話しぶり、新鮮で大変有意義な講義であった。
- ○　講義は、どの講師の方もすばらしいお考えをもち、話し方も的確であり感動した。ただ、一部の方の考えが十分にわからない面もあった。
- ○　企業人、弁護士等、普段聴くことのできない御講義をいただき、とても勉強になりました。
- ○　弁護士、民間企業の方の講演は新鮮さと感銘を受けた。今後とも本講座で実施して欲しい。
- ○　演習の設問は、仲間との意見、他県の情報交換等、とても有意義でした。
- ○　講義内容は多岐にわたり大変勉強になった。研究報告、法規演習は充実し成果も上がった。

(要望・改善点等)
- ○　スポーツや文化面での一流と言われている方のお話を１講義ぐらい受けてみたい。
- ○　民間の手法導入の立場で企業のトップの方のリーダーシップ論が聞けたら良いと思う。
- ○　９０分でも１５０分でもその内容と講師の話し方等工夫によって頭に入っていくものであり、内容も講師も考えて欲しい。
- ○　評価規準、基準についての講義を聴きたかった。
- ○　すばらしい講義が続き過ぎ、一つ一つかみしめている時間がなかったように思え、討議する時間がほしい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度教職員等中央研修講座日程表：第４回校長・教頭等研修講座（２５５回）

参加者：小（頭75）・幼（25）・指（50）・セ指（50）合計２００名　　平成14 年2月12 日（火）～平成14年3月5日（火）

	2／12（火）	／13（水）	／14（木）	／15（金）	／16（土）	／17（日）	／18（月）
第１週	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）
午前 9:30～12:00	オリエンテーション①	オリエンテーション②	オリエンテーション③	班長会②	総合的な学習の時間 西野範夫	自由研修	教育課題演習（１）
		地方教育行政制度の改善（文）	教育と法規	教職員（1） 松崎勝			
午後１ 13:30～15:00	開講式 教育改革の推進（文）	マネジメント論 ★袖山雅弘	教育課程 山極隆 小川博久	教職員（2） 松崎勝	自由研修	自由研修	教育課題演習（２）
午後２ 15:15～16:45	写真撮影 ＧＫＫ 班長会①	班別協議会①	班別協議会②	教育法規事前研①			教育法規事前研②
	2／19（火）	／20（水）	／21（木）	／22（金）	／23（土）	／24（日）	／25（月）
第２週	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）
午前 9:30～12:00	学校管理運営研究① 危機管理 ★尾木和英	学校管理運営研究③ リーダー論 逸見純昌	不登校・いじめへの対応 鵜養啓子	館外活動（東京）	自由研修	自由研修	学校管理運営演習（１）
午後１ 13:30～15:00	13:00～ 人権尊重の教育 坪井節子	13:00～ 産業・経済 水谷研治	特別活動 宮川八岐	館外活動（東京）	自由研修	自由研修	学校管理運営演習（２）
		14:40～ 芸術 松本宰二 梅田朋子	学校管理運営研究④				
午後２ 15:15～16:45	学校管理運営研究②		学校管理運営研究⑤				
	2／26（火）	／27（水）	／28（木）	3／1（金）	／2（土）	／3（日）	／4（月）
第３週	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）
午前 9:30～12:00	学校管理運営演習（３）	学校管理運営演習（５）	道徳教育 横山利弘	館外活動（選択）	国際理解教育 恒吉僚子	自由研修	情報教育 鈴木克明
午後１ 13:30～15:00	学校管理運営演習（４）	学校管理運営演習（６）	地方行財政制度（文）	館外活動（選択）	自由研修	自由研修	歴史・民俗 安田喜憲
午後２ 15:15～16:45		学校の自主性・自律性の確保（文）	男女共同参画社会（文）				班別協議会③
			班長会③				
	3／5（火）	◎　初日は現地（教員研修センター）集合です。					
第４週	科目名（講師名）	◎　受付は１０：００～１０：４０に済ませてください。					
午前 9:30～10:00	閉講式	◎　初日のオリエンテーションは１０：４０から講堂で行います。					
		★印：衛星配信					

Ⅰ　研修概要

研修名	教職員等中央研修講座　（第１回中堅教員）						
研修目的（趣旨）	学校の管理運営、学習指導などの教育上の諸問題についての講義及び演習を行い、それぞれの職務における地域の中心的役割を果たす教職員を養成するための研修						
対象	小・中・高等学校の中堅教員（教務主任）						
開催期日	平成　１３　年　５　月　８　日　（火）　～　平成　１３　年　６　月　１２　日　（火）						
開催日数	３５　日間	計画人数	２００人	受講者数	２００人	（参加率）	100.00 %
開催場所	独立行政法人　教員研修センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	１５７人	78.50%	４３人	21.50%	０人	0.00%	０人	0.00%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

（1）感想

○　文部科学省審議官，著名な先生方，企業のトップの方と豊富でﾊﾞﾗｴﾃｨｰに富んだ講師の方々のお話，大変良かった。自分が活性化していくように思えた。

○　教師になって良かったと感じた。人の人生の道案内に少しでも関われること，すばらしい人生を送れるように支援できること。

　社会に貢献できる自分の職務を見直す良い機会になった。２１世紀に生きる力をもった人間の育成に向けて，地元で研修内容を他の先生方に広めていきたい。

○　多方面にわたってのいろいろな話が聞けてとても良かった。どの講義もその道を極められた方のお話は，人としての生き方につながり，自分自身にも，これからの教育にも大きな示唆を与えていただいた。

　すてきな講師や受講者との出会いは，私に勇気と夢，そしてこれからの難しい教育へのがんばりをいただいた。このﾈｯﾄﾜｰｸをこれからの支えにし，大切にしていきたいと思う

○　回を重ねながら改善をしていった結果なのだと思いますが，無駄のない，受講者の立場でよくしくまれたﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ配列だと思った。

○　教育法規演習では，日頃法律的に考えることが少なかったので，大変勉強になった。

また，講師の先生に詳しく指導していただいて勉強になった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度教職員等中央研修講座日程表：第１回中堅教員研修講座（２４８回）

参加者：教務主任（小（100）・中（50）・高（50））合計２００名　　平成13年5月8日（火）～平成13年6月12日（火）

第１週	５／８（火） 科目名 （講師名）	５／９（水） 科目名 （講師名）	５／10（木） 科目名 （講師名）	５／11（金） 科目名 （講師名）	５／12（土） 科目名 （講師名）	５／13（日） 科目名 （講師名）	５／14（月） 科目名 （講師名）
午前 9:30～ 12:00	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ①	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ②	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ③	班長会②	自由研修	自由研修	教育課題 演習 （１）
		世界と日本 ★飯田健一	教育と法規 伊藤公一	教職員（1） 清水幹裕			
午後１ 13:30～ 15:00	開講式 教育改革の 推進（文）	ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論 津田和明	コミュニケーション	教職員（2） 清水幹裕	自由研修	自由研修	教育課題 演習 （２）
午後２ 15:15～ 16:45	写真撮影 ＧＫＫ 班長会①	班別協議会 ①	班別協議会 ②				教育関係法規・学校管理運営演習事前検
第２週	５／15（火）	／16（水）	／17（木）	／18（金）	／19（土）	／20（日）	／21（月）
午前 9:30～ 12:00	教育課題 演習 （３）	不登校・いじめへの対応 石隈利紀	道徳教育 横山利弘	地方教育行財政制度 ★松井一麿	学習指導・評価 中野重人	自由研修	総合的な学習の時間 高階玲治
午後１ 13:30～ 15:00	教育課題 演習 （４）	13:00～ 教育課程 山極隆	リーダー論 金平敬之助 ★	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ ﾀﾞﾝｽ 堀内美佐子	自由研修	自由研修	地方教育行政制度の改善（文）
午後２ 15:15～ 16:45	教育関係法規・学校管理運営演習事前検	教育指導研究①	教育指導研究②	教育指導研究③			教育指導研究④
第３週	５／22（火）	／23（水）	／24（木）	／25（金）	／26（土）	／27（日）	／28（月）
午前 9:30～ 12:00	進路指導 鹿嶋研之助	生徒指導 國分康孝	学校経営 大貫力	特別活動 渡部邦雄 ★	自由研修	自由研修	教育関係法規・学校管理運営演習 （１）
午後１ 13:30～ 15:00	教育指導研究⑤ 14:40～	男女共同参画社会　★	著作権	ネイチャーゲーム	自由研修	自由研修	教育関係法規・学校管理運営演習 （２）
午後２ 15:15～ 16:45	芸　術 松本宰二 梅田朋子	教育指導研究⑥	教育関係法規・学校管理運営演習事前検	教育関係法規・学校管理運営演習事前検			
第４週	５／29（火）	／30（水）	／31（木）	６／１（金）	／２（土）	６／３（日）	／４（月）
午前 9:30～ 12:00	教育関係法規・学校管理運営演習 （３）	教育関係法規・学校管理運営演習 （５）	教育関係法規・学校管理運営演習 （７）	館外活動 （選択）	特殊教育 上野一彦	自由研修	環境教育 ｻﾝｶﾞ・ﾝｺﾞｲ・ｶｻﾃﾞｨ
午後１ 13;30～ 15:00	教育関係法規・学校管理運営演習 （４）	教育関係法規・学校管理運営演習 （６）	教育関係法規・学校管理運営演習 （８）	館外活動 （選択）	自由研修	自由研修	人間関係づくり 池上彰
午後２ 15:15～ 16:45			学校の自主性・自律性の確保　（文） ★				歴史・民俗 竹内誠
第５週	６／５（火）	／６（水）	／７（木）	／８（金）	／９（土）	／10（日）	／11（月）
午前 9:30～ 12:00	人権尊重の教育 福田弘	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ教育 ★内海成治	情報教育 松田稔樹	館外活動 （東京）	自由研修	自由研修	国際理解教育 米田伸次
午後１ 13:30～ 15:00	健康教育 町沢静夫	生涯学習 浅井経子 ★	自然・科学 三浦宏文	館外活動 （東京）	自由研修	自由研修	スポーツ 衣笠祥雄
午後２ 15:15～ 16:45	自主課題研究	自主課題研究	地方行財政制度（文） ★				自主課題研究
			班長会③				
第６週	６／12（火）	◎　初日は現地（教員研修センター）集合です。 ◎　受付は１０：００～１０：４０に済ませてください。 ◎　初日のオリエンテーションは１０：４０から講堂で行います。 ★印：衛星配信					
午前 9:30～ 10:00	閉講式						

Ⅰ　研修概要

研修名	教職員等中央研修講座　（第２回中堅教員）						
研修目的（趣旨）	学校の管理運営、学習指導などの教育上の諸問題についての講義及び演習を行い、それぞれの職務における地域の中心的役割を果たす教職員を養成するための研修						
対象	高等学校の中堅教員						
開催期日	平成　１３　年　８　月２２　日（水）～　平成　１３　年　９　月　２６　日（水）						
開催日数	３６　日　間	計画人数	２００人	受講者数	２１０人	（参加率）	105.00 %
開催場所	独立行政法人　教員研修センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	１１６人		８８人		１人		５人	
割合（%）		55.24%		41.90%		0.48%		2.38%

2．研修内容に関する主な意見

(1) 感想

○　どの講義も一流の先生方ばかりで，大変貴重な内容を聴くことができ感謝している。（同様他31件）
○　講義全体の内容・毎日の組み方はよく考えられていた（同様他27件）
○　普段気に留めていなかった事柄について自らの考えを述べざる得ない状況を経験し，大変貴重かつ有意義な研修であった（同様他19件）
○　今後の教育活動に活かしていきたい。（同様他12件）
○　各演習は受講者相互の意見交換としてとても参考になった。（同様他11件）
○　内容が重なっている講義が終わりの方に多く感じた（同様他10件）
○　各講師の熱の入った講義に深い感銘を受けた。（同様他7件）
○　ｴﾙｰﾈｯﾄの講義は，一方通行となってしまうので良くなかった。（同様他4件）
○　多くの情報を得ることができ，また意欲をわかせてくれるものばかりだった。（同様他2件）
○　文部科学省の講師の演習は，現場の具体的な声や文部科学省の考え等が伺えて良かった。
○　講義の時間配分が不適切であり，解答が語られないまま終わってしまう講義があり残念だった。
○　みんなのｴﾈﾙｷﾞｰがﾚﾎﾟｰﾄに奪われ，研修の意味が薄まってしまうように感じた。
○　「総合的な学習時間」「教育課程の実施方法」などの興味深い項目について無理のない範囲でできるとよい。
○　個々の講義に関して，内容にばらつきがあったように感じた。
○　人間性を豊かにさせる為の自己啓発の必要性を痛感した。
○　演習については，その方法そのものが勉強になった。
○　講師の中に，語尾上げ言葉を使う方や聞き手を無視して自分のﾍﾟｰｽで話している方がいた。
○　森本先生の世界と日本がとてもよかった。
○　自分のこれまでの実践がおおむね妥当であったことが確認できた。
○　講師の先生自身がﾏﾝﾈﾘ化しており，内容にも新鮮さがかけているような感じがした。
○　講義の合間などに講師の先生も含め、ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ・情報交換の時間があると良い
○　民間の経営手法について紹介できる講師を１人でも入れて欲しい。
○　タイトルと内容がずれているものがあったので，資料にそっての話をして欲しい。
○　講師の年齢が高すぎるので，現役第一線の研究者の話を聞きたい。
○　講義の中に質問時間を設けて欲しい。または，Ｅ－ﾒｰﾙやﾌｧｸｽで受け付けるようにしてほしい。
○　文部科学省の講師との演習をもう少し取り入れて，本音で話しができたら良い。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度教職員等中央研修講座日程表：第２回中堅教員研修講座（２５１回）

参加者：諏(200) 合計２００名　　平成13年8月22日(水)～平成13年9月26日(水)

第１週	8／22(水)	／23(木)	／24(金)	／25(土)	／26(日)	／27(月)	／28(火)
	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）
午前 9:30～12:00	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ①	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ②	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ③ 教育と法規 若井彌一	自由研修	自由研修	班長会② 教職員(1) 清水幹裕	教育課題演習（１）
午後１ 13:30～15:00	開講式 教育改革の推進(文)	世界と日本 森本敏	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	自由研修	自由研修	教職員(2) 清水幹裕	教育課題演習（２）
午後２ 15:15～16:45	写真撮影 ＧＫＫ 班長会①	班別協議会①	班別協議会②				教育関係法規・学校管理運営演習事前検

第２週	8／29(水)	／30(木)	／31(金)	9／1(土)	／2(日)	／3(月)	／4(火)
午前 9:30～12:00	教育課題演習（３）	不登校・いじめへの対応 菅野純	教育課程 児島邦宏	地方教育行財政制度 高倉翔	自由研修	学習指導・評価 梶田叡一	生徒指導 森田洋司
午後１ 13:30～15:00	教育課題演習（４）	13:00～ 道徳教育 藤永芳純	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ ﾀﾞﾝｽ 三浦玲子	自由研修	自由研修	13:00～ 人権尊重の教育 森実	著作権★
午後２ 15:15～16:45	教育関係法規・学校管理運営演習事前検	教育指導研究①	教育指導研究②			教育指導研究③	教育指導研究④

第３週	9／5(水)	／6(木)	／7(金)	／8(土)	／9(日)	／10(月)	／11(火)
午前 9:30～12:00	総合的な学習の時間 工藤文三	進路指導 菊池武剋	学校経営 菊池龍三郎★	自由研修	自由研修	教育関係法規・学校管理運営演習（１）	教育関係法規・学校管理運営演習（３）
午後１ 13:30～15:00	教育指導研究⑤ 14:40～	地方教育行政制度の改善（文）★	ネイチャーゲーム	自由研修	自由研修	教育関係法規・学校管理運営演習（２）	教育関係法規・学校管理運営演習（４）
午後２ 15:15～16:45	芸術 蒲原史子 小林功	教育指導研究⑥	教育関係法規・学校管理運営演習事前検				

第４週	9／12(水)	／13(木)	／14(金)	／15（土）	／16（日）	／17（月）	／18（火）
午前 9:30～12:00	教育関係法規・学校管理運営演習（５）	教育関係法規・学校管理運営演習（７）	館外活動（選択）	自由研修	自由研修	情報教育 永野和男	自主課題研究 10:30～ 児童の権利条約(文)
午後１ 13:30～15:00	教育関係法規・学校管理運営演習（６）	教育関係法規・学校管理運営演習（８）	館外活動（選択）	自由研修（敬老の日）	自由研修	健康教育 和唐正勝★	特殊教育 西川公司★
午後２ 15:15～16:45		学校の自主性・自律性の確保（文）				倫理・哲学 今道友信★	産業・経済 片岡寛

第５週	9／19(水)	／20(木)	／21(金)	／22（土）	/23(日)	／24(月)	／25（火）
午前 9:30～12:00	特別活動 山口満	国際理解教育★ 佐藤郡衛	館外活動（東京）	自由研修	自由研修	自由研修	ボランティア教育 田代正美
午後１ 13:30～15:00	環境教育 小澤紀美子★	マネジメント論 田村哲夫	館外活動（東京）	自由研修	自由研修（秋分の日）	自由研修（振替休日）	スポーツ 山口良治
午後２ 15:15～16:45	自然科学 大隅清治	地方行財政制度（文）★ 班長会③					自主課題研究

第６週	9／26(水)
午前 9:30～10:00	閉講式

◎　初日は現地（教員研修センター）集合です。
◎　受付は１０：００～１０：４０に済ませてください。
◎　初日のオリエンテーションは１０：４０から講堂で行います。
★印：衛星配信

Ⅰ　研修概要

研修名	教職員等中央研修講座　（第３回中堅教員）						
研修目的（趣旨）	学校の管理運営、学習指導などの教育上の諸問題についての講義及び演習を行い、それぞれの職務における地域の中心的役割を果たす教職員を養成するための研修						
対象	小・中学校の中堅教員						
開催期日	平成　１３　年　１０　月　２　日（火）～ 平成　１３　年　１１　月　６　日（火）						
開催日数	３６　日　間	計画人数	３００　人	受講者数	３００　人	(参加率)	100.00 %
開催場所	独立行政法人　教員研修センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	２１８　人	72.67%	８１　人	27.00%	０　人	0.00%	１人	0.33%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

○ 幅広い視野にたって学び、一流の先生方々のお話を聞くことができ，大変有意義であった。（同様他45件）
○ 何のｽﾄﾚｽもない状況で研修でき，貴重な経験だった。（同様他26件）
○ ｶﾘｷｭﾗﾑ構成が適切で，全体の流れやその時々の研修内容にあわせたものになっていた。（同様他19件）
○ 課題演習や講義では，今後の教育実践にあたりとても役立ち，自己意識の変容に大きく影響があった。
○ 法規演習等，日常の学習，教育活動では経験できない事が数多くあった（同様他16件）
○ 文部科学省の講義が理解しづらい。
○ 講師の先生方が充実していて，講義が楽しいと思えた。外部の方のお話はとても刺激になりました。（同様他13件）
○ 児童の立場をいろいろな意味で疑似体験でき、話す間，興味関心を持たせる事がいかに意欲化につながるか，実感できた。（同様他12件）
○ 演習で，他県の先生方と情報交換ができたことは特に有意義だった。
○ 話の前段が長く，本質が短くなってしまい，内容が最後まで聞けない講義があったのが残念

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度教職員等中央研修講座日程表：第３回中堅教員研修講座（２５２回）

参加者：小(100)・中(200) 合計３００名　　平成13年10月2日(火)～平成13年11月6日(火)

	10／2(火)	／3(水)	／4(木)	／5(金)	／6(土)	／7(日)	／8(月)
第１週	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）
午前 9:30～12:00	オリエンテーション①	オリエンテーション②	オリエンテーション③ 教育と法規 齋藤浩	班長会② 教職員(1) 松崎勝	自由研修 (13日交換)	自由研修	自由研修 (体育の日)
午後１ 13:30～15:00	開講式 教育改革の推進(文) ★	マネジメント論 小野俊一	コミュニケーション	教職員(2) 松崎勝	自由研修	自由研修	自由研修
午後２ 15:15～16:45	写真撮影 ＧＫＫ 班長会①	班別協議会①	班別協議会②				
第２週	10／9(火)	／10(水)	／11(木)	／12(金)	／13(土)	／14(日)	／15(月)
午前 9:30～12:00	教育課題演習（１）	教育課題演習（３）	不登校・いじめへの対応 ★勝田顕	教育課程 ★澁澤文隆	地方教育行財政制度 山本眞一	自由研修	総合的な学習の時間 村川雅弘
午後１ 13:30～15:00	教育課題演習（２）	教育課題演習（４）	13:00～ 道徳教育 横山利弘	コミュニケーションダンス 中山久子・堀内美佐子	自由研修	自由研修	地方教育行政制度の改善（文）
午後２ 15:15～16:45	教育関係法規・学校管理運営演習事前検	教育関係法規・学校管理運営演習事前検	教育指導研究①	教育指導研究②			教育指導研究③
第３週	10／16(火)	／17(水)	／18(木)	／19(金)	／20(土)	／21(日)	／22(月)
午前 9:30～12:00	進路指導 仙崎武	生徒指導 ★星野周弘	学習指導・評価 ★谷川彰英	特別活動 天笠茂	学校経営 葉養正明	自由研修	教育関係法規・学校管理運営演習（１）
午後１ 13:30～15:00	教育指導研究④ 14:40～	児童の権利条約 ★	著作権	ネイチャーゲーム	自由研修	自由研修	教育関係法規・学校管理運営演習（２）
午後２ 15:15～16:45	芸術 家田紀子 金井紀子	教育指導研究⑤	教育指導研究⑥	教育関係法規・学校管理運営演習事前検			
第４週	10／23(火)	／24(水)	／25(木)	／26(金)	／27(土)	／28(日)	／29(月)
午前 9:30～12:00	教育関係法規・学校管理運営演習（３）	教育関係法規・学校管理運営演習（５）	教育関係法規・学校管理運営演習（７）	館外活動（選択）	自由研修	自由研修	人権尊重の教育 福田弘
午後１ 13:30～15:00	教育関係法規・学校管理運営演習（４）	教育関係法規・学校管理運営演習（６）	教育関係法規・学校管理運営演習（８）	館外活動（選択）	自由研修	自由研修	健康教育 野津有司
午後２ 15:15～16:45			学校の自主性・自律性の確保 (文) ★				自主課題研究
第５週	10／30(火)	／31(水)	11／1(木)	／2(金)	／3(土)	／4(日)	／5(月)
午前 9:30～12:00	情報教育 鈴木敏恵	ボランティア教育 吉永宏	環境教育 市田則孝	館外活動（東京）	自由研修	自由研修	国際理解教育 桑ヶ谷森男
午後１ 13:30～15:00	自然・科学 ★本川達雄	学級経営をめぐる問題とその対応について ★小松郁夫	芸術 中村又蔵	館外活動（東京）	自由研修 (文化の日)	自由研修	人生論 小川三夫 ★
午後２ 15:15～16:45	地方行財政制度 (文) ★	リーダー論 金平敬之助	歴史・民俗 竹内誠 班長会③				自主課題研究
第６週	11／6(火)	◎ 初日は現地（教員研修センター）集合です。 ◎ 受付は１０：００～１０：４０に済ませてください。 ◎ 初日のオリエンテーションは１０：４０から講堂で行います。 ★印：衛星配信					
午前 9:30～10:00	閉講式						

Ⅰ　研修概要

研修名	教職員等中央研修講座　（第４回中堅教員）						
研修目的（趣旨）	学校の管理運営、学習指導などの教育上の諸問題についての講義及び演習を行い、それぞれの職務における地域の中心的役割を果たす教職員を養成するための研修						
対象	小学校の中堅教員						
開催期日	平成　１３　年　１１　月　１３　日（火）～ 平成　１３　年　１２　月　１８　日（火）						
開催日数	３６　日間	計画人数	３００人	受講者数	３０１人	(参加率)	100.33 %
開催場所	独立行政法人　教員研修センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	割合（%）	１８３人	60.80%	１１３人	37.54%	１人	0.33%	４人	1.33%

2．研修内容に関する主な意見

○　法規演習は，専門性の高い学習ができたと思う。
○　各界からの著名な講師の方々の講義を聞き，幅広く知識を身につけることができた。
○　すばらしい講座が多く，タイムリーな話題を多く耳にすることができた。
○　一日中座っているのは，本当に辛く，休憩ﾀｲﾑをゆとりをもっていただけたらと思いました。
○　実習は各地方での実態などの情報やお互いの意見交換ができとても有意義でした。
○　障害のある児童に関する講義，図書館利用等についての講義もあるとよかった。
○　プログラムの構成もよく効率よく集中できるものだったように思います。
○　演習は他県の様子が聞け参考になった。
○　法規演習が急遽５０名体制になり，混乱しました。この大人数では”演習”とは，呼べません。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度教職員等中央研修講座日程表：第４回中堅教員研修講座（２５３回）

参加者：小(300) 合計３００名　　平成13年11月13日(火)~平成13年12月18日(火)

	11／13(火)	／14(水)	／15(木)	／16(金)	／17(土)	／18(日)	／19(月)
第１週	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）	科目名（講師名）
午前 9:30~ 12:00	オリエンテーション①	オリエンテーション② 世界と日本 森本敏	オリエンテーション③ 教育と法規 若井彌一	班長会② 教職員(1) 松崎勝	教育課程 加藤幸次	自由研修	教育課題演習（１）
午後１ 13:30~ 15:00	開講式 教育改革の推進(文) ★	ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論 茂木友三郎 ★	コミュニケーション	教職員(2) 松崎勝	自由研修	自由研修	教育課題演習（２）
午後２ 15:15~ 16:45	写真撮影 ＧＫＫ 班長会①	班別協議会①	班別協議会②				教育関係法規・学校管理運営演習事前検
第２週	11／20(火)	／21(水)	／22(木)	／23(金)	／24(土)	／25(日)	／26(月)
午前 9:30~ 12:00	教育課題演習（３）	不登校・いじめへの対応 伊藤美奈子	総合的な学習の時間 ★高階玲治	自由研修	自由研修	自由研修	教育指導研究③ 10:30～ 児童の権利条約 ★
午後１ 13:30~ 15:00	教育課題演習（４）	13:00～ 道徳教育 押谷慶昭 ★	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝﾀﾞﾝｽ 中山久子・堀内美佐子	自由研修（勤労感謝の日）	自由研修	自由研修	地方教育行政制度の改善（文）★
午後２ 15:15~ 16:45	教育関係法規・学校管理運営演習事前検	教育指導研究①	教育指導研究②				教育指導研究④
第３週	11／27(火)	／28(水)	／29(木)	／30(金)	12／１(土)	／２(日)	／３(月)
午前 9:30~ 12:00	進路指導 渡辺三枝子 ★	生徒指導 諸富祥彦	学習指導・評価 有田和正	特別活動 片岡徳雄	地方教育行財政制度 堀和郎	自由研修	教育関係法規・学校管理運営演習（１）
午後１ 13:30~ 15:00	13:00～ 教育指導研究⑤ 14:40～	男女共同参画社会	学校経営 有村久春	ネイチャーゲーム	自由研修	自由研修	教育関係法規・学校管理運営演習（２）
午後２ 15:15~ 16:45	芸術 蒲原史子 小林功	教育指導研究⑥	教育関係法規・学校管理運営演習事前検	教育関係法規・学校管理運営演習事前検			
第４週	12／４(火)	／５(水)	／６(木)	／７(金)	／８(土)	／９(日)	／10(月)
午前 9:30~ 12:00	教育関係法規・学校管理運営演習（３）	教育関係法規・学校管理運営演習（５）	教育関係法規・学校管理運営演習（７）	館外活動（東京）	自由研修	自由研修	環境教育 三島次郎
午後１ 13:30~ 15:00	教育関係法規・学校管理運営演習（４）	教育関係法規・学校管理運営演習（６）	教育関係法規・学校管理運営演習（８）	館外活動（東京）	自由研修	自由研修	健康教育 中村明子
午後２ 15:15~ 16:45			学校の自主性・自律性の確保 (文)				自主課題研究
第５週	12／11(火)	／12(水)	／13(木)	／14(金)	／15(土)	／16(日)	／17(月)
午前 9:30~ 12:00	学級経営をめぐる問題とその対応について 滝充	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ教育 坂口順治	情報教育 林徳治 ★	館外活動（選択）	人権尊重の教育 坪井節子	自由研修	国際理解教育 田島伸二
午後１ 13:30~ 15:00	文学 杉みき子 ★	生涯学習 山本恒夫	特別講義 景浦攻	館外活動（選択）	自由研修	自由研修	リーダー論 童門冬二
午後２ 15:15~ 16:45	地方行財政制度(文) ★	自主課題研究	自然・科学 大隅清治 班長会③				自主課題研究
第６週	12／18(火)						
午前 9:30~ 10:00	閉講式						

◎　初日は現地（教員研修センター）集合です。
◎　受付は１０：００～１０：４０に済ませてください。
◎　初日のオリエンテーションは１０：４０から講堂で行います。
★印：衛星配信

Ⅰ　研修概要

研修名	洋上研修（第１団）						
研修目的（趣旨）	洋上研修は、初任者研修の対象となる公立学校の新任教員（以下「初任者」という。）に対して「船上における研修」と「寄港地における研修」を行うことにより、その知見を広めるとともに、都道府県・指定都市・中核市及び校種の枠を超えて相互に交流し、教員としての一体感を養うことを目的とする。						
対象	公立学校の新任教員、国立及び私立の小学校等の新任教員の一部。						
開催期日	平成　１３　年　７　月　２６　日（木）～ 平成　１３　年　８　月　３　日（金）						
開催日数	９　日間	計画人数	４５０人	受講者数	４８５人	(参加率)	107.78 %
開催場所	船上及び寄港地（沖縄県・愛媛県）						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	４３２人	89.44%	１３人	2.69%	４人	0.83%	３４人	7.04%

2．研修内容に関する主な意見

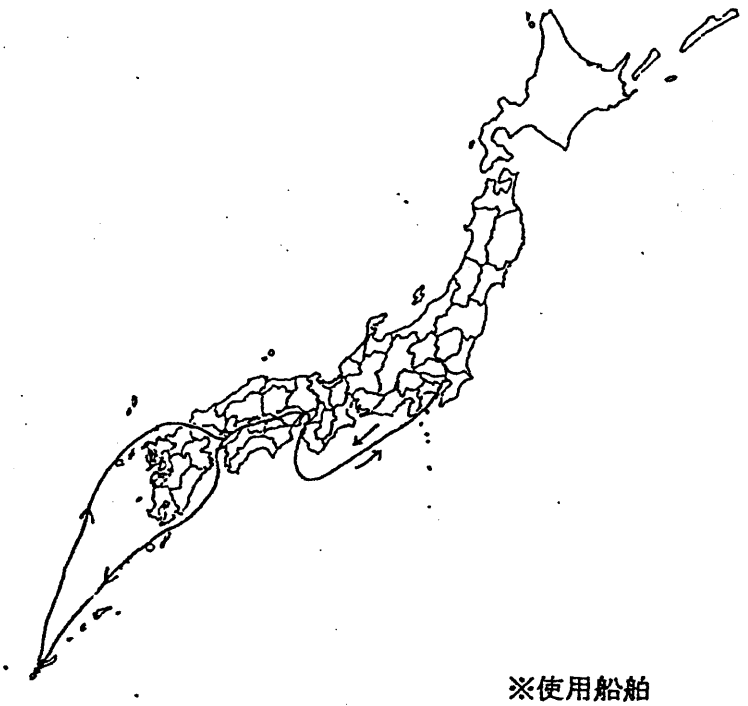
- 全国各地の様々な校種の先生と交流を深めることが大変有意義だった。
- 参加する研修生の自主的な活動・創意工夫で成り立っていく研修だと思った。良い刺激になった。
- ９日間という短い期間では考えられないほど密度が濃い研修だった。
- 班別討議など意見交流の場が多く学ぶことが多かった。
- いろいろな活動を通じて中間づくり助け合い、そして楽しもうと思う雰囲気づくりに一人一人が努力・協力する姿を意外なほど多く見る機会があった。教員の集まりでこんなに深くまでお互いを知り合えたことがとても貴重な体験だった。
- 自分の仕事上の悩みを解決するうえで、手がかりとなる意見を多く聞くことができた。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

全体の日程

○ 航路



※使用船舶
「ぱしふぃっくびいなす」（約26,500ﾄﾝ
＜日本クルーズ客船㈱＞
（航路は、気象条件等により変更する場合があります。）

○ 第１団日程表

	月日（曜日）	発着時間 港名	主な研修内容							宿泊地
1	7月26日（木）	17:00 発 東京都 晴海埠頭	受付13:00～14:00 集合 14:00	結団式 14:30～15:00	団長講話	オリエンテーション 避難訓練	班別ミーティング	係別ミーティング		船
2	7月27日（金）		朝の集い	ｶｳﾝｾﾗｰ講話	講義（自然科学）	班別討議	ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ指導	寄港地活動オリエンテーション	音楽の楽しみ（夕食後）	船
3	7月28日（土）		朝の集い	講義（教育）	班別討議	ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ指導	班別討議			船
4	7月29日（日）	8:00 着 沖縄	朝の集い	班別討議	寄港地活動（沖縄県）（沖縄県平和祈念資料館、沖縄戦跡国定公園、ひめゆりの塔）					寄港地
5	7月30日（月）	19:00 発 沖縄	寄港地活動（沖縄県）（首里城、公設市場、琉球舞踊鑑賞、旧海軍司令部壕）							船
6	7月31日（火）		朝の集い	講義（ｽﾎﾟｰﾂ）	自主研修	洋上運動会				船
7	8月1日（水）	9:00 着 松山 19:00 発	朝の集い	寄港地活動（愛媛県）（アサヒビール四国工場、愛媛県総合科学博物館、子規記念博物館、伊予かすり会館）						船
8	8月2日（木）		朝の集い	討議内容の発表						船
9	8月3日（金）	10:00 着 東京都 晴海埠頭	朝の集い	解団式 10:30～ 解散時間 11:30～						

講師名簿

講義等の分野	氏　　名	現　職　名　等
教育の諸課題	こう　の　　きみ　こ 河　野　公　子	文部科学省初等中等教育局視学官
自然科学	やま　だ　　ただす 山　田　　格	国立科学博物館動物研究部動物第一研究室長
スポーツ	きぬ　がさ　さち　お 衣　笠　祥　雄	元プロ野球選手
カウンセラー	た　なみ　　まさる 田　波　　勝	江戸川区教育研究所教育相談員
音楽の楽しみ	まつ　もと　さい　じ 松　本　宰　二	声楽家
	しの　はら　　まこと 篠　原　　真	ピアニスト
レクリエーション指導	さわ　い　　むつ　み 澤　井　睦　美	体操インストラクター
	たか　はし　のり　やす 高　橋　教　育	国立岩手山青年の家主任専門職員

Ⅰ　研修概要

研修名	洋上研修（第２団）						
研修目的（趣旨）	洋上研修は、初任者研修の対象となる公立学校の新任教員（以下「初任者」という。）に対して「船上における研修」と「寄港地における研修」を行うことにより、その知見を広めるとともに、都道府県・指定都市・中核市及び校種の枠を超えて相互に交流し、教員としての一体感を養うことを目的とする。						
対象	公立学校の新任教員、国立及び私立の小学校等の新任教員の一部						
開催期日	平成　１３　年　８　月　８　日（水）～ 平成　１３　年　８　月　１６　日（木）						
開催日数	９　日間	計画人数	４５０人	受講者数	４５０人	(参加率)	100.0 %
開催場所	船上及び寄港地（福岡県・北海道）						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	割合（%）	３１１人	69.27%	４３人	9.58%	８７人	19.38%	８人	1.78%

2．研修内容に関する主な意見

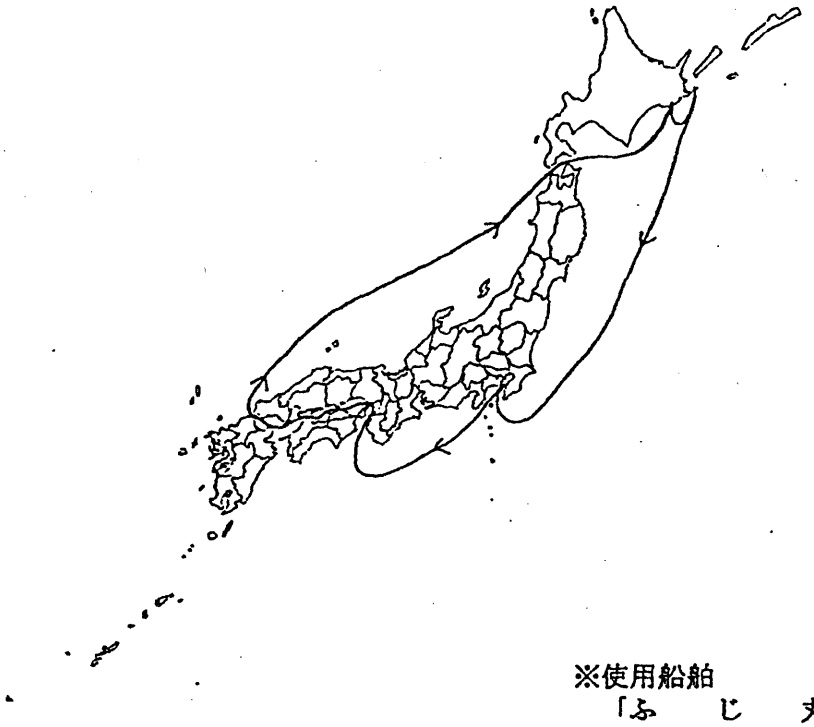
・ もう少し班で討議する時間等があればもっと有意義であったと思う。自分探しという意味では、いろいろとよく分かりこれからの課題が見えてきたと思う。
・ 全国からこれだけの人が集まり、短い期間ではあるが、真剣に語り合えたのはすごくすばらしい時間だった。
・ 研修に参加して自分というものを見つめることができてとても有意義だった。
・ 全体としてスケジュールがきつかった。班別討議の時間がもう少し欲しかった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

全体の日程

○ 航路



※使用船舶
「ふじ丸」（約23,000ﾄﾝ）
＜商船三井客船㈱＞
（航路は、気象条件等により変更する場合があります。）

○ 第２団日程表

	月日（曜日）	発着時間 港名	主な研修内容							宿泊地
1	8月8日（水）	17:00 発 東京都 晴海埠頭	受付13:00 ～14:00 集合 14:00	結団式 14:30 ～15:00	団長講話	オリエンテーション 避難訓練	班別ミーティング	係別ミーティング		船
2	8月9日（木）		朝の集い	カウンセラー講話	講義（国際理解）	自己表現（文章表現・言語表現）	班別討議	レクリエーション指導	寄港地活動オリエンテーション	音楽の楽しみ（夕食後）	船
3	8月10日（金）	9:00 着 北九州 21:00 発	朝の集い	寄港地活動（福岡県）（北九州博覧祭、新日本製鐵株式会社八幡製鉄所、スペースワールド）							船
4	8月11日（土）		朝の集い	講義（教育）	班別討議	レクリエーション指導	班別討議			チーム別討議	船
5	8月12日（日）		朝の集い	講義（自然科学）	自主研修	洋上運動会					船
6	8月13日（月）	9:00 着 釧路	朝の集い	班別討議		寄港地活動（北海道）（釧路市丹頂鶴自然公園、北斗展望台、アイヌ民俗資料館、摩周湖）					寄港地
7	8月14日（火）	20:00 発 花咲	寄港地活動（北海道）（別海町酪農研修牧場、北方四島交流センター、納沙布岬）								船
8	8月15日（水）		朝の集い	討議内容の発表							船
9	8月16日（木）	10:00 着 東京都 晴海埠頭	朝の集い	解団式 10:30 ～ 解散時間 11:30 ～							

講師名簿

講義等の分野	氏　　名	現　職　名　等
教育の諸課題	いけだ　　のぶゆき 池田　　延行	東京学芸大学教員養成カリキュラム開発研究センター教授
自然科学	かろうじ　　ひろし 唐牛　　宏	国立天文台教授
国際理解	サンガ・ンゴイ・カザディ	三重大学教授
カウンセラー	たかむら　　とも こ 篁　　倫子	国立特殊教育総合研究所病弱教育研究部病弱教育研究室長
音楽の楽しみ	いけだ　　なおき 池田　　直樹	声楽家
	こしづか　　けんじ 腰塚　　賢二	ピアニスト
レクリエーション指導	なかやま　　ひさこ 中山　　久子	体操インストラクター
	さとう　　ひろき 佐藤　　浩樹	国立花山少年自然の家専門職員
講話	よこざわ　　えいぞう 横澤　　英三	別海町立別海中学校教頭

Ⅰ　研修概要

研修名	平成１３年度生徒指導総合研修講座						
研修目的（趣旨）	生徒指導，教育相談の理論及び実際についての総合的かつ実践的な講義及び演習を行い、学校等における生徒指導の指導的立場となる教員を養成するための研修						
対象	次の事項のいずれかに該当し，都道府県教育委員会が推薦する国公立小学校，中学校，高等学校，中等教育学校等の教員又は指導主事 ・　都道府県･市町村教育委員会において生徒指導又は教育相談を担当する指導主事等 ・　都道府県教育委員会等が行う生徒指導に関する講座を受講した生徒指導主事，若しくは教育相談（カウンセリング）講座の中級程度以上の講座を受講した教育相談担当教員又は養護教員 ・　上記のほか，特に都道府県教育委員会教育長が適任と認める教員又は養護教員						
開催期日	平成　１３　年　７　月　２３　日（月）～平成　１３　年　８　月　１０　日（金）						
開催日数	１９　日間	計画人数	１４１　人	受講者数	１３６　人	（参加率）	96.45 %
開催場所	独立行政法人　教員研修センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	割合（%）	１１１　人	81.62%	２５　人	18.38%	０　人	0.00%	０　人	0.00%

2．研修内容に関する主な意見

＜坂本昇一先生＞
＊ 問題行動への対応と考えられがちな生徒指導の機能をわかりやすく説明していただき，心に残った。（同様他に２１件）
＜町沢静夫先生＞
＊ 青少年の病理と非行について自分流の方法を紹介していただき，教師としての心の持ち様を教えていただいた。（同様他に５件）
＜森田洋司先生＞
＊ いじめ問題について社会的背景にからめながらの話しぶりでわかりやすかった。（同様他に１０件）
＜大野重男先生＞
＊ やはり民間の人の言葉は大切な面もたくさんある。（同様他に３件）
＜冨永良善先生＞
＊ ストレスマネジメントの効用を実感することができた。（同様他に７件）
＜菅野　純先生＞
＊ 講話の組立も素晴らしく，先生の人間性にも共感を受けた。（同様に５件）
＜岡田　弘先生＞
＊ あたたかい雰囲気の中，だんだん心が盛り上がり，わかりやすく説明していただき，楽しくグループエンカウンターができた。（同様他に６件）
＜金沢広明先生＞
＊ 現場の教頭先生ならではのアドバイスでした。（同様他に１件）
＜小松郁夫先生＞
＊ 魅力ある学級作りの大切さ，学校職員の関わり方，連携の大切さを知り，また具体的なケースから具体策も知ることができ，実りある講義だった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成13年度生徒指導総合研修講座日程

＜日程と講座内容＞

	期日	曜	午前 9:30～12:00	講師	午後 13:30～16:00		講師
1	7月23日	月	オリエンテーション 10:30～11:35 写真撮影 11:40～12:00	教員研修センター 主任指導主事/係員	開校式 13:00～13:20/ 生徒指導上の諸問題の現状と文部科学省の施策について 13:20～14:20	コミュニケーション・人間関係づくり 14:50～16:20	文部科学省職員(生徒指導の現状と施策) 主任指導主事(コミュニケーション)
2	7月24日	火	○思春期の心理と発達課題	筑波大学 教授 新井 邦二郎	○関係機関との連携の在り方(1)警察庁 13:30～15:00	班別協議会 15:10～16:20	警察庁職員等
3	7月25日	水	○生徒指導の原理と方法	千葉大学 名誉教授 坂本 昇一	生きる力を育む教育の在り方 (道徳教育との接点)		関西学院大学 教授 横山 利弘
4	7月26日	木	○青少年の心の病理と非行	立教大学 教授 町沢 静夫	関係機関との連携の在り方(2)厚生労働省 13:30～15:00	関係機関との連携の在り方(3)法務省 15:10～16:40	厚生労働省／ 法務省職員等
5	7月27日	金	問題行動を起こす児童生徒への対応	帝京大学 教授 星野 周弘	ストレスマネジメント教育		兵庫教育大学 教授 富永 良喜
6	7月28日	土					
	7月29日	日					
8	7月30日	月	スクールカウンセラーを活用した組織的な生徒指導の在り方	お茶の水女子大学 助教授 伊藤 美奈子	◎不登校児童生徒への援助の在り方		早稲田大学 教授 菅野 純
9	7月31日	火	生徒指導事例研究(1)9:00～		◎カウンセリングマインドを生かした学級・学校づくり		東京都杉並区立天沼中学校 校長 嶋崎 政男
10	8月1日	水	◎心を育てるグループ・エンカウンター	聖徳栄養短期大学 講師 岡田 弘	生徒指導事例研究(2)～16:30		
11	8月2日	木	○学級がうまく機能しない状況への理解と対応	国立教育政策研究所 高等教育研究部長 小松 郁夫	○生徒指導事例研究(3)全体会 小中高3名からの発表と協議 体験活動を生かした生徒指導13:00～16:30		(財)ハーモニィセンター 理事長 大野 重男
12	8月3日	金	○いじめ問題の理解と対応	大阪市立大学 教授 森田 洋司	館外研修		研修係引率
13	8月4日	土					
14	8月5日	日					
15	8月6日	月	○教育指導に生かすロールプレイング	教育カウンセリング研究所 所長 金子 賢	○ソーシャル・スキル・トレーニングの理論と実際		東京学芸大学 助教授 小林 正幸
16	8月7日	火	生徒指導事例研究(4)(演習講師)	広島国際大学助教授 相馬 誠一 文教大学講師 森川 澄男 埼玉県上福岡市立第五小学校教頭 金澤 弘明 高崎経済大学講師 樺澤徹二 名古屋市立明小学校長 花井 正樹 埼玉県鳩谷市立久下小学校長 井上 清	生徒指導事例研究(5)(演習講師)		演習講師 (午前に同じ)
17	8月8日	水	生徒指導の全体計画と援助体制づくり	東京女子体育大学 教授 尾木 和英	○グループ・カウンセリングの理論と方法		国際基督教大学 教授 小谷 英文
18	8月9日	木	生徒指導に関わる法的諸問題	上越教育大学 教授 若井 彌一	○開発的カウンセリング		東京成徳大学 教授 國分 康孝
19	8月10日	金	教育者としての人格 9:30～11:20 閉講式 11:30～12:00	英知大学 教授 今道 友信			

1) ○は衛星配信講義　◎は学校カウンセリング研修講座

2) 8月7日の演習講師は次の通り

広島国際大学助教授	相馬誠一
文教大学講師	森川 澄男
埼玉県上福岡市立第五小学校教頭	金澤 広明
東京学芸大学講師	樺澤 徹二
東海女子大学助教授	花井 正樹

Ⅰ　研修概要

研修名	平成１３年度英語教育指導者講座（第１・４ブロック）						
研修目的（趣旨）	英語教育の指導方法等，専門的な講義及び演習を行うことにより，学校における英語教育の指導的立場になる教員を養成するための研修						
対象	英語担当指導主事及び経験年数と英語力を相当程度有し，英語教育に関して指導的立場を担う中学校または高等学校の教員（特殊教育諸学校の教員を含む）とする。						
開催期日	平成　１４　年　２　月　４　日（月）～ 平成　１４　年　２　月　２２　日（金）						
開催日数	１９　日間	計画人数	１００人	受講者数	８８人	(参加率)	88.00 %
開催場所	独立行政法人　教員研修センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人） / 割合（%）	５２人	59.09%	２９人	32.95%	４人	4.55%	３人	3.41%

2．研修内容に関する主な意見

・事前に講義内容の詳細が知りたかった。いきなり英語のディベートとかスピーチとか俳句等をやられても，戸惑う先生達もかなり多かったように思う。冬季期間中に準備できればもっとベストな状態で講義が聞けたのではないか？又，今現場の先生達が一番知りたいのは，評価に関してだと思うが，その講義が不足していた。中高一緒のメリットが何なのか理解できなかった。絶対評価についてもフォーカス化して講義が聞きたかったが期待外れ。
・理論として勉強になる講義，授業の中にすぐに取り入れることができそうな考え方や資料が提供されていて，大変勉強になりました。また，それらを指導者が身につけるための実践もあり良かったと思います。又，自分の英語を改善するという点で，英語だけでの講義，ディベートや発表，ディスカッションは有効だと感じました。
・授業中に使う様々なテクニックの紹介と評価の具体的な方法をバランスよく配置して下さればなお有難いと思う。
・各講師の先生方から，それぞれの専門分野の話を興味深く聞かせてもらいました。ユーモアを交えたり，ディスカッションの場をもうけたりして，3時間がいつもあっという間に過ぎてしまった。という感じでした。
・日本語で説明しなければならないことが多い講座は，すべて日本語でやって欲しい。また，夜も英語でということなら，参加前に通知しておいた方が良い。
・学習指導要領，評価，コンピュータ演習等は日本語を使って行った方が効果的であると感じました。この筑波研修もあらゆる場面で英語を使うべきなのでしょうが，内容に合わせて柔軟に行うことも，検討すべきと思いました。
・絶対評価に関する講義が必要。
・授業研究は全員で行った方が良い。（講義の時間帯で・・・）
・この講座の卒業で，第一線で活躍している人の話があれば良かった。
・1日ぐらい，実際の学校へ行って授業見学をさせていただくと，研修に深みが出てくると思います。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

講　義　日　程

第１・４ブロック　　第１週

	午前（9:30～12:30） 講師・内容	午後（13:30～16:30） 講師・内容
[２月] ４日 （月）		開　講　式 ＴＯＥＦＬ－ＩＴＰ
５日 （火）	A　ティモシー　ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践	A　平田　和人 （文部科学省教育課程課教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践
	B　平田　和人 （文部科学省教育課程課教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践	B　ティモシー　ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践
６日 （水）	A　ジェームズ　R．バワーズ （明治大学教授） 新しい言語活動の理論と実践	A　ウェザロール　ウィリアム （ジャーナリスト） 新しい言語活動の理論と実践
	B　ウェザロール　ウィリアム （ジャーナリスト） 新しい言語活動の理論と実践	B　ジェームズ　R．バワーズ （明治大学教授） 新しい言語活動の理論と実践
７日 （木）	A　松本　茂 （東海大学教育研究所教授） 新しい言語活動の理論と実践	A　緑川　日出子 （昭和女子大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践
	B　緑川　日出子 （昭和女子大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践	B　松本　茂 （東海大学教育研究所教授） 新しい言語活動の理論と実践
８日 （金）	A　小松　達也 （明海大学教授） 特別講座	A　ジェームズ　R．バワーズ （明治大学教授） 新しい言語活動の理論と実践
	B　ジェームズ　R．バワーズ （明治大学教授） 新しい言語活動の理論と実践	B　小松　達也 （明海大学教授） 特別講座
９日 （土）	自主研修	自主研修
１０日 （日）	自主研修	自主研修

第１・４ブロック　　第２週

	午前（9:30～12:30） 講師・内容	午後（13:30～16:30） 講師・内容
１１日 （月）	自主研修	自主研修
１２日 （火）	A　金谷　憲 （東京学芸大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践	A　松本　茂 （東海大学教育研究所教授） 新しい言語活動の理論と実践
	B　松本　茂 （東海大学教育研究所教授） 新しい言語活動の理論と実践	B　金谷　憲 （東京学芸大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践
１３日 （水）	A　ヒュー　オリファント （お茶の水女子大学外国人教師） 教養講座	A　朝尾　幸次郎 （東海大学教授） コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習
	B　朝尾　幸次郎 （東海大学教授） コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習	B　ヒュー　オリファント （お茶の水女子大学外国人教師） 教養講座
１４日 （木）	A　金谷　憲 （東京学芸大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践	A　吉田　研作 （上智大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践
	B　吉田　研作 （上智大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践	B　金谷　憲 （東京学芸大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践
１５日 （金）	A　緑川　日出子 （昭和女子大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践	A　吉田　研作 （上智大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践
	B　吉田　研作 （上智大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践	B　緑川　日出子 （昭和女子大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践
１６日 （土）	自主研修	自主研修
１７日 （日）	自主研修	自主研修

第１・４ブロック　　第３週

	午前（9:30～12:30）	午後（13:30～16:30）
	講師・内容	講師・内容
１８日（月）	A　田辺　洋二 （早稲田大学教授） 特別講座	A　ティモシー　ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践
	B　ティモシー　ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践	B　田辺　洋二 （早稲田大学教授） 特別講座
１９日（火）	AB　松本　茂 （東海大学教育研究所教授） 新しい言語活動の理論と実践	AB　松本　茂 （東海大学教育研究所教授） 新しい言語活動の理論と実践
２０日（水）	A　朝尾　幸次郎 （東海大学教授） コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習	A　高島　英幸 （兵庫教育大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践
	B　高島　英幸 （兵庫教育大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践	B　朝尾　幸次郎 （東海大学教授） コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習
２１日（木）	A　加納　幹雄 （文部科学省教育課程課教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践	A　ティモシー　ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践
	B　ティモシー　ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践	B　加納　幹雄 （文部科学省教育課程課教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践
２２日（金）	閉　講　式	

Ⅰ　研修概要

研修名	平成１３年度英語教育指導者講座（第３・８ブロック）						
研修目的（趣旨）	英語教育の指導方法等，専門的な講義及び演習を行うことにより，学校における英語教育の指導的立場になる教員を養成するための研修						
対象	英語担当指導主事及び経験年数と英語力を相当程度有し，英語教育に関して指導的立場を担う中学校または高等学校の教員（特殊教育諸学校の教員を含む）とする。						
開催期日	平成　１４　年　２　月　２５　日（月）～ 平成　１４　年　３　月　１５　日（金）						
開催日数	１９　日間	計画人数	１００人	受講者数	１００人	(参加率)	100.00 %
開催場所	独立行政法人　教員研修センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	４０人	40.00%	４１人	41.00%	７人	7.00%	１２人	12.00%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

・現場は，とにかく実践のアイディアを求めている。難解な用語を用いた理論よりも授業で使えるアイディアを色々教えてほしい。
・現場での悩みや中学・高校の立場での意見などを交換できる機会があるとさらによいのでは。
・講義内容を復習して，自分なりに今後に取り入れることができるように整理できる自分の学習時間，図書を活用できる時間などがもっとほしかったです。
・期待していたのは，実践的なコミュニケーション活動中心のhow to でしたが，論理的な内容の講義が中心で，少し残念でした。また，中学校と高校ではお互いに英語と生徒の質もかなり異なります。一緒な内容の講義と校種ごとに分かれて行う講義があればよかった。意見交換はもちろん大切，相互理解も必要ですが，やはり実践につなげるためには校種ごとに焦点を定めて，授業のあり方などを研修したかった。もしくは，1週目は中高合同，2,3週目は分かれるというような・・・。ぜひ検討してください。
・次時への課題が与えられるのはやむを得ないが，複数の課題に対して，それぞれグループが異なるため，打ち合わせ等不便を感じた。もちろん多くの教員と関係を持つという意図もあると思われるが・・
・学生時代に戻ったかのように楽しく，しかも緊張感をもって受講できたのはよかったと思います。全て英語で行れる点についてもやりがいがあり，是非今後も続けてはいかがかと思います。講義の内容も第一線で活躍されている先生ばかりですばらしい限りでした。
・「実践的コミュニケーション能力の育成」ということが全講義を通じての共通のテーマであったのだが，学習指導要領の改訂でも明らかなように私達一人一人が，今までの訳読中心の教育法を考え直さなければならない時期にさしかかっているのだなあと改めて痛感させられた。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

講 義 日 程

第３・８ブロック　　第１週

	午前（9:30～12:30） 講師・内容	午後（13:30～16:30） 講師・内容
[２月] ２５日 （月）		開 講 式
２６日 （火）	A　松本　茂 （東海大学教育研究所教授） 新しい言語活動の理論と実践 B　ティモシー　ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践	A　ティモシー　ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践 B　松本　茂 （東海大学教育研究所教授） 新しい言語活動の理論と実践
２７日 （水）	A　ジェームズ　R．バワーズ （明治大学教授） 新しい言語活動の理論と実践 B　吉田　研作 （上智大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践	A　吉田　研作 （上智大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践 B　ジェームズ　R．バワーズ （明治大学教授） 新しい言語活動の理論と実践
２８日 （木）	A　緑川　日出子 （昭和女子大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践 B　吉田　研作 （上智大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践	A　吉田　研作 （上智大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践 B　緑川　日出子 （昭和女子大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践
[３月] １日 （金）	A　高島　英幸 （兵庫教育大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践 B　金谷　憲 （東京学芸大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践	A　金谷　憲 （東京学芸大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践 B　高島　英幸 （兵庫教育大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践
２日 （土）	自 主 研 修	自 主 研 修
３日 （日）	自 主 研 修	自 主 研 修

第３・８ブロック　　第２週

	午前（9:30～12:30） 講師・内容	午後（13:30～16:30） 講師・内容
４日 （月）	A　加納　幹雄 （文部科学省教育課程課教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践 B　ヒュー　オリファント （お茶の水女子大学外国人教師） 教養講座	A　ヒュー　オリファント （お茶の水女子大学外国人教師） 教養講座 B　加納　幹雄 （文部科学省教育課程課教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践
５日 （火）	A　ティモシー　ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践 B　松本　茂 （東海大学教育研究所教授） 新しい言語活動の理論と実践	A　松本　茂 （東海大学教育研究所教授） 新しい言語活動の理論と実践 B　ティモシー　ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践
６日 （水）	A　ウェザロール　ウィリアム （ジャーナリスト） 新しい言語活動の理論と実践 B　朝尾　幸次郎 （東海大学教授） コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習	A　朝尾　幸次郎 （東海大学教授） コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習 B　ウェザロール　ウィリアム （ジャーナリスト） 新しい言語活動の理論と実践
７日 （木）	A　金谷　憲 （東京学芸大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践 B　朝尾　幸次郎 （東海大学教授） コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習	A　朝尾　幸次郎 （東海大学教授） コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習 B　金谷　憲 （東京学芸大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践
８日 （金）	A　ヘレン　ハリガン （ブリティッシュカウンシル英語教育プロジェクツ・マネージャー） 新しい言語活動の理論と実践 B　小松　達也 （明海大学教授） 特別講座	A　小松　達也 （明海大学教授） 特別講座 B　ヘレン　ハリガン （ブリティッシュカウンシル英語教育プロジェクツ・マネージャー） 新しい言語活動の理論と実践
９日 （土）	自 主 研 修	自 主 研 修
１０日 （日）	自 主 研 修	自 主 研 修

第３・８ブロック　　第３週

	午前（9:30～12:30） 講師・内容	午後（13:30～16:30） 講師・内容
１１日 （月）	A　田辺　洋二 （早稲田大学教授） 特別講座	A　ジェームズ　R．バワーズ （明治大学教授） 新しい言語活動の理論と実践
	B　ジェームズ　R．バワーズ （明治大学教授） 新しい言語活動の理論と実践	B　田辺　洋二 （早稲田大学教授） 特別講座
１２日 （火）	AB　松本　茂 （東海大学教育研究所教授） 新しい言語活動の理論と実践	AB　松本　茂 （東海大学教育研究所教授） 新しい言語活動の理論と実践
１３日 （水）	A　東後　勝明 （早稲田大学教授） 教養講座	A　緑川　日出子 （昭和女子大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践
	B　緑川　日出子 （昭和女子大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践	B　東後　勝明 （早稲田大学教授） 教養講座
１４日 （木）	A　平田　和人 （文部科学省教育課程課教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践	A　ティモシー　ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践
	B　ティモシー　ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践	B　平田　和人 （文部科学省教育課程課教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践
１５日 （金）	TOEFL－ITP 閉　講　式	

Ⅰ　研修概要

研修名	平成１３年度英語教育指導者講座（第２ブロック）						
研修目的（趣旨）	英語教育の指導方法等，専門的な講義及び演習を行うことにより，学校における英語教育の指導的立場になる教員を養成するための研修						
対象	英語担当指導主事及び経験年数と英語力を相当程度有し，英語教育に関して指導的立場を担う中学校または高等学校の教員（特殊教育諸学校の教員を含む）とする。						
開催期日	平成　１３　年　１０　月　２２　日（月）～ 平成　１３　年　１１　月　９　日（金）						
開催日数	１９　日間	計画人数	９０　人	受講者数	６５　人	(参加率)	72.22 %
開催場所	山形県青年の家（天童市）						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	２５　人		３３　人		１　人		６　人	
割合（%）		38.46%		50.77%		1.54%		9.23%

2．研修内容に関する主な意見

・どの講義もすばらしく充実したものだった。理論と実践，ディスカッションを組み合わせたつくばフォーマットも効果的だと思う。
・講義内容によっては，中学校と高校で分けることがあってもよいのでは。また逆に，中学校と高校の情報交換のような内容があったら有意義だと思う。
・コンピュータなどの機器の有効な活用の仕方や，評価の仕方に関しての具体的な方法について学べる時間がもっとあれば，と感じた。
・大変充実した研修であった。スケジュールがたてこんでいて英語について個別研修に時間をとられ，英字新聞を読む暇がなかった。ＴＯＥＦＬ－ＩＴＰも継続して受けてみようと思っている。
・授業研究はとてもよかった。教室内の雰囲気，活気とも意見交換にふさわしいものだった。回数を増やしたり，他の講義にかえてもよいのではないかと思う。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度第２ブロック英語教育指導者講座　講義日程

第２ブロック

	午前（9：30～12：30）		会場	午後（13：30～16：30）		会場
	班	講師（所属）		班	講師（所属）	
10月22日（月）	受付（9時45分～10時30分） オリエンテーション		大研修室	開講式（13時30分～）／写真撮影 グループ・ミーティング		大研修室
10月23日（火）	A	加納幹雄（文部科学省） 新しい指導と評価の理論と実践	第1研修室	A	TOEFL－ITPテスト	大研修室
	B	TOEFL－ITPテスト	大研修室	B	加納幹雄（文部科学省） 新しい指導と評価の理論と実践	第1研修室
10月24日（水）	A	James Bowers（明治大学） 新しい言語活動の理論と実践	第1研修室	A	金谷　憲（東京学芸大学） 新しい言語活動の理論と実践	大研修室
	B	金谷　憲（東京学芸大学） 新しい言語活動の理論と実践	大研修室	B	James Bowers（明治大学） 新しい言語活動の理論と実践	第1研修室
10月25日（木）	A	小田良子（山形短期大学） 教養講座	大研修室	A	James Bowers（明治大学） 新しい言語活動の理論と実践	第1研修室
	B	James Bowers（明治大学） 新しい言語活動の理論と実践	第1研修室	B	小田良子（山形短期大学） 教養講座	大研修室
10月26日（金）	A	山口常夫（山形大学） 新しい言語活動の理論と実践	第1研修室	A	Simon Reeves（山形短期大学） 新しい言語活動の理論と実践	大研修室
	B	Simon Reeves（山形短期大学） 新しい言語活動の理論と実践	大研修室	B	山口常夫（山形大学） 新しい言語活動の理論と実践	第1研修室
10月27日（土）	自由研修					
10月28日（日）	自由研修					
10月29日（月）	A	金谷　憲（東京学芸大学） 新しい言語活動の理論と実践	第1研修室	A	熊井信弘（学習院大学） コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習	大研修室
	B	熊井信弘（学習院大学） コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習	大研修室	B	金谷　憲（東京学芸大学） 新しい言語活動の理論と実践	第1研修室
10月30日（火）	A	熊井信弘（学習院大学） コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習	大研修室	A	Margaret Chang（東北芸術工科大学） 新しい言語活動の理論と実践	第1研修室
	B	Margaret Chang（東北芸術工科大学） 新しい言語活動の理論と実践	第1研修室	B	熊井信弘（学習院大学） コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習	大研修室
10月31日（水）	A	Simon Reeves（山形短期大学） 新しい言語活動の理論と実践	大研修室	A	山口常夫（山形大学） 新しい言語活動の理論と実践	第1研修室
	B	山口常夫（山形大学） 新しい言語活動の理論と実践	第1研修室	B	Simon Reeves（山形短期大学） 新しい言語活動の理論と実践	大研修室
11月1日（木）	A	Margaret Chang（東北芸術工科大学） 新しい言語活動の理論と実践	第1研修室	A	吉田研作（上智大学） 新しい指導と評価の理論と実践	大研修室
	B	吉田研作（上智大学） 新しい指導と評価の理論と実践	大研修室	B	Margaret Chang（東北芸術工科大学） 新しい言語活動の理論と実践	第1研修室

第２ブロック

	午前（9：30～12：30）		会場	午後（13：30～16：30）		会場
	班	講師（所属）		班	講師（所属）	
11月2日（金）	A	吉田研作（上智大学） 新しい指導と評価の理論と実践	大研修室	A	緑川日出子（昭和女子大学） 新しい言語活動の理論と実践	第1研修室
	B	緑川日出子（昭和女子大学） 新しい言語活動の理論と実践	第1研修室	B	吉田研作（上智大学） 新しい指導と評価の理論と実践	大研修室
11月3日（土）	自由研修					
11月4日（日）	自由研修					
11月5日（月）	A	高梨庸雄（弘前大学） 新しい指導と評価の理論と実践	第1研修室	A	Huw Oliphant（お茶の水女子大学） 新しい言語活動の理論と実践	大研修室
	B	Huw Oliphant（お茶の水女子大学） 新しい言語活動の理論と実践	大研修室	B	高梨庸雄（弘前大学） 新しい指導と評価の理論と実践	第1研修室
11月6日（火）	A	Huw Oliphant（お茶の水女子大学） 新しい言語活動の理論と実践	大研修室	A	高梨庸雄（弘前大学） 新しい指導と評価の理論と実践	第1研修室
	B	高梨庸雄（弘前大学） 新しい指導と評価の理論と実践	第1研修室	B	Huw Oliphant（お茶の水女子大学） 新しい言語活動の理論と実践	大研修室
11月7日（水）	A	佐野正之（横浜国立大学） 新しい指導と評価の理論と実践	大研修室	A	Mark Anthony（山形大学） 新しい言語活動の理論と実践	第1研修室
	B	Mark Anthony（山形大学） 新しい言語活動の理論と実践	第1研修室	B	佐野正之（横浜国立大学） 新しい指導と評価の理論と実践	大研修室
11月8日（木）	A	平田和人（文部科学省） 新しい指導と評価の理論と実践	第1研修室	A	佐野正之（横浜国立大学） 新しい指導と評価の理論と実践	大研修室
	B	佐野正之（横浜国立大学） 新しい指導と評価の理論と実践	大研修室	B	平田和人（文部科学省） 新しい指導と評価の理論と実践	第1研修室
11月9日（金）	閉講式		大研修室			

Ⅰ　研修概要

研 修 名	平成１３年度英語教育指導者講座（第５・７ブロック）						
研修目的（趣旨）	英語教育の指導方法等，専門的な講義及び演習を行うことにより，学校における英語教育の指導的立場になる教員を養成するための研修						
対 象	英語担当指導主事及び経験年数と英語力を相当程度有し，英語教育に関して指導的立場を担う中学校または高等学校の教員（特殊教育諸学校の教員を含む）とする。						
開催期日	平成 １３ 年 ６ 月 ２５ 日（月）～ 平成 １３ 年 ７ 月 １３ 日（金）						
開催日数	１９ 日 間	計画人数	１００ 人	受講者数	７４ 人	(参加率)	74.00 %
開催場所	独立行政法人　教員研修センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	４１ 人	55.41%	２５ 人	33.78%	３ 人	4.00%	５ 人	6.76%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

・模擬授業は教員としては自分の授業改善のアイディアを得るためにとても参考になります。講義を1つ減らして，その時間に何人かの教員の模擬授業を入れることが充実につながるはずです。
・A・B混合のプレゼンテーションがあってもよいと思った。
・理論があって実践というのはわかるが，理論ばかりという講座もあり，改善すべきと思います。
・理論に関わる講義内容が多く，実践的なものが少ないように思う。学校に帰って実践に生かしたり校内での教科研究で広めたりするには，やはり実践・実習的な内容の方が活かしやすい。特に学習評価についての実践例や講義等がもっとたくさんあるとよいと思う。
・英語教育の理論も大事であると思いますが，すぐに実践できるような活動をもう少しいろいろと知りたかった。
・パソコンを使用するものを少し増やしていただきたい。
・コンピューター講座については個々に差があるので段階に別けた講義を組んでいただけたらうれしい。
・附属学校などの研究指定校の授業観察もあれば，講義内容をもっと具体的にイメージできると思う。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

講　義　日　程

第５・７ブロック　　第１週

	午前（9:30～12:30） 講師・内容	午後（13:30～16:30） 講師・内容
[６月] ２５日 （月）		開　講　式
２６日 （火）	A　ティモシー　ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践 B　金谷　憲 （東京学芸大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践	A　金谷　憲 （東京学芸大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践 B　ティモシー　ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践
２７日 （水）	A　ジェームズ　R．バワーズ （明治大学教授） 新しい言語活動の理論と実践 B　緑川　日出子 （昭和女子大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践	A　緑川　日出子 （昭和女子大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践 B　ジェームズ　R．バワーズ （明治大学教授） 新しい言語活動の理論と実践
２８日 （木）	A　朝尾　幸次郎 （東海大学教授） コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習 B　平田　和人 （文部科学省教育課程課教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践	A　平田　和人 （文部科学省教育課程課教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践 B　朝尾　幸次郎 （東海大学教授） コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習
２９日 （金）	A　松本　茂 （東海大学教育研究所教授） 新しい言語活動の理論と実践 B　ヘレン　ハリガン （ブリティッシュカウンシル英語教育プロジェクツ・マネージャー） 新しい言語活動の理論と実践	A　ヘレン　ハリガン （ブリティッシュカウンシル英語教育プロジェクツ・マネージャー） 新しい言語活動の理論と実践 B　松本　茂 （東海大学教育研究所教授） 新しい言語活動の理論と実践
３０日 （土）	自主研修	自主研修
[７月] １日 （日）	自主研修	自主研修

第５・７ブロック　　第２週

	午前（9:30～12:30） 講師・内容	午後（13:30～16:30） 講師・内容
２日 （月）	A　吉田　研作 （上智大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践 B　東後　勝明 （早稲田大学教授） 教養講座	A　東後　勝明 （早稲田大学教授） 教養講座 B　吉田　研作 （上智大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践
３日 （火）	A　松本　茂 （東海大学教育研究所教授） 新しい言語活動の理論と実践 B　金谷　憲 （東京学芸大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践	A　金谷　憲 （東京学芸大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践 B　松本　茂 （東海大学教育研究所教授） 新しい言語活動の理論と実践
４日 （水）	A　ウェザロール　ウィリアム （ジャーナリスト） 新しい言語活動の理論と実践 B　朝尾　幸次郎 （東海大学教授） コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習	A　朝尾　幸次郎 （東海大学教授） コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法演習 B　ウェザロール　ウィリアム （ジャーナリスト） 新しい言語活動の理論と実践
５日 （木）	A　小松　達也 （明海大学教授） 特別講座 B　ヒュー　オリファント （お茶の水女子大学外国人教師） 教養講座	A　ヒュー　オリファント （お茶の水女子大学外国人教師） 教養講座 B　小松　達也 （明海大学教授） 特別講座
６日 （金）	A　田辺　洋二 （早稲田大学教授） 特別講座 B　ジェームズ　R．バワーズ （明治大学教授） 新しい言語活動の理論と実践	A　ジェームズ　R．バワーズ （明治大学教授） 新しい言語活動の理論と実践 B　田辺　洋二 （早稲田大学教授） 特別講座
７日 （土）	自主研修	自主研修
８日 （日）	自主研修	自主研修

第５・７ブロック　　第３週

	午前（9:30～12:30） 講師・内容	午後（13:30～16:30） 講師・内容
９日 （月）	A　吉田　研作 （上智大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践 B　緑川　日出子 （昭和女子大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践	A　緑川　日出子 （昭和女子大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践 B　吉田　研作 （上智大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践
１０日 （火）	AB　松本　茂 （東海大学教育研究所教授） 新しい言語活動の理論と実践	AB　松本　茂 （東海大学教育研究所教授） 新しい言語活動の理論と実践
１１日 （水）	A　ウェザロール　ウィリアム （ジャーナリスト） 新しい言語活動の理論と実践 B　ティモシー　ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践	A　ティモシー　ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践 B　ウェザロール　ウィリアム （ジャーナリスト） 新しい言語活動の理論と実践
１２日 （木）	A　加納　幹雄 （文部科学省教育課程課教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践 B　ティモシー　ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践	A　ティモシー　ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践 B　加納　幹雄 （文部科学省教育課程課教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践
１３日 （金）	閉　講　式	

Ⅰ　研修概要

研修名	平成１３年度英語教育指導者講座（第６ブロック）						
研修目的（趣旨）	英語教育の指導方法等，専門的な講義及び演習を行うことにより，学校における英語教育の指導的立場になる教員を養成するための研修						
対象	英語担当指導主事及び経験年数と英語力を相当程度有し，英語教育に関して指導的立場を担う中学校または高等学校の教員（特殊教育諸学校の教員を含む）とする。						
開催期日	平成　１３　年　７　月　３　日（火）～ 平成　１３　年　７　月　１９　日（木）						
開催日数	１７　日間	計画人数	１００人	受講者数	２９人	(参加率)	29.00 %
開催場所	大阪府教育センター（大阪市）						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	２２人		７人		０人		０人	
割合（%）		75.86%		24.14%		0.00%		0.00%

2．研修内容に関する主な意見

・具体的な教授法の実践についての講座内容は授業改善にとって非常に有意義で，今後も続けていただきたいと思います。またグループディスカッションでも実際授業に導入する際の方法を考える上で有意義なので今後も続けていただきたいと思います。
・どの先生も熱の入った講義で内容もいっぱいですべてをやりきれないところがあったので，少しもったいないような気がします。
・日々の授業の中での評価についてなど，一番知りたい部分をもっと聞きたかったです。評価について２回シリーズも。
・１日（３時間）でコンピュータのホームページ関係をマスターするのは，ビギナーには無理。コンピュータの時間をもう少しとるか，全くけずるかした方が有効。
・ネイティブの先生で，詩に（俳句も含めて）触れられた方が多かったので，重複しているような気がしました。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

講 義 日 程

第６ブロック

月日	曜日	班	午前(9:30～12:30) 講師・内容	講義室	午後(13:30～16:30) 講義・内容	講義室	19:30～21:00 グループ討議
7/3	火				(集合時間)　12:30 開講式	アウィーナ大阪 信貴の間	アウィーナ大阪 生駒の間
7/4	水	A	加納幹雄 (文部科学省教育課程課教科調査官) 新しい指導と評価の理論と実践	教育センター 第11研修室	ヒュー・オリファント (お茶の水女子大学外国人講師) 教養講座	教育センター 第12研修室	アウィーナ大阪 生駒の間
		B	ヒュー・オリファント (お茶の水女子大学外国人講師) 教養講座	教育センター 第12研修室	加納幹雄 (文部科学省教育課程課教科調査官) 新しい指導と評価の理論と実践	教育センター 第11研修室	
7/5	木	A	伊東　治己 (鳴門教育大学教授) 新しい言語活動の理論と実践	教育センター 第11研修室	TOEFL－ITPテスト	教育センター 第12研修室	アウィーナ大阪 信貴の間
		B	TOEFL－ITPテスト	教育センター 第12研修室	伊東　治己 (鳴門教育大学教授) 新しい言語活動の理論と実践	教育センター 第11研修室	
7/6	金	A	緑川　日出子 (昭和女子大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	教育センター 第11研修室	ｳｴｻﾞｰﾛｰﾙ･ｳｨﾘｱﾑ (ジャーナリスト) 新しい言語活動の理論と実践	教育センター 第12研修室	アウィーナ大阪 生駒の間
		B	ｳｴｻﾞｰﾛｰﾙ･ｳｨﾘｱﾑ (ジャーナリスト) 新しい言語活動の理論と実践	教育センター 第12研修室	緑川　日出子 (昭和女子大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	教育センター 第11研修室	
7/7	土		自主研修		自主研修		
7/8	日		自主研修		自主研修		
7/9	月	A	金谷　憲 (東京学芸大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	教育センター 第11研修室	ｼﾞｪｰﾑｽﾞ R. ﾊﾟﾜｰｽﾞ (明治大学教授) 新しい言語活動の理論と実践	教育センター 第12研修室	アウィーナ大阪 信貴の間
		B	ｼﾞｪｰﾑｽﾞ R. ﾊﾟﾜｰｽﾞ (明治大学教授) 新しい言語活動の理論と実践	教育センター 第12研修室	金谷　憲 (東京学芸大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	教育センター 第11研修室	
7/10	火	A	金谷　憲 (東京学芸大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	教育センター 第11研修室	靜　哲人 (関西大学助教授) 新しい指導と評価の理論と実践	教育センター 第12研修室	アウィーナ大阪 信貴の間
		B	靜　哲人 (関西大学助教授) 新しい指導と評価の理論と実践	教育センター 第12研修室	金谷　憲 (東京学芸大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	教育センター 第11研修室	
7/11	水	A	アルバート・ジョン・チック (兵庫教育大学外国人教員) 新しい言語活動の理論と実践	教育センター 第11研修室	デイビッド J.　ベグラー (テンプル大学ジャパン教授) 新しい言語活動の理論と実践	教育センター 第12研修室	アウィーナ大阪 生駒の間
		B	デイビッド J.　ベグラー (テンプル大学ジャパン教授) 新しい言語活動の理論と実践	教育センター 第12研修室	アルバート・ジョン・チック (兵庫教育大学外国人教員) 新しい言語活動の理論と実践	教育センター 第11研修室	
7/12	木	A	吉田　研作 (上智大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	教育センター 第11研修室	ヒュー・オリファント (お茶の水女子大学外国人講師) 教養講座	教育センター 第12研修室	アウィーナ大阪 生駒の間
		B	ヒュー・オリファント (お茶の水女子大学外国人講師) 教養講座	教育センター 第12研修室	吉田　研作 (上智大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	教育センター 第11研修室	
7/13	金	A	吉田　研作 (上智大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	教育センター 第11研修室	緑川　日出子 (昭和女子大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	教育センター 第12研修室	アウィーナ大阪 信貴の間
		B	緑川　日出子 (昭和女子大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	教育センター 第12研修室	吉田　研作 (上智大学教授) 新しい指導と評価の理論と実践	教育センター 第11研修室	

講 義 日 程

第６ブロック

月日	曜日	班	午前(9:30～12:30) 講師・内容	講義室	午後(13:30～16:30) 講義・内容	講義室	19:30～21:00 グループ討議
7/14	土		自主研修		自主研修		
7/15	日		自主研修		自主研修		
7/16	月	A	東後　勝明 （早稲田大学教授） 教養講座	教育センター 第11研修室	北尾　謙治 （同志社大学教授） コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法	教育センター CAI研修室	アウィーナ大阪 生駒の間
		B	北尾　謙治 （同志社大学教授） コンピュータなどの教育機器を使った英語指導法	教育センター CAI研修室	東後　勝明 （早稲田大学教授） 教養講座	教育センター 第11研修室	
7/17	火	A	ティモシー・ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践	教育センター 第11研修室	北尾　キャスリン （同志社女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践	教育センター 第12研修室	アウィーナ大阪 生駒の間
		B	北尾　キャスリン （同志社女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践	教育センター 第12研修室	ティモシー・ライト （大妻女子大学教授） 新しい言語活動の理論と実践	教育センター 第11研修室	
7/18	水	A	平田　和人 （文部科学省教育課程課教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践	教育センター 第11研修室	ウエザーロール・ウィリアム （ジャーナリスト） 新しい言語活動の理論と実践	教育センター 第12研修室	アウィーナ大阪 生駒の間
		B	ウエザーロール・ウィリアム （ジャーナリスト） 新しい言語活動の理論と実践	教育センター 第12研修室	平田　和人 （文部科学省教育課程課教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践	教育センター 第11研修室	
7/19	木		閉講式 11:30終了	アウィーナ大阪 信貴の間			

Ⅰ　研修概要

研修名	平成１３年度英語教育指導者講座（第９ブロック）						
研修目的（趣旨）	英語教育の指導方法等，専門的な講義及び演習を行うことにより，学校における英語教育の指導的立場になる教員を養成するための研修						
対象	英語担当指導主事及び経験年数と英語力を相当程度有し，英語教育に関して指導的立場を担う中学校または高等学校の教員（特殊教育諸学校の教員を含む）とする。						
開催期日	平成　１４　年　１　月　１５　日（火）～平成　１４　年　２　月　１　日（金）						
開催日数	１８　日間	計画人数	８０　人	受講者数	４９　人	(参加率)	61.25 %
開催場所	水前寺共済会館（熊本市）						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	２４　人		２５　人		０　人		０　人	
割合（%）		48.98%		51.02%		0.00%		0.00%

2．研修内容に関する主な意見

・受講者のミニ授業のようなものは6人ぐらいしか当たらなかったが，1グループが13～14名で，研修期間もその程度なので，全員が授業実践の紹介を一回ずつ行えばよいと思う。
・本講座では，ディスカッションやディベート，グループワークなどを通して，我々英語教師自身の英語教育に対する意識や英語での表現力を高めることができた。とても刺激的で参考になる点が多かった。
・中高の先生方が一緒に講義を受けるという点では，確かにお互いの意見交換ができるというメリットはありますが，どうしても視点が違ってくるので講義の内容にも満足できるときとできないときがでてくるのでは・・
・できれば中学校，高校に分かれ，それぞれのレベルに合わせた講義内容も実施していただければ有難い。
・第２言語習得に関する理論を多角形に展開していただいたと思うが，それが学校教育の現場でどのように対応することが可能なのかという具体的な提案がなく，いわゆる大学の講義を聞いただけ・・・という印象をもったものが多かった。できれば講師には学校現場を経験されている方を選んでいただければよいと思う。
・文部科学省の先生の話の中で，評価についてはその背景や基準，観点など英語で表現しにくいところは，日本語でも良かったと思う。
・評価の仕方については，皆が悩んでいる部分でもあるので，2枠ぐらいの講義があってもいいのではないか。
・どの講義も内容が関連しており，理解がしやすかったと思います。先生によって同じ事を違うアプローチで説明さていたので，内容に深味が増しました。
・講義内容の重複がかなり多いという印象を受けました。3週間という限られた期間内での集中研修ですから，事前に調整することが可能だったのではないでしょうか。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

講　義　日　程

第　1　週

第９ブロック

	午　前　(9:30～12:30)	午　後　(13:30～16:30)
	講　師　・　内　容	講　師　・　内　容
[1月] 15日 (火)	開　講　式 (10：00開始)	
16日 (水)	A　平　田　和　人 (文部科学省教育課程課教科調査官) 新しい指導と評価の理論と実践	A　高　梨　芳　郎 (福岡教育大学教授) 生徒の学習心理と指導法
	B　高　梨　芳　郎 (福岡教育大学教授) 生徒の学習心理と指導法	B　平　田　和　人 (文部科学省教育課程課教科調査官) 新しい指導と評価の理論と実践
17日 (木)	A　高　木　信　之 (熊本大学助教授) ・Storytelling ・Communication Practice ・Communicative Approach	A　高　梨　芳　郎 (福岡教育大学教授) 生徒の学習心理と指導法
	B　高　梨　芳　郎 (福岡教育大学教授) 生徒の学習心理と指導法	B　高　木　信　之 (熊本大学助教授) ・Storytelling ・Communication Practice ・Communicative Approach
18日 (金)	A　テリー・ラスカウスキー (熊本大学外国人教師) Reasons and Recipes to Blend Communicative Language Teaching into your Teaching Practices	A　ボーフェ・ボール (熊本県立大学助教授) Reflective Communication for Professional Development
	B　ボーフェ・ボール (熊本県立大学助教授) Reflective Communication for Professional Development	B　テリー・ラスカウスキー (熊本大学外国人教師) Reasons and Recipes to Blend Communicative Language Teaching into your Teaching Practices
19日 (土)	自主研修	自主研修
20日 (日)	自主研修	自主研修

第　2　週

第９ブロック

	午　前　(9:30～12:30)	午　後　(13:30～16:30)
	講　師　・　内　容	講　師　・　内　容
21日 (月)	A　吉　田　研　作 （上智大学教授） ・Communicative Approach in Japanese EFL ・Intercultural Communication in TEFL in Japan	A　高　木　信　之 （熊本大学助教授） ・Storytelling　・Communication Practice ・Communicative Approach
	B　高　木　信　之 （熊本大学助教授） ・Storytelling　・Communication Practice ・Communicative Approach	B　吉　田　研　作 （上智大学教授） ・Communicative Approach in Japanese EFL ・Intercultural Communication in TEFL in Japan
22日 (火)	A　吉　田　研　作 （上智大学教授） ・Communicative Approach in Japanese EFL ・Intercultural Communication in TEFL in Japan	A　板　倉　武　子 （福岡女学院大学教授） 実践的コミュニケーション養成のための指導法
	B　板　倉　武　子 （福岡女学院大学教授） 実践的コミュニケーション養成のための指導法	B　吉　田　研　作 （上智大学教授） ・Communicative Approach in Japanese EFL ・Intercultural Communication in TEFL in Japan
23日 (水)	A　ティモシー・ライト （大妻女子大学教授） Communication Practice	A　板　倉　武　子 （福岡女学院大学教授） 実践的コミュニケーション養成のための指導法
	B　板　倉　武　子 （福岡女学院大学教授） 実践的コミュニケーション養成のための指導法	B　ティモシー・ライト （大妻女子大学教授） Communication Practice
24日 (木)	A　ティモシー・ライト （大妻女子大学教授） Communication Practice	A　松　本　　茂 （東海大学教授） 新しい言語活動の理論と実践 －英語ディベートの理論と実践－
	B　松　本　　茂 （東海大学教授） 新しい言語活動の理論と実践 －英語ディベートの理論と実践－	B　ティモシー・ライト （大妻女子大学教授） Communication Practice
25日 (金)	A　テリー・ラスカウスキー （熊本大学外国人教師） Reasons and Recipes to Blend Communicative Language Teaching into your Teaching Practices	A　松　本　　茂 （東海大学教授） 新しい言語活動の理論と実践 －英語ディベートの理論と実践－
	B　松　本　　茂 （東海大学教授） 新しい言語活動の理論と実践 －英語ディベートの理論と実践－	B　テリー・ラスカウスキー （熊本大学外国人教師） Reasons and Recipes to Blend Communicative Language Teaching into your Teaching Practices
26日 (土)	自主研修	自主研修
27日 (日)	自主研修	自主研修

第　3　週

第９ブロック

	午　前　(9:30～12:30)	午　後　(13:30～16:30)
	講　師　・　内　容	講　師　・　内　容
28日 (月)	A　金　谷　　憲 （東京学芸大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践	A　ティモシー・ライト （大妻女子大学教授） Communication Practice
	B　ティモシー・ライト （大妻女子大学教授） Communication Practice	B　金　谷　　憲 （東京学芸大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践
29日 (火)	A　金　谷　　憲 （東京学芸大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践	A　ロバート・ファウザー （鹿児島大学助教授） 英語による英語教授の考察
	B　ロバート・ファウザー （鹿児島大学助教授） 英語による英語教授の考察	B　金　谷　　憲 （東京学芸大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践
30日 (水)	A　ジェームズ・バワーズ （明治大学教授） USING RECITATION IN THE SECONDARY-LEVEL ENGLISH CLASS	A　ロバート・ファウザー （鹿児島大学助教授） Looking into TETE (Teaching English through English)
	B　ロバート・ファウザー （鹿児島大学助教授） Looking into TETE (Teaching English through English)	B　ジェームズ・バワーズ （明治大学教授） USING RECITATION IN THE SECONDARY-LEVEL ENGLISH CLASS
31日 (木)	A　加　納　幹　雄 （文部科学省教育課程課教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践	A　高　木　信　之 （熊本大学助教授） ・Storytelling　・Communication Practice ・Communicative Approach
	B　高　木　信　之 （熊本大学助教授） ・Storytelling　・Communication Practice ・Communicative Approach	B　加　納　幹　雄 （文部科学省教育課程課教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践
2月 1日 (金)	閉　講　式	

Ⅰ　研修概要

研修名	平成１３年度英語教育指導者講座（第１０ブロック）						
研修目的（趣旨）	英語教育の指導方法等，専門的な講義及び演習を行うことにより，学校における英語教育の指導的立場になる教員を養成するための研修						
対象	英語担当指導主事及び経験年数と英語力を相当程度有し，英語教育に関して指導的立場を担う中学校または高等学校の教員（特殊教育諸学校の教員を含む）とする。						
開催期日	平成　１３　年　１１　月　１２　日（月）　～　平成　１３　年　１１　月　３０　日（金）						
開催日数	１９　日間	計画人数	６０　人	受講者数	３５　人	(参加率)	58.33 %
開催場所	鹿児島県総合教育センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	２０　人	57.14%	１４　人	40.00%	０　人	0.00%	１　人	2.86%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

・どの講義も多くのことを気づかせてくれました。実践的なこと，理論的なこと，得るものが多く参加してとてもよかったと思う。
・理論的なこと，または講師自身が必要だと判断された場合は日本語による説明があってもよいのでは。
・理論について学ぶこともちろん大切ですが，それを実践にどう応用していくか具体的に示唆してくださると大いに刺激になります。
・討議の時間もそれぞれ設けられていたことが，お互いの情報交換にもなり，非常に良かったと思います。
・実践例や方法などを詳しく時間かけてやって欲しい。
・インターネットを使った英語指導法演習の時間を増やして欲しかった。
・全体的にリーディングに関係するレクチャーが多かったように思う。とても参考になったが，相対評価から絶対評価に転換されるに当たっての評価についてのレクチャーがもっとあればよかったと思う。
・年間指導計画の作り方と評価に対する考え方について，もう少し詳しく具体的に学ぶ機会があればと思います。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

講 義 日 程

第１０ブロック　　第１週

	午前 (9:30～12:30)		午後 (13:30～16:30)	
	講師・内容	部屋	講師・内容	部屋
１１月 １２日 (月)	開 講 式	講堂	班会・自主研修	
１３日 (火)	A　テリー・ラスコウスキー (熊本大学外国人教師) コミュニケーション活動のレシピ	パソコン Ⅱ	A　ロバート・ファウザー (鹿児島大学助教授) 英語による英語教授の考察	パソコン Ⅳ
	B　ロバート・ファウザー (鹿児島大学助教授) 英語による英語教授の考察	パソコン Ⅳ	B　テリー・ラスコウスキー (熊本大学外国人教師) コミュニケーション活動のレシピ	パソコン Ⅱ
１４日 (水)	A テリー・ラスコウスキー (熊本大学外国人教師) コミュニケーション活動のレシピ	パソコン Ⅱ	A　高梨　芳郎 (福岡教育大学教授) 生徒の学習心理と指導法	パソコン Ⅳ
	B　高梨　芳郎 (福岡教育大学教授) 生徒の学習心理と指導法	パソコン Ⅳ	B　テリー・ラスコウスキー (熊本大学外国人教師) コミュニケーション活動のレシピ	パソコン Ⅱ
１５日 (木)	A　ジェームズ・R・バワーズ (明治大学教授) レシテーション手法の利用	パソコン Ⅰ	A　ティモシー・ライト (大妻女子大学教授) コミュニケーションプラクティス	パソコン Ⅱ
	B　ティモシー・ライト (大妻女子大学教授) コミュニケーションプラクティス	パソコン Ⅱ	B　ジェームズ・R・バワーズ (明治大学文学部教授) レシテーション手法の利用	パソコン Ⅰ
１６日 (金)	A　加納　幹雄 (文部科学省教育課程課教科調査官) 新しい指導と評価の理論と実践	２号	A　ジェームズ・バワーズ (明治大学教授) ドラマ手法の利用	パソコン Ⅰ
	B　ジェームズ・バワーズ (明治大学教授) ドラマ手法の利用	パソコン Ⅰ	B　加納　幹雄 (文部科学省教育課程課教科調査官) 新しい指導と評価の理論と実践	２号
１７日 (土)	自主研修		自主研修	
１８日 (日)	自主研修		自主研修	

第１０ブロック　　第２週

	午前（9:30～12:30）		午後（13:30～16:30）	
	講師・内容	部屋	講師・内容	部屋
１９日（月）	A　ジェームズ・バワーズ （明治大学教授） コミュニケーションプラクティス	２号	A　ロバート・ファウザー （鹿児島大学助教授） インターネット利用の英語教育	パソコンI
	B　ロバート・ファウザー （鹿児島大学助教授） インターネット利用の英語教育	パソコンI	B　ジェームズ・バワーズ （明治大学教授） コミュニケーションプラクティス	２号
２０日（火）	A　緑川　日出子 （昭和女子大学教授） リーディングの指導方法と改善研究	２号	A　ロバート・ファウザー （鹿児島大学助教授） 語彙の指導方法と改善研究	パソコンI
	B　ロバート・ファウザー （鹿児島大学助教授） 語彙の指導方法と改善研究	パソコンI	B　緑川　日出子 （昭和女子大学教授） リーディングの指導方法と改善研究	２号
２１日（水）	A　緑川　日出子 （昭和女子大学教授） 読みの教材を使った授業づくり	３号	A　朝尾　幸次郎 （東海大学教授） インターネットを使った英語指導法演習	パソコンI
	B　朝尾　幸次郎 （東海大学教授） インターネットを使った英語指導法演習	パソコンI	B　緑川　日出子 （昭和女子大学教授） 読みの教材を使った授業づくり	３号
２２日（木）	A　佐野　正之 （横浜国立大学教授） 教師の指導力を伸ばすアクション・リサーチ	２号	A　朝尾　幸次郎 （東海大学教授） インターネットを使った英語指導法演習	パソコンI
	B　朝尾　幸次郎 （東海大学教授） インターネットを使った英語指導法演習	パソコンI	B　佐野　正之 （横浜国立大学教授） 教師の指導力を伸ばすアクション・リサーチ	２号
２３日（金）	自主研修		自主研修	
２４日（土）	自主研修		自主研修	
２５日（日）	自主研修		自主研修	

第１０ブロック　　第３週

	午前（9:30～12:30）		午後（13:30～16:30）	
	講師・内容	部屋	講師・内容	部屋
２６日（月）	A　金谷　憲 （東京学芸大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践	ﾊﾟｿｺﾝ Ⅰ	A　ティモシー・ライト （大妻女子大学教授） ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝﾌﾟﾗｸﾃｨｽ	ﾊﾟｿｺﾝ Ⅱ
	B　ティモシー・ライト （大妻女子大学教授） ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝﾌﾟﾗｸﾃｨｽ	ﾊﾟｿｺﾝ Ⅱ	B　金谷　憲 （東京学芸大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践	ﾊﾟｿｺﾝ Ⅰ
２７日（火）	A　金谷　憲 （東京学芸大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践	２号	A　ティモシー・ライト （大妻女子大学教授） ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝﾌﾟﾗｸﾃｨｽ	ﾊﾟｿｺﾝ Ⅱ
	B　ティモシー・ライト （大妻女子大学教授） ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝﾌﾟﾗｸﾃｨｽ	ﾊﾟｿｺﾝ Ⅱ	B　金谷　憲 （東京学芸大学教授） 新しい指導と評価の理論と実践	２号
２８日（水）	A　吉田　研作 （上智大学教授） ｺﾐｭﾆｶﾃｨﾌﾞ・ｱﾌﾟﾛｰﾁ	ﾊﾟｿｺﾝ Ⅱ	A　樋口　晶彦 （鹿児島大学教授） ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾘｽﾆﾝｸﾞへ向けた指導	２号
	B　樋口　晶彦 （鹿児島大学教授） ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾘｽﾆﾝｸﾞへ向けた指導	２号	B　吉田　研作 （上智大学教授） ｺﾐｭﾆｶﾃｨﾌﾞ・ｱﾌﾟﾛｰﾁ	ﾊﾟｿｺﾝ Ⅱ
２９日（木）	A　平田　和人 （文部科学省教育課程課教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践	２号	A　吉田　研作 （上智大学教授） ｺﾐｭﾆｶﾃｨﾌﾞ・ｱﾌﾟﾛｰﾁ	ﾊﾟｿｺﾝ Ⅰ
	B　吉田　研作 （上智大学教授） ｺﾐｭﾆｶﾃｨﾌﾞ・ｱﾌﾟﾛｰﾁ	ﾊﾟｿｺﾝ Ⅰ	B　平田　和人 （文部科学省教育課程課教科調査官） 新しい指導と評価の理論と実践	２号
３０日（金）	閉講式	講堂		

Ⅰ　研修概要

研修名	外国人児童生徒等日本語指導講習会（前期）						
研修目的（趣旨）	小学校，中学校における外国人児童生徒等に対する日本語指導等に関する専門的な研修を行い，日本語指導等を担当する教員等の指導力の向上を図り，小学校及び中学校における外国人児童生徒教育の一層の充実を図る。						
対象	小学校，中学校の教員及び教育委員会の指導主事等で，原則として外国人児童生徒等に対する日本語指導等について一定の知識と経験を有する者。						
開催期日	平成　13　年　7　月　25　日（水）～平成　13　年　7　月　27　日（金）						
開催日数	3　日間	計画人数	120　人	受講者数	72　人	(参加率)	60.00　%
開催場所	ホテルフロラシオン青山						

前期と後期を合算した人数
受講者数の前期・後期計は，132人

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	46　人	71.88%	12　人	18.75%	0　人	0.00%	6　人	9.37%

2．研修内容に関する主な意見

・日本語指導を実際にやっていく上で，困難を覚えていることに対する助言を，その道のエキスパートに直接受けられて大変よかった。
・話の内容が具体的，実践的で教室にもどったらすぐに使える内容を教えていただけたのでよかった。
・どの講師も非常にパワフルで勇気づけられた。
・実践の中で感じていたことが，理論的に整理されてよかった。
・とても役に立った。ただ，質問する時間が少なかったのでその時間もとってほしかった。
・短期間に集中して研修することで意欲的に取り組めた。
・難しい講義もあったが，どれも具体的な説明が多かったので勉強になった。
・今後はさらに専門的な研修も設定していただければと思う。
・難しい講義もあったが，どれも具体的な説明が多かったので勉強になった。
・どの講義も，時間が短いようでそこに多くの内容が盛り込まれるため消化不良をおこしてしまう。もう少し時間にゆとりがあるといいと思う。講義の種類をもう少し減らして1つ1つをじっくり聴けると良いと感じる。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度外国人児童生徒等日本語指導講習会　講義日程

日時：平成１３年７月２５日(水)～８月３日(金)
会場：フロラシオン青山(港区南青山4-17-58)

【前　期】

	9時～10:30	10:50～11:20	12～13	13～14:30	15～16:30	17時
7月25日(水)		受付 開講式		講　義 **「外国人児童生徒の背景と日本語指導」** 東京外国語大学 横田淳子教授	講　義 **「文法」** 東京外国語大学 柏崎雅世助教授	
7月26日(木)	講　義 **「文字」** 東京外国語大学 酒井順子助教授	講　義 **「漢字」** 東京外国語大学 酒井順子助教授		講　義 **「日本語教授法」** 国際日本語普及協会 品田潤子部長	事例発表 ○日本語指導の実践及び学校での受入体制等 指導助言者 国際交流基金日本語国際センター 築島史恵専任講師	
7月27日(金)	講　義 **「ポルトガル語と日本語」** 東京外国語大学 アンジェロ・イシ非常勤講師	講　義 **「中国語と日本語」** 東北師範大学(中国) 孫　長虹講師		講　義 **「言語習得と言語教育」** 東京外国語大学 伊東祐郎助教授	講　義 **「音声」** 東北大学 助川泰彦助教授	閉講式

【後　期】

	9時～10:30	10:50～11:30	12～13	13～14:30	15～16:30	17時
7月30日(月)		受付・開講式		講　義 **「カリキュラム・ガイドライン」** 東京外国語大学 小林幸江教授	講　義 **「日本語指導教材」** 国際日本語普及協会 関口明子部長	
7月31日(火)	講　義 **「定着促進センターにおける日本語指導」** 中国帰国者定着促進センター 池上摩希子係長	講　義 **「バイリンガル・子供の言語発達」** メディア教育開発センター 小野博教授		講　義 **「カウンセリング」** 明治学院大学 井上孝代教授	講　義 **「教科学習と日本語」** 波多野ファミリスクール 大蔵守久部長	
8月1日(水)	グループ別演習①　※ 東京外国語大学 小林幸江教授、柏崎雅世助教授、 酒井順子助教授、藤森弘子助教授 伊丹千恵助教授、鈴木美加助教授			グループ別演習 ②　※ (問題提起、討論) 東京外国語大学 小林幸江教授、柏崎雅世助教授、 酒井順子助教授、藤森弘子助教授 伊丹千恵助教授、鈴木美加助教授	グループ別演習 ③　※ (指導・助言)	
8月2日(木)	グループ別演習 ④ ※　全体発表 (まとめ、発表準備) 東京外国語大学 小林幸江教授、柏崎雅世助教授、 酒井順子助教授、藤森弘子助教授 伊丹千恵助教授、鈴木美加助教授			グループ別演習全体発表 東京外国語大学 小林幸江教授、柏崎雅世助教授、 酒井順子助教授、藤森弘子助教授、 伊丹千恵助教授、鈴木美加助教授	講　義 **「日本語力評価法」** 東京外国語大学 伊東祐郎助教授	
8月3日(金)	講　義 **「ＪＳＬカリキュラムとこれからの外国人児童生徒教育」** 東京学芸大学　齋藤ひろみ助教授	閉講式				

※は３会場に分かれて演習を行う。

Ⅰ　研修概要

研修名	外国人児童生徒等日本語指導講習会（後期）						
研修目的（趣旨）	小学校，中学校における外国人児童生徒等に対する日本語指導等に関する専門的な研修を行い，日本語指導等を担当する教員等の指導力の向上を図り，小学校及び中学校における外国人児童生徒教育の一層の充実を図る。						
対象	小学校，中学校の教員及び教育委員会の指導主事等で，原則として外国人児童生徒等に対する日本語指導等について一定の知識と経験を有する者。						
開催期日	平成 13 年 7 月 30 日（月）～ 平成 13 年 8 月 3 日（金）						
開催日数	5 日間	計画人数	120 人	受講者数	60 人	（参加率）	50.0 %
開催場所	ホテルフロラシオン青山						

前期と後期を合算した人数
受講者数の前期・後期計は，132人

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	47 人	87.04%	6 人	11.11%	0 人	0.00%	1 人	1.85%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

・このような充実した研修会に参加でき，とても感謝している。今後の実践にいかしていきたいと思う。（多数）
・講師の方のお話はもちろん，各地の先生方との情報交換がとても役立つとともに，同じような悩み，意欲を持っている人がたくさんいることを知り，励まされた。
・日本語指導を要する児童の少ない地域から来たので，情報が少なく大変困っていたが，今回講習会に参加させていただき，本当に多くのことを学ぶことができた。
・今回まとまった期間に集中して研修を受けることができて良かった。
・専門の先生方の講義も大変役に立ったが，後期では特にグループでの演習の時間がよかった。講義で教えていただいたことを実践に移せたことでさらに理解が深まった。
・講義・演習の他に実際に見学（たとえば中国帰国者定着促進センターなど）することも役立つと思う。他県の先生方との講習を前期・後期とも実施することが大切と思う。
・理論と実践のバランスがよかったように思う。
・指導していただいた先生方と身近に親しみを感じて接することができたことはとてもよかった。
・これだけまとまった内容を一度に研修できる講習会には初めて参加した。日本語教室のためだけでなく，多くのことを学ぶことができたと思う。
・前期から継続して受講していると，後期は実践編に入っているんだなということが分かります。なんといっても演習はどんな力をつけるためにどんなことをしていかなくてはいけないかを実際に教材を通して行えたのでとても有意義だった。
・指導していただいた先生方と身近に親しみを感じて接することができたことはとてもよかった。
・指導助言の先生方がとても細かく適切なご指導をしてくださって，演習がよかった。手探りで毎日指導している先生方が多いことを思うと，この研修会にもっと多くの現場の先生方が参加できるようになるとよいと考える。
・小学校対象の話が多かったように思う。小学校と中学校で別の研修ができれば効率的なのではないかと感じた。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度外国人児童生徒等日本語指導講習会　講義日程

日時：平成１３年７月２５日(水)～８月３日(金)
会場：フロラシオン青山(港区南青山4-17-58)

【前　期】

	9時～10:30	10:50～11:20	12～13	13～14:30	15～16:30	16:30～17時
7月25日(水)		受付 開講式		講義 **「外国人児童生徒の背景と日本語指導」** 東京外国語大学 横田淳子教授	講義 **「文法」** 東京外国語大学 柏崎雅世助教授	
7月26日(木)	講義 **「文字」** 東京外国語大学 酒井順子助教授	講義 **「漢字」** 東京外国語大学 酒井順子助教授		講義 **「日本語教授法」** 国際日本語普及協会 品田潤子部長	事例発表 ○日本語指導の実践及び学校での受入体制等 指導助言者 国際交流基金日本語国際センター 築島史恵専任講師	
7月27日(金)	講義 **「ポルトガル語と日本語」** 東京外国語大学 アンジェロ・イシ非常勤講師	講義 **「中国語と日本語」** 東北師範大学(中国) 孫　長虹講師		講義 **「言語習得と言語教育」** 東京外国語大学 伊東祐郎助教授	講義 **「音声」** 東北大学 助川泰彦助教授	閉講式

【後　期】

	9時～10:30	10:50～11:30	12～13	13～14:30	15～16時	16時～17時
7月30日(月)		受付・開講式		講義 **「カリキュラム・ガイドライン」** 東京外国語大学 小林幸江教授	講義 **「日本語指導教材」** 国際日本語普及協会 関口明子部長	
7月31日(火)	講義 **「定着促進センターにおける日本語指導」** 中国帰国者定着促進センター 池上摩希子係長	講義 **「バイリンガル・子供の言語発達」** メディア教育開発センター 小野博教授		講義 **「カウンセリング」** 明治学院大学 井上孝代教授	講義 **「教科学習と日本語」** 波多野ファミリスクール 大蔵守久部長	
8月1日(水)	グループ別演習①　※ 東京外国語大学 小林幸江教授、柏崎雅世助教授、 酒井順子助教授、藤森弘子助教授 伊丹千恵助教授、鈴木美加助教授			グループ別演習 ②　※ (問題提起、討論) 東京外国語大学 小林幸江教授、柏崎雅世助教授、 酒井順子助教授、藤森弘子助教授 伊丹千恵助教授、鈴木美加助教授	グループ別演習 ③　※ (指導・助言)	
8月2日(木)	グループ別演習 ④ ※　全体発表 (まとめ、発表準備) 東京外国語大学 小林幸江教授、柏崎雅世助教授、 酒井順子助教授、藤森弘子助教授 伊丹千恵助教授、鈴木美加助教授			グループ別演習全体発表 東京外国語大学 小林幸江助教授、柏崎雅世助教授、 酒井順子助教授、藤森弘子助教授、 伊丹千恵助教授、鈴木美加助教授	講義 **「日本語力評価法」** 東京外国語大学 伊東祐郎助教授	
8月3日(金)	講義 **「ＪＳＬカリキュラムとこれからの外国人児童生徒教育」** 東京学芸大学　齋藤ひろみ助教授	閉講式				

※は３会場に分かれて演習を行う。

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（農業：Ａ－１）						
研修目的（趣旨）	産業技術及び情報技術の高度化、専門化に対応した知識と技術を習得させる研修。						
対象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事						
開催期日	平成　１３　年　８　月　６　日（月）～ 平成　１３　年　８　月　１１　日（土）						
開催日数	６　日間	計画人数	２０　人	受講者数	２４　人	(参加率)	120.0 %
開催場所	広島工業大学						

Ⅱ　アンケート結果の状況

１　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	１７　人	70.83%	７　人	29.17%	０　人	0.00%	０　人	0.00%
割合（%）								

２．研修内容に関する主な意見

- リモートセンシングに関して、日本での最先端の技術に触れることができ、とても勉強になった。これを今後どのように生徒に生かしていくかという課題は残るが、自分自身の研修になった。
- １週間という短期間であったが、大変充実した研修であった。普段触れることのない内容であり、興味を持った。
- リモートセンシングは聞いていたが、実際に体験して、高校でも使えるところが多くあると感じ、少しでも成果を生徒達に伝えるよう努力していきたい。新技術に対して、窓口ができてよかった。
- 信念を持って研究しているところで研修できたのが大変よかった。
- 衛星受信がＧＰＳ衛星等のように一般的に普及するシステム、施設、設備を新産業技術等で考慮していく必要性を強く感じた。
- この短期間でやるには高度すぎる内容だったのではないかと思う。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度　新産業技術等指導者養成講習　日程

（農業，Ａ－１）

委託団体名：全国農業高等学校長協会

日時	9:30	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
８月６日 （月）	受付	開講式	講義（菅）21-401 教室 地球観測システム	昼休み	講義　（菅）21-401 教室 人工衛星リモートセンシング					懇親会
８月７日 （火）		講習（菅、小川）地球観測ｽﾃｰｼｮﾝ 人工衛星地上受信局における リアルタイム受信処理		昼休み	講習（菅、小黒、高崎、学生５名）21-106 実験室 リモートセンシングデータ処理および解析システム					
８月８日 （水）		実習（竹内、小黒、高崎、 学生５名）21-301 実習室 現地調査用機器による観測		昼休み	実習（竹内、小黒、高崎、学生５名）21-301 実習室 人工衛星画像データのマッピング手法					
８月９日 （木）		実習（竹内、小黒、高崎、 学生５名）21-301 実習室 人工衛星データによる環境モニタリング手法		昼休み	実習（竹内、小黒、高崎、学生５名）21-301 実習室 人工衛星データによる環境モニタリング手法 （環境主題図の作成）					
８月１０日 （金）		講義（菅）21-401 教室 地理情報システム(GIS)		昼休み	講習（菅、小黒、高崎、学生５名）21-106 実験室 リモートセンシングと GIS による災害モニタリング手法					
８月１１日 （土）		施設見学（菅、高崎、羽原） 25-102 実験室		閉講式						

実施場所：広島工業大学　　〒731-5193　広島市佐伯区三宅 2-1-1

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（農業：A－2）						
研修目的（趣旨）	産業技術及び情報技術の高度化、専門化に対応した知識と技術を習得させる研修。						
対象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事						
開催期日	平成　13　年　7　月　23　日（月）～ 平成　13　年　7　月　28　日（土）						
開催日数	6　日間	計画人数	20　人	受講者数	34　人	(参加率)	170.0　%
開催場所	東京バイオテクノロジー専門学校						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	26　人	78.79%	7　人	21.21%	0　人	0.00%	0　人	0.00%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

- 自己流の技術の未熟さを教えていただいた。
- 基礎から応用まで大変勉強になった。
- 酵素などを活用した分析の新技術について、講習会を開いていただけると良かった。
- 全体的な内容は特に良いが、1コマの時間配分が短いものがあったような気がする。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度新産業技術等指導者養成講習日程

全国農業高等学校長協会

（農業、Ａ－２）

日時	9:30	10:00	11:00	１２；００	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
7月23日（月）	受付	開講式	オリエンテーション	昼休み	講演	実習１　基礎培地作成			
7月24日（火）		講演	実習２　食品・土壌からの微生物分離	昼休み	講演	実習３　微生物の形態観察・染色実習		講演１　微生物汚染対策	
7月25日（水）		講演２　海洋微生物のゲノム解析		昼休み	講演	実習４　微生物の純粋分離			
7月26日（木）		講演３　酵母の利用の実際		昼休み	実習５　バイオリアクター				
7月27日（金）		実習６　バイオリアクター		昼休み	実習７　生育観察・保存		学習指導要領について（情報交換会）		
7月28日（土）		見学　キリンビール横浜工場		閉講式・懇談会					

財団法人　バイオインダストリー協会

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（工業：Ｂ－１）						
研修目的（趣旨）	産業技術及び情報技術の高度化、専門化に対応した知識と技術を習得させる研修。						
対象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事						
開催期日	平成　１３　年　７　月　２３　日（月）～ 平成　１３　年　７　月　３１　日（火）						
開催日数	８　日間	計画人数	４７　人	受講者数	４２　人	(参加率)	89.36　％
開催場所	東京工業大学						

Ⅱ　アンケート結果の状況

１　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	２８　人	70.00%	１１　人	27.50%	０　人	0.00%	１　人	2.50%
割合（%）								

２．研修内容に関する主な意見

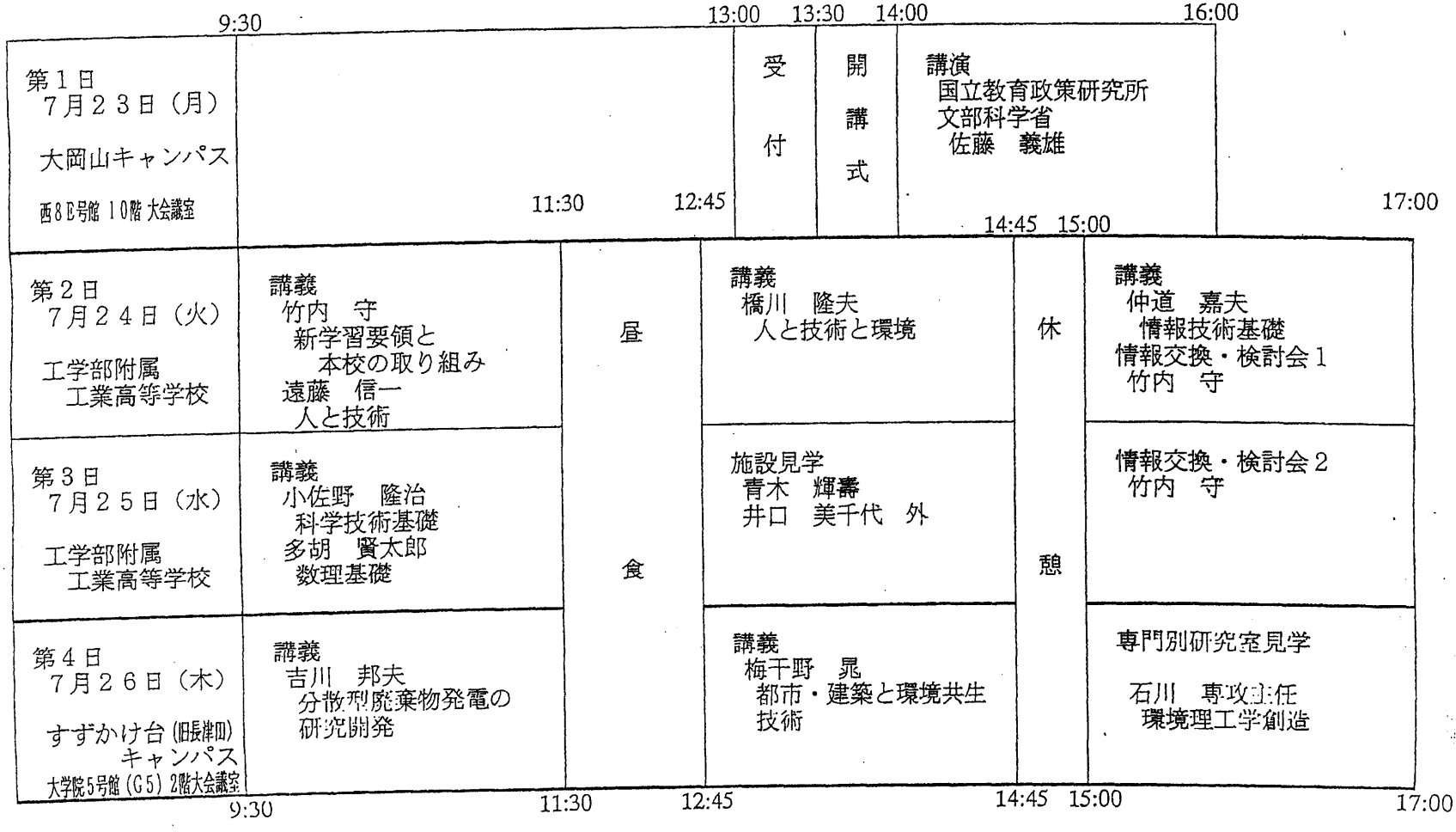
- 環境問題に対する考え方が分かり、とても有意義だった。
- 東工大の先端技術、教育の取り組みに触れる機会を得られ良かった。
- 情報交換・検討会の時間が少なく残念だった。加えて、各専門別の検討会もできれば良いと思う。教材、ＯＨＰ等の資料のＣＤ－ＲＯＭ化をお願いしたい。
- 最先端技術をもっと見たかった。
- 講義内容が高度な分、事前の準備が出来るように、もう少し詳しい資料が予めあると良かったと思う。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度 新産業技術等指導者養成講習 日程

テーマ ： エネルギー利用と環境保全技術に関する講義と実習
期 日 ： 平成１３年７月２３日(月)～７月３１日(火)
会 場 ： 東京工業大学 大岡山キャンパス
東京工業大学 すずかけ台（旧長津田）キャンパス
工学部附属工業高等学校



	9:30	11:30	12:45	14:45 15:00	17:00	17:30	19:00
第５日 ７月２７日（金） 大岡山キャンパス 西3号館 W331講義室	講義 有冨　正憲 エネルギーと環境 －原子力の役割と課題－	昼	講義 西田　信彦 低温物理と超伝導－ 超伝導研究最近の新展開	休	専門別研究室見学		
第６日 ７月２８日（土） 大岡山キャンパス 西3号館 W331講義室	講義 関口　一郎 情報教育の環境整備， 著作権等の諸課題	食	講義 清水　康敬 我が国における教育の 情報化の推進について	憩	講義 牟田　博光 教育の政策評価		
第７日 ７月３０日（月） 大岡山キャンパス 西3号館 W331講義室	講義 岡崎　健 エネルギー大量消費と 地球環境問題の本質に ついて		講義 平井　秀一郎 地球温暖化対策としての ＣＯ２の海洋隔離		施設見学 原子炉工学研究所 極低温物性研究センター	休憩	懇親会
第８日 ７月３１日（火） 大岡山キャンパス 西8E号館 10階 大会議室	講義 玉浦　裕 ソーラーハイブリッド 利用時代	閉講式					
	9:30	11:30	12:00				

※　開講式及び閉講式の会場は，大岡山キャンパス西８Ｅ号館１０階大会議室です。
懇親会の会場は，大学食堂２階です。

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（工業：Ｂ－２）						
研修目的（趣旨）	産業技術及び情報技術の高度化、専門化に対応した知識と技術を習得させる研修。						
対象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事						
開催期日	平成　１３　年　７　月　２３　日（月）～ 平成　１３　年　８　月　１　日（水）						
開催日数	８　日間	計画人数	２５　人	受講者数	２３　人	(参加率)	92.0 %
開催場所	大阪機工株式会社・東京総合技術教育センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	7　人	30.43%	１３　人	56.52%	２　人	8.70%	１人	4.35%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

・日頃、疑問に思っていたことを講師の先生に聞くことができ、役に立った。
・キャノン電子を見学したことが、強く印象に残っている。無駄をなくし、一丸となって頑張っている姿を目のあたりにしたので、この精神で生き残る学校を目指し、努力する必要性を痛感した。
・ハイテクばかり関心を持っていたが、会社見学をしたことによりローテクの重要性を考えさせられた。
・工場見学は社会状況や現場体験に役立ったと思う。
・既知の内容が多く、時間がもったいない。内容の精選が必要。
・ＮＣプログラムに自信がついた。
・オペレーティングに関する部分をもっと詳しく、流れを統一してモデル的なプランを持って行って欲しい。
・１日目、２日目の生産システムに関する研修が短すぎて、ほとんどが少し体験しただけに終わってしまったのが残念。来年度より、新産業技術習得という形で、内容を考えて欲しい。
・今回のような企業でのトレーニングは、非常に実務的でいいと思う。
・もう少し体験的な学習がよかったが、講義の内容はとてもわかりやすく、初めての内容でもほぼ全て理解できた。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度新産業技術等指導者養成講習日程

（工業、Ｂ－２）

委託団体名　全国電子機械教育研究会

日時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
7月23日（月）					受付	開講式	（実習）総合生産システムの概要	休憩	（実習）プリント基板生産ラインの実習・体験
7月24日（火）	（実習） 1班：生産管理 2班：FMSライン 3班：制御検査ライン 4班：溶接ロボットライン	休憩	（実習） 1班：溶接ロボットライン 2班：生産管理 3班：FMSライン 4班：制御検査ライン	昼休み	（実習） 1班：制御検査ライン 2班：溶接ロボットライン 3班：生産管理 4班：FMSライン	休憩	（実習） 1班：FMSライン 2班：制御検査ライン 3班：溶接ロボットライン 4班：生産管理	（講義）これからの工業教育協議	
7月25日（水）	会社概要説明見学	（講義）自動プログラミングの実際 プログラミングの概要① 補間機能及び加工内容の動作1		昼休み	（講義）自動プログラミングの実際 プログラミングの概要②		（実習）加工内容の動作2		
7月26日（木）	（講義）自動プログラミングの実際 加工内容の動作3		（実習）工具交換動作	昼休み	（講義）自動プログラミングの実際 加工内容1，2		（実習）段取り、テストピース切削		
7月27日（金）	（実習）自動プログラミングの実際 加工実習　テストピース切削			昼休み	（実習）自動プログラミングの実際 加工実習　テストピース切削				
7月30日（月）	（見学）キャノン電子株式会社								
7月31日（火）	（実習）加工段取り、テストピース切削			昼休み	（講義）自動工作機械の原理と構成		（講義）生産技術のシステム化		
8月　1日（水）	（講義）製造行程の自動化技術			閉校式					

実施場所　東京都総合技術教育センター、大阪機工株式会社　東京テクニカルセンター

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（商業：C－1）						
研修目的（趣旨）	産業技術及び情報技術の高度化、専門化に対応した知識と技術を習得させる研修。						
対象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事						
開催期日	平成　13　年　7　月　25　日（水）～ 平成　13　年　8　月　2　日（木）						
開催日数	8　日間	計画人数	47　人	受講者数	28　人	（参加率）	59.57　%
開催場所	千葉商科大学・(財)生命保険文化センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	22　人	88.00%	3　人	12.00%	0　人	0.00%	0　人	0.00%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

○　改めて研究や新しいことに取り組む姿勢の重要性を感じた。

○　大学の先生方の話は、データを基に新しい考え方をそれぞれの立場から話され、とても興味深く聞くことが出来た。

○　全体を通して良くまとめられた講義内容であり、日程等についても良かったと思う。

○　普段肌で感じることのできない、激変する社会の実状を一部でも知ることで自分自身を発奮させる材料になった。

○　今回の研修で得たことと、学校での授業のギャップが大きいので、今後どの様に授業に生かすかが課題となった。

○　商品の実験においても目新しく、学校へ戻って取り入れたいと思った。講義、実習共に参考となった。

○　普段では入れないような場所を見学できたことは大変有意義だった。

○　見学に関しては、単に見るのではなく、ディスカッションの時間を設定していただければさらに有意義だったと思う。

○　保険の基礎知識では、実際に自分が加入している保険を見せてアドバイスを受ける方が良かったと思う。また、架空の保険設定を実際に実技としてやれば良かったと思う。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成13年度新産業技術等指導者養成講習日程

（商業、C-1）

受託団体名　（財）全国商業高等学校協会

月日（曜日）	午前 9:00 9:30	10:00	12:00	午後 13:00	14:00	15:00	16:00	
7月25日（水）	受開講付式	（講義）「流通構造変化に対応した小売行動の現状」		（商品実習） A．商品のソフト化と消費技術 B．飲料商品の多様化 C．商品包装の社会的意義				懇親会
7月26日（木）	（講義）「デジタルネットワーク時代におけるビジネス・デザイン」			（商品実習） A．同 B．同 C．同		（商品実習） A．同 B．同 C．同		
7月27日（金）	（企業・マーケティング実務見学：千葉県成田市・幕張市） ＜日通成田空港物流センター見学とカルフール幕張店見学と質疑応答＞ （協力機関：成田市役所商工観光課）							
7月28日（土）	（講義）「商品のサービス化と流通」			（講義）「21世紀のマーケティング戦略」		研究協議	閉講式	

実施場所　千葉商科大学

平成１３年度新産業技術等指導者養成講習日程

（商業，Ｃ－１）

全国商業高等学校長協会

日　時	10	11	12	13	14	15	16	17
7月30日（月）	オリエンテーション	（講義）「21世紀の商業（Business）教育を考える」	昼食・休憩	（講義）「生命保険の基礎知識」		（講義）「生活設計と保険の役割」		
7月31日（火）	（講義）「わが国の信託業務の現状と信託銀行の役割」		昼食・休憩	移動	（講義）「損害保険の基礎知識」		（見学）（株）自研センター（自動車保険の査定研究機関）	
8月1日（水）	（講義）「証券市場の現状と課題」		昼食・休憩	移動	（見学）日本銀行行内見学	（講義）「日本銀行の政策と業務」	（見学）日本銀行貨幣博物館見学	
8月2日（木）	（講義）「金融ビッグバンと日本の金融」		閉講式					

実施場所　（財）生命保険文化センター

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（商業：Ｃ－２）						
研修目的（趣旨）	産業技術及び情報技術の高度化、専門化に対応した知識と技術を習得させる研修。						
対象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事						
開催期日	平成　１３　年　８　月　２０　日（月）～ 平成　１３　年　８　月　２４　日（金）						
開催日数	５　日　間	計画人数	８０　人	受講者数	７０　人	(参加率)	87.50 %
開催場所	一橋大学商学部・大学院商学研究科						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	５３　人	79.11%	１３　人	19.40%	０　人	0.00%	１人	1.49%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

・日頃の不勉強さを反省させられた研修だった。（多数）
・最新の情報を得る機会として、この研修会は非常に勉強になった。（多数）
・商業の各分野に関する内容を具体的に話してもらったので、大変勉強になった。来年以降も実施してほしい。
・高校においての具体的な指導方法等、もう少し詳しく聞きたい部分もあった。
・今回の研修を通して、現在そして今後直面するであろう様々な社会現象、及び経済現象の大枠を知ることができた。
・一橋大学に商業高校から入学した生徒の話、様子が聞きたかった。
・幅広い教養を持つことが必要で、生徒への指導方法の参考にしたいと思う。
・本当に大切なものは何かを教えてもらった。
・この研修を生かして、将来生徒が社会貢献できるように教育していきたい。
・講師の先生の話が、とても専門性が高く、それがわかりやすい説明だったので、楽しく勉強できた。（多数）
・国際化に関わる経済について、理解度、認識が非常に低いと思うので、今後も深く学習できる研修であってほしい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度新産業技術等指導者養成講習日程表

（流通・国際・会計・情報に関する講義と実習）

時間 月日（曜日）	9:30 10:00	10:30		12:30 13:30		15:00 16:00 16:30
８月２０日 （月）	受　付	開講式	［新学習指導要領の改定について］ 国立教育政策研究所 教育課程センター教育課程調査官 吉野弘一		［講義：　簿記会計と企業観　］ 一橋大学大学院商学研究科教授　安藤英義	
８月２１日 （火）	［講義：　情報革命と意識の変化］ 一橋大学大学院商学研究科教授　石野福弥				［講義：　情報環境の変化と情報教育の充実　］ 横浜市立大学商学部教授　野々山隆幸	
８月２２日 （水）	［講義：　経済のグローバル化と日本の企業］ 一橋大学大学院商学研究科教授　関　満博				［見学：　サントリー武蔵野ビール工場　］ 一橋大学大学院商学研究科講師　松井　剛	
８月２３日 （木）	［講義：　物流システムの効率化　］ 一橋大学大学院商学研究科教授　根本敏則				［講義：　国際化の進展と国際理解　］ 神奈川大学経営学部教授　田中則仁	
８月２４日 （金）	［講義：　経済のサービス化・ソフト化と消費の変化］ 一橋大学大学院商学研究科教授　片岡　寛				［講義：　現代の管理会計　］ 一橋大学大学院商学研究科教授　廣本敏郎	［研究協議］ 教育課程調査官 吉野弘一　閉講式

Ⅰ　研修概要

研 修 名	新産業技術等指導者養成講習　（水産：D－1）						
研修目的（趣旨）	産業技術及び情報技術の高度化、専門化に対応した知識と技術を習得させる研修。						
対 象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事						
開催期日	平成 13 年 7 月 30 日（月）～ 平成 13 年 8 月 3 日（金）						
開催日数	5 日間	計画人数	24 人	受講者数	23 人	(参加率)	95.83 %
開催場所	東海大学海洋学部						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	17 人	73.91%	6 人	26.09%	0 人	0.00%	0 人	0.00%

2．研修内容に関する主な意見

・いろいろな内容を勉強することができたことと、他校の先生方と情報交換ができてよかった。
・多くの内容のある講義を受け、大変勉強になった。
・参考図書や、特に高校生向けの物を紹介してもらえるとありがたい。
・授業展開がすばらしかった。
・海洋に関することに加え、東海大学のことについても知ることができ、充実した講習会だった。
・来年も同じ講習をしてほしい。
・講義の内容に見合った見学をもう少し増やしてほしい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度新産業技術等指導者養成講習開催のお知らせ

１．開催期間　　平成１３年７月３０日（月）～８月３日（金）　５日間

２．会　　場　　東海大学海洋学部
〒424-8610　静岡県清水市折戸３－２０－１

３．内　　容（講習番号Ｄ－１：海洋環境）

月日	9	10	11	12	13	14	15	16	17
7/30（月）	受付	開講式 ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ	（講義） 海洋の物理学		昼休み	（講義） 沿岸の海洋化学	（講義） 外洋の海洋化学		
7/31（火）	（講義） 沿岸漁場の環境保全Ⅰ		（講義） 沿岸漁場の環境保全Ⅱ		昼休み	（実習） 海洋環境に係わる基礎的調査 （望星丸：駿河湾）			
8/1（水）	（講義） 養殖漁場の現状と将来像		（講義） 養殖環境悪化と水産生物の疾病		昼休み	（実習） 海洋環境に係わる基礎的分析			
8/2（木）	（講義） 水産土木工学／海洋土木工学				昼休み	（見学） 沿岸構造物と集魚効果 （蒲原海岸）		（研究協議） 討　論	
8/3（金）	（講義） 海洋政策				閉講式				

４．集合場所・時間　　東海大学海洋学部　９号館２階　９２０１号室（添付地図参照）
７月３０日（月）９：００～受付

５．宿　　泊　　個人で会場近くに宿泊予約又は事務局に宿泊予約（斡旋旅館）して下さい。

６．用意していただくもの
① 研修費　４，０００円　（資　料　費　１，０００円／教育懇談会費　３，０００円）
② 保険料　　７５０円　（傷害保険）
② 筆記用具、運動靴（乗船実習時、長靴でも可）
実習服（乗船実習時）、白衣（化学分析時、実習服でも可）

７．そ の 他
① 車で来られる方は、事前に全国水産高等学校長協会事務局まで御連絡下さい。
② 研修費、保険料は、研修当日校長協会事務局が徴収しますので現金にてお支払い下さい。
③ ７月３１日の乗船実習および８月２日の見学の交通費（会場まで）は各自負担です。
④ ８月３日の研究協議終了後、教育懇談会が行われますので全員参加お願いします。
⑤ 講習中なにか不都合等ありましたら受講生の世話役の先生に連絡お願いします。
⑥ ご不明な点がございましたら、全国水産高等学校長協会事務局までお問い合わせ願います。
⑦ 詳細は後日、全水協事務局より受講生宛に送付いたします。

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（家庭：Ｅ－１）						
研修目的（趣旨）	産業技術及び情報技術の高度化、専門化に対応した知識と技術を習得させる研修。						
対象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事						
開催期日	平成　１３　年　８　月　２７　日（月）～ 平成　１３　年　８　月　３１　日（金）						
開催日数	５　日間	計画人数	５０人	受講者数	３７人	(参加率)	74.00 %
開催場所	兵庫教育大学						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	３１人	83.78%	５人	13.51%	０人	0.00%	１人	2.71%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

・なるべく、最近・最新の情報や内容も紹介して欲しかった。
・知識と技術のバランスがよく、充実した内容だった。
・乳幼児との交流、観察実習の日程は２日間だったが、発表時間がバタバタしていたので、もう少し時間を増やせばよかったのではと思った。
・講義内での参考図書や教材の紹介が役立った。
・子どもの発達を観察していて、自分自身が生徒をしっかり観察できているかということを思い返して反省した。
・研修カリキュラムが、順を追って「誕生」からわかりやすく構成されていて、短い日数でも充実していた。
・乳幼児の発達についての理解や、体験学習の方法等、多くのことを学ぶことができた。
・他県の先生方との交流ができ、県や学校の様子、教材内容や実習の方法等、意見交換ができた。
・事前調査によって生徒を把握した後、効果的な実習、データを次年度のコミュニケーション方法の資料として利用することなど、大変役立った。
・講義は実際に働いている幼稚園の先生や、病院の先生などから実際の話を聞きたい。
・学問的な理論の講義から、授業にすぐ役立ちそうな具体的な助言まであり、とても勉強になった。
・自分自身が体験学習をして、失敗したり、指導してもらうことにより、生徒にどのように指導をしていけばよいか考えるよい機会になった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成13年度 新産業技術等指導者養成講習　講習内容

新産業技術コース　家庭

時間 / 日付	9：30　10：00	10：00　10：30	10：30　11：30	11：30　12：30	13：30　15：00	15：30　16：30	
8月27日（月）	受　付 共通講義棟 212教室	開講式 ①	（講義）「母体の健康と乳幼児の身体発育」 兵庫教育大学教授　郷間英世 ①		（講義）「ことばの発達」 兵庫教育大学講師　宇野宏幸 ①	（講義）「情緒・社会性の発達」 兵庫教育大学教授　松村京子 ①	懇親会
8月28日（火）	（講義）「乳幼児の発達と遊び」 兵庫教育大学教授　田中亨胤 ①		（講義）「乳幼児の遊びの実際」 兵庫教育大学連合学校教育学研究科博士課程院生（湊川女子短期大学助教授）　中西利恵 ①		（講義）「認知・思考の発達」 大阪教育大学教授　天冨美禰子 ①	（講義）「交流・観察方法」 ① 兵庫教育大学教授 松村京子	
8月29日（水）	（実習）「乳幼児交流・観察実習 1」 参加者を2グループに分け，保育所で参加型（交流）実習と非参加型（観察）実習のいずれかを行う。 兵庫教育大学教授　松村京子 兵庫教育大学連合学校教育学研究科博士課程及び 兵庫教育大学学校教育研究科修士課程　院生６名　卒業生１名　②				（演習）「実習分析のためのグループ演習 1」 午前の観察結果についての分析と話し合いを行う。 兵庫教育大学教授　松村京子 兵庫教育大学連合学校教育学研究科博士課程及び 兵庫教育大学学校教育研究科修士課程　院生６名　卒業生１名　③		
8月30日（木）	（実習）「乳幼児交流・観察実習 2」 前日の交流実習と観察実習を入れ替えて行う。 兵庫教育大学教授　松村京子 兵庫教育大学連合学校教育学研究科博士課程及び 兵庫教育大学学校教育研究科修士課程　院生６名　卒業生１名　②				（演習）「実習分析のためのグループ演習 2」 午前の観察結果についての分析と話し合いを行う。 兵庫教育大学教授　松村京子 兵庫教育大学連合学校教育学研究科博士課程及び 兵庫教育大学学校教育研究科修士課程　院生６名　卒業生１名　③		
8月31日（金）	（講義）「乳幼児理解のための教育」 兵庫教育大学教授 松村京子 ①	（演習）「乳幼児理解のための学習指導計画」 参加者が自分の学校でのプランを作成し，疑問等を話し合う。 兵庫教育大学教授　松村京子 講師　永田智子 ①		記念写真	（講義）「家庭科の改訂の趣旨と保育に関する指導」 文部科学省初等中等教育局視学官 河野公子 ①	閉講式 ①	

（注）○付き数字は実施場所を示す。　①：共通講義棟211教室　②：社保育園　③：附属中学校コンピューター教室

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（家庭：Ｅ－２）						
研修目的（趣旨）	産業技術及び情報技術の高度化、専門化に対応した知識と技術を習得させる研修。						
対象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事						
開催期日	平成　１３　年　８　月　１４　日（火）～ 平成　１３　年　８　月　２２　日（水）						
開催日数	８　日間	計画人数	２５　人	受講者数	３１　人	(参加率)	124.0 %
開催場所	文京社会福祉専門学校						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	２８　人	90.32%	３　人	9.68%	０　人	0.00%	０　人	0.00%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

○　北田先生の話が、「教え方」という点でも学ぶところが多く、大変わかりやすかった。（多数）

○　今まで、部分部分を細切れの知識で授業をしていたものが、今後系統立てられるような気がした。

○　今回の研修は復習の意味合いと、現在の機械の状況等、今まで自分が知り得なかった知識や技術を身につけることができた。

○　今回の研修は実技が多く、頭でイメージしていても、いざというとき不安に思っていた部分について解決策が見つかったように感じた。

○　久しぶりに生徒の立場になって教育を勉強でき、原点に戻って考える機会となってよかった。

○　内容が一方的ではなく、いろいろな手法を使ったので、即学校に帰って使えそうだと思った。

○　講義、実技、施設見学等内容が盛りだくさんな講習で、大変勉強になった。

○　新学習指導要領の家庭科教育の講義を１回目にしていただき、目的、位置づけなどを明確にしてから研修に臨んだ方がよかったと思う。

○　現場で経験のある方から、実習を教わるとよいと思った。

○　被服、食物、住居等分かれているように、福祉も実習、講義等についてもう少し細分化するべきだと思う。

○　講義について、同じ内容を違う先生毎に教えてもらうというところもあったので、その時間に他のことを学べるのではないかと思った。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度　新産業技術等指導者養成講習日程

（教科名）　家庭科Ｅ－２

全国高等学校長協会　家庭部会

日　時	9	10	11	12	13	14	15	16	
8月14日（火）（第1日目）	開講式	講義「新学習指導要領に基づく家庭科教育」	講義「介護福祉教育のカリキュラム」	昼休み	講義「介護概論」				北田（講義）　4.5 時間
8月15日（水）（第2日目）	講義「高齢社会と社会福祉」			昼休み	実習「介護技術の基礎Ⅰ」環境整備とベットメーキング				丸岡（講義）　3.0 時間 北田（実習）　3.0 時間 法村（助手）　3.0 時間
8月16日（木）（第3日目）	実習「介護技術の基礎　Ⅱ」ボディメカニクスを活用した移動の援助の基本			昼休み	実習「介護技術の基礎　Ⅲ」車イスへの移乗				北田（実習）　6.0 時間 法村（助手）　6.0 時間
8月17日（金）（第4日目）	実習「介護技術の基礎　Ⅳ」食事の援助			昼休み	実習「介護技術の基礎　Ⅴ」衣服の着替えの援助・排泄の援助				北田（実習）　6.0 時間 法村（助手）　6.0 時間
8月18日（土）（第5日目）	実習「介護技術の基礎　Ⅵ」清潔の援助　清拭・足浴			昼休み	講義「高齢者の心身の特徴と病気」				北田（実習）　3.0 時間 法村（助手）　3.0 時間 吉川（講義）　3.0 時間
8月19日（日）									
8月20日（月）（第6日目）	講義「介護保険について」			昼休み	講義「介護保険と在宅看護」		施設見学オリエンテーション		北田（講義）　3.0 時間 大橋（講義）　2.5 時間 北田（講義）　0.5 時間
8月21日（火）（第7日目）	講義「求人と就職について」			昼休み	施設現場見学「老人福祉施設見学」王子光照苑　江戸川光照苑				澤田（講義）　2.5 時間 法村（見学）　3.5 時間 飛澤（見学）　3.5 時間
8月22日（水）（第8日目）	講義・演習「実習指導について」指導事例の検討			昼休み	研究協議「講習のまとめ」		閉講式		北田（講義）　5.5 時間 法村（助手）　3.0 時間

実施場所　文京社会福祉専門学校

12

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（家庭：Ｅ－３）						
研修目的（趣旨）	産業技術及び情報技術の高度化、専門化に対応した知識と技術を習得させる研修。						
対象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事						
開催期日	平成　１３　年　８　月　２　日（木）～ 平成　１３　年　８　月　１０　日（金）						
開催日数	８　日間	計画人数	２５　人	受講者数	２４　人	(参加率)	96.0 %
開催場所	（株）内田洋行教育システム事業部						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	９　人	39.13%	１４　人	60.87%	０　人	0.00%	０　人	0.00%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

○　内容は難しかったが、講師の先生方の教え方が上手でテキストも詳しく、役立てて活用したい。

○　実際にエクセルで、授業に合わせたプログラムを開発していきたいと思う。

○　生徒にはパソコン操作や理論を教えるのではなく、「今の生活にどの様に使っていくとよいか」ということを教えていきたい。

○　中央の研修ということなので、もう少しレベルの高い内容も取り入れて欲しかった。

○　個々のレベル差がありすぎたので、申込み時点で、もっと詳しい内容（レベルを含めて）を知りたかった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成13年度　新産業技術等養成講習（家庭情報処理）スケジュール

日時：平成１３年８月２日（木）～１０日（金）
場所：株式会社 内田洋行 潮見オフィス　〒135-8730 東京都江東区潮見 2-9-15
参加人員：２５名（全国高等学校教員）

日付	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
8／2（木）	受付	開講式 オリエンテーション		昼休み	LAN＆インターネット入門					
8／3（金）		LAN＆インターネット入門			ホームページ作成（基礎）					
8／4（土）		ホームページ作成（基礎）			ホームページ作成（応用）					
8／6（月）		最新施設見学			最新施設見学					
8／7（火）		Excel（基礎）			Excel（基礎）					
8／8（水）		Excel（応用）			Excel（応用）					
8／9（木）		高校家庭科におけるコンピュータの活用			高校家庭科におけるコンピュータの活用					
8／10（金）		最新システムのご紹介及び研修会のまとめ			講義：文部科学省		閉講式			

※上記の内容につきましては、変更することがあります。

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（家庭：Ｅ－４）						
研修目的（趣旨）	産業技術及び情報技術の高度化、専門化に対応した知識と技術を習得させる研修。						
対象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事						
開催期日	平成　１３　年　８　月　６　日（月）～ 平成　１３　年　８　月　９　日（木）						
開催日数	４　日間	計画人数	２０人	受講者数	１７人	(参加率)	85.00 %
開催場所	装道きもの学院						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	９人	56.25%	４人	25.00%	０人	0.00%	３人	18.75%

2．研修内容に関する主な意見

○　この研修を機会に、自分で着装できるようになることと、学校現場にも還元していきたいと思う。
○　着装の技術だけでなく、和装の心にまで触れることができたのが良かった。
○　研修で教わったことを忘れないうちに復習をして、技術の定着につとめたいと思う。
○　被服領域の概論として、着装と日本文化について生徒に伝えていきたいと思う。
○　被服授業で浴衣の作成の際に、振る舞い等を含む着装の内容を扱いたいと思う。
○　着付けの授業があるので、補正等生徒に教える際に大いに参考になると思う。
○　礼法などは家庭一般でも行いたい。
○　実技をもっと多くした方が良いと思った。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成13年度 新産業技術等指導者養成講習

1．講　師

河野　公子　　文部科学省初等中等教育局　視学官

山中　典士　　「装道」提唱

(社)全日本きものコンサルタント協会会長

松田美恵子　　装道きもの学院　副学院長

そ　の　他　　装道きもの学院　装道礼法学院　　教授陣

(敬称略)

2．講習日程

第1日　8月6日（月）

時　間	内　容	講師(敬称略)
9：30～ 9：45	開講式　挨拶	
9：45～10：00	内容説明・連絡事項	
10：00～10：45	講　義 家庭科教育の動向	河野公子
10：45～12：00	(1) 着　装 講義「着装の基本」	松田美恵子
12：00～13：00	昼　食	
13：00～16：00	(2) 着　装 外出着の着装と帯結び	着装講師

第2日　8月7日（火）

時　間	内　容	講師（敬称略）
9：30～11：30	講　義 きものの精神美学	山中　典士
11：30～12：30	昼　食	
12：30～16：00	（3）着　装　「礼装の着装」 留袖の着装と帯結び（二重太鼓）	着装講師

第3日　8月8日（水）

9：30～11：30	礼　法 装道礼法の基本	水野　泰子
11：30～12：30	昼　食	
12：30～16：00	（4）着　装 （A）男子の礼装の着装 （B）女袴の着装	着装講師

第4日　8月9日（木）

9：30～11：45	（5）着　装 外出着の着装と帯結び	着装講師
11：45～12：45	昼　食	
12：45～14：00	（6）着装総仕上げ	着装講師
14：00～16：10	記念撮影・座談会 講習会全般について 閉講式	

平成１３年度新産業技術等指導者養成講習日程

（家庭、Ｅ－４）

日　時	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
８月６日（月）		開講式 内容説明 ※①	（講義）家庭科教育の動向	（着装）体型の補正と下着のつけ方	昼　食	（着装）外出着の着装と帯結び		※①連絡事項	
８月７日（火）		（講義）きものの精神美学		昼　食	（着装）礼装の着装 留袖の着装と帯結び（二重太鼓）				
８月８日（水）		（礼法）装道礼法の基本		昼　食	（着装）A 男子の礼装の着装 B 女袴の着装				
８月９日（木）		（着装）外出着の着装と帯結び		昼　食	（着装）着装の総仕上げ	記念撮影	座談会	閉講式	

装道きもの学院　お茶の水校

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（看護：Ｆ－１－１）						
研修目的（趣旨）	産業技術及び情報技術の高度化、専門化に対応した知識と技術を習得させる研修。						
対象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事						
開催期日	平成　１３　年　７　月　３１　日（火）～ 平成　１３　年　８　月　８　日（水）						
開催日数	８　日間	計画人数	３０人	受講者数	１６人	(参加率)	53.33 %
開催場所	北里大学看護学部						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	１１人	78.57%	３人	21.43%	０人	0.00%	０人	0.00%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

・講師の先生方の話も大変わかりやすく、ためになった。

・第一線で活躍されている先生方の講義を聴くことができ、大変有意義な研修だったと思う。自分の看護観や教育観について、改めて考えてみる良い機会となった。

・自分の持つ技能や知識を再確認でき、もっと学習を積む必要性を痛感した。

・他校の教育実習の現状を知ることができて良かった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

看　護（F－1－1）

1　期　　日　平成１３年７月３１日（火）　１０：００　開講式
　　～８月　８日（水）　１６：００　終了

2　会　　場　北里大学相模原キャンパス看護学部校舎
　　〒228-0829　神奈川県相模原市北里２－１－１

3　講習内容

	午　前（9:30～12:30）	午　後（13:30～16:30）
７月31日（火）	受　付　開講式　高校教育及び看護教育の動向　文部科学省　大橋　泰久	看護学の教育課程　北里大学　林　滋子　先生
８月１日（水）	看護理論　北里大学看護学部　遠藤恵美子　先生	看護における科学的思考（看護動作と人間工学）　東京都立工芸高等学校　久保田正雄　先生
８月２日（木）	看護過程　北里大学看護学部　岡崎寿美子　先生　／　看護過程の展開（演習）　北里大学看護学部　岡崎寿美子　先生　北里大学看護学部　中山美由紀　先生　北里大学看護学部　猪俣　克子　先生	
８月３日（金）	看護研究とその方向（看護文献・情報の活用など）　北里大学看護学部　丸　光恵　先生	施設見学　北里大学病院救急救命センター　北里大学東病院総合相談部
８月４日（土）	在宅看護論（臨地実習含む）の授業坦懐と臨地実習指導　北里大学看護学部　藤田　美江　先生	
８月５日（月）	看護教育技法　東海大学医療技術短期大学　堀　喜久子　先生	看護教育における評価の視点と評価方法の検討　北里大学看護学部　戸田　肇　先生
８月７日（火）	老人看護学の授業展開　北里大学看護学部　綿貫恵美子　先生	精神看護学臨地実習の指導　北里大学看護学部　小林　信　先生
８月８日（水）	臨地実習教育の在り方　北里大学看護学部　稲吉　光子　先生	研究協議「衛生看護科における教育の現状と課題」　看護校長協会　佐藤　仁作　先生　閉講式

4　持参するもの　（１）印鑑、白衣（施設見学時に使用、実験衣で可）
（２）以下の項目について、Ａ４用紙１枚程度にまとめ、４０枚持参すること。
○衛生看護科における教育の現状と課題（平成１４年度からの所属校の移行計画も含めて記入すること）
○新学習指導要領のねらいに沿った、衛生看護科の方向性についての見解。

5　そ の 他　（１）初日は午前９時３０分より、北里大学相模原キャンパス看護学部校舎１階多目的室前で受付を行います。
（２）会場案内及び宿泊案内を添付します。

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（看護：Ｆ－１－２）						
研修目的（趣旨）	産業技術及び情報技術の高度化、専門化に対応した知識と技術を習得させる研修。						
対象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事						
開催期日	平成　１３　年　８　月　２　日（木）～ 平成　１３　年　８　月　１０　日（金）						
開催日数	８　日間	計画人数	３０人	受講者数	２７人	(参加率)	90.0 %
開催場所	熊本大学教育学部						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	１５人	55.55%	１１人	40.74%	０人	0.00%	1人	3.71%

2．研修内容に関する主な意見

○　老人と実際に生活した経験の少ない生徒達に、どう老人を理解させるかということはとても難しいが、老人体験をさせることは、大変有効な方法だと感じた。

○　いろいろな先生方の意見を聞くことができ、大変有意義だった。

○　授業の中で、生徒に還元していきたい。

○　学校に戻って報告書を作成し、資料と共に他の教員に回覧する予定。

○　教授していただいた内容を再度整理して、講習伝達を行い、普及を図る予定。

○　高校生にも分かり易い表現に変えたりしながら、授業に取り入れていこうと思う。

○　衛看対象か、専攻科対象かで、受講者が研修したい目的、内容が違うと思うので、選択できればいいと思う。

○　看護の先生方だけでなく、県内、近隣県から広く講師を呼んで欲しい。

○　成人、母性、小児などの分野で、それぞれ看護課程の特徴、展開方法などが聴きたかった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

講 習 会 日 程 表

1．講習会日程　：　8月2日（木）～8月10日（金）8日間
2．講習時間　：　午前の部　9：30～12：30　3時間
　　：　午後の部　13：30～16：30　3時間　計6時間
3．日程表

日　　程	午 前 の 部	午 後 の 部
8月　2日(木)	研究協議　：　衛生看護科における看護教育の現状と課題 指導助言　：　木原 信市 教授	講義　：　看護学の体系と看護教育課程 講師　：　河瀬 比佐子 助教授
8月　3日(金)	講義　：　看護過程と基礎診断（演習を含む） 講師　：　花田 妙子 助教授	講義　：　看護における科学的思考（看護動作と人間工学） 講師　：　井上 正敏（熊本県立熊本工業高校教諭）
8月　4日(土)	講義　：　看護教育技法（看護教育評価・演習を含む） 講師　：　花田 妙子 助教授	
8月　6日(月)	講義　：　看護理論と看護過程（看護研究・演習を含む） 講師　：　本間 照子 助教授	講義　：　看護活動の展開（1）（成人看護学の授業展開・演習を含む） 講師　：　谷口 まり子 助手
8月　7日(火)	講義　：　看護活動の展開（2）（老人看護学の授業展開・演習を含む） 講師　：　河瀬 比佐子 助教授	講義　：　看護活動の展開（3） 実習・施設見学　：　医学部附属病院 講師　：　木原 信市 教授
8月　8日(水)	講義　：　看護活動の展開（4）（母性看護学の授業展開・演習を含む） 講師　：　上田 公代 教授	講義　：　看護活動の展開（5）（小児看護学の授業展開・演習を含む） 講師　：　本間 照子 助教授
8月　9日(木)	講義　：　看護活動の展開（6）（在宅看護学の授業展開・演習を含む） 講師　：　東　清巳 講師	講義　：　臨地実習，教育技法（演習を含む） 講師　：　上田 公代 教授 梅木 彰子 助手，木子 莉瑛 助手
8月10日(金)	講義　：　高等教育及び看護教育の動向 講師　：　大橋 泰久 文部科学省調査官	研究協議　：　衛生看護科における看護教育の現状と課題 指導助言　：　大橋 泰久 文部科学省調査官

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（看護：Ｆ－２）						
研修目的（趣旨）	産業技術及び情報技術の高度化、専門化に対応した知識と技術を習得させる研修。						
対象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事						
開催期日	平成　１３　年　７　月　３０　日（月）～ 平成　１３　年　８　月　７　日（火）						
開催日数	８　日間	計画人数	３０　人	受講者数	２０　人	(参加率)	66.67 %
開催場所	大阪府立白菊高等学校						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	１３　人	65.00%	７　人	35.00%	０　人	0.00%	０　人	0.00%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

・自分を活性化することができた。

・講師の先生方の人柄から学ぶことが多かった。

・日本の最先端の講義を拝聴し、日頃の教育において最新の情報を取り入れることの、課題のようなものを実感し、有意義な研修だった。

・すばらしい講師陣に圧倒され、自分の勉強不足を痛感した。

・20名程度の学習形態も緊張感があっていいと思う。

・日程、場所等の要項がもう少し早くもらえればよかった。

・母子保健総合医療センターは施設も充実してよかった。

・施設見学も、学校や個人ではできないことでとてもよかった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

看　護（F－2）

1　期　　日　平成１３年７月３０日（月）　９：４５　開講式
～８月　７日（火）　１５：００　終了

2　会　　場　大阪府立白菊高等学校
〒590-0035　大阪市堺市大仙町１－１

3　講習内容

	午　前（9:30～12:30）	午　後（13:30～16:30）
7月30日（月）	開講式 看護研究の進展と動向 大阪大学医学部保健学科　早川　和生　先生	医療文化論 近畿大学医学部　清水　忠彦　先生
7月31日（火）	出生をめぐる倫理問題 大阪大学大学院　霜田　求　先生	栄養管理技術の進展 大阪大学医学部保健学科　高木　洋治　先生
8月 1日（水）	免疫及びアレルギー疾患の動向 大阪大学医学部保健学科　荻野　敏　先生	遺伝カウンセリングと看護 大阪府立看護大学　千代　豪昭　先生
8月 2日（木）	IT革命に伴う看護のあり方（情報処理室での演習を含む） 兵庫県立看護大学　川口　孝泰　先生	循環器疾患治療の進展 大阪大学医学部保健学科　三上　洋　先生
8月 3日（金）	先天異常児の包括的医療 大阪大学医学部保健学科　原田　徳蔵　先生	外科及び移植医療の動向 大阪大学医学部保健学科　城戸　良弘　先生
8月 4日（土）	感染症の起こる仕組み 大阪大学医学部保健学科　土肥　義胤　先生	
8月 6日（月）	生殖医療技術の進展と動向 大阪大学医学部保健学科　山地　健二　先生	施設見学 大阪府立母子保健総合医療センター
8月 7日（火）	高校教育及び看護教育の動向 文部科学省　大橋　泰久	研究協議「衛生看護科における教育の現状と課題」 文部科学省　大橋　泰久　閉講式

4　持参するもの　（１）印鑑
（２）以下の項目について、Ａ４用紙１枚程度にまとめ、４０枚持参すること。
○衛生看護科における教育の現状と課題（平成１４年度からの所属校の移行計画も含めて記入すること）
○新学習指導要領のねらいに沿った、衛生看護科の方向性についての見解。

5　その他　（１）初日は午前９時１５分より受付を行います。
（２）会場案内を添付します。
（３）宿泊は各自で手配してください。

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（技術：G－1）						
研修目的（趣旨）	産業技術及び情報技術の高度化、専門化に対応した知識と技術を習得させる研修。						
対象	中学校の技術・家庭科担当教員又は教育委員会の関係指導主事						
開催期日	平成　13　年　8　月　6　日（月）～ 平成　13　年　8　月　10　日（金）						
開催日数	5　日間	計画人数	47　人	受講者数	37　人	(参加率)	78.72 %
開催場所	広島大学教育学部						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	25　人	69.44%	11　人	30.56%	0　人	0.00%	0　人	0.00%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

・研修の他にも、他の先生方との情報交換ができて良かった。

・自分の知識の習得、技術教師としての資質の向上に大変役に立った。

・評価についてもっとよく考え、研修を深めていきたい。

・夏休みの研修ということで、日程に余裕があって良かった。

・4人程度の実習グループで作業を進めた方が、能率的だと思う。

・実習の卓上ボール盤については、ドリルの刃の種類に分けた方が良いと思う。

・教科のことだけでなく、いろいろとある諸問題についての情報交換をする時間が、半日くらいあれば良かったと思う。

・非常に専門的で理論に基づいた実習ができて勉強になった。ただ、学習指導要領改訂の時期(特に内容)を考えると、少し専門的過ぎたかなという気もした。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度新産業技術等指導者養成講習日程

（技術Ｇ－１）

	9：30　１０　１１　１２　１３　１４　１５　１６　１７
	準備・打ち合わせ
８月 ６（月）	開講式　講義（渡邉）休　講義（渡邉）　休　講義（間田）　休　講義（間田・渡邉） （本講座の趣旨）（評価基準・方法）　（プラスチックの性質）　（手工具の理論と整備実習）－－－→ （新学習指導要領をふまえて）
７（火）	講義（巖淵）休　講義（山本）　休　講義（山本）休　演習（間田・巖淵）－－－－－－－－－－－→ （放電の理論）　（機構の制御）　（電流の制御）　（設計と工具の調整実習のどちらかを選択）
８（水）	プラスチック加工機具の設計製作（山本・巖淵）　休　プラスチック加工機具の設計製作（山本・巖淵）－－－－－→ ミニアーク溶接機の設計製作（間田）　ミニアーク溶接機の設計製作（間田）－－－－－－－－－－－→
９（木）	プラスチック加工機具の製作（山本・巖淵）　休　プラスチック加工機具の製作（山本・巖淵）－－－－－－－－→ ミニアーク溶接機の製作（間田）　ミニアーク溶接機の製作Ｂ（間田）－－－－－－－－－－－→
１０（金）	実験・実習（間田・山本・巖淵）　休　実験・実習（間田・山本・巖淵）　閉講式 （製作した溶接機を利用した実験・実習）　（電熱を利用した切断実験）（まとめ）－→

実施場所　広島大学　教育学研究科

※個々の能力にあわせて複数の実験・実習・演習を並行して行うため、７、８、９日は２グループに分けて入れ替えながら行います。

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（技術：Ｇ－２－１）						
研修目的（趣旨）	産業技術及び情報技術の高度化、専門化に対応した知識と技術を習得させる研修。						
対象	中学校の技術・家庭科担当教員又は教育委員会の関係指導主事						
開催期日	平成　１３　年　１１　月　５　日（月）～ 平成　１３　年　１１　月　１６　日（金）						
開催日数	１０　日間	計画人数	３２　人	受講者数	１６　人	(参加率)	50.0 %
開催場所	青森県総合学校教育センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	１４　人	87.50%	２　人	12.50%	０　人	0.00%	０　人	0.00%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

○　本講座の研修内容は、いずれも教師の資質向上の一助となり、生徒に還元できるものばかりであると感じた。この１０日間で学習するきっかけを作ってもらったので、後は帰ってからじっくり復習し、自らの力として身につけられるよう努めていきたいと考えている。（多数）

○　他県の先生方とも交流を深めることもでき、なかなか体験できないことを体験できた良い研修となった。（多数）

○　自分にとっては見るもの、聞くものがすべて新鮮で、興味深く大変勉強になった。

○　（個人的に）もっと研修をする必要がある。

○　技術・家庭の先生は県でも少なくなっている。まして地区の技家研は少人数となり、なかなか同じ教科で話し合うことができなくなってきている。このような研修で、他県の先生方と話し合う場などあって大変良かった。

○　おかげで随分コンピュータに強く慣れた気がする。

○　分かり易く、深い内容のテキストは、これからの教育活動での宝になった。

○　参加者のレベルが全然違う中で教えてもらいありがたい。

○　演習時間をもう少し長めに確保してもらいたいと思う。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成13年度　新産業技術等指導者養成講習日程

（技術，G－2－1）

委託団体名　財団法人コンピュータ教育開発センター

	午前 9:00 9:30 10:30 12:00	午後 13:00 16:00	教室 上段AM/下段PM
第1日目 11月 5日 (月)	9時受付 オリエンテーション (9：30～) 【開講式】 (10：00～) 【講演】これからの情報教育 講師：国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部教育課程調査官 文部科学省教育課程課 教科調査官　渡邉　康夫	【研究・協議】各都道府県における情報教育の現状と課題 講師：青森県教育庁 指導主事　石橋　隆治 青森県総合学校教育センター 指導主事　福島　成利	第3研修室 情報教育研修室2
第2日目 11月 6日 (火)	8時30分受付 【講義・実習】これからのネットワーク技術 ネットワークの環境整備技術1 ・ネットワークの基本概念 実習講師：富士通青森システムエンジニアリング 福田　康彦 実習助手：青森市立東中学校 教諭　長谷川　一生	【実習】ネットワーク環境整備技術2 ・windows 98によるネットワークの設定 実習講師：富士通青森システムエンジニアリング 福田　康彦 実習助手：青森市立東中学校 教諭　長谷川　一生	第3研修室 情報教育研修室2
第3日目 11月 7日 (水)	8時30分受付 【実習】ネットワーク環境整備技術3 ・ファイル及びプリンタの共有とその利用 実習講師：富士通青森システムエンジニアリング 福田　康彦 実習助手：金木町立金木中学校 教諭　尾崎　昭仁	【実習】ネットワーク環境整備技術4 ・ネットワークシステムの構成と設定 実習講師：富士通青森システムエンジニアリング 福田　康彦 実習助手：金木町立金木中学校 教諭　尾崎　昭仁	第3研修室 情報教育研修室2
第4日目 11月 8日 (木)	8時30分受付 【講義・実習】プログラムと計測・制御技術 ・アルゴリズム　・センサーと計測技術 ・インターフェースと制御技術 ・プログラムとアクチュエータ 実習講師：スズキ教育ソフト 課長　阿久津　一史 実習助手：弘前市立第四中学校 教諭　原子　恒二 スズキ教育ソフト 係長　佐久間　和弘	【実習】動く模型の製作と計測・制御1 ・キューブカートの製作 実習講師：スズキ教育ソフト 課長　阿久津　一史 実習助手：弘前市立第四中学校 教諭　原子　恒二 スズキ教育ソフト 係長　佐久間　和弘	技術研修室 情報教育研修室2
第5日目 11月 9日 (金)	8時30分受付 【実習】動く模型の製作と計測・制御2 ・キューブカートの製作、プログラミングによる動作確認 実習講師：スズキ教育ソフト 課長　阿久津　一史 実習助手：弘前市立南中学校 教諭　對馬　浩二 スズキ教育ソフト 係長　佐久間　和弘	【実習】動く模型の製作と計測・制御3 ・キューブカートの製作、プログラミングによる制御 実習講師：スズキ教育ソフト 課長　阿久津　一史 実習助手：弘前市立南中学校 教諭　對馬　浩二 スズキ教育ソフト 係長　佐久間　和弘	情報教育研修室2 情報教育研修室2
第6日目 11月12日 (月)	8時30分受付 【講義・実習】マルチメディア技術の活用方法1 ・マルチメディアの基礎、音声データの作成 実習講師：青森県総合学校教育センター 指導主事　北城　高広 実習助手：青森県総合学校教育センター 指導主事　佐藤　正徳	【実習】マルチメディア技術の活用方法2 ・画像データの作成 実習講師：青森県総合学校教育センター 指導主事　北城　高広 実習助手：青森県総合学校教育センター 指導主事　佐藤　正徳	情報教育研修室2 情報教育研修室2
第7日目 11月13日 (火)	8時30分受付 【実習】マルチメディア技術の活用方法と教材作成 ・マルチメディア教材の作成 実習講師：青森県総合学校教育センター 指導主事　北城　高広 実習助手：青森県総合学校教育センター 指導主事　佐藤　正徳	【演習】各種ソフトウェアの紹介 説明者：出展会社	情報教育研修室2 技術研修室
第8日目 11月14日 (水)	8時30分受付 【講義・実習】インターネットと学校教育 ・学校におけるインターネットの必要性 ・情報モラルとWebページ　・HTMLの基礎 実習講師：青森県総合学校教育センター 指導主事　福島　成利 実習助手：青森県教育庁 指導主事　石橋　隆治	【実習】Webページの作成1 ・Webページ作成ソフトの使用法 実習講師：青森県総合学校教育センター 指導主事　福島　成利 実習助手：青森県教育庁 指導主事　石橋　隆治	情報教育研修室2 情報教育研修室2
第9日目 11月15日 (木)	8時30分受付 【実習】Webページの作成2 ・マルチメディア素材を利用したWebページ作成 実習講師：青森県総合学校教育センター 指導主事　福島　成利 実習助手：青森県教育庁 指導主事　石橋　隆治 10:30　11:30	【実習】Webページの作成3 ・Webページの発行及びその留意点 実習講師：青森県総合学校教育センター 指導主事　福島　成利 実習助手：青森県教育庁 指導主事　石橋　隆治 12:00	情報教育研修室2 情報教育研修室2
第10日目 11月16日 (金)	8時30分受付 【講演】技術・家庭科における情報教育の在り方 講師：弘前大学教育学部 助教授　小山　智史 【発表・協議】研修成果の発表と協議 ・教育庁 石橋　隆治 ・教育センター 福島　成利 【閉講式】 ・教育委員会 ・教育センター		情報教育研修室2

実施場所　青森県総合学校教育センター

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（技術：G－2－2）						
研修目的（趣旨）	産業技術及び情報技術の高度化、専門化に対応した知識と技術を習得させる研修。						
対象	中学校の技術・家庭科担当教員又は教育委員会の関係指導主事						
開催期日	平成　13　年　11　月　26　日（月）～ 平成　13　年　12　月　7　日（金）						
開催日数	10　日間	計画人数	34　人	受講者数	21　人	（参加率）	61.76　%
開催場所	神奈川県教育センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	17　人	80.95%	3　人	14.29%	0　人	0.00%	1　人	4.76%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

○　成果や資料等のまとめはとてもありがたく、今後利用できる。
○　「人的」つながりも深くなったのがとてもありがたかった。
○　カリキュラム開発センター等見学ができて良かった。また、これから人的ネットワークを継続していければと思う。
○　県として、技術科をどのように方向付けていくか、どのような人材や設備が必要なのか、良く理解できた気がする。
○　各県の先生方との情報交換ができ、今後の技術・家庭科の在り方が明示され大変有意義だった。
○　最大の成果は、受講生全員の作品と講習資料を入手できたこと。
○　コンピュータを多面的に見ることができ、情報教育の在り方を学ぶことができた。
○　時期的に忙しい中の参加になり苦労した。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度 新産業技術等担当者養成講習（中学校 技術）情報とコンピュータ＜研修日程表＞

【神奈川会場：神奈川県立教育センター】

	9:00 午前 12:00			13:00 午後 16:00	教室名
第１日 11／26 （月）	受付 9:00～	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ （9:30～ （開講式） （10:00～	（講演） 技術・家庭における 情報教育の在り方 講師：国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官 渡邉 康夫	（講義・協議） 各都道府県における情報教育の現状と課題 講師：神奈川県立教育センター 情報教育室長 蔵田 實 神奈川県教育庁 指導主事 安良岡 靖史	西３Ａ 研修室
第２日 11／27 （火）	（講義）これからのネットワーク技術 （ﾈｯﾄﾜｰｸの概要） 講師：アライドテレシス株式会社 遠藤 直樹			（講義・実習）これからのネットワーク技術 （基本的なﾈｯﾄﾜｰｸのｼｽﾃﾑ概要） 講師：アライドテレシス株式会社 遠藤 直樹	情報教育 Ａ研修室
第３日 11／28 （水）	（講義・実習）これからのネットワーク技術 （ﾈｯﾄﾜｰｸｼｽﾃﾑの構築と設定） 講師：アライドテレシス株式会社 遠藤 直樹			（講義）これからのネットワーク技術 （教室内LANの実践） 講師：藤沢市立村岡中学校 教 諭 北井 淳一	情報教育 Ａ研修室
第４日 11／29 （木）	（講義）マルチメディア技術 （ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱのﾃﾞｰﾀ形式） 講師：筑波大学附属駒場中・高等学校 教 諭 市川 道和			（講義・実習）マルチメディア技術 （ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱを活用するｼｽﾃﾑ） 講師：筑波大学附属駒場中・高等学校 教 諭 市川 道和	情報教育 Ａ研修室
第５日 11／30 （金）	（講義・実習）マルチメディア技術 （ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝの手法） 講師：筑波大学附属駒場中・高等学校 教 諭 市川 道和			（講義・実習）各種ソフトウェアの紹介 講師：（社）日本教育工学振興会	情報教育 Ａ研修室
第６日 12／3 （月）	（講義・実習）プログラムと計測・制御 （制御技術とﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ作成） 講師：スズキ教育ソフト（株） 次 長 阿久津 一史			（講義・実習）プログラムと計測・制御 （計測技術とﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ作成） 講師：スズキ教育ソフト（株） 次 長 阿久津 一史 神奈川県立教育センター 指導主事 川原田 康文	情報教育 Ａ研修室
第７日 12／4 （火）	（講義・実習）プログラムと計測・制御 講師：スズキ教育ソフト（株） 次 長 阿久津 一史			（講義・実習）プログラムと計測・制御 講師：スズキ教育ソフト（株） 次 長 阿久津 一史	情報教育 Ａ研修室
第８日 12／5 （水）	（講義）インターネットと学校教育 （情報ﾓﾗﾙとｲﾝﾀｰﾈｯﾄ） 講師：川崎市総合教育センター 指導主事 小酒井 英一 指導主事 西田 政吉			（講義・実習）インターネットと学校教育 （専用ｿﾌﾄによるﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ作成） 講師：川崎市総合教育センター 指導主事 小酒井 英一 指導主事 西田 政吉	情報教育 Ａ研修室
第９日 12／6 （木）	（講義・実習）インターネットと学校教育 （ｽｸﾘﾌﾟﾄを用いたﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ作成） 講師：川崎市総合教育センター 指導主事 小酒井 英一 指導主事 西田 政吉			（講義・実習）インターネットと学校教育 （ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ作成の成果発表と協議） 講師：川崎市総合教育センター 指導主事 小酒井 英一 指導主事 西田 政吉	情報教育 Ａ研修室
第１０日 12／7 （金）	（講義・協議）研修成果の 発表と協議 講師：神奈川県教育庁 指導主事 安良岡 靖史	（講義）これからの 情報教育 講師：横浜国立大学 教授 中村 祐治		（閉講式） （12:00～ （社）日本教育工学振興会・他	西３Ａ 研修室

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（技術：G－2－3）						
研修目的（趣旨）	産業技術及び情報技術の高度化、専門化に対応した知識と技術を習得させる研修。						
対象	中学校の技術・家庭科担当教員又は教育委員会の関係指導主事						
開催期日	平成　13　年　5　月　28　日（月）～ 平成　13　年　6　月　8　日（金）						
開催日数	10　日間	計画人数	34　人	受講者数	16　人	（参加率）	47.06　%
開催場所	長野県総合教育センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	10　人	62.50%	5　人	31.25%	1　人	6.25%	0　人	0.00%

2．研修内容に関する主な意見

○　かゆいところに手が届いたという感じだ。
○　この講座をきっかけとして指導・メンテナンスをやってみたい。
○　新しい視点で見ること、発見することがたくさんあった。
○　コンピュータに関して全くの初心者であったため、厳しかったが、頑張らねばと思った。
○　今後、現場に戻って自分なりに研究していきたい。
○　これから自分で進めていくための良い機会になった。
○　できることなら講師が相談にのったり、分からないところを解説したりという場があれば良かった。
○　専門的で、とても勉強になった。
○　現場に戻ってすぐに役に立つような事を習えるとありがたい。
○　「指導者養成」という観点からみると、内容的にもっとレベルを上げることが必要ではないか。
○　ＬＡＮ構築、マルチメディアはもう少し時間をかけてゆっくりやって欲しい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成13年度新産業技術等指導者養成講習日程

（技術，G－2－3）

委託団体名　財団法人コンピュータ教育開発センター

	午前 9:00 9:30 10:30 12:00	午後 13:00 16:00	教室 上段AM/下段PM
第1日目 5月28日 (月)	9時受付 オリエンテーション (9:30～) 【開講式】 (10:00～) 【講演】これからの情報教育 講師：国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部教育課程調査官 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 渡邊康夫	【研究・協議】各都道府県における情報教育の現状と課題 講師：長野県教育委員会義務教育係 指導主事　木下啓爾 長野県総合教育センター 専門主事　北沢秀雄	第5研修室 (64人)
第2日目 5月29日 (火)	8時30分受付 【講義・実習】これからのネットワーク技術 ネットワークの環境整備技術1 ・ネットワークの基本概念 実習講師：総合教育センター　専門主事　牧村浩明 実習助手：総合教育センター　専門主事　守屋郁男	【実習】ネットワーク環境整備技術2 ・windows 98によるネットワークの設定 実習講師：総合教育センター　専門主事　牧村浩明 実習助手：総合教育センター　専門主事　守屋郁男	第8研修室 (40人) ハードウェア研修室 (20人)
第3日目 5月30日 (水)	8時30分受付 【実習】ネットワーク環境整備技術3 ・ファイル及びプリンタの共有とその利用 実習講師：総合教育センター　専門主事　牧村浩明 実習助手：総合教育センター　専門主事　守屋郁男	【実習】ネットワーク環境整備技術4 ・ネットワークシステムの構成と設定 実習講師：総合教育センター　専門主事　牧村浩明 実習助手：総合教育センター　専門主事　守屋郁男	第1・2オンライン室 (40人)
第4日目 5月31日 (木)	8時30分受付 【講義・実習】マルチメディア技術の活用方法1 ・マルチメディアの基礎、音声データの作成 実習講師：総合教育センター　専門主事　村澤博富美 実習助手：総合教育センター　専門主事　吉岡智宏	【実習】マルチメディア技術の活用方法2 ・画像データの作成 実習講師：総合教育センター　専門主事　村澤博富美 実習助手：総合教育センター　専門主事　吉岡智宏	マルチメディア研修室 (20人) 第1パソコン研修室 (20人)
第5日目 6月　1日 (金)	8時30分受付 【実習】マルチメディア技術の活用方法と教材作成 ・マルチメディア教材の作成 実習講師：総合教育センター　専門主事　村澤博富美 実習助手：総合教育センター　専門主事　吉岡智宏	【演習】各種ソフトウェアの紹介 講師：各ソフトメーカー	午前：同上 午後 第1研修室 (120人)
第6日目 6月　4日 (月)	8時30分受付 【講義・実習】プログラムと計測・制御技術 ・アルゴリズム　・センサーと計測技術 ・マイコンカートの製作 実習講師：スズキ教育ソフト　坂上徳江 実習助手：スズキ教育ソフト　長井真由美	【実習】動く模型の製作と計測・制御1 ・キューブベーシックを活用したプログラミング 実習講師：スズキ教育ソフト　坂上徳江 実習助手：スズキ教育ソフト　長井真由美	第8研修室 (40人) 木材加工実習室(20人) 第2パソコン研修室 (20人)
第7日目 6月　5日 (火)	8時30分受付 【実習】動く模型の製作と計測・制御2 ・プログラムによるマイコンカートの制御 実習講師：スズキ教育ソフト　坂上徳江 実習助手：スズキ教育ソフト　長井真由美	【実習】動く模型の製作と計測・制御3 ・マイコンカートによるコースタイムアタック 実習講師：スズキ教育ソフト　坂上徳江 実習助手：スズキ教育ソフト　長井真由美	第2パソコン研修室 (20人)
第8日目 6月　6日 (水)	8時30分受付 【講義・実習】インターネットと学校教育 ・学校におけるインターネットの必要性 ・情報モラルとホームページ　・HTMLの基礎 実習講師：総合教育センター　専門主事　丸山和男 実習助手：総合教育センター　専門主事　岡谷善博	【実習】Webページの作成1 ・ホームページ作成ソフトの使用法 実習講師：総合教育センター　専門主事　丸山和男 実習助手：総合教育センター　専門主事　岡谷善博	第8研修室 (40人) 第1パソコン研修室 (20人)
第9日目 6月　7日 (木)	8時30分受付 【実習】Webページの作成2 ・マルチメディア素材を利用したホームページ作成 実習講師：総合教育センター　専門主事　丸山和男 実習助手：総合教育センター　専門主事　岡谷善博 10:30　11:30	【実習】Webページの作成3 ・ホームページの発行及びその留意点 実習講師：総合教育センター　専門主事　丸山和男 実習助手：総合教育センター　専門主事　岡谷善博 12:00	第1パソコン研修室 (20人)
第10日目 6月　8日 (金)	8時30分受付 【講演】技術・家庭科における情報教育の在り方 講師：信州大学 教育学部 助教授　西　正明 【発表・協議】研修成果の発表と協議 ・教育委員会 木下啓爾 ・総合教育センター 北沢秀雄	【閉講式】 ・教育委員会 ・総合教育センター	第5研修室 (64人)

実施会場　長野県総合教育センター

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（技術：Ｇ－２－４）						
研修目的（趣旨）	産業技術及び情報技術の高度化、専門化に対応した知識と技術を習得させる研修。						
対象	中学校の技術・家庭科担当教員又は教育委員会の関係指導主事						
開催期日	平成　１３　年　６　月　４　日（月）～ 平成　１３　年　６　月　１５　日（金）						
開催日数	１０　日間	計画人数	３８　人	受講者数	１１　人	(参加率)	28.95 %
開催場所	和歌山県教育研修センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	１１　人	100.00%	０　人	0.00%	０　人	0.00%	０　人	0.00%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

・はっきりしていなかった部分をおおむね解消できた。実践的な部分が多く、現場でやってみようという気になれた。

・技能や知識の向上と共に、横のつながり（先生同士）ができたことがよかった。

・研修に参加したことで、来年度以降の技術科の在り方がイメージできた。

・内容が多岐に渡りすぎると思う。

・技術科の現状と各県の先生方の意見が聞けて、大変よかった。

・新指導要領における技術分野の学習内容について、改めて参考になった部分が多かった。

・他府県の先生方との交流もあり、大変楽しくわかりやすい実習だった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度 新産業技術等担当者養成講習（中学校 技術）情報とコンピュータ＜研修日程表＞

【和歌山会場：和歌山県教育研修センター】

	9:00 午前 12:00			13:00 午後 16:00	教室名
第１日 6／4 (月)	受付 9:00～	オリエンテーション (9:30～ (開講式) (10:00～	(講演)技術・家庭における情報教育の在り方 講師：国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部教育課程調査官 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 渡邉 康夫	(講義・協議) 情報化社会の進展と情報教育の課題 ・情報化と社会（情報と生活） ・各府県における情報教育の課題 講師：和歌山県教育研修センター 教育情報班長 小山 宣樹	第二 研修室
第２日 6／5 (火)	(講義・実習)技術科のカリキュラムⅠ 講師：和歌山大学教育学部 助教授 野中 陽一			(講義・実習)技術科のカリキュラムⅡ 講師：和歌山大学教育学部 助教授 野中 陽一	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ 室
第３日 6／6 (水)	(講義・実習)ネットワークの技術と活用Ⅰ 講師：美里町情報通信センター 研究員 田中 英明			(講義・実習)ネットワークの技術と活用Ⅱ 講師：美里町情報通信センター 研究員 田中 英明	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ 室
第４日 6／7 (木)	(講義・実習)ネットワークの技術と活用Ⅲ 講師：美里町情報通信センター 研究員 田中 英明			(講義・実習)ネットワークの技術と活用Ⅳ 講師：美里町情報通信センター 研究員 田中 英明	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ 室
第５日 6／8 (金)	(講義・実習)マルチメディア技術の活用Ⅰ 講師：美里町立美里中学校 教 諭 豊田 充崇			(講義・実習)マルチメディア技術の活用Ⅱ 講師：美里町立美里中学校 教 諭 豊田 充崇	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ 室
第６日 6／11 (月)	(講義・実習)マルチメディア技術の活用Ⅲ 講師：美里町立美里中学校 教 諭 豊田 充崇			(講義・実習)マルチメディア技術の活用Ⅳ 講師：美里町立美里中学校 教 諭 豊田 充崇	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ 室
第７日 6／12 (火)	(演習)各種ソフトウェアの紹介 講師：(社)日本教育工学振興会			(講義・実習)情報化と社会 (著作権と情報モラル) 講師：和歌山大学教育学部 助教授 野中 陽一	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ 室
第８日 6／13 (水)	(講義・実習)プログラムと計測・制御技術Ⅰ 講師：和歌山県立和歌山工業高等学校 教 諭 貴志 裕文			(講義・実習)プログラムと計測・制御技術Ⅱ 講師：和歌山県立和歌山工業高等学校 教 諭 貴志 裕文	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ 室
第９日 6／14 (木)	(講義・実習)プログラムと計測・制御技術Ⅲ 講師：和歌山県立和歌山工業高等学校 教 諭 貴志 裕文			(講義・実習)プログラムと計測・制御技術Ⅳ 講師：和歌山県立和歌山工業高等学校 教 諭 貴志 裕文	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ 室
第１０日 6／15 (金)	(講義・協議)研修成果の発表と協議 講師：和歌山県教育研修センター 教育情報班長 小山 宣樹			(閉講式) (12:00～ (社)日本教育工学振興会・他	第二 研修室

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（技術：G－2－5）						
研修目的（趣旨）	産業技術及び情報技術の高度化、専門化に対応した知識と技術を習得させる研修。						
対象	中学校の技術・家庭科担当教員又は教育委員会の関係指導主事						
開催期日	平成 13 年 10 月 29 日（月）～ 平成 13 年 11 月 9 日（金）						
開催日数	10 日間	計画人数	38 人	受講者数	19 人	(参加率)	50.0 %
開催場所	島根県立松江教育センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	割合（%）	15 人	78.95%	4 人	21.05%	0 人	0.00%	0 人	0.00%

2．研修内容に関する主な意見

○　センターの先生方の講習は、分かり易く丁寧でしかも親切に教えてくれたのでとても良かった。（多数）

○　現場では、なかなかまとまった時間をとっての研修は難しいので、こういう機会はありがたい。

○　内容が濃く、有用な研修だった。

○　この研修を「きっかけ」として、これからの授業に生かしていきたい。

○　フリーソフトなど、すぐ現場で生かせることが多く充実していた。できれば技術分野における評価とコンピュータ活用を取り上げてもらえると、今の教育研究によりマッチしていたと思う。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

（別紙－２）

平成１３年度 新産業技術等担当者養成講習（中学校 技術）情報とコンピュータ＜研修日程表＞

【島根会場：島根県立松江教育センター】

	9:00 午前 12:00			13:00 午後 16:00	教室名
第１日 10／29 （月）	受付 9:00～	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ （9:30～ （開講式） （10:00～	（講演） 技術・家庭における 情報教育の在り方 講師：国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官 渡邊 康夫	（講義・協議） 各都道府県における情報教育の現状と課題 講師：島根県立松江教育センター 情報教育課長 尾崎 安男 指導主事 打田 祥一	講義室
第２日 10／30 （火）	（講義・実習）マルチメディア技術の 活用方法と教材作成Ⅰ 講師：島根県立松江教育センター 指導主事 打田 祥一 指導主事 越野 和胤			（講義・実習）マルチメディア技術の 活用方法と教材作成Ⅱ 講師：島根県立松江教育センター 指導主事 打田 祥一 指導主事 越野 和胤	第１・２ 研修室
第３日 10／31 （水）	（講義・実習）マルチメディア技術の 活用方法と教材作成Ⅲ 講師：島根県立松江教育センター 指導主事 打田 祥一 指導主事 越野 和胤			（演習）各種ソフトウェアの紹介 講師：（社）日本教育工学振興会	第１・２ 研修室
第４日 11／1 （木）	（講義）これからのネットワーク技術 講師：（株）テクノプロジェト 課 長 室脇 俊二 白築 訓			（講義・実習）ネットワーク環境整備技術Ⅰ 講師：（株）テクノプロジェト 課 長 室脇 俊二 白築 訓	第１・２ 研修室
第５日 11／2 （金）	（講義・実習）ネットワーク環境整備技術Ⅱ 講師：（株）テクノプロジェト 課 長 室脇 俊二 白築 訓			（講義・実習）ネットワーク環境整備技術Ⅲ 講師：（株）テクノプロジェト 課 長 室脇 俊二 白築 訓	第１・２ 研修室
第６日 11／5 （月）	（講義・実習）動く模型の製作と計測・制御 講師：島根県立松江教育センター 研修主事 小嶺 和隆 スズキ教育ソフト（株） 岡田 雅美			（講義・実習）プログラムと計測・制御技術Ⅰ 講師：島根県立松江教育センター 研修主事 小嶺 和隆 スズキ教育ソフト（株） 岡田 雅美	第１・２ 研修室
第７日 11／6 （火）	（講義・実習）プログラムと計測・制御技術Ⅱ 講師：島根県立松江教育センター 研修主事 小嶺 和隆 スズキ教育ソフト（株） 岡田 雅美			（講義・実習）プログラムと計測・制御技術Ⅲ 講師：島根県立松江教育センター 研修主事 小嶺 和隆 スズキ教育ソフト（株） 岡田 雅美	第１・２ 研修室
第８日 11／7 （水）	（講義・実習）インターネットと学校教育 講師：木次町立木次中学校 教 頭 立石 昌弘 講師：島根県立松江教育センター 指導主事 打田 祥一			（講義・実習）ホームページ作成Ⅰ 講師：島根県立松江教育センター 指導主事 打田 祥一 指導主事 越野 和胤	第１・２ 研修室
第９日 11／8 （木）	（講義・実習）ホームページ作成Ⅱ 講師：島根県立松江教育センター 指導主事 打田 祥一 指導主事 越野 和胤			（講義・実習）ホームページ作成Ⅲ 講師：島根県立松江教育センター 指導主事 打田 祥一 指導主事 越野 和胤	第１・２ 研修室
第１０日 11／9 （金）	（講義・協議）研修成果の 発表と協議 講師：島根県立松江教育センター 指導主事 打田 祥一 指導主事 越野 和胤	（講義）これからの 情報教育 講師：島根大学 助教授 川口 高明		（閉講式） （12:00～ （社）日本教育工学振興会・他	講義室

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（技術：Ｇ－２－６）						
研修目的（趣旨）	産業技術及び情報技術の高度化、専門化に対応した知識と技術を習得させる研修。						
対象	中学校の技術・家庭科担当教員又は教育委員会の関係指導主事						
開催期日	平成　１３　年　７　月　２３　日（月）～ 平成　１３　年　８　月　３　日（金）						
開催日数	１０　日間	計画人数	３６　人	受講者数	２４　人	(参加率)	66.7 %
開催場所	宮崎県教育研修センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	１９　人	79.17%	５　人	20.83%	０　人	0.00%	０　人	0.00%

2．研修内容に関する主な意見

○　今の情報教育に必要である内容を考えられ、研修できるようになっていたので、大変よかった。
○　よい研修の機会であった。
○　どの講座も大変役に立った。
○　飽きのこない内容で充実していた。
○　各県の先生方と話ができてとてもよかった。また専門的な事項を数多く学ぶことができてよかった。
○　今後の取り組みの良い参考になった。
○　この研修で「情報教育」について一つ段階が上がった様な気がする。
○　レベルの差を痛感した。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成13年度　新産業技術等指導者養成講習日程

（技術，G－2－6）

委託団体名　財団法人コンピュータ教育開発センター

	午前 9:00 9:30 10:30 12:00		午後 13:00 16:00	教室 上段AM/下段PM
第1日目 7月23日 （月）	9時受付	オリエンテーション（9：30～） 【開講式】（10：00～） 【講演】これからの情報教育 講師：国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部教育課程調査官 文部科学省教育課程課 教科調査官　渡邊康夫	【研究・協議】各都道府県における情報教育の現状と課題 講師：宮崎県教育委員会　学校教育課 指導主事　谷山幸夫	第6研修室 第6研修室
第2日目 7月24日 （火）	8時30分受付	講義・実習】これからのネットワーク技術 ネットワークの環境整備技術1 ・ネットワークの基本概念 実習講師：宮崎県立宮崎商業高等学校 教諭　田代晃一 実習助手：宮崎県教育研修センター 情報教育研修指導員　富永直樹	【実習】ネットワーク環境整備技術2 ・windows 98によるネットワークの設定 実習講師：宮崎県立宮崎商業高等学校 教諭　田代晃一 実習助手：宮崎県教育研修センター 情報教育研修指導員　富永直樹	第1・2パソコン室 第1・2パソコン室
第3日目 7月25日 （水）	8時30分受付	【実習】ネットワーク環境整備技術3 ・ファイル及びプリンタの共有とその利用 実習講師：宮崎県立宮崎商業高等学校 教諭　田代晃一 実習助手：宮崎県教育研修センター 情報教育研修指導員　郷田良太郎	【実習】ネットワーク環境整備技術4 ・ネットワークシステムの構成と設定 実習講師：宮崎県立宮崎商業高等学校 教諭　田代晃一 実習助手：宮崎県教育研修センター 情報教育研修指導員　郷田良太郎	第1・2パソコン室 第1・2パソコン室
第4日目 7月26日 （木）	8時30分受付	【講義・実習】マルチメディア技術の活用方法1 ・マルチメディアの基礎、音声データの作成 実習講師：宮崎県教育研修センター 指導主事　植木秀芳 実習助手：宮崎県教育研修センター 指導主事　中島　悟	【実習】マルチメディア技術の活用方法2 ・画像データの作成 実習講師：宮崎県教育研修センター 指導主事　植木秀芳 実習助手：宮崎県教育研修センター 指導主事　中島　悟	第1・2パソコン室 第1・2パソコン室
第5日目 7月27日 （金）	8時30分受付	【実習】マルチメディア技術の活用方法と教材作成 ・マルチメディア教材の作成 実習講師：宮崎県教育研修センター 指導主事　植木秀芳 実習助手：宮崎県教育研修センター 指導主事　中島　悟	【演習】各種ソフトウェアの紹介 講師：各ソフトメーカー	第1・2パソコン室 ソフトウェアライブラリー室
第6日目 7月30日 （月）	8時30分受付	【講義・実習】プログラムと計測・制御技術 ・アルゴリズム　・センサーと計測技術 ・インターフェースと制御技術 ・プログラムとアクチュエータ 実習講師：宮崎県立佐土原高等学校 教諭　田内博夫 実習助手：スズキ教育ソフト 課長　阿久津一史、岡田　雅美	【実習】動く模型の製作と計測・制御1 ・マイコンカートの製作 実習講師：宮崎県立佐土原高等学校 教諭　田内博夫 実習助手：スズキ教育ソフト 課長　阿久津一史、岡田　雅美	第1・2パソコン室 第1技術室 第1・2パソコン室 第1技術室
第7日目 7月31日 （火）	8時30分受付	【実習】動く模型の製作と計測・制御2 ・マイコンカートの製作、プログラミングによる動作確認 実習講師：宮崎県立佐土原高等学校 教諭　田内博夫 実習助手：スズキ教育ソフト 課長　阿久津一史、岡田　雅美	【実習】動く模型の製作と計測・制御3 ・マイコンカートの製作、プログラミングによる制御 実習講師：宮崎県立佐土原高等学校 教諭　田内博夫 実習助手：スズキ教育ソフト 課長　阿久津一史、岡田　雅美	第1・2パソコン室 第1技術室 第1・2パソコン室 第1技術室
第8日目 8月　1日 （水）	8時30分受付	【講義・実習】インターネットと学校教育 ・学校におけるインターネットの必要性 ・情報モラルとホームページ・HTMLの基礎 実習講師：宮崎県教育研修センター 指導主事　植木秀芳 実習助手：宮崎県教育研修センター 指導主事　中島　悟	【実習】Webページの作成1 ・ホームページ作成ソフトの使用法 実習講師：宮崎県教育研修センター 指導主事　植木秀芳 実習助手：宮崎県教育研修センター 指導主事　中島　悟	第1・2パソコン室 第1技術室 第1・2パソコン室
第9日目 8月　2日 （木）	8時30分受付	【実習】Webページの作成2 ・マルチメディア素材を利用したホームページ作成 実習講師：宮崎県教育研修センター 指導主事　植木秀芳 実習助手：宮崎県教育研修センター 指導主事　中島　悟 10:30　11:30	【実習】Webページの作成3 ・ホームページの発行及びその留意点 実習講師：宮崎県教育研修センター 指導主事　植木秀芳 実習助手：宮崎県教育研修センター 指導主事　中島　悟 12:00	第1・2パソコン室 第1・2パソコン室
第10日目 8月　3日 （金）	8時30分受付	【講演】技術・家庭科における情報教育の在り方 講師：宮崎大学 教育文化学部 助教授　廣瀬才三	【発表・協議】研修成果の発表と協議 ・教育委員会 谷山幸夫 【閉講式】 ・教育委員会 ・教育センター	第2パソコン室

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（家庭：H－1）						
研修目的（趣旨）	産業技術及び情報技術の高度化、専門化に対応した知識と技術を習得させる研修。						
対象	中学校の技術・家庭科担当教員又は教育委員会の関係指導主事。						
開催期日	平成　13　年　7　月　30　日（月）～ 平成　13　年　8　月　3　日（金）						
開催日数	5　日間	計画人数	50　人	受講者数	50　人	(参加率)	100.0　%
開催場所	東京学芸大学						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	23　人	47.92%	22　人	45.83%	0　人	0.00%	3　人	6.25%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

○　幼児理解、保育の現代的問題は、現在の子ども像を発達の点からとらえることがとてもよかった。

○　この講義内容をどう生かしていくか、今後の課題にしていきたい。

○　授業だけでなく、実生活の上でも生かしていける話が多く勉強になった。

○　理論的なことも知識としては必要だと思うので、研修としては意義があるし役立つとも思うが、実践に直接結びつくものだとありがたい。

○　最終日の「保育の現代的問題」について、事例をあげてもっと聞きたいと思った。

○　簡単な教材づくりの実習が、組み入れてあってもよかったと思う。

○　最後の「技術・家庭科の改訂」については、参考になる部分が多く、もう少し時間をとってほしかった。

○　せっかく集まっているので、保育の学習を取り上げるなら、保育に関わる資料をそれぞれ持ち寄って、それについて講義をしたり、演習をしたりするとよいと思う。特に生徒に配布しているプリントを見てみたい。

○　できれば保育園だけでなく、幼児と関わりのある施設（児童相談所など）を見学したり、所長さんの話を聞いたりするのも勉強になるのではと思う。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成　）年度　新産業技術等指導者養成講習日程表（東京　医大学）

日＼時間	9：00	9：30	10：00	10：30	12：00	13：00	14：30	15：00	16：00
7月30日（月）		受　付	開講式 ガイダンス	（講義）「幼児理解１」 保育場面の子どもの発達 （担当）　倉持　清美（東京学大学講師） （会場）　生活科学学科研究棟		（講義）「幼児理解２」 保育場面の子どもの発達 （担当）　倉持　清美（東京学大学講師） （会場）　生活科学学科研究棟	（講義）「保育体験学習指導法１」 幼稚園による体験学習受け入れ （担当）　井口　美恵子（板橋区立高島平幼稚園教頭）		
7月31日（火）		（講義）「幼児理解３」（観察実習事前指導） 保育場面の子どもの遊びなどの発達 （担当）　倉持　清美（東京学大学講師） （会場）　生活科学学科研究棟				（講義）「保育体験学習指導法２」 保育園・幼稚園からみた体験学習 （担当）　倉持　清美（東京学大学講師） （会場）　生活科学学科研究棟	（講義）「保育体験学習指導法３」 学習指導要領の変遷から見た保育学習 （担当）　池崎喜美恵（東京学大学助教授） （会場）　生活科学学科研究棟		
8月１日（水）		（実習）「幼児観察１」 約４名毎の１３グループに指導者１名がつき、適宜保育所で観察を行う。 （担当）　倉持　清美他 院生13名 （会場）　小金井，国分寺地区保育園（12園）				（演習）「幼児観察グループ演習１」 午前の観察について話し合い （担当）　倉持　清美他 院生13名 （会場）　生活科学学科研究棟	（講義）「保育体験学習指導法４」 保育学習の教育実践 （担当）　大竹美登利（東京学大学教授） （会場）　生活科学学科研究棟		
8月２日（木）		（実習）「幼児観察２」 約４名毎の１３グループに指導者１名がつき、適宜保育所で観察を行う。 （担当）　倉持　清美他 院生13名 （会場）　小金井，国分寺地区保育園（12園）				（演習）「幼児観察グループ演習２」 午前の観察について話し合い （担当）　倉持　清美他 院生13名 （会場）　生活科学学科研究棟	（講義）「保育体験学習指導法５」 中学校での保育学習の実際 （担当）　阿部　睦子（東京学大学附属竹早中学校教諭） （会場）　生活科学学科研究棟		
8月３日（金）		（講義）「保育の現代的問題」 現代社会における保育の問題を扱う （担当）　田村　毅（東京学大学助教授） （会場）　生活科学学科研究棟				（講義）「技術・家庭科の改訂と保育に関する指導」 （担当）　河野　公子（文部省初等中等教育局視学官） （会場）　生活科学学科研究棟	閉講式		

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（工業：Ⅰ－1）						
研修目的（趣旨）	産業技術及び情報技術の高度化、専門化に対応した知識と技術を習得させる研修。						
対象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事						
開催期日	平成　13　年　7　月　23　日（月）～ 平成　13　年　8　月　31　日（金）						
開催日数	30　日間	計画人数	22　人	受講者数	11　人	(参加率)	50.0　%
開催場所	（財）日本情報処理開発協会　中央情報教育研究所						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	8　人	72.73%	3　人	27.27%	0　人	0.00%	0　人	0.00%

2．研修内容に関する主な意見

○　集中して研修を受けられたと思う。
○　どの講義も基礎知識がないと理解できなかったので、事前学習が必要と思った。
○　とてもつらかったが、課題研究があったのでがんばれた。
○　このような研修をずっと続いてほしいと思う。
○　テーマはこのままでよいので、もっとゆっくり進んでほしい。
○　C言語などのプログラミング言語について、日数をかけてゆっくり講義を受けさせてほしい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度　新産業技術等指導者養成講習日程（工業，Ｉ－１）

【全体概要】C 言語をベースに、その応用であるネットワーク系プログラミングや IO プログラミング、Java プログラミングを行います。課題研究では３班に分かれてテーマを決定し、様々な言語でシステムを構築しながら研究を行い、最後に成果発表します。実習環境は Linux PC を１人１台使用します。講習全体に渡りＣ言語の知識が必須ですので、Ｃ言語の経験が全く無い場合には事前学習を推奨します。

日　時	10	13(昼食)14	17	講師(敬称略)
7月 23 日(月)	**開講式・情報技術**	オリエンテーション		武市 正人
7月 24 日(火) 7月 25 日(水) 7月 26 日(木)	**コンピュータ概論と指導法**			浅井　宗海
7月 27 日(金) 7月 30 日(月)	**UNIX の基礎** ※全講習期間中 Linux を使用するのでシステム管理、シェル、エディタ操作等を行う			酒井　恵光
7月 31 日(火)	**トピックス１** NIC を搭載した PIC ボード	**トピックス２** 教材事例 MINDSTORMS ロボラボ		清水　紘司 福岳　英一
8月 1 日(水) 8月 2 日(木) 8月 3 日(金) 8月 6 日(月)	**C 言語プログラミング** ※Linux 上の C コンパイラを用いて、C の構文、関数、デバッガ、配列、ファイル、ポインタ、再帰とループ、木　などのプログラミングを行います。 以後の科目全体に渡り C の知識が必須ですので、重要な科目です。C の経験が全く無い場合は事前学習しておくことを推奨します。			小川　貴英
8月 7 日(火)	**課題研究**　※３班に分かれてテーマを決定し、予備調査・学習を開始します。			担当講師
8月 8 日(水) 8月 9 日(木) 8月 10 日(金)	**ネットワークプログラミング** ※サーバとクライアント間で通信する C プログラミングを行います。 項目は、Ethernet、IP、DNS、ホスト情報系プログラム、tcp や UDP を使った C/S プログラム、IO 多重化　などを予定しています。			新田　善久
8月 13 日(月)	**IO ボードによる制御** ※シリアル IO ボードを C 言語で制御します。項目は、UNIX のファイル IO、デバイスファイル、ボードとの通信仕様、シリアル入出力プログラム解説　などを予定			島崎　徳朗
8月 14 日(火)	**課題研究**　※各班内で進捗を確認し、軌道修正を図る。			担当講師
8月 15 日(水) 8月 16 日(木) 8月 17 日(金)	**Java プログラミング** ※オブジェクト指向言語である Java プログラミングを行います。（なお、ここで行う Java は、ホームページの html 内に記述する Java アプレットではありません。）			青柳　龍也
8月 20 日(月) 8月 21 日(火) 8月 22 日(水) 8月 23 日(木) 8月 24 日(金) 8月 27 日(月) 8月 28 日(火) 8月 29 日(水) 8月 30 日(木)	**課題研究** ※３班に分かれてテーマを検討し、各班員が主体性をもって研究を行う方式で進行します。テーマは次のような内容を検討中です。 １班；(XML 系 Web システム) ２班；(Java やサーブレットによる Web システム) ３班；(シリアル IO ボードによるネットワーク制御システム)			浅井　宗海 内田　智史 仲道　嘉夫
8月 31 日(金)	**研究成果発表・閉講式**			

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（工業：Ⅰ－２）						
研修目的（趣旨）	産業技術及び情報技術の高度化、専門化に対応した知識と技術を習得させる研修。						
対象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事						
開催期日	平成　１３　年　８　月　２１　日（火）～ 平成　１３　年　８　月　３１　日（金）						
開催日数	１０　日　間	計画人数	２５　人	受講者数	３１　人	(参加率)	124.0 %
開催場所	（株）内田洋行　教育システム事業部						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	１６　人	69.57%	６　人	26.08%	０　人	0.00%	１人	4.35%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

○　全国の先生方と親しくなり、大変充実した研修だった。（多数）

○　わずか１０日間の研修だったが、新しい技術に触れたり、県外の先生と情報交換をしたりすることができて大いに刺激になった。情報の技術において自分はまだまだ遅れていると実感し、今後さらに研修を積む必要性を感じた。

○　今現在のコンピュータ環境を知り得て良かったと思う。

○　全国の工業高校の先生方とも交流が図れ、さすが文部科学省企画の研修会だと思った。この研修会がさらに改善・充実・発展させ、参加することによってエネルギーをもらえるような、工業教育に対する真剣な研修・研究・交流の場と発展することを期待する。

○　施設見学の場所に最先端の研修をしている場所を入れて欲しい。「デジタルデータの取り込みと加工処理」の研修については、２人で１台を扱える環境であればなお良かったと思う。また、グループで行うのであれば、施設見学時に各班でビデオ撮影、次の日にその動画を取り込み、加工という形でやってみると面白いかなと思った。

○　内容をもう少しスリム化し、重点的なもののみとし、紹介的なものは省いた方が良いと思う。

○　最新システムを使って学習できたが、学校ではなかなか最新のシステムが導入できない。バージョンが少し古い方での研修が良いのではないか。

○　できるだけ日常の実務に役立つ内容の研修であることが大切だと思う。その点において、講義より実習ということに力点を置いた方が良いように感じる。今回の研修においても、実習的内容であったものはとても参考になり役立っている。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度新産業技術等指導者養成講習会

（工業，Ｉ－２）

社団法人全国工業高等学校長協会

日　付	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
８月２１日（火）	受　付	開講式（大久保）オリエンテーション			昼休み	講　義（尾形）　最新システム機器の紹介	質議応答	受講生の自己紹	
８月２２日（水）	講　義（中村）（ディジタル技術の実際）				昼休み	実　習（中村）（ディジタル技術の実際）			
８月２３日（木）	講　義（山田）　（アナログデータのディジタル化技術）				昼休み	実　習（山田）（アナログデータのディジタル化技術）			
８月２４日（金）	講　義（沼畑）（ディジタルデータの取り込みと加工処理）				昼休み	実　習（沼畑）（ディジタルデータの取り込みと加工処理）			
８月２５日（土）	実　習（沼畑）（ディジタルデータの取り込みと加工処理　ノンリニア編集）								
８／２６（日）									
８月２７日（月）	講　義（小澤）（インターネットの利用技術　基礎）				昼休み	実　習（小澤）（インターネットの利用技術　基礎）			
８月２８日（火）	講　義（小澤）（インターネットの利用技術　応用）				昼休み	実　習（小澤）（インターネットの利用技術　応用）			
８月２９日（水）	施設見学　（宇多）				昼休み	施設見学　（宇多）			
８月３０日（木）	課題研究発表会（小澤・沼畑）				昼休み	課題研究（小澤・沼畑）		文部科学省講話（佐藤調査官）	
８月３１日（金）	課題研究発表会（小澤・沼畑）				昼休み	講習のまとめ	閉講式		

※上記は，昨年の実績を基にしたものなので，内容については多少変更する場合があります。

実施場所　（株）内田洋行　潮見オフィス

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（商業：Ｊ－１）						
研修目的（趣旨）	産業技術及び情報技術の高度化、専門化に対応した知識と技術を習得させる研修。						
対象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事						
開催期日	平成　１３　年　７　月　２３　日（月）～ 平成　１３　年　８　月　３０　日（木）						
開催日数	３０　日間	計画人数	２４　人	受講者数	１５　人	(参加率)	62.50 %
開催場所	（財）ソフトピアジャパン　全国マルチメディア専門研修センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	１１　人	73.33%	３　人	20.00%	１　人	6.67%	０　人	0.00%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

・このような機会を与えてもらい、ありがたい。

・長い時間パソコンに向かうことは学校現場ではできないことなので、操作ということについてはよい機会だった。

・各ソフトの関連、位置づけ等、連携をもっと密にしてもらえるとありがたい。

・実習の講師は、できる限り同じ方が担当してほしい。

・研究開発への流れをそれぞれのソフトの実習でも押さえてほしい。

・1つ1つのソフト研修の時間が短く、どれも中途半端になってしまったので、もっとソフトの本数を減らし、じっくりと1つのものをマスターするようにした方が、中身としては充実すると思う。

・全体的に、もっと時間的余裕がほしかった。

・全国の先生方と出会えて、情報交換できたことが一番の収穫だった。

・実習の中でのプレミアについては、研修期間が短く、十分に知識を得ることができなかった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成13年度 新産業技術等 指導者養成講習 日程

（商業 J－1）

財団法人ソフトピアジャパン

日時	10	11	12	13	14	15	16	17
7月23日(月)		開講式	オリエンテーション	昼休み	地域ネットワークと公共モデル(講義)		ソフトピアジャパン施設の視察	
7月24日(火)		オリエンテーション(講義)		昼休み	岐阜県立国際情報科学芸術アカデミーの紹介(講義)			
7月25日(水)		ホームページ作成(HTML)(講義)		昼休み	ホームページ作成(HTML)(講義)			
7月26日(木)		ホームページ作成(JavaScript)(講義)		昼休み	ホームページ作成(JavaScript)(講義)			
7月27日(金)		ホームページ作成(JavaScript)(講義)		昼休み	ホームページ作成(JavaScript)(講義)			
7月28日(土)		イラストレータ(講義)		昼休み	イラストレータ(講義)			

実施場所 全国マルチメディア専門研修センター

平成13年度 新産業技術等 指導者養成講習 日程

（商業 J－1）

財団法人ソフトピアジャパン

日時	10	11	12	13	14	15	16	17
7月30日(月)	イラストレータ(講義)			昼休み	イラストレータ(講義)			
7月31日(火)	フォトショップ(講義)			昼休み	フォトショップ(講義)			
8月1日(水)	フォトショップ(講義)			昼休み	フォトショップ(講義)			
8月2日(木)	フォトショップ(講義)			昼休み	フォトショップ(講義)			
8月3日(金)	情報システム開発におけるプロジェクトマネジメント(講義)			昼休み	情報システム開発におけるプロジェクトマネジメント(講義)			
8月4日(土)	情報システム開発におけるプロジェクトマネジメント(講義)			昼休み	情報システム開発におけるプロジェクトマネジメント(講義)			

実施場所 全国マルチメディア専門研修センター

平成13年度 新産業技術等 指導者養成講習 日程

（商業 J－1）

財団法人ソフトピアジャパン

日時	10	11	12	13	14	15	16	17
8月6日（月）	情報時代に生きる（講義） －IT技術者を育てるために教育者として現実を知る－			昼休み	21世紀の通信ビジネス戦略（講義）			
8月7日（火）	プレミア（講義）			昼休み	プレミア（講義）			
8月8日（水）	フラッシュ（講義）			昼休み	フラッシュ（講義）			
8月9日（木）	フラッシュ（講義）			昼休み	フラッシュ（講義）			
8月10日（金）	学校教育とネットワーク（講義）			昼休み	ユニクロのグローバルネットワーク戦略（講義）			
8月11日（土）	インターインディペンデント時代の人とネットワーク（講義）			昼休み	インターインディペンデント時代の人とネットワーク（講義）			

実施場所 全国マルチメディア専門研修センター

平成13年度 新産業技術等 指導者養成講習 日程

（商業 J－1）

財団法人ソフトピアジャパン

日時	10	11	12	13	14	15	16	17
8月17日(金)	情報教育機関(視察)			昼休み	情報教育機関(視察)			
8月18日(土)	ディレクタ(講義)			昼休み	ディレクタ(講義)			
8月20日(月)	ディレクタ(講義)			昼休み	ディレクタ(講義)			
8月21日(火)	ディレクタ(講義)			昼休み	ディレクタ(講義)			
8月22日(水)	研究・開発(講義)			昼休み	米国Eビジネスの最前線(講義)			
8月23日(木)	研究・開発(講義)			昼休み	研究・開発(講義)			

実施場所 全国マルチメディア専門研修センター

平成13年度 新産業技術等 指導者養成講習 日程

（商業 J－1）

財団法人ソフトピアジャパン

日時	10	11	12	13	14	15	16	17
8月24日(金)	研究・開発(講義)			昼休み	研究・開発(講義)			
8月25日(土)	研究・開発(講義)			昼休み	研究・開発(講義)			
8月27日(月)	研究・開発(講義)			昼休み	研究・開発(講義)			
8月28日(火)	研究・開発(講義)			昼休み	研究・開発(講義)			
8月29日(水)	研究・開発(講義)			昼休み	研究・開発(講義)			
8月30日(木)	午前9時開始 研究発表会(研究協議)		学習指導要領の改訂と情報教育(講義)	閉講式・交流会				

実施場所 全国マルチメディア専門研修センター

Ⅰ　研修概要

研修名	新産業技術等指導者養成講習　（商業：Ｊ－２）						
研修目的（趣旨）	産業技術及び情報技術の高度化、専門化に対応した知識と技術を習得させる研修。						
対象	高等学校の産業教育担当教員等又は教育委員会の関係指導主事						
開催期日	平成　１３　年　７　月　２３　日（月）～ 平成　１３　年　８　月　３　日（金）						
開催日数	１０　日間	計画人数	３０　人	受講者数	２７　人	(参加率)	90.00 %
開催場所	千葉商科大学						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	２１　人	77.78%	５　人	18.52%	０　人	0.00%	１人	3.70%

2．研修内容に関する主な意見

・新しい内容、指導方法、意識の向上等とても実のある研修だった。

・最新の機器、知識豊富な講師、教材とすばらしい研修だった。

・パソコン本体の基板を変えたり、今まで受けたことのない研修で大変良かった。

・実習に多くの時間をあててもらい、限られた時間を有効に利用できた。今後はもう少しメーカーの方の話などを1日ほど追加して欲しい。

・研修について、今回ほとんどの内容が初心者対象から始まったので、もう少し長くても良いと思った。

・高校教諭及び経験者が講師として研修、実習を行っていたため、すごく丁寧で分かり易い内容だった。

・VB、VBA、アクセスなど、実践しやすい内容で大変役立った。

・情報処理関係の操作技術のみならず、情報モラル等も学習でき、大変役立った。

・講師の先生方の教材準備と熱心な指導方法が良かった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度新産業技術等指導者養成講座講習日程

科目名　講習番号　　委託団体名　　実施場所

商業　Ｊ－２　　全国商業高等学校長協会　　千葉商科大学

日　時	9:30　10:00　11:00　12:00	13:00	14:00　15:00　16:00　16:30
７月 ２３日 （月）	開講式 新指導要領と新しい商業教育	昼食	「プログラミングの指導」 Visual　BASIC－１ （講義・実習）
７月 ２４日 （火）	Visual　BASIC－２ （講義・実習）	昼食	Visual　BASIC－３ （講義・実習）
７月 ２５日 （水）	「ビジネス情報の指導」 ＶＢＡの活用－１ （講義・実習）	昼食	ＶＢＡの活用－２ （講義・実習）
７月 ２６日 （木）	「ビジネス情報の指導」 データベースソフトの活用－１ （講義・実習）	昼食	データベースソフトの活用－２ （講義・実習）
７月 ２７日 （金）	データベースソフトの活用－３ （講義・実習）	昼食	データベースソフトの活用－４ （講義・実習）

日　時	9:30　10:00　11:00　12:00	13:00	14:00　15:00　16:00　16:30
７月 ３０日 （月）	「ビジネス情報の指導」 ネットワークの基礎－１ （講義・実習）	昼食	ネットワークの基礎－２ （講義・実習） ＳＡＤ受験指導の実際 （講義）
７月 ３１日 （火）	「文書デザインの指導」 ホームページと情報発信－１ （講義・実習）	昼食	ホームページと情報発信－２ （講義・実習）
８月 １日 （水）	「文書デザインの指導」 プレゼンテーションとその指導－１ （講義・実習）	昼食	プレゼンテーションとその指導－２ （講義・実習）
８月 ２日 （木）	情報処理機器の導入と管理 （講義） 情報モラルとセキュリティ管理 （講義）	昼食	「ビジネス情報の指導」 ビジネス情報の分析と活用－１ （講義・実習）
８月 ３日 （金）	ビジネス情報の分析と活用－２ システム開発の基礎－１ （講義・実習）	昼食	システム開発の基礎－２ （講義・実習） 経営情報教育の指導 （講義） 閉講式

受　付　　７月２３日（月）　　９：３０～１０：００

Ⅰ　研修概要

研修名	学校安全教育指導者研修会（第１回　交通安全）						
研修目的（趣旨）	交通安全教育、防災教育及び災害時の心の健康に関する指導者の資質の向上を図るための研修						
対象	国公私立の小学校、中学校、高等学校，中等教育学校及び特殊教育諸学校及び養護学校等の交通安全教育に関し、各都道府県において指導的役割を果たしている教員及び教育委員会の交通安全教育担当指導主事等						
開催期日	平成　１３　年　５　月　２９　日（火）～ 平成　１３　年　６　月　１　日（金）						
開催日数	４　日間	計画人数	２１０人	受講者数	１８６人	(参加率)	88.57 %
開催場所	東京：独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	８６人		５８人		１人		１４人	
割合（%）		54.09%		36.48%		0.63%		8.81%

2．研修内容に関する主な意見

(講義２)「交通安全行動と心理」という講義題から、人間の行動と心理について科学的なアプローチを期待したが、危険予測の絵の紹介が長過ぎ、期待はずれに終わった。対照的に(講義・演習)の講師の認知科学という側面から危険予測を分析した取り組みはわかりやすく、非常に興味深いものであった。

(講義７)あまりにも専門的な「法・保険」のことであって、子どもの実際の事故例やその現場に応じた責任や対応など、もう少し我々にとって身近に起こり得るものであれば良かった。

(実習１)心肺蘇生法の実習は、毎年日赤救助員の方から、より細かな指導を受けている。

(実習１)心肺蘇生法の実習は、学校のＰＴＡ主催の実習のほうが丁寧でわかりやすい（人形１体に１人の指導者が良い)。

(講義３)(実習１)都道府県・市町村レベルの研修会でも実施されているので、他の内容に変更したほうが良い。

(講義７)児童の安全指導では知っているほうが良い内容だが、自動車の保険制度については必要性を感じていない。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度学校安全教育指導者研修会日程一覧

（主な会場：　独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター）

月日	該	会　場	9:30	10:00	10:30	11:30	12:30	14:45	15:00	17:00
5月29日（火）	全体会	国際交流棟 国際会議室		受付	開会式	講義１ 学校における交通安全教育の考え方，進め方 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課教科調査官 戸田芳雄	昼食・休憩 （シンポジウム関係者打合せ）	シンポジウム 「家庭及び地域社会と連携した学校での交通安全教育の進め方」 シンポジスト 奈良県斑鳩町立斑鳩西小学校　教諭　植田国男 大分県玖住町立昭和中学校　校長　中野宗武 佐賀県立鹿島実業高等学校　教諭　犬塚逸朗 石川県教育委員会小松教育事務所　指導主事　宮本肇 ・コーディネーター　教科調査官　戸田芳雄	休憩	講義２ 交通安全行動と心理 大阪大学名誉教授 長山泰久

月日	該	会　場	9:30	12:00	会　場	13:00	14:00	14:15	17:00
5月30日（水）	小	センター棟３１１	講義・演習【小学校部会】 危険予測を中心とした教材の作成と活用について （財）日本交通安全教育普及協会　主幹　石毛昭治 静岡県生活・文化部文化政策室　主査　桜井祥行	昼食・休憩	スポーツ館	講義３ 応急手当の意義と方法 金沢大学名誉教授 村上誠一	休憩	実習１ 心肺蘇生法の手順と方法 金沢大学名誉教授 村上誠一	
	中	センター棟４０１	講義・演習【中学校部会】 危険予測を中心とした教材の作成と活用について （財）日本交通安全教育普及協会　教育専門委員　和田浩明 神奈川県教育庁教育部保健体育課　指導主事　山田寛		第3体育館				
	高	センター棟４０２	講義・演習【高等学校部会】 危険予測を中心とした教材の作成と活用について 東北工業大学　教授　太田博雄 千葉県教育庁学校指導部学校保健課　指導主事　田中敏明						

月日	該	会　場	9:30	11:00	11:15	12:30	13:30	17:00
5月31日（木）	小・中部会	国際交流棟 国際会議室	講義４ 学校における自転車に関する指導の進め方 （財）日本交通安全教育普及協会 主幹　石毛昭治	休憩	講義５ 自転車の楽しく安全な利用 筑波大学助教授 吉田章	昼食・休憩	実習２ 自転車の特性と安全指導 筑波大学助教授　吉田章 （財）日本サイクリング協会 業務第一部長　竹之下守 他指導員７名	
		会　場	10:00	12:00	13:00			17:00
	高校部会	国立競技場会議室及び明治公園	講義６及び実習３ 二輪車の特性と安全指導（理論と実技） 日本大学教授　岡野道治 （社）全国二輪車安全運転普及協会指導員８名		昼食・休憩	（同左）		

月日	該	会　場	9:30	11:00	会　場	該	11:15	15:30
6月1日（金）	全体会	国際交流棟 国際会議室	講義７ 交通事故の責任と補償 秋田大学教授 小賀野昌一	移動・休憩	センター棟４１６	小学校部会	研究発表・研究協議【小学校部会】　*（適宜昼食・休憩をとる）* 「小学校における効果的な交通安全教育の進め方」 （発表校）　東京都港区立白金小学校　（司会）参加指導主事　２名 鹿児島県長島町立城川内小学校 （指導助言者）　東京都教育庁指導部指導企画課　主任指導主事　大橋直子 千葉県袖ヶ浦市立平岡小学校　校長　磯貝章	
				移動・休憩	センター棟４０１	中学校部会	研究発表・研究協議【中学校部会】　*（適宜昼食・休憩をとる）* 「中学校における効果的な交通安全教育の進め方」 （発表校）　福井県金津町立金津中学校　（司会）参加指導主事　２名 香川県琴南町立琴南中学校 （指導助言者）　山形県上山市立北中学校　校長　鈴木隆重 埼玉県教育局生涯学習部健康教育課　主任指導主事　松永勝	
				移動・休憩	センター棟４０２	高校部会	研究発表・研究協議【高等学校部会】　*（適宜昼食・休憩をとる）* 「高等学校における効果的な交通安全教育の進め方」 （発表校）　秋田県立鷹巣高等学校　（司会）参加指導主事　２名 長崎県立島原工業高等学校 （指導助言者）　神奈川県立山北高等学校　校長　石原春男 茨城県教育庁保健体育課　学校保健係長　仲澤進	

Ⅰ　研修概要

研修名	学校安全教育指導者研修会（第２回　防災・心の教育）						
研修目的（趣旨）	交通安全教育、防災教育及び災害時の心の健康に関する指導者の資質の向上を図るための研修						
対象	国公私立の幼稚園、小学校、中学校、高等学校，中等教育学校及び特殊教育諸学校の防災教育・災害時の心の健康について、都道府県内で指導的立場にある教諭及び養護教諭並びに都道府県及び市町村教育委員会の担						
開催期日	平成　１４　年　１　月　２９　日（火）～ 平成　１４　年　１　月　３１　日（木）						
開催日数	３　日間	計画人数	２１０人	受講者数	１７８人	(参加率)	84.76 %
開催場所	独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

１　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	５８人	45.67%	５１人	40.16%	４人	3.15%	１４人	11.02%

２．研修内容に関する主な意見

・防災教育の必要性を改めて感じることができ、また、今後の防災教育のあり方についても理解できた。

・地震のメカニズム等について、実に分かりやすく教えていただき、興味深く聞かせていただいた。２時間弱の時間があっという間に過ぎた。

・危機感に地域性のある内容だったので、私の学校では火山の内容まで対策できないが、日本（地球）に住む以上、子ども達にとっても必要な知識なので、関心を深めていきたい。

・複合型ＰＴＳＤと家庭との連携の重要性について強く印象に残った。我々はややもすると「変だ」「おかしい」との言葉だけで前へ進んでいないような気がする。もっと積極的に原因を追求して生徒のために何が必要かを深く考察し、仕事をする大切さを認識した。

・心の健康については、日常的な学級づくりや生徒指導にも生かしていける話で、大変役に立った。

・内容が具体的であり、現場で災害時の心構えとして役に立つ内容であった。

・やはり、直接子どもに接した内容の話は分かりやすいし、興味も湧いてくる。

・実態調査の結果については資料があるので、議題や今後取り組むべきこと等について(分析について)語って欲しかった。

・日本の現状や地震発生のメカニズムは理解できるが、実際の学校現場での地震に対する教育方法や安全確保等の内容が少ないと感じた。

・避難のタイミングを地震発生の経過と絡めて教えて欲しかった。火災発生がなければ、鉄筋コンクリートの校舎で避難の必要は無いのでは。安全確認と被害状況確認をすればよいのだろうか（教えて欲しい）。

・学校教育における火災による危険についての教育の必要性をあまり感じなかった。

・大学の講義のようで、正直言って難しかった。現場としては、安全確保の方法に要点をおいて話して欲しかった。

・地震について知ることが大変大切で、それが前提であることは理解できる。だが、学校でどのようにしていくのかが欠けていたのではないか。資料も全く無く、親切ではないと感じた。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度　学校安全教育指導者研修会日程一覧

1月29日（火）

9:30	10:00	10:30	12:00	13:00	14:50	15:10	17:00
全体会	会場：センター棟 417号室	受付	開会式	講義１	昼食	講義２	休憩	講義３

講義１
学校における防災教育の充実
文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課
教科調査官　戸田芳雄
【衛星配信予定講義】

講義２
地震による災害の危険と安全確保の方法
東京大学地震研究所　教授
阿部勝征
【衛星配信予定講義】

講義３
火災による危険と安全確保の方法
名古屋大学大学院環境学研究科　教授
辻本　誠
【衛星配信予定講義】

※ *講義1、2、3については、平成14年2月27日（水）〔時間帯、受信チャンネル等については追って各県教委へ連絡します〕に、エル・ネットを活用した衛星配信研修として配信する予定です。*

1月30日（水）

9:30	10:00	12:00	13:00	14:50	15:10	17:00
全体会	会場：センター棟 417号室	受付	講義４	昼食	講義５	休憩	講義６

講義４
火山噴火による危険と安全確保の方法
東京大学　名誉教授
下鶴大輔
【衛星配信予定講義】

講義５
気象災害の危険と安全確保の方法
NHK放送用語委員会　専門委員
宮澤清治
【衛星配信予定講義】

講義６
児童生徒の災害時における心の健康について
近畿大学医学部　教授
花田雅憲
【衛星配信予定講義】

※ *講義4、5、6については、平成14年2月28日（木）〔時間帯、受信チャンネル等については追って各県教委へ連絡します〕に、エル・ネットを活用した衛星配信研修として配信する予定です。*

1月31日（木）

9:30	10:00	12:00	13:00	15:00
部会区分	会場：センター棟	受付【各分科会会場ごと】	昼食	実践発表校 / 指導助言者	閉会

部会区分	会場	実践発表及び研究協議	実践発表校	指導助言者
幼稚園	404号室	実践発表及び研究協議 1 家庭・地域と連携した幼稚園における効果的な防災教育の進め方	長野県　学校法人高松学園高光幼稚園主任　双山しげ子 熊本県　嘉島町立嘉島東幼稚園教諭　河原　綾子	東京都江東区立大島幼稚園長　原本惠子 聖徳大学短期大学部助教授　湯川秀樹
小学校	401号室	実践発表及び研究協議 2 家庭・地域と連携した小学校における効果的な防災教育の進め方	東京都　世田谷区立太子堂小学校教諭　菊原　寛之 神奈川県　南足柄市立向田小学校教諭　神戸美智子	埼玉県鶴ヶ島市教育委員会学校教育課長　荒井　章 東京学芸大学助教授　渡邊正樹
中学校	403号室	実践発表及び研究協議 3 家庭・地域と連携した中学校における効果的な防災教育の進め方	宮城県　女川町立女川第一中学校教諭　菅野　英一 静岡県　本川根町立本川根中学校教諭　植田　直美	東京都教育委員会指導部主任指導主事　大橋直子 神戸大学教授　南　哲
高等学校	405号室	実践発表及び研究協議 4 家庭・地域と連携した高等学校における効果的な防災教育の進め方	北海道　虻田高等学校教諭　石川　尚人 茨城県　県立東海高等学校教諭　立花　嘉昭	茨城県教育委員会保健体育課学校保健体育主事　仲澤　進 横浜国立大学教授　斎藤　能
心の健康	409号室	実践発表及び研究協議 5 学校における災害時の児童生徒等の心の健康への対応について	東京都　三宅村立坪田中学校養護教諭　前田真佐子 兵庫県　芦屋市立山手中学校養護教諭　藤田　睦	愛媛県立松山中央高等学校養護教諭　丹　貴子 東海大学医学部教授　山崎晃資

Ⅰ　研修概要

研修名	公立小・中学校幹部事務職員研修講座					
研修目的（趣旨）	職務に必要な専門的な知識を習得させ事務職員の資質の向上を図るための研修。					
対象	公立小学校及び中学校の幹部事務職員で，学校事務職員の経験が２０年以上，おおむね４０歳以上の者					
開催期日	平成　１４　年　１　月　２１　日（月）～ 平成　１４　年　１　月　３０　日（水）					
開催日数	１０　日間	計画人数	１００人	受講者数	９６人	(参加率) 96.0 %
開催場所	独立行政法人　国立オリンピック記念青少年総合センター					

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	７８人	82.98%	１６人	17.02%	０人	0.00%	０人	0.00%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

○　班別協議の時間を多く取ってあり、いろいろな交流ができて良かったと思う。

○　全国の多くの仲間と知り合えたことが最大の成果だと思う。

○　講演・講義はタイムリーな内容で、これからの事務職員の方向性、意識付けとして大切なものだったと思う。

○　外部講師を招いての班別協議は、内容の濃い話題が多く普段知り得ない情報を与えてもらったが、急ぎ足の説明のため消化不良気味に終わってしまった。

○　レポートテーマは今回ハイレベルで、もう少し身近なテーマの方が良いと思う。

○　多くの職員がこの研修会に参加できるよう、年に何回か機会があれば資質の向上にもつながると思う。

○　文部科学省の方と直接話ができるような場も少しあれば良かったと思う。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成13年度公立小・中学校幹部事務職員研修講座
日　程　表

	13:30	14:00	14:30	14:45		16:15		17:30 ～	
1月21日(月)		受付	開講式（オリエンテーション）	休憩	講演1 「これからの学校経営と事務職員の役割」 全日本中学校長会 会長　星　正雄		自由時間		情報交換会 国際交流棟 レセプションホール

	9:00	10:00	10:15		11:45	13:00			16:30
1月22日(火)	「班別協議」	休憩	講義1 「今日の子どもの現状と課題」 文部科学省 初等中等教育局 視学官　小田　豊		昼休み	「班別協議」 （館外研修事前協議）			

	9:00	10:00	10:15		11:45	13:00			16:30
1月23日(水)	「班別協議」 （写真撮影）	休憩	講義2 「学習指導要領について」 文部科学省 初等中等教育局教育課程課教育課程企画室 室長補佐　松永　賢誕		昼休み	「班別協議」 （課題レポート協議）			

	9:00								17:00
1月24日(木)	館外研修（学校訪問）								

	9:00	10:00	10:15		11:45	13:00		14:30	14:45		17:00
1月25日(金)	「班別協議」	休憩	講義3 「地方教育行政と教育」 文部科学省 初等中等教育局初等中等教育企画課 課長補佐　笹井　弘之		昼休み	講義4 「地方教育財政について」 文部科学省 初等中等教育局財務課 課長補佐　勝山　浩司		休憩	「班別協議」 （外部講師を交えて）		

1月26日(土) 1月27日(日)	自由研修

	9:00	10:00	10:15		11:45	13:00		14:30	14:45		16:30
1月28日(月)	「班別協議」	休憩	講義5 「人事服務について」 文部科学省 初等中等教育局初等中等教育企画課 専門職　田中　聡明		昼休み	講義6 「開かれた学校づくりと学校外活動の充実」 文部科学省 生涯学習政策局生涯学習推進課 課長補佐　佐藤　安紀		休憩	「班別協議」 （課題レポート協議）		

	9:00	10:00	10:15		11:45	13:00			17:00
1月29日(火)	「班別協議」	休憩	講演2 「学校における危機管理について」 白鳳女子短期大学 大学長　中本　克美		昼休み	全体会 （課題レポート協議／班別協議の発表）			

	10:00		11:30	11:40	12:00				
1月30日(水)		講演3 「仕事に自信と誇りを」 元奈良県教育委員会 事務指導員　元庄矢　馨子	休憩	閉講式					

Ⅰ　研修概要

研修名	高等学校産業教育実習助手講習　－農業－						
研修目的（趣旨）	職務に必要な知識と技術を習得させ実習助手の資質の向上を図るための研修。						
対象	高等学校の当該教科・科目を担当する実習助手で，実習助手として３年以上勤務し，勤務成績の良好な者						
開催期日	平成　１３　年　７　月　２４　日（火）～ 平成　１３　年　８　月　１　日（水）						
開催日数	８　日間	計画人数	６０人	受講者数	３２人	(参加率)	53.33 %
開催場所	千葉大学園芸学部						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	２２人	70.97%	９人	29.03%	０人	0.00%	０人	0.00%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

○　専門分野でない講習もあったが、農業学校ではわからない多くの知識を得ることができた。
○　実際に取り入れて学習に生かしたいと思った。
○　全国の先生方の話を聞くことができてよかった。
○　学校に帰って、今後の仕事に取り入れていきたい。
○　大変充実した講習会だった。
○　農場や試験場なども見学コースに入れて欲しい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成13年度　高等学校産業教育実習助手講習会時間割

日時	時限/時間	I 8:50～10:20	II 10:30～12:00	III 13:00～14:30	IV 14:40～16.10
7月 24日（火）		受付、開講式、オリエンテーション (10:00～)		**農村資源・環境学** ー日本の有機農業ー (南 田)	**農村資源・環境学** ー[illegible]ー (沖 津)
7月 25日（水）		**農業科教育法** (村 川)	**農業科教育法** (村 川)	**農村資源・環境学** ー地域内発型のアグリビジネスの新しい役割ー (齋 藤)	**農村資源・環境学** ー里山の保全と利用ー (油井／多田)
7月 26日（木）		**農業科教育法** (村 川)	**農業科教育法** (村 川)	**農村資源・環境学** ー青果物の流通と価格形成ー (夏 野)	**農村資源・環境学** ー生態系と農業ー (小 林)
7月 27日（金）		**農業科教育法** (村 川)	**農業科教育法** (村 川)	**農村資源・環境学** ーIT革命と農産物流通ー ([illegible])	**農村資源・環境学** ー土壌[illegible]と緑地環境ー (雨 宮)
7月 28日（土）		青果市場視察 （大田青果市場） (見学) (上田)		花市場視察 （大田市場花き部） (見学)	(上田)
7月 30日（月）		**農業科教育法** (村 川)	**農業科教育法** (村 川)	**資源植物生産学** ー植物の生産力ー (高 崎)	**資源植物生産学** ーアジアの施設園芸ー (篠 原)
7月 31日（火）		(柏農場への移動時間)	**資源植物生産学** ー日本の施設園芸の現状ー (北 条)	**資源植物生産学** ー果樹の施設栽培と特殊栽培ー (松 井)	**資源植物生産学** ー園芸植物の栽培と植物ホルモンー (小 原)
8月 1日（水）		**資源植物生産学** ー最新の養液栽培技術ー (篠原／丸尾)	**資源植物生産学** ー植物の生長のしくみー (野 島)	**資源植物生産学** ー植物の栽培のしくみー (野 島)	研究協議会 閉講式

単位認定の授業科目

農業科教育法	1単位
資源植物生産学	1単位
農村資源・環境学	1単位

Ⅰ　研修概要

研修名	高等学校産業教育実習助手講習　－工業－						
研修目的（趣旨）	職務に必要な知識と技術を習得させ実習助手の資質の向上を図るための研修。						
対象	高等学校の当該教科・科目を担当する実習助手で，実習助手として３年以上勤務し，勤務成績の良好な者						
開催期日	平成　１３　年　７　月　１７　日（火）～ 平成　１３　年　７　月　２７　日（金）						
開催日数	８　日間	計画人数	６０　人	受講者数	３８　人	(参加率)	63.33 %
開催場所	長岡技術科学大学						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	２３　人	63.89%	１２　人	33.33%	０　人	0.00%	１　人	2.78%

2．研修内容に関する主な意見

○　各学科の多分野にわたる講義が聞けて、今後に実験、実習に役立ててみようと思った。

○　印象に残ったことを職場で生かしていきたい。

○　専門的なことが多く、自分の勉強不足を実感した。

○　特に希望する科目等はないが、専門的なことを深く追求するよりも、現場（学校）に帰って実際に生徒へ還元できるような内容の方が良いと思う。

○　欲しい単位がないことがあるため、様々な講義を修得できるよう配慮して欲しい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

時　間　割　表

日　程	第　1　時　限 8:50 ～ 10:20	休憩.	第　2　時　限 10:30 ～ 12:00	昼食(60)	第　3　時　限 13:00 ～ 14:30	休憩.	第　4　時　限 14:40 ～ 16:10
7月17日（火）	［受付　開講式　オリエンテーション］				工業科教育法　（佐藤　義雄）		工業科教育法　（佐藤　義雄）
7月18日（水）	工業科教育法　（佐藤　義雄）		工業科教育法　（佐藤　義雄）		工業科教育法　（佐藤　義雄）		工業科教育法　（佐藤　義雄）
7月19日（木）	工業科教育法　（佐藤　義雄）		工業科教育法　（佐藤　義雄）		工業科教育法　（佐藤　義雄）		生産システム　（柳　和久）
7月20日（金）							
7月21日（土）							
7月22日（日）							
7月23日（月）	機械加工学　（田辺　郁男）		特殊材料　（宮田　保牧）		機械計測　（明田川正人）		機械要素設計　（太田　浩之）
7月24日（火）	流れの工学　（白樫　正高）		トライボロジー　（金子　覚）		熱　工　学　（青木　和夫）		計算力学　（古口日出男）
7月25日（水）	地盤と防災1　（大塚　悟）		地盤と防災2　（大塚　悟）		道路交通と舗装1（丸山　暉彦）		道路交通と舗装2　（高橋　修）
7月26日（木）	リモートセンシングの基本原理1　（向井　幸男）		リモートセンシングの基本原理2　（力丸　厚）		容器リサイクル　（松下　和正）		生物による環境評価（小松　俊哉）
7月27日（金）	交通騒音　（宮木　康幸）		閉　講　式				

8月10日（金）	レポート提出期限

※　講習会場（受付，開・閉講式，オリエンテーション，講習）は「事務局；第1会議室」

Ⅰ　研修概要

研修名	会計事務研修　会計事務特別研修						
研修目的（趣旨）	文部科学省所管の会計事務に従事する職員に対して国の会計法規に関する知識を修得させ，かつ，大学改革等に必要な見識を授けることにより，各職員の資質の向上を図ることを目的とする。						
対象	現在会計事務に従事し，かつ，１年以上会計事務の経験を有する者又はそれに相当する者で，原則として年齢２５歳以上３０歳以下の者。ただし，事情やむを得ない場合にあっては，満３５歳までの職員とすることができる。（研修期間中に３６歳になる者については認めない。）						
開催期日	平成　１３　年　９　月　１７　日（月）～ 平成　１３　年　１０　月　５　日（金）						
開催日数	１９　日間	計画人数	２２０人	受講者数	２２４人	（参加率）	101.82 %
開催場所	独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

１　研修会全体について　　（回答者総数　２２４人，回答率　７５．８９%）

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	５４人	31.76%	９９人	58.24%	９人	5.29%	８人	4.71%

２．研修内容に関する主な意見

・多くの人と知り合えてよかった。（同旨意見多数）
・会計事務の基本があらためてわかり，ためになった。
・この研修で身につけたことを大学に持ち帰り今後の仕事に役立てたい。
・試験があるため，勉強する目標ができ知識が増えてよかった。
・普段は実務に追われ，法的根拠を考える余裕がなかったので勉強できてよかった。
・これからの国立大学の会計事務は大きく変わろうとしているので，その変化に対応できるような研修内容として欲しい。
・独立行政法人化に対する本省の方針をもっと聞きたい。
・最後のテスト対策のため解答を覚えるだけだった。
・講義内容が試験対策のような内容が多い。（同旨意見多数）
・テストのための講義，条文を読むだけの講義が多く実務的には（実務に役立つかどうか）は疑問が残る。
・講師によって教え方にばらつきがある。（上手な人とそうでない人，声が聞き取れない人，文字が見えない等）
・講師の選定をもう少し考えて欲しい。（実務経験のない人・最近異動になったばかりの人等）
・講師は講義内容に精通している人を選ぶべき。（もっと経験がある方の生の声）
・研修開始前に実務で困っていること等のアンケートを実施し，その解答を講義中に行ったらどうか。
・部屋の空調（暑すぎたり・寒すぎたりした）の調整をして欲しい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

会計事務特別研修講義日程表

月．日	曜日	研修科目等(9:30～12:30)	講師	研修科目等(13:30～16:30)	講師
9.17	月		・受付(12:30～13:20) ・開講式(13:30～13:50) ・オリエンテーション(14:00～14:50)	班別会議(15:00～15:30) 班別討議①(15:30～17:00)	
18	火	財政法	総務班 法規係長 松本 歩	会計法(総則)(13:30～15:00) 特別講義①(15:00～16:00) 特別講義②(16:00～17:00)	総務班専門職 小坂 慎治 大臣官房企画官 永山 賀久 三菱化学(株) 顧問 小野田武
19	水	簿記概説(1)	大原簿記学校 茶山 敏治	会計法(収入)	財務省主計局 法規課第7係長 水谷 剛
20	木	会計法(支出負担行為)	財務省主計局 法規課第4係長 内堀 一成	会計法(支出)	財務省主計局 法規課第3係長 金田 吉弘
21	金	会計法(契約)	財務省主計局 法規課第2係長 山嵜 泰徳	会計法(契約)	財務省主計局 法規課第2係長 山嵜 泰徳
22	土				
23	日	秋分の日			
24	月	振替休日			
25	火	会計法(時効・国庫金等)	財務省主計局 法規課第5係長 玉置 貴則	簿記概説(2)	大原簿記学校 茶山 敏治
26	水	文教予算について(9:30～11:30) 文部科学省における契約事務及び政府調達事務について①(11:30～12:30)	総括予算班 第二係長 西原 孝一 政府調達室 企画渉外係長 廣岡 信行	文部科学省における契約事務及び政府調達事務について②(13:30～14:30) 文部科学省における会計事務について(14:30～16:00) 班別討議②(16:00～17:00)	政府調達室 企画渉外係長 廣岡 信行 総務班法規係 主任 山路 尚武
27	木	簿記概説(3)	大原簿記学校 茶山 敏治	旅費法・文部科学省における旅費事務について(13:30～15:00) 会計検査について(15:00～17:00)	経理班 経理第一係長 洞口 武文 会計検査院 法規課 法規専門官 長岡 尚志
28	金	簿記概説(4)	大原簿記学校 茶山 敏治	国有財産法(13:30～15:30) 文部科学省における国有財産事務について(15:30～17:00)	財務省理財局 国有財産調整課 課長補佐 八木 良次 管財班 管財第一係長 堀池 幸浩
29	土				
30	日				
10.1	月	物品管理法・文部科学省における物品管理事務について(9:30～11:00) 補助金の取扱いについて(11:00～12:30)	用度班 物品係長 久保 信 監査班 監査第一係長 佐藤 元則	国家公務員宿舎法(13:30～15:30) 文部科学省における宿舎事務について(15:30～16:30)	財務省理財局 国有財産調整課 課長補佐 明瀬 光司 管財班 宿舎係長 鹿又 仁郎
2	火	決算事務について(9:30～11:30) 損害賠償等について(11:30～12:30)	監査班 決算係長 齋藤 康行 総務班 企画係長 篠田 智志	簿記概説(5)(13:30～16:30)	大原簿記学校 茶山 敏治
3	水	外部資金の取扱いについて(9:30～11:30) 債権管理法・文部科学省における債権管理事務について①(11:30～12:30)	研究環境産業連携課 技術移転推進室 専門職 溝口 寛士 経理班 経理第五係長 和田 聡	債権管理法・文部科学省における債権管理事務について②(13:30～14:30) 簿記概説(6)(14:30～16:30)	経理班 経理第五係長 和田 聡 大原簿記学校 茶山 敏治
4	木	試験		特別講義③(13:30～17:00)	新日本監査法人 理事 公認会計士 佐々 誠一
5	金	閉講式			

Ⅰ　研修概要

研修名	教職員派遣研修（短期派遣）						
研修目的（趣旨）	次代を担う青少年を育成する教員に，諸外国の教育，文化及び社会等の諸事情を視察させ，国際的視野に立った識見及び教職に対する誇りと自覚を高めさせることにより，初等中等教育諸学校の国際化を推進するための中核となる教員の養成，確保を図る。						
対象	公立の小学校，中学校，高等学校，中等教育学校，盲学校，聾学校，養護学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員で３５歳以上５５歳以下の者。						
派遣期間	１６　日間	計画人数	１７４３人	受講者数	１６７１人	(参加率)	95.86 %
派遣国	別紙のとおり						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変適切であった		おおむね適切であった		あまり適切でなかった		回答なし	
人数（人）	1124 人	67.27%	528 人	31.60%	1 人	0.06%	１８人	1.08%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

・やや過密スケジュールではあったが，内容は充実していた。
・多くの学校が視察でき，大変有意義であった。
・派遣先国で授業実践を依頼され（日本語で）全員真剣に実施し，よい国際交流ができた。
・派遣先国の学校訪問だけでなく，生徒，先生宅の家庭訪問までできることができ，大変充実していた。
・訪問学校９校のうち，小学校が５校，中・高校が２校ずつだったが，中学校をもう少し増やしてもいいのでは。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

Ｈ１３教職員派遣研修（短期・都道府県団，ブロック団）派遣団一覧

都道府県名	団名	派遣国	派遣都市	派遣期間	団員数
北海道	11	ｵｰｽﾄﾗﾘｱ(ﾉｰｻﾞﾝﾃﾘﾄﾘｰ)	ダーウィン	10月11日(木)～10月26日(金)	19
青森県	21	ドイツ	エアフルト	10月 2日(火)～10月17日(水)	24
岩手県	31	スペイン	マラガ	10月11日(木)～10月26日(金)	21
岩手県	32	アメリカ(ﾜｼﾝﾄﾝ州)	ベリンガム	10月25日(木)～11月 9日(金)	21
宮城県	41	ｵｰｽﾄﾗﾘｱ(ﾆｭｰｻｳｽｳｪｰﾙｽﾞ州)	パラマッタ	11月 9日(金)～11月24日(土)	15
宮城県	42	タイ	サラブリ	11月 8日(木)～11月23日(金)	15
秋田県	51	中国	鄭州市	10月11日(木)～10月26日(金)	22
秋田県	52	タイ	ピサヌローク	11月 1日(木)～11月16日(金)	23
山形県	61	アメリカ(ｺﾛﾗﾄﾞ州)	ボールダー	9月27日(木)～10月12日(金)	20
◎福島県	71	ｶﾅﾀﾞ (ｹﾍﾞｯｸ州) ・ｱﾒﾘｶ(ｱﾘｿﾞﾅ州)	ｾﾝﾄﾋｴﾝｽ・ﾌｪﾆｯｸｽ	10月25日(木)～11月 9日(金)	21
◎福島県	72	オランダ／ハンガリー	エイントフォーベン／ブダペスト	10月25日(木)～11月 9日(金)	20
茨城県	81	オーストラリア(ﾋﾞｸﾄﾘｱ州)	ハミルトン	10月10日(水)～10月25日(木)	19
茨城県	82	アメリカ(ｶﾘﾌｫﾙﾆｱ州)	リバーサイド	10月11日(木)～10月26日(金)	18
茨城県	83	スペイン	シウダー・レアル	10月 9日(火)～10月24日(水)	19
茨城県	84	ドイツ	カールスルエ	10月10日(水)～10月25日(木)	19
茨城県	85	カナダ	ブラントフォード	10月11日(木)～10月26日(金)	19
栃木県	91	ドイツ(ﾊﾞｰﾃﾞﾝ゛ｳｪﾙﾃﾝﾌﾞﾙｸ州)	フォルツハイム	10月 4日(木)～10月19日(金)	20
栃木県	92	タイ	カンチャナブリ	11月 1日(木)～11月16日(金)	20
群馬県	101	カナダ(ｵﾝﾀﾘｵ州)	ハミルトン	10月11日(木)～10月26日(金)	22
群馬県	102	ポルトガル	ポルト	10月11日(木)～10月26日(金)	22
群馬県	103	ドイツ	ウルム	10月11日(木)～10月26日(金)	20
埼玉県	111	ドイツ (旧東)	コトブス	11月 8日(木)～11月23日(金)	15
埼玉県	112	カナダ (ｵﾝﾀﾘｵ州)	ロンドン	10月25日(木)～11月 9日(金)	14
千葉県	121	スペイン	サラゴーサ	10月25日(木)～11月 9日(金)	22
千葉県	122	アメリカ(ﾜｼﾝﾄﾝ州)	タコマ	10月 4日(木)～10月19日(金)	22
千葉県	123	ニュジーランド(北島)	タウポ	10月11日(木)～10月26日(金)	20
東京都	131	ベトナム／シンガポール	ホーチミン／シンガポール	10月18日(木)～11月 2日(金)	18
新潟県	151	タイ	コンケーン	11月 7日(水)～11月22日(木)	23
新潟県	152	アメリカ(ｱﾘｿﾞﾅ州)	メーサ	10月24日(水)～11月 8日(木)	23
富山県	161	ｱﾒﾘｶ(ｵﾚｺﾞﾝ州)／ｶﾅﾀﾞ(ｵﾝﾀﾘｵ州)	セイレム／キッチェナー	10月12日(金)～10月27日(土)	23
石川県	171	ドイツ	アウクスブルク	11月22日(木)～12月 7日(金)	20
石川県	172	カナダ	オタワ	11月22日(木)～12月 7日(金)	19
福井県	181	連合王国	イプスウィッチ	9月20日(木)～10月 5日(金)	19
山梨県	191	アメリカ(フロリダ州)	クリアウォーター	9月28日(金)～10月13日(土)	20
山梨県	192	フランス	マコン	10月12日(金)～10月27日(土)	22
山梨県	193	ｵｰｽﾄﾗﾘｱ(ﾆｭｰｻｳｽｳｪｰﾙｽﾞ州)	メートランド	11月 2日(金)～11月17日(土)	22
長野県	201	イタリア	ラティーナ	10月 4日(木)～10月19日(金)	19
岐阜県	211	連合王国	マンチェスター	10月 5日(金)～10月20日(土)	24
岐阜県	212	アメリカ	サンディエゴ	10月12日(金)～10月27日(土)	23
岐阜県	213	ドイツ	キール	9月28日(金)～10月13日(土)	23
静岡県	221	連合王国	レディング	9月20日(木)～10月 5日(金)	23
◎静岡県	222	アメリカ(ﾏｻﾁｭｰｾｯﾂ州)	フォールリバー	10月22日(月)～11月 6日(火)	23
三重県	241	オランダ	フローニンゲン	10月 4日(木)～10月19日(金)	16
三重県	242	カナダ(ｹﾍﾞｯｸ州)	ハル	10月18日(木)～11月 2日(金)	15
滋賀県	251	オーストリア	インスブルック	10月18日(木)～11月 2日(金)	19
滋賀県	252	アメリカ	アップルトン	9月20日(木)～10月 5日(金)	20
◎京都府	261	アメリカ(ﾏｻﾁｭｰｾｯﾂ州)	フラミンガム	11月 8日(木)～11月23日(金)	24
大阪府	271	ドイツ	ニュルンベルク	11月 8日(木)～11月23日(金)	15
兵庫県	281	スペイン	トレド	9月27日(木)～10月12日(金)	19
奈良県	291	アメリカ(ｺﾛﾗﾄﾞ州)	フォートコリンズ	10月11日(木)～10月26日(金)	20
奈良県	292	ベトナム	ダナン	11月 9日(金)～11月24日(土)	19
和歌山県	301	スペイン	グラナダ	10月31日(水)～11月15日(木)	23
島根県	321	連合王国		9月27日(木)～10月12日(金)	21
岡山県	331	ドイツ(旧東ｻﾞｸｾﾝ・ｱﾝﾊﾙﾄ州)	デッサウ	10月11日(木)～10月26日(金)	20
山口県	351	マレーシア	コタキナバル	10月11日(木)～10月26日(金)	22
徳島県	361	ドイツ	リール	9月27日(木)～10月12日(金)	17
徳島県	362	オーストラリア(ﾋﾞｸﾄﾘｱ州)	シェパートン	10月11日(木)～10月26日(金)	14
◎香川県	371	連合王国		10月25日(木)～11月 9日(金)	23
香川県	372	メキシコ	プエブラ	10月11日(木)～10月26日(金)	23
愛媛県	381	スペイン	レオン	10月10日(水)～10月25日(木)	20
愛媛県	382	オーストラリア(ﾋﾞｸﾄﾘｱ州)	バララット	12月 1日(土)～12月16日(日)	20
愛媛県	383	ニュジーランド(北島)	ヘイスティングス	9月13日(木)～ 9月28日(金)	20
高知県	391	ニュジーランド(南島)	ダニディン	10月25日(木)～11月 9日(金)	23
福岡県	401	オーストラリア(ﾋﾞｸﾄﾘｱ州)	ジーロング	10月18日(木)～11月 2日(金)	18
福岡県	402	アメリカ(ﾐｼｶﾞﾝ州)	ケントウッド	11月 1日(木)～11月16日(金)	15
福岡県	403	タイ	ナコーンパトム	9月 6日(木)～ 9月21日(金)	18
福岡県	404	チェコ	カルロビバリ	10月31日(水)～11月15日(木)	18
佐賀県	411	アメリカ(ﾐﾈｿﾀ州)	ダルース	10月18日(木)～11月 2日(金)	12
長崎県	421	チェコ	ブルゼニ	9月21日(金)～10月 6日(土)	20
長崎県	422	ギリシャ	パトラ	9月21日(金)～10月 6日(土)	20
大分県	441	連合王国	ブリストル	10月11日(木)～10月26日(金)	24
宮崎県	451	イタリア	フェルラーラ	10月17日(水)～11月 1日(木)	20
鹿児島県	461	イタリア／フランス	グロッセート／ルアン	10月11日(木)～10月26日(金)	23
沖縄県	471	ニュジーランド	タウランガ	10月30日(火)～11月14日(水)	22
小計	74団				1,479
ブロック団 (10月) オセアニア (北米)	511	ｵｰｽﾄﾗﾘｱ(ﾆｭｰｻｳｽｳｪﾙｽ州)	リズモア	10月17日(水)～11月 1日(木)	18
	531	ｵｰｽﾄﾗﾘｱ(ﾆｭｰｻｳｽｳｪﾙｽ州)	オレンジ	10月18日(木)～11月 2日(金)	19
	541	ニュージーランド (南島)	ネルソン	10月11日(木)～10月26日(金)	18
	551	ｵｰｽﾄﾗﾘｱ(ﾆｭｰｻｳｽｳｪﾙｽ州)	サザーランド	10月24日(水)～11月 8日(木)	15
	561	ｵｰｽﾄﾗﾘｱ(ﾆｭｰｻｳｽｳｪﾙｽ州)	ウランゴング	10月10日(水)～10月25日(木)	17
ブロック団 (11月①) アジア	512	タイ	ナコーンサワン	11月 8日(木)～11月23日(金)	18
	521	中国	大連	11月15日(木)～11月30日(金)	16
	532	タイ	ウドンターニ	11月15日(木)～11月30日(金)	18
	542	中国 (浙江省)	寧波	11月 8日(木)～11月23日(金)	17
	552	ベトナム	ハノイ	11月 8日(木)～11月23日(金)	16
ブロック団 (11月②) 北米	522	アメリカ(ｱﾘｿﾞﾅ州)	フラグスタッフ	11月21日(水)～12月 6日(木)	16
	533	アメリカ(ｱｰｶﾝｿｰ州)	リトルロック	11月 1日(木)～11月16日(金)	15
	543	メキシコ(ﾍﾞﾗｸﾙｽ州)	ハラパーエンリケス	11月 8日(木)～11月23日(金)	18
	544	ポルトガル	エストリル	11月 8日(木)～11月23日(金)	18
	553	アメリカ(ｱﾘｿﾞﾅ州)	スコッツデール	11月 8日(木)～11月23日(金)	17
	562	カナダ(ｵﾝﾀﾘｵ州)	オシャワ	11月 8日(木)～11月23日(金)	18
教育長団	611	—	—	—	—
養護教諭団	621	スイス	チューリヒ	11月15日(木)～11月30日(金)	19
栄養職員団	631	ハンガリー	セーゲシュフェヘールバール	10月 3日(水)～10月18日(木)	10
小計	18団				303
合計	92団				1,782

◎は中止

Ⅰ　研修概要

研修名	教職員派遣研修（若手派遣）						
研修目的（趣旨）	若手教員を連合王国，オーストラリア，ニュージーランド及びカナダに派遣し，教育活動への参加，家庭滞在等の実体験を通じて，国際的視野に立った識見及び教職に対する誇りと自覚を高めさせることにより，初等中等教育諸学校の国際化を推進するための中核となる教員の養成，確保を図る。						
対象	公立の小学校，中学校，高等学校，中等教育学校，盲学校，聾学校及び養護学校の教員（現職の英語教員は除く。）で２５歳以上３５歳以下の者。						
派遣期間	６０　日間	計画人数	７３人	受講者数	８３人	(参加率)	113.69 %
派遣国及び大学	カナダ（オンタリオ州） 連合王国 オーストラリア（クィーンズランド州）及びシンガポール オーストラリア（南オーストラリア州）及びタイ カナダ（ブリティッシュ・コロンビア州）						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変適切であった		おおむね適切であった		あまり適切でなかった		回答なし	
人数（人）	５８人	69.88%	２３人	27.71%	１人	1.20%	１人	1.20%

2．研修内容に関する主な意見

・訪問学校により，持てる授業数に差がみられた。
・訪問先国でのホームステイで，相手国の生活様式を直に体験でき有益であった。
・校種を問わず訪問できる機会を作っていただいたことはよかった。
・現地で授業をすることができ，子供たちとコミュニケーションをとることができ，感謝している
・最初の語学研修の時間がもう少し長いとよかった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

Ｈ１３教職員派遣研修（若手派遣）派遣団一覧

派遣種別	団名	派　遣　国	派　遣　州	派　遣　期　間	団員数	備　考
若手派遣	ON	カナダ	オンタリオ州	9月19日(水)～11月17日(土)	14	
	UK	連合王国		9月19日(水)～11月17日(土)	13	
	BC	カナダ	ﾌﾞﾘﾃｨｯｼｭ･ｺﾛﾝﾋﾞｱ州	9月24日(水)～11月22日(木)	14	
	QLD	豪州、(ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ)	クイーンズランド州	10月 2日(火)～11月30日(金)	14	
	SA	豪州、(ﾀｲ)	南オーストラリア州	10月 4日(木)～12月 2日(日)	14	
	NZ	ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ、(ﾏﾚｰｼｱ)		10月 9日(火)～12月 7日(金)	14	
計					83	

Ⅰ　研修概要

研修名	教職員派遣研修（日米国民交流・若手教員の米国派遣）						
研修目的（趣旨）	日米首脳会談（平成８年４月）による日米国民交流計画を推進するため，若手教員を米国に派遣し，学校，家庭，地域社会における両国若者の相互理解深化を図るための交流活動を通じて，国際的視野に立った識見及び教職に対する誇りと自覚を高めさせることにより，初等中等教育諸学校の国際化を推進するための中核となる教員の養成，確保を図る。						
対象	公立の小学校，中学校，高等学校，中等教育学校，盲学校，聾学校及び養護学校の教員（現職の英語教員は除く。）						
派遣期間	９０　日間	計画人数	１０６人	受講者数	１２１人	(参加率)	114.15 %
派遣国及び大学	アメリカの次の９州 コロラド，イリノイ，ミシガン，ミズーリ，オハイオ，オレゴン， バージニア，ウィスコンシン，メリーランド						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

		大変適切であった		おおむね適切であった		あまり適切でなかった		回答なし	
人数（人）	割合（%）	７７人	63.64%	４３人	35.54%	１人	0.82%	０人	0.00%

2．研修内容に関する主な意見

・ホームステイにより，アメリカの生活を体験でき，より理解が深まった。
・安定した地域だけでなく，低所得者の多い地域など，派遣国の厳しい面（課題面）も見てみたかった。
・大学でのオリエンテーションを１ヶ月間した後で学校研修となっていたので，アメリカの概要を知った上での学校研修は大変しやすかった。
・地域活動，ボランティアに十分時間がとってあったので充実していた。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

Ｈ１３教職員派遣研修（日米国民交流・若手教員の米国派遣）派遣団一覧

派遣種別	団名	派　遣　国	派　遣　州	派　遣　期　間	団員数	備　考
日米国民交流	CO	米国	コロラド州	9月19日(水)～12月10日(月)	14	７日間短縮
	MI	〃	ミシガン州	9月19日(水)～12月10日(月)	14	７日間短縮
	OH	〃	オハイオ州	9月19日(水)～12月16日(日)	13	１日間短縮
	IL	〃	イリノイ州	9月19日(水)～12月17日(木)	13	
	WI	〃	ウィスコンシン州	9月19日(水)～12月17日(木)	13	
	MD	〃	メリーランド州	9月19日(水)～12月17日(木)	12	
	OR	〃	オレゴン州	9月20日(木)～12月15日(土)	14	３日間短縮
	MO	〃	ミズーリ州	9月20日(木)～12月18日(火)	14	
	VA	〃	バージニア州	9月20日(木)～12月９日(日)	14	９日間短縮
計					121	

Ⅰ　研修概要

研修名	教職員派遣研修（英語担当派遣　１２月）						
研修目的（趣旨）	中学校及び高等学校において英語教育を担当する教員を１２か月間連合王国及びアメリカ合衆国に派遣し，大学等における英語能力及び英語教授法などに関する研修等を通じて指導力を高め，各都道府県・指定都市・中核市において指導的立場に立つ英語教員を育成し，もって我が国の英語教育の充実を図る。						
対象	中学校（盲学校，聾学校及び養護学校の中学部を含む）及び高等学校（盲学校，聾学校及び養護学校の高等部を含む）において英語教育を担当する専任教員（教育委員会及び教育センターの指導主事等を含む）で３０歳以上４０歳以下の者。						
派遣時期	平成　１３　年　４　月　　か　ら　　平成　１４　年　３　月						
派遣期間	１２　月　間	計画人数	107人(6か月研修を含む)	受講者数	116人(うち12か月派遣研修 20人)	(参加率)	108.0 %
派遣国及び大学	連合王国（バーミンガム大学） 連合王国（エジンバラ大学） アメリカ合衆国（ジョージタウン大学）　　以上の３大学						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

		大変適切であった		おおむね適切であった		あまり適切でなかった		回答なし	
人数（人）	割合（%）	16 人	80.00%	4 人	20.00%	0 人	0.00%	0 人	0.00%

2．研修内容に関する主な意見

・派遣先国の担当者は，過去の経験と日本の現状を踏まえて適切な指導をしてくれた。

・学校訪問は大変貴重な経験であったが，現地の教員と話す時間が少なく残念であった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度　教職員派遣研修（英語担当派遣）

英語１２か月

派遣国	大　　学	人数	派　遣　期　間	担当旅行業者	協力団体
イギリス	バーミンガム	5	４月２２日～　３月１８日	菱和ダイヤモンド	ＢＣ
	エジンバラ	5		日本通運	ｶｳﾝｼﾙ
アメリカ	ジョージタウン	10	４月１８日～　３月　６日	ＪＴＢ	ｶｳﾝｼﾙ
計		20			

英語：６か月

派遣国	大学	語学研修所	人数	派　遣　期　間	旅行業者	協力団体
イギリス	エセックス	ベル　ランゲッジ	4	６月２１日～１２月１３日	日本旅行	ＢＣ
		サウス　デボン	3			
		ベル　ランゲッジ	4		東急観光	
	リーズ	コルチェスター	3			
		ケンブリッジ	0		日本旅行	
		ピルグリムス	8			
	エクセター	スクール　オブ	4		東急観光	ｶｳﾝｼﾙ
		オックスフォード	3			
	ノッティンガム	スザンヌ	4		小田急トラベル	
		バース	4			
アメリカ	オハイオ州立	サンタバーバラ校	4	６月１４日～１２月　６日	日本通運	ｶｳﾝｼﾙ
		ボールダー校	4			
	テュレン	ペンシルバニア	3		近畿日本ツーリスト	
		ミネソタ大学	4			
	ウィスコンシン州立	サンディエゴ	4		近畿日本ツーリスト	
		ゴンザガ	4			
	テキサス	オレゴン州立	4		西武トラベル	ＩＳＡ
		カリフォルニア	3			
	カリフォルニア	デラウェア	4		ＪＴＢ	
		サウスカロライナ	4			
カナダ	アルバータ	オタワ大学	4	６月１４日～１２月　６日	西武トラベル	ｶｳﾝｼﾙ
		ブリティッシュ	3			
ｵｰｽﾄﾗﾘｱ	キャンベラ	クイーンズラン	3	６月１４日～１２月　６日	菱和ダイヤモンド	ｶｳﾝｼﾙ
		ラトローブ	4			
ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ	ｳｪﾘﾝﾄﾝｶﾚｯｼﾞ	マッセー	3	６月２１日～１２月１３日	小田急トラベル	ｶｳﾝｼﾙ
		ワイカト	4			
計			96			

Ⅰ　研修概要

研修名	教職員派遣研修（英語担当派遣　６月）						
研修目的（趣旨）	中学校及び高等学校において英語教育を担当する教員を６か月間アメリカ合衆国，連合王国，オーストラリア，ニュージーランド及びカナダに派遣し，大学等における英語能力及び英語教授法などに関する研修等を通じて指導力を高め，各都道府県・指定都市・中核市において指導的立場に立つ英語教員を育成し，もって我が国の英語教育の充実を図る。						
対象	中学校（盲学校，聾学校及び養護学校の中学部を含む）及び高等学校（盲学校，聾学校及び養護学校の高等部を含む）において英語教育を担当する専任教員（教育委員会及び教育センターの指導主事等を含む）で３０歳以上４０歳以下の者。						
派遣時期	平成　１３　年　６　月　　か　ら　　平成　１３　年　１２　月						
派遣期間	６　月　間	計画人数	107人（6か月研修を含む）	受講者数	116人（うち12か月派遣研修 20人）	（参加率）	108.0 %
派遣国及び大学	連合王国（エセックス大学，リーズ大学，エクセター大学，ノッティンガム大学） アメリカ合衆国（オハイオ州立大学，テュレン大学，ウィスコンシン州立大学，テキサス大学） アメリカ合衆国（カリフォルニア大学），カナダ（アルバータ大学） オーストラリア（キャンベラ大学） ニュージーランド（ウェリントンカレッジ大学）　以上１２大学						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変適切であった		おおむね適切であった		あまり適切でなかった		回答なし	
人数（人）	64 人	66.67%	31 人	32.29%	1 人	1.04%	0人	0.00%

2．研修内容に関する主な意見

・大学での研修については，講師陣および英語教育学に関わる講座ともにとても充実していた。また，学校訪問では入念な準備がなされており，研修先国の教育事情を知る上で大変有益であった。
・大学では日本人教師グループだけの授業が多かったので，他の学生との授業をより多く設定して欲しかった。
・派遣先の担当者が研修目的や現状について大変よく理解した上で研修プログラムを組んで下さったおかげで，短期間ながら密度の濃い大変有意義な研修をすることができた。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度　教職員派遣研修（英語担当派遣）

英語１２か月

派遣国	大　　学	人数	派　遣　期　間	担当旅行業者	協力団体
イギリス	バーミンガム	5	４月２２日～　３月１８日	菱和ダイヤモンド	ＢＣ
	エジンバラ	5		日本通運	ｶｳﾝｼﾙ
アメリカ	ジョージタウン	10	４月１８日～　３月　６日	ＪＴＢ	ｶｳﾝｼﾙ
計		20			

英語：６か月

派遣国	大学	語学研修所	人数	派　遣　期　間	旅行業者	協力団体
イギリス	エセックス	ベル　ランゲッジ	4	６月２１日～１２月１３日	日本旅行	ＢＣ
		サウス　デボン	3			
		ベル　ランゲッジ	4		東急観光	
	リーズ	コルチェスター	3			
		ケンブリッジ	0		日本旅行	
		ピルグリムス	8			
	エクセター	スクール　オブ	4		東急観光	ｶｳﾝｼﾙ
		オックスフォード	3			
	ノッティンガム	スザンヌ	4		小田急トラベル	
		バース	4			
アメリカ	オハイオ州立	サンタバーバラ校	4	６月１４日～１２月　６日	日本通運	ｶｳﾝｼﾙ
		ボールダー校	4			
	テュレン	ペンシルバニア	3		近畿日本ツーリスト	
		ミネソタ大学	4			
	ウィスコンシン州立	サンディエゴ	4		近畿日本ツーリスト	
		ゴンザガ	4			
	テキサス	オレゴン州立	4		西武トラベル	ＩＳＡ
		カリフォルニア	3			
	カリフォルニア	デラウェア	4		ＪＴＢ	
		サウスカロライナ	4			
カナダ	アルバータ	オタワ大学	4	６月１４日～１２月　６日	西武トラベル	ｶｳﾝｼﾙ
		ブリティッシュ	3			
ｵｰｽﾄﾗﾘｱ	キャンベラ	クイーンズラン	3	６月１４日～１２月　６日	菱和ダイヤモンド	ｶｳﾝｼﾙ
		ラトローブ	4			
ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ	ｳｪﾘﾝﾄﾝｶﾚｯｼﾞ	マッセー	3	６月２１日～１２月１３日	小田急トラベル	ｶｳﾝｼﾙ
		ワイカト	4			
計			96			

Ⅰ　研修概要

研修名	教職員派遣研修（理科教育）［科学教育研究室研究生］						
研修目的（趣旨）	小学校，中学校，高等学校，中等教育学校及び特殊教育諸学校の理科教育の担当教員に対し，理科教育に関する基礎的研究を行う機会を与え，もって理科教育担当教員の資質を向上し，その指導力の強化を図ることを目的とする。						
対象	小学校，中学校，高等学校，中等教育学校並びに盲学校，聾学校及び養護学校の小学部，中学部及び高等部の理科教育（算数・数学及び職業に関する教科教育を含む。）の担当教員。						
派遣期間	平成１３年４月から平成１４年３月までの間で、３月以上１２月以内の期間で研究生が選択	計画人数	８０　人	受講者数	７２　人	(参加率)	90.0 %
開催場所	派遣先の機関は，文部科学省が科学教育研究室の設置を承認した国立大学（３１大学）のうちから，研究生が選択する。（研究生毎の派遣期間及び派遣先は別紙のとおり）						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	32 人		12 人		0 人		1人	
割合（%）		71.11%		26.67%		0.00%		2.22%

2．研修内容に関する主な意見

・理科教材を開発するための，野外における専門的な調査研究は，ある程度まとまった時間が必要であり，今回の研修は大変貴重な経験となった。
・教材を深く掘り下げることにより，思ってもいなかった以上に多くの専門知識を得ることができ，生徒への指導に幅が持てるようになることが期待されるし，実際に有効であった。
・研修内容には満足していますが，後補充教員の措置が無く，学校の仕事に時間を取られたため，所期の目的が十分に達成できませんでした。
・教員現場とそれ以外の環境のギャップを肌で知ることができました。その上で，新しい知識や理論を学習でき，職務で新しい実践ができると考えています。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度　教職員派遣研修（理科教育）一覧

No	都道府県	大学名	人数	実験・非実験	派遣時期	期間	備考
1	北海道	北海道大学	5	実験	H13. 5. 1 ～ H14. 3.31	12	
				非実験	H13. 5. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 5. 1 ～ H14. 3.31	12	
				非実験	H13. 5. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 5. 1 ～ H14. 3.31	12	
2	宮城県	東北大学	2	実験	H13. 9. 1 ～ H14. 2.28	6	
				実験	H13. 9. 1 ～ H14. 2.28	6	
3	秋田県	秋田大学	2	実験	H13. 7. 1 ～ H13.12.31	6	
				実験	H13. 7. 1 ～ H13.12.31	6	
4	山形県	山形大学	3	実験	H13. 5. 1 ～ H13. 7.31	3	
				実験	H13. 5. 1 ～ H13.10.31	6	
				実験	H13.10. 1 ～ H13.12.31	3	
5	福島県	福島大学	6	実験	H13. 4. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 4. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 4. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 4. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 4. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 4. 1 ～ H14. 3.31	12	
6	栃木県	宇都宮大学	5	非実験	H13. 4. 1 ～ H13. 9.30	6	
				非実験	H13.10. 1 ～ H14. 3.31	6	
				非実験	H13.10. 1 ～ H14. 3.31	6	
				非実験	H13.10. 1 ～ H14. 3.31	6	
				非実験	H13. 4. 1 ～ H13. 9.30	6	
				実験	H13. 5. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 5. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 5. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 5. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 5. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 5. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 5. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 5. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 5. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 5. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 5. 1 ～ H14. 3.31	12	

平成１３年度　教職員派遣研修（理科教育）一覧

No	都道府県	大学名	人数	実験・非実験	派遣時期	期間	備考
7	神奈川県	横浜国立大学	23	実験	H13. 5. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 5. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 5. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 5. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 5. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 5. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 5. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 5. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 5. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 5. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 5. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 5. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 5. 1 ～ H14. 3.31	12	
8	石川県	金沢大学	5	実験	H13. 4. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 4. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 4. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 4. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 4. 1 ～ H14. 3.31	12	
9	長野県	信州大学	11	実験	H13. 4. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 4. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 4. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 4. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 4. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 4. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 4. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 4. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 4. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 4. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 4. 1 ～ H14. 3.31	12	
10	奈良県	奈良女子大学	1	実験	H13. 6. 1 ～ H14. 3.31	10	
11	鳥取県	鳥取大学	2	実験	H13. 4. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 4. 1 ～ H14. 3.31	12	
12	山口県	山口大学	1	実験	H13.11. 1 ～ H14. 1.31	3	
13	福岡県	福岡教育大学	1	実験	H13. 4. 1 ～ H14. 3.31	12	
14	熊本県	熊本大学	2	実験	H13. 4. 1 ～ H14. 3.31	12	
				実験	H13. 4. 1 ～ H14. 3.31	12	

平成１３年度　教職員派遣研修（理科教育）一覧

No	都道府県	大学名	人数	実験・非実験	派遣時期	期間	備考
15	大分県	九州工業大学	1	実験	H13. 4. 1 ～ H14. 3. 31	12	
16	宮崎県	東京工業大学	2	実験	H13. 10. 2 ～ H14. 3. 26	6	
				実験	H13. 10. 2 ～ H14. 3. 26	6	
		合計	72				

Ⅰ　研修概要

研修名	教職員派遣研修（産業教育）［産業教育内地留学生］						
研修目的（趣旨）	産業振興法の趣旨に基づき，中学校，高等学校又は中等教育学校において産業教育を担当する教員等を長期間にわたって大学その他産業教育に関する研修を行うにふさわしい施設に留学させ，産業教育に関する研修に専念させることを通じて，産業教育に関し必要な知識及び技術を習得させ，その資質の向上と指導力のかん養を図ることを目的とする。						
対象	中学校，高等学校又は中等教育学校において産業教育を担当している教諭，助教諭及び実習助手（産業教育の担当を予定される教諭，助教諭及び実習助手を含む。）並びに産業教育の指導に関する事務を担当している指導主事とする。						
派遣期間	派遣期間は平成１３年４月から平成１４年３月までの間で，３月以上１年未満の月数を内地留学生が設定。	計画人数	９３　人	受講者数	７０　人	(参加率)	75.3 %
開催場所	派遣先は，①及び②に該当する機関を，内地留学生が，自ら選択する。 ①　国立大学，短期大学（国立を除く），高等専門学校（国立を除く） ②　工場，農場，事務所，試験研究所その他産業教育に関する研修を行うにふさわしい施設 （内地留学生毎の派遣期間及び派遣先は別紙のとおり）						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	割合（%）	42 人	62.69%	25 人	37.31%	0 人	0.00%	0 人	0.00%

2．研修内容に関する主な意見

・学問的知識の取得と実社会の現状の把握の両面において，専門教育に必要な知識・技術を取得できた。
・研修先を決める際，手がかりが少なくて苦労した。相談にのってくれるところがあればさらに効率よく研修先を決められるのではないでしょうか。
・専門的な知識・技術だけではなく，職場を離れ客観的立場から学校教育を考え直すことができ，今後の教員生活の指針を見出すことができた。
・自分は後補充教員の制度があったため，学校の心配をあまりせずに参加できました。このような研修を先生方が学校の心配をすることなく数多く参加できるようにしていただきたいと思います。
・研究開発の最先端の現場で研修でき，学校現場では知ることのできない産業界の進んでいる方向性，これから必要とされていることなどを肌で感じることができた。

平成１３年度　教職員派遣研修（産業教育）　一覧

No	都道府県	派遣人数			派遣先					備考
			職名	担当教科	派遣先	学部・学科名	実験・非実験	派遣時期	期間	
1	岩手県	1	教諭	技術・家庭	岩手大学	教育学部	非実験	13.9.3 ～ 13.11.30	３か月	
2	宮城県	2	教諭	商業	東北大学	大学院経済学研究科	非実験	13.9.1 ～ 14.2.28	６か月	
			教諭	技術・家庭	東北大学	反応科学研究所	実験	13.9.1 ～ 14.2.28	６か月	
3	秋田県	2	教諭	技術・家庭	秋田大学	教育文化学部	実験	13.5.1 ～ 13.7.31	３か月	
			教諭	家庭	秋田大学	教育文化学部	実験	13.5.1 ～ 13.7.31	６か月	
4	山形県	1	教諭	工業	山形大学	大学院理工学研究科	実験	13.4.1 ～ 13.9.30	６か月	
		1	教諭	工業	東北芸術工科大学デザイン工学部		非実験	13.10.1 ～ 14.3.31	６か月	
5	福島県	2	教諭	農業	岩手大学	農学部	実験	13.4.2 ～ 14.3.29	１２か月	
			教諭	工業	東京工業大学	工学部	実験	13.4.2 ～ 14.3.29	１２か月	
6	栃木県	1	教諭	工業	宇都宮大学	工学部	実験	13.4.1 ～ 14.3.31	１２か月	
7	群馬県	1	教諭	技術・家庭	群馬大学	教育学部	実験	13.4.1 ～ 14.3.31	１２か月	
		1	教諭	農業	(財)自然環境研究センター		実験	13.4.1 ～ 13.9.30	６か月	
8	埼玉県	1	教諭	工業	東洋大学工学部		実験	13.4.1 ～ 14.3.31	１２か月	
9	千葉県	1	教諭	技術・家庭	千葉大学	教育学部	実験	13.7.1 ～ 13.9.30	３か月	
10	東京都	1	教諭	商業	東京学芸大学	教育学部	実験	13.4.1 ～ 14.3.31	１２か月	
11	神奈川県	2	教諭	商業	東京学芸大学	第３部	実験	13.4.1 ～ 14.3.31	１２か月	
			教諭	農業	千葉大学	園芸学部	実験	13.4.1 ～ 14.3.31	１２か月	
12	新潟県	2	教諭	商業	新潟大学	経済学部	非実験	13.10.1 ～ 13.12.31	３か月	
			教諭	工業	新潟大学	工学部	実験	13.9.1 ～ 13.11.30	３か月	
13	富山県	1	教諭	工業	富山大学	工学部	実験	13.4.23 ～ 13.9.21	６か月	
14	石川県	2	教諭	工業	雇用促進事業団 石川職業能力開発短期大学校		実験	13.4.1 ～ 14.3.31	１２か月	
			教諭	商業	雇用促進事業団 石川職業能力開発短期大学校		実験	13.4.1 ～ 14.3.31	１２か月	
15	山梨県	2	教諭	農業	山梨大学	教育人間科学部	実験	13.4.1 ～ 14.3.31	１２か月	
			教諭	工業	山梨大学	教育人間科学部	実験	13.4.1 ～ 14.3.31	１２か月	
16	長野県	2	教諭	商業	山梨大学	教育学部	実験	13.10.1 ～ 14.3.31	６か月	
			教諭	工業	信州大学	工学部	実験	13.10.1 ～ 14.3.31	６か月	

平成１３年度　教職員派遣研修（産業教育）　一覧

No	都道府県	派遣人数	職名	担当教科	派遣先	学部・学科名	実験・非実験	派遣時期	期間	備考
17	岐阜県	2	教諭	農業	岐阜大学	農学部	実験	13.6.1 ～ 13.8.31	３か月	
			教諭	工業	名古屋大学	先端技術共同研究センター	実験	13.7.2 ～ 13.9.29	３か月	
18	静岡県	2	教諭	家庭科	静岡大学	教育学部	非実験	13.4.1 ～ 13.9.30	６か月	
			教諭	技術	静岡大学	教育学部	実験	13.10.1 ～ 14.3.31	６か月	
		1	教諭	農業	静岡県茶業試験場		実験	13.11.1 ～ 14.3.31	５か月	
19	愛知県	2	教諭	商業	名古屋市立大学経済学部		非実験	13.10.1 ～ 13.12.27	３か月	
			教諭	看護	藤田保健衛生大学衛生学部		実験	13.6.1 ～ 13.12.25	６か月	
20	三重県	1	教諭	商業	三重大学		実験	13.10.1 ～ 14.3.31	６か月	
21	滋賀県	2	教諭	商業	京都大学	経済学部	非実験	13.4.1 ～ 14.3.31	１２か月	
			教諭	工業	京都工芸繊維大学	工芸学部	実験	13.4.1 ～ 14.3.31	１２か月	
22	京都府	1	教諭	商業	京都教育大学	教育学部	非実験	13.4.1 ～ 14.3.31	１２か月	
		1	教諭	商業	日本電気株式会社 関西ソリューション本部		非実験	13.4.1 ～ 13.9.30	６か月	
23	大阪府	1	教諭	工業	京都工芸繊維大学	大学院 工芸科学研究科	実験	13.4.1 ～ 14.3.31	１２か月	
		1	教諭	農業	大阪府立大学 大学院農学生命科学研究科		実験	13.4.1 ～ 14.3.31	１２か月	
24	兵庫県	1	教諭	農業	兵庫県立中央農業技術センター （生物工学研究所）		実験	13.9.5 ～ 13.11.30	３か月	
25	和歌山県	1	教諭	工業	独立行政法人航空宇宙技術研究所		実験	13.4.1 ～ 14.3.31	１２か月	
26	鳥取県	2	教諭	農業	鳥取大学	農学部	実験	13.10.1 ～ 14.3.31	６か月	
			教諭	工業	鳥取大学	教育地域科学部	実験	13.4.1 ～ 14.3.31	１２か月	
27	島根県	2	教諭	農業	島根大学	生物資源科学部	実験	13.4.1 ～ 14.3.31	１２か月	
			教諭	工業	島根大学	総合理工学部	実験	13.4.1 ～ 14.3.31	１２か月	
28	岡山県	2	教諭	工業	岡山大学	工学部	実験	13.4.1 ～ 14.3.31	１２か月	
			教諭	農業	岡山大学	農学部	実験	13.4.1 ～ 14.3.31	１２か月	
29	広島県	1	教諭	農業	独立行政法人酒類総合研究所		実験	13.4.1 ～ 14.3.31	１２か月	

平成１３年度　教職員派遣研修（産業教育）　一覧

No	都道府県	派遣人数	職名	担当教科	派遣先	学部・学科名	実験・非実験	派遣時期	期間	備考
30	山口県	2	教諭	工業	山口大学	工学部	実験	13.9.1 ～ 13.11.30	３か月	
			教諭	技術・家庭	山口大学	教育学部	実験	13.5.1 ～ 13.7.31	３か月	
31	徳島県	1	教諭	農業	徳島大学	薬学部	実験	13.4.1 ～ 14.3.31	１２か月	
32	香川県	2	教諭	工業	香川県産業技術センター		実験	13.6.1 ～ 13.8.31	３か月	
			教諭	農業	農林水産省農業者大学校 常緑果樹農業研修所		実験	13.12.1 ～ 14.2.28	３か月	
33	愛媛県	1	教諭	農業	東京農工大学	農学部	実験	13.7.1 ～ 13.9.30	３か月	
		1	教諭	工業	愛媛県繊維産業試験場		実験	13.7.1 ～ 13.9.30	３か月	
34	高知県	2	教諭	農業	高知大学	農学部	実験	13.4.1 ～ 13.9.30	６か月	
			教諭	農業	高知大学	農学部	実験	13.10.1 ～ 14.3.31	６か月	
35	福岡県	1	教諭	商業	九州大学	大学院　システム情報科学研究科	非実験	13.4.1 ～ 14.3.31	１２か月	
36	佐賀県	2	教諭	農業	佐賀大学	農学部	実験	13.10.1 ～ 14.3.31	６か月	
			教諭	工業	佐賀大学	理工学部	実験	13.4.1 ～ 13.9.30	６か月	
37	熊本県	1	教諭	家庭	熊本大学	教育学部	非実験	13.10.1 ～ 14.3.31	６か月	
		1	教諭	農業	ワールドグリーン株式会社		実験	13.10.1 ～ 14.3.31	６か月	
38	大分県	1	教諭	商業	大分大学	経済学部	非実験	13.4.1 ～ 14.3.31	１２か月	
		1	教諭	家庭	別府女子短期大学 服飾デザイン学科		実験	13.4.1 ～ 14.3.31	１２か月	
39	宮崎県	2	教諭	技術・家庭	宮崎大学	教育文化学部	実験	13.5.7 ～ 13.7.31	３か月	
			教諭	技術・家庭	宮崎大学	教育文化学部	実験	13.5.7 ～ 13.7.31	３か月	
40	鹿児島県	2	教諭	工業	熊本大学	工学部	実験	13.12.1 ～ 14.2.28	３か月	
			教諭	家庭	お茶の水女子大学	生活科学部	非実験	13.10.1 ～ 13.12.28	３か月	
41	沖縄県	1	教諭	農業	株式会社名城		実験	13.9.1 ～ 13.11.30	３か月	
	合計	70								

※　派遣人数欄の網掛けは，産業界への派遣を示す。

Ⅰ　研修概要

研修名	進路指導講座（東日本地区）						
研修目的（趣旨）	各都道府県教育委員会の進路指導担当指導主事及び中学校・高等学校の進路指導主事等に対して、進路指導に必要な専門的知識と技術を習得させ、各都道府県及び各学校における進路指導の中核となる者としての資質の向上を図り、もって中学校及び高等学校における進路指導の充実に資するものとする。						
対象	各都道府県教育委員会の進路指導担当指導主事及び中学校（中等教育学校前期課程を含む。）・高等学校（中等教育学校後期課程含む。）の進路指導主事またはこれに準ずる者						
開催期日	平成 13 年 6 月 25 日（月）～ 平成 13 年 6 月 29 日（金）						
開催日数	5 日間	計画人数	115 人	受講者数	97 人	(参加率)	84.35 %
開催場所	筑波大学						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	19 人	20.00%	74 人	77.89%	2 人	2.11%	0 人	0.00%

2．研修内容に関する主な意見

- カウンセリングに十分時間をとってあったのですぐに実践できる。
- 現代の青少年を取りまく状況についてしれたことが良かった。
- 他県の人と交流ができ、全国の多様な教育に関する状況、進路指導に関する情報を得ることができた。
- 体系的に進路指導について学べた。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

進路指導講座　日程表

A…… 大学会館国際会議室
B…… 大学会館特別会議室
C…… 大学会館第三会議室

月/日 (曜日)	9:10 9:40	10:40	10:50	12:20	13:20	14:50	15:00 15:20	15:30	16:30	17:00
6/25 (月)		A 受付	A 開講式 オリエンテーション		① (講義) A 現代の青少年と教育の課題 門脇		② (講義) A 教育改革の進展と進路指導の新たな展開 文部科学省〔板橋〕			懇親会 (大学会館)
6/26 (火)	③ (講義) A 中・高等学校卒業者の進路状況と進路指導の課題 文部科学省〔板橋〕		④ (講義) A 最近の雇用情勢と企業の求める人材 大江		⑤ (演習) A (中・高) 計画的，組織的な進路指導の実践 ―第1分科会 佃，茨城県〔戸塚〕		⑥ (講義) A 進路指導における中学校と高等学校との連携 鹿嶋			
					⑤ (演習) B (中・高) 計画的，組織的な進路指導の実践 ―第2分科会 水本，茨城県〔中川〕					
6/27 (水)	⑦ (講義) A 進路指導におけるジェンダー・イシュウ 藤田		⑧ (講義) A 進路相談の理論と方法 内田		⑧ (演習) B C 進路相談ーカウンセリングの実際・その1 内田 高成田					
6/28 (木)	9:10			12:20	13:20	14:20	14:30		16:30	
	⑩ (演習) B C 進路相談ーカウンセリングの実際・その2 内田 高成田				⑪ (講義) A キャリア・カウンセリングの実践 大池		⑫ (演習) A (中) 学級活動等における進路学習の年間指導計画とその工夫・改善 藤田，茨城県〔戸塚〕			
							⑫ (演習) B (高) ホームルーム活動等における進路学習の年間指導計画とその工夫・改善 飯田，茨城県〔秋山〕			
6/29 (金)	⑬ (演習) A (中) 保護者・地域とともに進める進路指導の実践 吉田				⑭ (協議) A 研修の成果と今後の課題 門脇		A 閉講式			
	⑬ (演習) B (高)「産業社会と人間」の実践 服部									

Ⅰ　研修概要

研修名	進路指導講座（西日本地区）						
研修目的（趣旨）	各都道府県教育委員会の進路指導担当指導主事及び中学校・高等学校の進路指導主事等に対して、進路指導に必要な専門的知識と技術を習得させ、各都道府県及び各学校における進路指導の中核となる者としての資質の向上を図り、もって中学校及び高等学校における進路指導の充実に資するものとする。						
対象	各都道府県教育委員会の進路指導担当指導主事及び中学校（中等教育学校前期課程を含む。）・高等学校（中等教育学校後期課程含む。）の進路指導主事またはこれに準ずる者						
開催期日	平成 13 年 6 月 4 日（月）～ 平成 13 年 6 月 8 日（金）						
開催日数	5 日間	計画人数	120 人	受講者数	111 人	(参加率)	92.5 %
開催場所	広島大学						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	17 人	18.68%	66 人	72.53%	7 人	7.69%	1 人	1.10%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

- 社会が急速に変化していくなか、現在、そして今後の進路指導のあり方について考えることができた。
- タイムリーなテーマ、内容が多く、また、講義にのみ偏らず、演習や意見交換があったので大変有意義でした。
- 各学校の発表後、講座の方向性（今後どのように各自取り組んでいけばよいか）をもっと明確に示して欲しかった。
- 企業の現状、求めるもの、大学や高校、中学校それぞれの立場での進路指導の現状と課題が分かるような内容のものは一貫した進路指導をしていくために続けてほしい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成13年度　進路指導講座　日程表

月日 / 時間	6月4日（月）	6月5日（火）	6月6日（水）	6月7日（木）	6月8日（金）
9：00	受　付	4．中・高（演習） 計画的・組織的な進路指導の実践 －第1分科会－ 曽余田浩史（大講義室）	7．（講義） 最近の雇用情勢と企業の求める人材 田中秀利（大講義室）	10．（演習） 進路相談－カウンセリング－の実際・その1 鈴木康之（大講義室）	12．（講義） 進路保障 原田彰（大講義室）
30	開講式 オリエンテーション （大講義室）	中・高（演習） 計画的・組織的な進路指導の実践 －第2分科会－ 板橋孝志（視聴覚教室）			
10：00					
30	1．（講義） 現代教育の課題 利島保（大講義室）		8．中（演習） 保護者・地域とともに進める進路指導の実践 河原純一郎（大講義室） 高（演習） 「産業社会と人間」の実践 板橋孝志（視聴覚教室）		13．（協議） 研修の成果と今後の課題 一丸藤太郎（大講義室）
11：00		5．（講義） 中学校と高等学校の連携 （ガイダンスの意義と必要性） 板橋孝志（大講義室）			
30					
12：00					閉講式（修了証書授与）（大講義室）
30					
13：00	2．（講義） 教育改革の進展と進路指導の新たな展開 板橋孝志（大講義室）	6．中（演習） 学級活動等における進路学習の年間指導計画とその工夫・改善 深澤広明（大講義室） 高（演習） ホームルーム活動等における進路学習の年間指導計画とその工夫・改善 板橋孝志（視聴覚教室）	8．のつづき 河原純一郎（大講義室） 板橋孝志（視聴覚教室）	11．（演習） 進路相談－カウンセリング－の実際・その2 菅野信夫（大講義室）	
30					
14：00					
30					
15：00	3．（講義） 中・高等学校卒業者の進路状況と進路指導の課題 板橋孝志（大講義室）	意見交換 一丸藤太郎（大講義室）	9．（講義） 進路相談の理論と方法 石井眞治（大講義室）		
30					
16：00					
15	資料交換（K104講義室）	自主的交流	自主的交流	自主的交流	

Ⅰ　研修概要

研修名	公立高等学校事務職員幹部研修講座						
研修目的（趣旨）	公立高等学校の事務職員で指導的立場にある者に必要な研修を行い、事務職員の資質の向上と学校事務の効率的な運営に資する。						
対象	公立高等学校において事務長等指導的立場にある事務職員						
開催期日	平成 13 年 6 月 18 日（月）～ 平成 13 年 6 月 22 日（金）						
開催日数	5 日間	計画人数	100 人	受講者数	97 人	(参加率)	97.00 %
開催場所	独立行政法人　教員研修センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	34 人	35.79%	52 人	54.74%	2 人	2.11%	7 人	7.37%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

・講義の時間設定がちょうど良いと感じた。民間の方の講義は新鮮味があり学校現場においても役立つことが多かった。
・班別討議の時間をもっと長くした方が良かった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度公立高等学校事務職員幹部研修講座日程表

月日						
平成13年 6 月 １８日 （月）				13:00	14:00 受付	14:30 開講式
					講演① 「高等学校における生徒指導上の諸問題」 香川大学教育学部附属教育実践総合センター 教授　七條正典	15:30 生活オリエンテーション
						16:30 学習委員会 フロアリーダー会
				レセプションホール		
	9:00		12:00		13:30	17:30
１９日 （火）	9:30 資料交換	10:40 講義① 「教職員定数の改善について」 文部科学省初等中等教育局財務課教職員配置計画専門官　松浦晃幸	10:50 講演② 「企業における人材育成」 横浜ベイシェラトンホテル＆タワーズ 研修担当ディレクター 袖山雅弘	昼食	施設見学 A班：13:15発　筑波技術短期大学 B班：13:35発　図書館情報大学	16:30 班別討議事前打合せ ・各班の司会者、記録者、全体会司会者のみ
	各会場※	講堂	講堂		正面玄関より出発	研修棟103室
	9:00		12:00		13:30	16:30
２０日 （水）	班別討議①「学校予算の在り方について」/「地域コミュニティの拠点としての学校の活用について」 （指導助言） 第1班：東京都立九段高等学校事務長　湯田省三　第4班：東京都立荒工業高等学校事務長　小柳博隆 第2班：群馬県立太田高等学校事務部長　大杉幸一　第5班：茨城県立水戸第一高等学校副参事兼事務室長　川内雄宏 第3班：東京都立青山高等学校事務長　神保勇　第6班：千葉県立銚子商業高等学校事務長　阿玉新一			昼食	班別討議②「学校予算の在り方について」/「地域コミュニティの拠点としての学校の活用について」 （指導助言）同左	
	各会場※				各会場※	
	9:00		12:30		14:00	15:10
２１日 （木）	班別討議③（まとめと全体発表） （指導助言）同上			昼食	講演③ 「ストレスマネジメント」 株式会社東京ストレスマネジメント 企画グループチーフ 渡辺章二	15:20 講演④ 「学校事務職員に期待するもの」茨城県教育研修センター　研究調査員 （前　茨城県高等学校長協会会長） （前　茨城県立土浦第一高等学校長） 長瀬宗男
	レセプションホール				レセプションホール	レセプションホール
	9:00		12:00			
２２日 （金）	10:10 講義② 「学校教育の課題と動向」 文部科学省初等中等教育局 視学官 宮川八岐	10:20 講演⑤ 「未来の情報社会」 株式会社ＮＴＴデータ 公共営業本部第二企画 開発部長　加藤治彦	11:30 閉講式			
	レセプションホール	レセプションホール				

※　１班：102室　２班：103室　３班：104室　４班：105室　５班：106室　６班：107室（全て研修棟１階）

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（指導主事－全国１講座）						
研修目的（趣旨）	各都道府県，市町村が実施する情報教育に関する研修の指導者を養成するための研修						
対象	都道府県・市町村教育委員会の指導主事						
開催期日	平成 １３ 年 ５ 月 ２１ 日（月） ～ 平成 １３ 年 ５ 月 ２５ 日（金）						
開催日数	５ 日間	計画人数	５０ 人	受講者数	３１ 人	(参加率)	62.00 %
開催場所	独立行政法人　教員研修センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	７ 人	22.60%	１９ 人	61.30%	０ 人	0.00%	５ 人	16.10%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

（1）感想
・具体的，専門的講義を聴けて大変勉強になった。（４人）
・こちらが期待していた内容で，充実した研修であった。（２人）
・教育の情報化の必要性を改めて感じた。（２人）
・演習内容などは各都道府県の教育研修センターの情報関係の講座で使えるものなので参考になった。（２人）
・ヒューマンネットワークができてよかった。（２人）
・他県の先生方と情報交換ができて大変有意義であった。（２人）

（2）要望・改善点等
・衛星配信を意識した講義のためか，具体的な説明がもう少しほしいと思われる箇所があった。（４人）
・演習を主体にしていただけると，さらにわかりやすくなるのではないか。（３人）
・各県の情報教育の現状を検討する時間が足りない。／資料が整理されたかたちで入手できるとよい。（２人）
・グループ単位で話し合う時間やＱ＆Ａの時間が足りない。（２人）

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

日　程

	午　前		午　後		
	9:30	12:00	13:20　14:50	15:00　16:30	17:30
第１日 5/ 21 （月）	10:30　受　付 11:00　ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ　（研修室101） 11:30　開　講　式（研修室101） 12:00～19:00　シーツ等受領 （第２宿泊棟１Ｆリネン室）		【講義】★衛星 教育の情報化に 関する国の施策 （研修室１０１） 文部科学省 初等中等教育局参事官付 情報教育調査官 梅澤　敦	【講義】★衛星 新学習指導要領 における情報化 への対応 （研修室１０１） 国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官 中村　一夫	機器説明 自由研究 （情報教育研修室１）
第２日 5/ 22 （火）	【講義・討議】 情報教育研修の実際と情報交換 授業設計 （研修室１０１） 東京都台東区立忍岡中学校 教諭 前田　光男		【講義】 ネットワークの基礎知識とセキュリティの実際 （研修室１０１） 日本電気㈱ 文教ｿﾘｭｰｼｮﾝ事業部主任 井上　義裕		自由研究 （情報教育研修室１）
第３日 5/ 23 （水）	【講義】★衛星 情報モラルの理解と指導 （情報教育研修室１） 千葉学芸高等学校 校長 理博　高橋 邦夫		【講義・演習】 学校における情報コーディネータの役割 （コンサルテーションを含む） （情報教育研修室１） つくば市教育委員会 指導主事 毛利　靖		自由研究 （情報教育研修室１）
第４日 5/ 24 （木）	【講義・演習】★衛星 情報教育の研修のあり方と実際 （研修室１０１→衛星配信終了後，情報教育研修室１に移動） 金沢大学 教育学部 助教授 中川　一史				自由研究 （情報教育研修室１）
第５日 5/ 25 （金）	【講義】★衛星　～11:30 外部人材の活用及びボランティアの受け入れ （研修室１０１） 柏市立教育研究所指導主事 西田　光昭	8:00～ 8:30　ｼｰﾂ等返納（第2宿泊棟1Ｆﾘﾈﾝ室）、 11:45 ｱﾝｹｰﾄ回収（研修室１０１） ～　閉講式　（　〃　） 12:00(修了証書授与，主催者あいさつ，受講者代表あいさつ) 解散			

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（指導主事－全国２講座）						
研修目的（趣旨）	各都道府県，市町村が実施する情報教育に関する研修の指導者を養成するための研修						
対象	都道府県・市町村教育委員会の指導主事						
開催期日	平成 １３ 年 ９ 月 ３ 日（月）～ 平成 １３ 年 ９ 月 ７ 日（金）						
開催日数	５ 日間	計画人数	５０ 人	受講者数	３０ 人	(参加率)	60.00 %
開催場所	独立行政法人　教員研修センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	割合（%）	１２ 人	40.00%	１６ 人	53.00%	１ 人	3.00%	１人	3.00%

2．研修内容に関する主な意見

（1）感想
・研修内容が自分に必要とする情報で，職場で活用できるので大変有意義であった。（１２人）
・他県の先生方と情報交換や交流ができてよかった。（９人）
・普段考えていたことや疑問が研修を通して解決できた。（２人）
・諸外国の情報教育の現状が参考になった。

（2）要望・改善点等
・講師間で若干，内容の重複が見られた。（５人）
・演習の時間をもっと増やしてほしい。（５人）
・研修前に宿題として「研修計画」を立ててくれれば，もっと深まった討論になったのではないか。
・「ネットワークの基礎知識～」については，もう少し専門的な話が聴きたかった。
・来年度以降もこの研修が続くことを望む。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

日　程

日時	9:00	12:00	13:00	14:50	15:00	16:30	19:00
9／3（月）	１０：３０～ 受　　付（図書館棟入口） １１：００～ ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ（　※　A　） １１：３０～ 開 講 式（　〃　） １２：００～１９：００ シーツ等交換 （第２宿泊棟１Ｆリネン室）		【講義】　※A 教育の情報化に関する国の施策 文部科学省初等中等教育局参事官付 情報教育係長 太田　知啓		【講義】　※A 新学習指導要領における情報化への対応 国立教育政策研究所教育課程研究センター 教育課程調査官 中村　一夫		※B 機器説明 自由研究
9／4（火）	【講義・演習】※B 情報教育研修の実際と情報交換	【講義】　※B 授業設計と教材作成について 園田学園女子大学 助教授　原　克彦	【講義】　※B ネットワークの基礎知識とセキュリティの実際 日本電気㈱ 文教ｿﾘｭｰｼｮﾝ事業部 主任　井上　義裕				※B 自由研究
9／5（水）	【講義】　※ 情報モラルの理解と指導 広島大学 文学部 教授　越智　貢		【講義・演習】　※B 学校における情報コーディネータの役割 （コンサルテーションを含む） つくば市教育委員会 指導主事　毛利　靖				※B 自由研究
9／6（木）	【講義】　※B 校内研修の進め方 岐阜大学 教育学部 附属中学校 副校長　井上　志朗		【演習（班別）】　※B 校内研修案の作成				※B 自由研究
9／7（金）	【講義】　～１１：３０　※B 外部人材の活用及びボランティアの受け入れ 柏市立教育研究所 指導主事　西田　光昭		８：００～８：３０ シーツ等返納 （第２宿泊棟１Ｆリネン室） １１：４０～１１：５０ 閉　講　式　※A アンケート回収 解　　散				

※研修室：　研修棟 １０１研修室＝A、特別研修棟 情報教育研修室１＝B

Ⅰ　研修概要

研 修 名	教育情報化推進指導者養成研修（小学校－全国１講座）						
研修目的（趣旨）	各都道府県，市町村が実施する情報教育に関する研修の指導者を養成するための研修						
対 象	国・公立の小学校の教員						
開催期日	平成 １３ 年 ６ 月 ４ 日（月）～ 平成 １３ 年 ６ 月 ８ 日（金）						
開催日数	５ 日 間	計画人数	５０ 人	受講者数	４９ 人	(参加率)	98.00 %
開催場所	独立行政法人　教員研修センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	割合（%）	１６ 人	32.60%	２６ 人	53.10%	４ 人	8.20%	３ 人	6.10%

2．研修内容に関する主な意見

（1）感想
・人的ネットワークができてよかった。／他県の様子が聴けてよかった。（１４人）
・グループ討議や演習など，じっくり取り組める時間がほしかった。（１４人）
・従来の１０日間の日程が５日間に減り，研修内容も駆け足で進んだという印象が強い。（１２人）
・研修内容が充実していた。／現場で使える方法や内容が意図的に計画されており良かった。（１２人）
・情報教育推進の必要性を十分に感じた。／推進者として何を研修すべきかがわかった。（９人）

（2）要望・改善点等
・グループのメンバーが毎回異なってもよいのではないか。／役割分担が固定してしまった。（３名）
・各講師が同じ内容を繰り返す場面があり，もう少し連携をうまくやってほしい。（３名）
・インターネット回線を太くしたり，記録媒体が自由に使えるなどの環境を整えて欲しい。（２名）
・小学校は女性の教員が大半を占めているので，せひ女性の参加を呼びかけるように工夫をしてほしい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

日　程

	午　前 9:30	12:00	午　後 13:20	14:50	15:00	16:30	19:00
第１日 6/ 4 (月)	10:30　受　付 11:00　ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ　（１０１研修室） 11:30　開　講　式（１０１研修室） （主催者あいさつ，担当者紹介） 12:00～19:00　シーツ等受領 （第２宿泊棟１Ｆリネン室）		【講　義】 情報教育の内容理解 （情報教育研修室１） 上越教育大学教授 南部　昌敏		【講　義】 授業設計と教材作成		機器説明 自由研究
第２日 6/ 5 (火)	【講義・演習】 校内研修の在り方と情報交換 （情報教育研修室１） 東京都江東区立第三砂町小学校教諭 田中　克昌		【講　義】 インターネットと著作権，情報モラル		【講　義】 新学習指導要領における情報化への対応 （１０１研修室） 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部 教育課程調査官 中村　一夫		自由研究
第３日 6/ 6 (水)	【講義・演習】 教材作成 プリント教材 マルチメディア教材 （情報教育研修室１） 筑波大学附属駒場中・高等学校教諭 市川　道和		プレゼンテーション 発表と相互評価				自由研究
第４日 6/ 7 (木)	【講義】 コンサルテーション Ｑ＆Ａ集　Ａの作成 （情報教育研修室１） 国立教育政策研究所総括研究官 堀口　秀嗣		【演習（班別）】 コンサルテーション協議		【講義】 校内研修の進め方 （情報教育研修室１） 東京都台東区立 忍岡中学校教諭 前田　光男		自由研究
第５日 6/ 8 (金)	【講義・演習】～11:25 校内研修案の作成と発表 （情報教育研修室１ →１０１研修室） 東京都台東区立忍岡中学校 教諭　前田　光男		8:00～ 8:30　シーツ等返納（第２宿泊棟１Ｆリネン室） ※宿泊室の鍵，退所点検表，荷物は１０１研修室へ 11:25　アンケート回収 11:30　閉　講　式（１０１研修室） （修了証書授与，主催者あいさつ，来賓あいさつ 受講者代表あいさつ）				

※講師及び講義内容については、変更することがあります。

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（小学校－全国２講座）						
研修目的（趣旨）	各都道府県，市町村が実施する情報教育に関する研修の指導者を養成するための研修						
対象	国・公立の小学校の教員						
開催期日	平成　１３　年　８　月　２０　日（月）～ 平成　１３　年　８　月　２４　日（金）						
開催日数	５　日間	計画人数	５０人	受講者数	５０人	(参加率)	100.00 %
開催場所	独立行政法人　教員研修センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	１５人	30.00%	３１人	62.00%	０人	0.00%	４人	8.00%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

（1）感想
・講義や演習など，研修の時間が足りない。（１１名）
・先進校など多くの情報が得られて良かった。（８名）
・全国の先生方と交流を深めることができてよかった。（８名）
・情報教育に対する考え方が大きく変わり勉強になった。（４名）
・ＣＤ－ＲＯＭを使っての自学形式が目新しかった。（４名）
・ＣＤ－ＲＯＭは今後役に立ちそうである。（２名）
・ＣＤ－ＲＯＭを使っての講義はつらい。（２名）
・講義中心ではなく演習が多いので積極的に参加できた。（２名）
・講師陣の新しい切り口による研修の進め方に驚いた。

（2）要望・改善点等
・講師の先生方の話がダブらないようにしてほしい。（２名）
・質問の時間をもっと取ってほしい。
・課題解決型の研修にした方がよい。
・技術的な内容について研修したかった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

日　程

（小学校－全国２講座）

日時	午前 9:00		午後 13:00	14:50	15:00	16:30	19:00
8／20（月）	10:30 受　付（図書館棟入口） 11:00 オリエンテーション（研修棟101研修室） 11:30 開講式（〃）		【講義】 CD-ROMの使い方、情報化の方向性、情報化社会と教育		【講義】 情報教育を支える技術と課題 情報教育の内容理解		機器説明 自由研究
会場			情報教育研修室１				
講師等			岩手県立大学ソフトウェア情報学部 教授　鈴木克明				
8／21（火）	【講義】 授業設計と教材作成	【講義・演習】 情報倫理とプライバシー	【講義】 コンピュータやインターネットの教育利用		【講義】 新学習指導要領における情報化への対応		自由研究
会場	情報教育研修室１				研修棟101研修室		
講師等	岩手県立大学ソフトウェア情報学部 教授　鈴木克明				国立教育政策研究所教育課程研究センター 教育課程調査官 中村一夫		
8／22（水）	【講義・演習】 教材作成 プリント教材，マルチメディア教材		【講義・演習】 プレゼンテーション 発表と相互評価		【講義】 コンサルテーション はじめに		自由研究
会場	情報教育研修室１						
講師等	岡山市教育委員会 指導係長　青木　将						
8／23（木）	【講義】 コンサルテーション Q＆A集　Aの作成		【演習（班別）】 コンサルテーション協議		【講義】 校内研修の進め方		自由研究
会場	情報教育研修室１				情報教育研修室１		
講師等	つくば市教育委員会 指導主事　毛利　靖				東京都江東区立第三砂町小学校 教諭　田中克昌		
8／24（金）	【講義・演習】　～11：30 校内研修案の作成と発表		11:40 閉講式				
会場	情報教育研修室１		研修棟１０１研修室				
講師等	東京都江東区立第三砂町小学校 教諭　田中克昌						

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成研修（中学校・高等学校－全国講座）						
研修目的（趣旨）	各都道府県，市町村が実施する情報教育に関する研修の指導者を養成するための研修						
対象	国・公立の中学校・高等学校の数学・理科担当教員						
開催期日	平成　14　年　1　月　21　日（月）～ 平成　14　年　1　月　25　日（金）						
開催日数	5　日間	計画人数	50　人	受講者数	49　人	(参加率)	98.00　%
開催場所	独立行政法人　教員研修センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	21　人	43.00%	28　人	57.00%	0　人	0.00%	0　人	0.00%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

（1）感想
・全国の先生方と情報交換ができてよかった。（8人）
・全体的に理解しやすくよい研修であった。（6人）
・時間がたつにつれ，自信とこれからのやる気が起きてきた。（3人）
・情報教育の方向性が見えてよかった。（2名）
・熱心な講師陣ばかりでよかった。
・グループ協議の時間が足りない。他の教科の先生方との協議時間があればもっとよかった。

（2）要望・改善点等
・データの保存はMOではなくCD－ROMのほうがよいのでは。（2名）
・5日では足りない。（2名）
・ネットワークなど技術的な学習をしたい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

日　程

日時	9:00	12:00	13:00	14:50	15:00	16:30	19:00
1／21（月）	１０：３０～ 受　付（図書館棟入口） １１：００～ ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ（※　A　） １１：３０～ 開講式（　〃　） １２：００～１９：００ シーツ等交換 （第２宿泊棟１Ｆリネン室）		【講義】　※B CD-ROMの使い方、情報化の方向性、情報化社会と教育 東京工業大学 教授　赤堀　侃司		【講義】　※B 情報教育を支える技術と課題、情報教育の内容理解		※B 機器説明 自由研究
1／22（火）	【講義】　※B 情報教育ｶﾘｷｭﾗﾑの検討 所沢市教育センター 所長　永嶋　賢一	【講義・演習】※B 情報倫理とプライバシー	【講義】　※B ＯＳ、校内ネットワークの基礎知識 富士通ﾗｰﾆﾝｸﾞﾒﾃﾞｨｱ 部長代理　戸田博人		【講義】　※C 新学習指導要領における情報化への対応 国立教育政策研究所教育課程研究センター 教育課程調査官　中村　一夫		※B 自由研究
1／23（水）	【講義・演習】※B 学習指導における活用 岩手県立大学　ソフトウェア情報学部 教授　鈴木　克明						※B 自由研究
1／24（木）	【講義】　※B コンサルテーション Ｑ＆Ａ集　Ａの作成 東京・江東区立第三砂町小学校 教諭　田中　克昌		【演習（班別）】※B コンサルテーション協議		【講義】　※B 校内研修の進め方		※B 自由研究
1／25（金）	【講義・演習】～１１：３０　※B 校内研修案の作成と発表 東京・江東区立第三砂町小学校 教諭　田中　克昌		８：００～８：３０ シーツ等返納 （第２宿泊棟１Ｆリネン室） １１：４０～１１：５０ 閉講式　※C アンケート回収 解散				

※　研修棟　２０１研修室＝Ａ、特別研修棟 情報教育研修室１＝Ｂ、研修棟　１０１研修室＝Ｃ

Ⅰ　研修概要

研 修 名	教育情報化推進指導者養成研修（特殊－全国講座）						
研修目的（趣旨）	各都道府県, 市町村が実施する情報教育に関する研修の指導者を養成するための研修						
対 象	国・公立の特殊教育諸学校の教員						
開催期日	平成 13 年 9 月 17 日（月）～ 平成 13 年 9 月 21 日（金）						
開催日数	5 日間	計画人数	50 人	受講者数	50 人	(参加率)	100.00 %
開催場所	独立行政法人　教員研修センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	11 人	22.00%	37 人	74.00%	2 人	4.00%	0 人	0.00%

2．研修内容に関する主な意見

（1）感想
・人的ネットワークづくりができてよかった。（11名）
・全国の障害種別の問題点を知り、それをグループで討議したりと参考になる研修であった。（9名）
・先進校の内容など各学校の取り組みを知ることができ有意義であった。（3名）
・実習に比べて、講義の時間が少なかった。（3名）
・この研修は今後も続けていただきたい。（3名）
・学校や県にもどってからの情報化推進のヒントが得られた。（2名）
・とても充実した研修であった。
・今後の情報教育を展開していくための理論的な話が聴きたかった。

（2）要望・改善点等
・日程を延ばすなど、もう少しゆっくりと取り組みたかった。（3名）
・情報教育の問題点（Q＆A）の内容が古いので改善をしてほしい。（2名）
・同じ内容の重複があり、時間がもったいない。（2名）
・パソコン等が最新のものであればよいと思った。（2名）
・マイクの調整をきちんとやってほしい。
・技術的な講習も1コマ設けてほしい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

日　程

日時	9:00	12:00	13:00	14:50	15:00	16:30	19:00
9／17（月）	１０：３０～ 受　付（図書館棟入口） １１：００～ ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ（※　A　） １１：３０～ 開 講 式（　〃　） １２：００～１９：００ シーツ等交換 （第２宿泊棟１Ｆリネン室）		【講義】　※A 障害児にとっての情報化の意義と動向 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 特殊教育調査官　横田　雅史				※B 機器説明 自由研究
9／18（火）	【講義】　※B コンピュータやインターネットの教育利用	【講義】　※B 情報倫理とプライバシー	【講義・演習】　※B 授業設計と教材作成 プリント教材 マルチメディア教材				※B 自由研究
	東京都立綾瀬ろう学校 教諭　伊藤　守						
9／19（水）	【講義・演習】※B プレゼンテーション発表と相互評価	【講義・演習】　※B 障害児教育における活用と関連技術、アシスティブテクノロジーの実際			【講義・演習】※B 校内研修の進め方		※B 自由研究
	群馬県総合教育センター 主任指導主事　松本　廣				東京都立光明養護学校 教諭　金森 克浩		
9／20（木）	【講義・演習】　※B グループ協議および校内研修案の作成		【講義・演習】　※B コンサルテーション Q＆A集の検討（個人）、 協議（グループ）、Aの作成（グループ）				※B 自由研究
	東京都立光明養護学校 教諭　金森　克浩						
9／21（金）	【講義】　～１１：３０　※A 障害のある児童生徒の情報活用能力を育成する教育内容・方法に関する研究について		８：００～８：３０ シーツ等返納 （第２宿泊棟１Ｆリネン室） １１：４０～１１：５０ 閉　講　式　※A アンケート回収 解　散				
	独立行政法人国立特殊教育総合研究所 情報教育研究部 教育工学研究室長　棟方　哲弥						

※研修室：　研修棟　１０１研修室＝A、特別研修棟 情報教育研修室１＝B

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成講座（小学校－東部１講座）						
研修目的（趣旨）	各都道府県，市町村が実施する情報教育に関する研修の指導者を養成するための研修						
対象	国・公立の小学校の教員						
開催期日	平成　１３　年　１１　月　２６　日（月）～ 平成　１３　年　１１　月　３０　日（金）						
開催日数	５　日間	計画人数	４０人	受講者数	３３人	(参加率)	82.5 %
開催場所	北海道立教育研究所　附属情報処理教育センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	割合（%）	１３人	39.40%	１４人	42.40%	０人	0.00%	６人	18.20%

2．研修内容に関する主な意見

（1）感想
・参考になり、刺激のある講座だった。（４人）
・子どものコンピュータスキルの向上、各教科での活用等今後の課題が整理できた。（２人）
・道外の学校事情など交流ができて参考になった。（２人）
・プレゼンテーションの資料はすべて画面で見られ持ち帰れるようにしてほしい。（２人）
・内容がとても新鮮であり、かつ難しかった。
・学校内、地域内の研修では得ることができない知識や体験ができた。
・いかに情報を提供するかコーディネートするかに力を入れていかなければと感じた。
・セキュリティやモラル、プライバシーの問題について早急に取り組まなければと思った。
・ネットワークの技術的な事について詳しく解説してほしかった。
・環境整備やカリキュラムを作ろうという意欲で一杯になった。
（2）要望・改善点等
・校内ネットワークの設計の時間は一人一台ずつパソコンがほしかった。
・「ネットワーク管理運営」のための講座
・コンピュータと健康というテーマで学習しても良いのではないか。
・研修の中で使うソフトは事前に教えてもらうと助かる
・サーバーを中心としたネットワークの組み方や設定の仕方について詳しく知りたい。
・参加者同志の実践交流や討議の場に時間を割いてほしかった。
・演習をもっと増やしても良かったのではないか。
・５時までの講義は長すぎる。
・コンピュータ室が５時１５分までしか使えない。
・宿題をやる時間をとってほしい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度教育情報化推進指導者養成研修　小学校－東部１

日時	9:00 9:30	10:30	10:40	12:00	13:00 14:20	15:30	17:00
11／26（月）	受付	開講式 ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	【講義】 初等中等教育における情報化の対応について		【講義】 情報化の方向性・情報化社会と教育	【講義・演習】 情報教育を支える技術と課題	【講義】 情報教育の内容理解
11／27（火）	【講義・演習】 情報教育ｶﾘｷｭﾗﾑの作成		【説明・協議】 情報教育とﾌﾟﾗｲﾊﾞｼｰ		【講義・演習】 情報教育Ｑ＆Ａﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸの作成（Ｉ）		
11／28（水）	【講義・演習】 授業設計と教材作成				【講義・演習】 授業設計と教材作成		【発表・協議】 教材の発表交流
11／29（木）	【説明・協議】 校内研修の進め方		【講義・演習】 校内研修案の作成		【講義・演習・協議】 校内ﾈｯﾄﾜｰｸの基礎知識 校内ﾈｯﾄﾜｰｸの設計		
11／30（金）	【講義】 情報教育Ｑ＆Ａ ﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸ　作成（Ⅱ		【発表・協議】 研修のまとめ		【発表・協議 研修のまとめ 閉講式		

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成講座（小学校－東部２講座）						
研修目的（趣旨）	各都道府県，市町村が実施する情報教育に関する研修の指導者を養成するための研修						
対象	国・公立の小学校の教員						
開催期日	平成　１３　年　１０　月　１　日（月）～ 平成　１３　年　１０　月　５　日（金）						
開催日数	５　日間	計画人数	３０　人	受講者数	２３　人	(参加率)	76.66 %
開催場所	千葉県情報教育センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	８　人	35.00%	１４　人	61.00%	１　人	4.00%	０　人	0.00%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

（1）感想
・他県の方と交流でき情報交換でき良かった。（９人）
・ＣＤはたいへんありがたい、これからの研修に生かしていきたい。（３人）
・今まで知らなかった制度や現状を把握でき充実した研修ができた。
・受講者の中にも知識や技能を持っている人もいるようなので、グループリーダーとなって教えてほしい。
・情報化社会の中での必須スキルを子どもたちに育てていく事が大切であることを感じた。
・３学期に校内ＬＡＮを構築するので、実際にＬＡＮを組む演習や遠隔操作に必要な機種を使ってみたい。
・グループ討議は話し合いの大切さが分かり有意義であった。
・研修の内容からみて時間がなさすぎる。
（2）要望・改善点等
・演習の時間が少なかったのであわただしかった。（７人）
・事前に関係各機関から十分なコンサルテーションがあれば有りがたかった。（２人）
・インターネットに関する実技研修があるとよい。
・ＬＡＮの配線・パソコンの設定、フェニックスミニを使った遠隔教義の体験（隣同士の部屋でもいいので…）実技やってみたかった。
・「講義・演習」という内容が多かったが、分けた方が良いと思う。
・ＪＡＶＡスクリプトとＣＧＩに関する研修は、もう少し時間があればと感じた。
・パソコンの環境が、すばらしくストレスなく受講できた。
・講師の先生、主事の先生も親身に対応してくださり、良い研修であった。
・資料（ＣＤ－ＲＯＭ等）は年々古くなっていくので、更新してほしい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

日　程

日　時	午　　前		午　　後	
	9:00　10:15　10:30　12:00		13:00　13:50　14:00　16:30	
１０月 １日 （月）	受付 オリエンテーション 開講式	【講義】 初等中等教育における情報化への対応について 千葉学芸高等学校 校長　高橋　邦夫	【講義・演習】 情報教育センターのLAN環境とCD-ROMの使い方 千葉県情報教育センター研究指導主事 渡邉 敏樹	【講義・演習】 情報教育を支える技術と課題 OS，マルチメディア，校内ネットワーク ㈱富士通ラーニングメディア 研修事業部コンテンツ開発部 プロジェクト課長　戸田 博人
２日 （火）	【講義・協議】 校内研修の進め方 神奈川県立鶴見養護学校 教頭　田村　順一		【講義・演習】 情報通信手段を用いた遠隔共同・交流学習 上越教育大学学校教育総合研究センター 教授　南部　昌敏	
３日 （水）	【講義・協議】 情報教育の内容理解とカリキュラム作成 文部科学省メディア教育開発センター 助教授　波多野 和彦		【講義・演習】 コンサルテーションについて 国立教育政策研究所教育研究情報センター 総括研究官　堀口 秀嗣	
４日 （木）	【講義・演習】 教育用ネットワークの構築と教育利用 千葉県柏市立教育研究所 指導主事　西田　光昭		【講義・演習】 ホームページを利用した学校・家庭地域との連携 （課題選択演習） ・ホームページ作成 ・CGIを利用した掲示板，カウンター等の作成 千葉県情報教育センター　千葉県情報教育センター 研究指導主事 子安多喜男　研究指導主事 森本　均	
５日 （金）	【講義・演習】 校内研修の進め方，研修案の作成 千葉県立君津高等学校 教頭　真田　孝則		閉講式	

Ⅰ　研修概要

研 修 名	教育情報化推進指導者養成講座（小学校－中部１講座）						
研修目的（趣旨）	各都道府県, 市町村が実施する情報教育に関する研修の指導者を養成するための研修						
対 象	国・公立の小学校の教員						
開催期日	平成 １３ 年 ９ 月 ３ 日（月）～ 平成 １３ 年 ９ 月 ７ 日（金）						
開催日数	５ 日間	計画人数	４０ 人	受講者数	２４ 人	(参加率)	60.00 %
開催場所	滋賀県総合教育センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	９ 人	38.00%	１３ 人	54.00%	１ 人	4.00%	１ 人	4.00%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

（1）感想
・充実した５日間を過ごせた。（１２人）
・多くの先生と情報交換でき、よかった。（４人）
・個々の能力に応じて細かくサポート、ご指導いただきビギナーでもためになった。（３人）
・著作権の講義など大変勉強になった。
・受講者のなかで情報教育に対する知識や経験に差があるようだ。
・子ども用のアプリケーションの体験ができると、購入の参考になり有りがたい。
・研修が終わってからパソコンを一から勉強して、知識の再構築を計りたい。
・ネットワークについて詳しく知ることができた。

（2）要望・改善点等
・内容に重なる部分が多かった。（５人）
・自分で演習できる時間がもっとほしい。（２人）
・具体的な実践をやり取りできる場面があるとありがたい。
・講義内容が多く時間がもっとほしいと感じた。
・ディスカッションの時間がもう少しほしい。
・交通の便（特にバスについて）インフォメーションがほしい。
・２４人それぞれの望んでいることが違うので、個々にアドバイスしてもらえると有りがたい。
・近県の人たちが集まるようにしてもらえると、遠くまでいかずに済むので有りがたい。
・時期が運動会前でつらい。
・マルチメディアの実習などは事前にアンケートなどで内容について希望をとっていただくと有りがたい。
・ブロードバンドに関する講義や画面のノンリニア編集の講習を受けてみたい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度教育情報化推進指導者養成研修日程

小学校－中部１講座

滋賀県教育委員会

	午前 9:00	10:30 10:45	12:15	午後 13:15	14:45 15:00	16:30
第１日 ９／３ （月）	受付 オリエンテーション 開講式	【講義】 情報化の対応 について 講師 東京工業大学 教授　赤堀　侃司		【講義】 CD-ROM の 使い方等 講師 滋賀大学教育学部 助教授　宮田　仁	【講義】 情報教育を支える 技術と課題 講師 滋賀大学教育学部 助教授　宮田　仁	
第２日 ９／４ （火）	【講義】 情報教育の内容理解とカリキュラム 講師 滋賀大学教育学部 助教授　宮田　仁	【講義】 校内ネットワーク の基礎知識 講師 滋賀県総合教育センター 研修主事 青木靖夫		【演習】（選択Ａ） 校内ネットワークの設計 講師　滋賀県総合教育センター 研修主事 青木 靖夫 【演習】（選択Ｂ） ＯＳ、マルチメディア 講師　滋賀県立日野高校 教諭 小西 浩之		
第３日 ９／５ （水）	【演習】 情報倫理と プライバシー 講師 滋賀県総合教育センター 研修主事 青木靖夫	【講義・演習】 授業設計と 教材作成 講師 マキノ町立マキノ北小学校 教頭　藤原　公明		【演習】 ホームページを 用いた教材作成 講師 マキノ町立マキノ北小学校 教頭　藤原　公明	【発表・協議】 教材のプレゼン テーション 講師 マキノ町立マキノ北小学校 教頭　藤原　公明	
第４日 ９／６ （木）	【講義・演習】 コンサルテーション はじめに、Ｑ＆Ａ集 講師 滋賀県教育委員会学校教育課 主査　北川　健　指導主事　藤居　毅			【講義・演習】 校内研修の進め方 講義、グループ討議 講師 大津市教育研究所 調査研究係長　角　広司		
第５日 ９／７ （金）	【演習】 校内研修案の作成 講師 大津市教育研究所 調査研究係長　角　広司	【発表・協議】 校内研修の まとめ＆課題 講師 大津市教育研究所 調査研究係長　角　広司		閉講式		

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成講座（小学校－中部２講座）						
研修目的（趣旨）	各都道府県，市町村が実施する情報教育に関する研修の指導者を養成するための研修						
対象	国・公立の小学校の教員						
開催期日	平成　１３　年　１０　月　１　日（月）～ 平成　１３　年　１０　月　５　日（金）						
開催日数	５　日　間	計画人数	３０　人	受講者数	２４　人	(参加率)	80.00 %
開催場所	大阪府教育センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	割合（%）	１１　人	46.00%	１２　人	50.00%	１　人	4.00%	０　人	0.00%

2．研修内容に関する主な意見

(1)感想
・情報教育について新しくわかった事が多く充実した研修だった。（６人）
・他県の情報教育への取組みがよくわかり、有意義だった。（５人）
・有名な講師の先生方の話が聞けて有りがたい。（２人）
・講義のなかで何度もコンピュータを使った教育の過去、現在の話があり無駄なように感じた。
・まだ未消化だが、やるべき方向性が見えてきた。
・丁寧な指導、適切な内容で前向きに学ぶことができた。
・時間的にあわただしい部分があった。
・情報教育の必要性を強く感じることができた。
・情報活用能力があるとないとでは大きな差があると強く感じた。
・講師の手配から運営、お茶の準備にいたるまで、きめ細かい配慮が非常にうれしく、有りがたかった。
（２）要望・改善点等
・課題の準備不足だったので、事前に連絡をしてほしい。（５人）
・情報教育の評価、情報モラル、著作権等のより深い話が聞きたい。（２人）
・マイクロソフト以外の学校で使えるソフトの紹介があればいい。
・共同学習、交流学習では資料の内容が違い場所がわからずどこからダウンロードするのかわからなかった。
・専門用語が多く口が早くて内容がわからなかった。
・交流できる機会を始めからつくってほしかった。
・コンピュータについての知識や操作の面で個人差があるので、資料等で補うものが欲しかった。
・ＨＴＭＬによるホームページ作りは新鮮であった。
・ホームページ作りのサンプルが欲しかった。
・夏季　２回、冬季　１回のように機会を増やして休業中に実施してほしい。
・情報教育の先進的な取組みが行われている地なので、学校視察や施設視察などの内容があればうれしい。
・要項をもう少し早めに手元に欲しかった。
・ハード機器が少し古いものだった。
・作成するものを減らして、プレゼンテーションの時間、質問の時間が増えたらうれしい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度教育情報化推進指導者養成研修　小学校－中部２

日時	9:00 9:30	10:30	10:45	12:15	13:15	14:25	14:35	15:45	15:50	17:00
10／1(月)	受付	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ 開講式	【講義】 情報化の方向性・情報化社会と教育		【講義】 初等中等教育における情報化の対応について		【講義】 情報教育を支える技術と課題		【講義】 情報教育の内容理解	
10／2(火)	【講義】 情報教育ｶﾘｷｭﾗﾑの作成		【講義】 情報論理とﾌﾟﾗｲﾊﾞｼｰ		【講義】 OS、ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ		【講義・演習】 校内ﾈｯﾄﾜｰｸの基礎知識 校内ﾈｯﾄﾜｰｸのの設計			
10／3(水)	【講義】 情報教育の必要性と進め方		【講義】 共同学習・交流学習		【講義・演習】 Webﾍﾟｰｼﾞの作成、教材作成					
10／4(木)	【演習・発表】 指導案と教材作成		【演習・発表】 作品発表		【講義・演習】 ｺﾝｻﾙﾃｰｼｮﾝ＆校内研修の進め方 ・講義 ・Q&A作成及びｸﾞﾙｰﾌﾟ討議					
10／5(金)	【演習】 校内研修案の作成		【発表・演習】 校内研修案のまとめ＆研修後の課題		閉講式					

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成講座（小学校－西部１講座）						
研修目的（趣旨）	各都道府県，市町村が実施する情報教育に関する研修の指導者を養成するための研修						
対象	国・公立の小学校の教員						
開催期日	平成　１３　年　１０　月　１　日（月）～ 平成　１３　年　１０　月　５　日（金）						
開催日数	５　日間	計画人数	４０人	受講者数	３９人	(参加率)	97.50 %
開催場所	沖縄県立教育センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	２１人	54.00%	１６人	41.00%	１人	3.00%	１人	3.00%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

（1）感想
・有意義な研修だった。（８人）
・他県の方との交流がはかれた点が良かった。（１０人）
・職場に帰ったら研修の内容を生かせるように頑張りたい。（１０人）
・ＣＤは大変すばらしい。（２人）
・もう少しゆっくりと時間をかけて講義や演習がしたい。（２人）
・情報が新しく、提出されたデータも持ち帰れたのがよかった。
・環境が整っていて気持ちよく研修することができた。
・情報教育を推進していく上で、必要な内容がすべて網羅されていた。
・実践的なテクニックを目の前で見ることができたので、勉強になった。
・主事の先生の心配りが有り難かった。
（2）要望・改善点等
・１０日か２週間くらいの時間がほしかった。（７人）
・ＬＡＮについてはもう少し実習がほしい。（４人）
・ネットワーク構築におけるサーバー設定などにより具体的に学習できるとよかった。（３人）
・女性が少ない　小学校は女性教諭が多いので参加しやすい研修会を希望する。
・各県からの人数がもう少し増えてもいいのではないか。
・内容が興味深かったので発表等の演習にもう少し時間をかけて制作したかった。
・運動会前後は大変である　開催時期を考えてほしい。
・データのバックアップが大変だった。
・学校ホームページの作成についての研修を設けて欲しい。
・現場で活躍した先生の話や実践事例を多く紹介してほしい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度教育情報化推進指導者養成研修　小学校－西部１

日時	9:00 10:30	10:40 12:10	13:20 14:40	15:50 16:30
10／1（月）	受付 ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ 開講式	【講義】 情報教育の現状と課題 沖縄県教育庁総務課主任指導主事 仲間　靖	【講義】 情報化の方向性 情報化社会と教育 上越教育大学教授 南部　昌敏	【講義・演習】 情報教育を支える技術と課題他 【講義】 情報教育の内容理解
10／2（火）	【講義】 情報教育ｶﾘｷｭﾗﾑの作成 福岡県教育センター指導主事 奥　浩幸	【講義】 情報論理とﾌﾟﾗｲﾊﾞｼｰ（Q&A） 事例を中心に協議	【講義・演習】 共同学習・交流学習 沖縄県立教育センター指導主事 安和　守光	【講義・演習】 指導案と教材の作成
10／3（水）	【講義・演習】 指導案及び教材の作成と発表 沖縄県立教育センター指導主事 安和　守光		【講義・演習】 OS、ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ 校内ﾈｯﾄﾜｰｸの基礎知識 校内ﾈｯﾄﾜｰｸの設計 富士通ラーニングメディア課長 戸田　博人	
10／4（木）	【講義・演習】 ｺﾝｻﾙﾃｰｼｮﾝ はじめに Q&A集 Aの作成 岡山市教育委員会指導係長 青木　将		【演習】 ｺﾝｻﾙﾃｰｼｮﾝ Q&A集 Aの作成 岡山市教育委員会指導係長 青木　将	【講義・演習】 校内研修の進め方 講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟ討議
10／5（金）	【演習】 校内研修案の作成 岡山市教育委員会指導係長 青木　将	【講義】 校内研修案のまとめ 研修後の課題	閉講式	

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成講座（小学校－西部２講座）						
研修目的（趣旨）	各都道府県，市町村が実施する情報教育に関する研修の指導者を養成するための研修						
対象	国・公立の小学校の教員						
開催期日	平成　１３　年　１１　月　２６　日（月）～ 平成　１３　年　１１　月　３０　日（金）						
開催日数	5　日間	計画人数	３８　人	受講者数	３０　人	(参加率)	78.94 %
開催場所	愛媛県総合教育センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	１１　人	36.70%	１８　人	60.00%	１　人	3.30%	０　人	0.00%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

（1）感想
・他県の方との交流がはかれた事が良かった。（２４人）
・著名な講師の先生方の話が聞けて有意義であった。（２２人）
・実際にＬＡＮを組む演習や遠隔操作に必要な機種を使ってみたかった。
・今まで知らなかった制度や現状を把握でき充実した研修ができた。
・ネットワークについて詳しく知ることができた。
・運営面できめ細かい配慮に感謝したい。
（2）要望・改善点等
・事前にもう少し詳しい研修内容を知りたかった。（８人）
・グループによる演習方式を多く取り入れてほしい。（６人）
・この研修内容では、研修期間が短すぎる。
・受講者の中で知識や経験に差があるので、グループリーダーとなって演習を進めてほしい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度教育情報化推進指導者養成研修　小学校－西部２

日時	10:40	11:00	11:10	12:20	13:20	14:15	14:30	16:30
11／26（月）	受付 ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ 開講式		【講義】 情報教育の現状と内容		【講義】 ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱの基礎知識		【講義・演習】 ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱﾃﾞｰﾀの作成 ｽｷｬﾅ・動画取り込み・静止画編集	
			教育ｾﾝﾀｰ所員 平尾　好廣		教育ｾﾝﾀｰ室長 稲荷　聡		教育ｾﾝﾀｰ所員 横山　賢	教育ｾﾝﾀｰ所員 八塚 收一
	9:20	10:40	11:00	12:20	13:20	14:15	14:30	15:25 15:40 16:30
11／27（火）	【講義・協議】 情報倫理とﾌﾟﾗｲﾊﾞｼｰ		【講義】 情報化の方向性と情報化社会		【講義・演習】 教材のﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ 特定の教材のﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝを作成する			【発表・協議】 制作物の発表
	教育センター係長 別宮　眞一		愛大工学部教授 野田 松太郎		教育ｾﾝﾀｰ所員 沖田 義朝		教育ｾﾝﾀｰ所員 平尾 好廣	教育ｾﾝﾀｰ所員 沖田 義朝
11／28（水）	【講義】 校内ﾈｯﾄﾜｰｸの基礎知識		【講義・演習】 情報教育を支える技術と課題		【講義・演習】 ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞの作成 ﾍﾟｰｼﾞ作成 ｻｲﾄ管理			【発表・協議】 ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞの発表発表と相互評価
	教育センター係長 別宮　眞一		松山大学助教授 鳥居 鉱太郎		教育ｾﾝﾀｰ所員 山下 勝運		教育ｾﾝﾀｰ所員 沖田 義朝	教育ｾﾝﾀｰ所員 沖田 義朝
11／29（木）	【講義・演習】 校内研修の進め方・講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟ討議				【演習】 校内研修案の作成			【発表・演習】 校内研修案のまとめと課題 (研修後の課題)
	教育センター所員 平尾　好廣				教育センター所員 平尾　好廣			教育ｾﾝﾀｰ所員 沖田 義朝
11／30（金）	【講義】 ｺﾝｻﾙﾃｰｼｮﾝについて		【演習】 ｺﾝｻﾙﾃｰｼｮﾝAの作成		閉講式			
	教育ｾﾝﾀｰ所員 八塚 收一		教育ｾﾝﾀｰ室長 稲荷　聡					

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成講座（中学校・高等学校－東部１講座）						
研修目的（趣旨）	各都道府県，市町村が実施する情報教育に関する研修の指導者を養成するための研修						
対象	国・公立の中学校・高等学校の社会担当教員						
開催期日	平成　１３　年　７　月　２３　日（月）～ 平成　１３　年　７　月　２７　日（金）						
開催日数	５　日　間	計画人数	４２　人	受講者数	２９　人	(参加率)	69.04 %
開催場所	学校法人日本コンピュータ学園　東北電子計算機専門学校						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	８　人	28.00%	１９　人	66.00%	１　人	3.00%	１　人	3.00%

2．研修内容に関する主な意見

（１）感想
・情報教育について大いに知見を広げることができた。（７人）
・ＨＰ作成、パワーポイント等の利用は大きな刺激になった。（３人）
・専門的なことが多く今後とも勉強していきたいと痛感した。（３人）
・宮城県教育研修センターの先生方がとてもフレンドリーで緊張せず楽しく受講できた。（３人）
・レベルの高い内容で来るのが２～３年早かったと思った。（２人）
・大学の先生の講義は「学んだ」という実感があった。（２人）
・女性が少ない　女性のレベルを上げる研修も必要かと思う。
・他県の方々と出会え情報交換ができ、貴重な体験を積むことができた。
・著作権については、分かりやすい話で参考になった。
・オリエンテーション、開講式をもっと簡素化してほしい。
・情報化に取り残されないように、自己研修の必要性を感じた。
・個人的なスキル、地域の実状、中・高間の差など格差が大きく一律の研修は疑問である。
・ＣＤを初日に配布したのであれば、それぞれ個人の予習のうえで実技・演習・討論を行うべきだ。
・サーバ構築について詳細を知りたい。
（２）要望・改善点等
・案内は２週間前位にはほしい。（５人）
・理解度に合わせて演習を組んでほしい。（５人）
・他県の先生方とのディスカッションや発表の場がもう少しほしい。（３人）
・社会科担当の研修ということなら、技術的な面についての講義は内容を工夫してほしい。（２人）
・Ｗｅｂサーバの構築やＬＡＮ管理については演習を取り入れた方が理解しやすい。（２人）
・ＬＡＮの共有フォルダやプリンタの設定の演習があればよかった。
・授業での実践例の紹介など具体例があれば各県でフィードバックされる研修が実現すると思う。
・文部科学省の考え方を知る項目が欲しかった。
・ディスプレイを通して資料を提示してほしい。
・情報教育の意義やとらえ方、実践的な結果や問題点等を学びたかった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

講座日程

日　時	午　前		午　後	
	9:00	10:30 10:50 12:20	13:20	14:50 15:10 16:40
第１日 7/23 （月）	受付 9:00 ～ 9:20 ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ 9:20 ～ 9:40 開講式 10:00 ～ 10:30	【講義】 「初等中等教育における情報化の対応について」 講師：東北大学大学院教育学研究科 教授　水原　克敏	【講義】 「情報化の方向性」 「情報化社会と教育」 講師：宮城教育大学 教授　安江正治	【講義】 「情報教育を支える技術と課題」 講師：東北学院大学工学部 助教授　岩本正敏
第２日 7/24 （	【講義・演習】 「情報教育の内容理解」 講師：宮城県教育研修センター指導主事 海原孝	【講義・演習】 「情報カリキュラムの作成」 講師：仙台女子商業高等学校教諭　桜井直至，角田市立金津中学校教諭　我妻哲男	【講義・演習】 「情報倫理とプライバシー」 講師：宮城県教育研修センター指導主事 藤倉真一	【講義・演習】 「授業設計と教材作成」 講師：宮城県教育研修センター指導主事 内海俊行
第３日 7/25 （水）	【講義・協議】 「ホームページや教材の作成について」 講師：宮城県教育研修センター指導主事 藤倉真一，平間敏郎，林俊也	【課題選択演習】 「ホームページや教材の作成について」 講師：宮城県教育研修センター指導主事 森武彦，齋藤章，平間敏郎，海原孝，林俊也		【講義】 「校内ネットワークの基礎知識」 講師：学校法人日本コンピュータ学園東北電子専門学校 学科長　岩間　信喜
第４日 7/26 （木）	【講義・演習】 「校内ネットワークの設計」 「WWW サーバ等のしくみ」 講師：学校法人日本コンピュータ学園東北電子専門学校　学科長　岩間　信喜 教務室長　吉田　博志		【発表・協議】 「ホームページや教材の発表」 （グループ単位） 講師：学校法人日本コンピュータ学園東北電子専門学校 学科長　岩間　信喜 教務室長　吉田　博志	【講義・協議】 「校内研修の進め方について」 講師：宮城県教育研修センター指導主事 平間敏郎，林俊也
第５日 7/27 （金）	【演習】 「校内研修案の作成」 講師：宮城県教育研修センター指導主事 海原孝，平間敏郎	【発表・協議】 「校内研修案の発表」 講師：宮城県教育研修センター指導主事 林俊也，平間敏郎	閉講式 12:20	

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成講座（中学校・高等学校－東部２講座）						
研修目的（趣旨）	各都道府県, 市町村が実施する情報教育に関する研修の指導者を養成するための研修						
対象	国・公立の中学校・高等学校の国語担当教員						
開催期日	平成　１３　年　９　月　１０　日（月）～ 平成　１３　年　９　月　１４　日（金）						
開催日数	５　日間	計画人数	４０人	受講者数	２５人	(参加率)	62.5 %
開催場所	富山県総合教育センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	割合（%）	１３人	52.00%	１０人	40.00%	１人	4.00%	１人	4.00%

2．研修内容に関する主な意見

（1）感想
・「情報」＝「コンピュータ」という意識から脱却でき有意義だった。（３人）
・日程に余裕を持ち深化してもらいたい。（２人）
・講義調の単調なものでなくワークショップで構成されていて分かりやすかった。
・先生方が国語専門ということで情報教育に消極的な人が多い。
・もう少しパソコン操作のできる人が来るべきだ。
・研修参加の選定理由を知りたかった。
・ねらい、達成目標等事前資料に盛り込んであると、準備を含め心構えができた。
・主事の先生方の心温まる配慮で充実した研修となった。
（2）要望・改善点等
・日数が不足していた。（３人）
・どういう研修なのか概要のわかるものを早めに知らせてほしい。（３人）
・食堂に失望した　待ち時間が長い。（３人）
・情報交換という意味でも初日に自己紹介の時間がほしい。（２人）
・受講者を決めるとき「情報処理技術のある人」「校内ＬＡＮの配線がほぼ分かる人」などの条件があったほうが良い。（２人）
・資料等を事前に配布して、その内容を各自が把握した上での研修になればより深められるのではないか。
・講義の進め方そのものが参考になった。
・研修の実施時期について考慮してほしい。
・ホームページに研修の細かな点を示してほしい。
・遠方の参加者を考えれば、初日を昼頃からにしてほしい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度教育情報化推進指導者養成研修日程
－　中学校・高等学校（国語）　東部２講座　－

日時	午前		午後		
	9:00 10:30	10:40 12:10	13:10 14:10	14:20 15:20	15:30 16:30
第１日 9／10 （月）	9:00 受付 9:30 ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ 10:00 開講式	【講義】 情報化への対応について	【講義】 情報化の方向性	【講義・演習】 情報教育を支える技術と課題	【講義】 情報教育の内容理解
講　師		富山県総合教育ｾﾝﾀｰ 研究主事　麦谷直人	富山大学教育学部　教授　山西潤一		
助　手		富山県総合教育センター　研究主事　的池秋成			
第２日 9／11 （火）	【講義】 情報教育カリキュラムの作成	【演習】 情報倫理とプライバシー（Q&A事例中心に協議）	【講義・演習】 ＯＳ、マルチメディア 校内ネットワークの基礎知識 校内ネットワークの設計		
講　師	富山大学教育学部　助教授　小川　亮				
助　手	富山県総合教育センター　研究主事　山野浩平				
第３日 9／12 （水）	【講義・演習】 共同学習 交流学習	【講義・演習】 指導案および教材の作成	【講義・演習】 指導案および教材の作成と発表		
講　師	静岡大学情報学部　助教授　堀田龍也				
助　手	富山県総合教育センター　研究主事　麦谷直人				
第４日 9／13 （木）	【講義・演習】 コンサルテーション		【講義・演習】 校内研修の進め方		
講　師	富山大学教育学部　助教授　黒田　卓				
助　手	富山県総合教育センター　研究主事　山野浩平				
第５日 9／14 （金）	【演習】 校内研修案の作成	【講義】 校内研修のまとめ 研修後の課題	閉講式		
講　師	富山大学教育学部 助教授　黒田　卓				
助　手	富山県総合教育センター 研究主事　今堀俊彦				

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成講座（中学校・高等学校－東部３講座）						
研修目的（趣旨）	各都道府県, 市町村が実施する情報教育に関する研修の指導者を養成するための研修						
対象	国・公立の中学校・高等学校の英語担当教員						
開催期日	平成　１３　年　９　月　１７　日（月）～ 平成　１３　年　９　月　２１　日（金）						
開催日数	５　日　間	計画人数	４０　人	受講者数	２６　人	(参加率)	65.00 %
開催場所	北海道情報専門学校						

Ⅱ　アンケート結果の状況

１　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	１２　人	46.00%	１３　人	50.00%	１　人	4.00%	０　人	0.00%

２．研修内容に関する主な意見

（１）感想
・意識が変わり、今後積極的に活用しようと思った。（８人）
・指導者としての研修ということに責任感を覚えた。（４人）
・専門的な内容だったが、時間が短かった。（３人）
・講師の先生方が素晴らしい方々だった。（３人）
・演習・ディスカッションなど具体的に実践的に取り組めたことは新鮮でよかった。（２人）
・時期を長期休暇中などにしてほしい。
・ＣＤ－ＲＯＭを頂けたのは有り難い。
・先生方との情報交換ができ充実していた。
（２）要望・改善点等
・研修室のＰＣにＭＯドライブ、ＣＤ－ＲＯＭドライブが付いている良い。（３人）
・ＰＣ機器がもう少し最新であればと感じた。
・選択性の実技研修を希望する。
・研修の内容を明確に説明してほしい。
・各棟各部屋にＬＡＮ用モジュラージャックがあり、２４時間インターネット接続（個人のＰＣで）できるとよい。
・講演会資料をデジタルデータで頂けるのは良かった。
・研修用のＰＣに持参のノートＰＣからデータを簡単に送れるようにしてほしい。
・毎日グループごとの宿題が多かった。
・マイクの調整が悪く聞き取りにくいことがあった。
・内容の細分化は必要。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

研修日程（運営等計画書－別紙資料）

日時	午前		午後		
	9:00　10:30	10:40　12:10	13:10　14:10	14:20　15:20	15:30　16:30
第１日 ９／17 （月）	9:00 受付 9:30 ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ 10:00 開講式	①【講演】 新学習指導要領における 情報化への対応	②【講義】 情報化の方向性 情報化社会と教育	③【講義】 情報教育を支える 技術と課題、他	④【講義】 情報教育の内容 理解
会　場	301教室	３０１教室			
講師等		国立教育政策研究所 教育課程調査官　中村　一夫	東京国際大学 助教授　山内　豊		
第２日 ９／18 （火）	⑤【講義】 情報教育カリキュラムの作成	⑥【講義・演習】 情報倫理とプライバシー （Q&A事例中心に討議）	⑦【講義】 共同学習・交流学習	⑧【講義】 指導案と教材作成	
会　場	３０１教室		３０１教室		
講師等	東京国際大学 助教授　山内　豊		筑波大学附属駒場中・高等学校 教諭　市川　道和		
第３日 ９／19 （水）	⑨【講義・演習】 指導案と教材作成と発表		⑩【講義】 ＯＳ、マルチメディア 校内ネットワークの基礎知識 校内ネットワークの設計		
会　場	３０１教室		３０１教室		
講師等	筑波大学附属駒場中・高等学校 教諭　市川　道和		富士通ラーニングメディア(株) 課長　戸田　博人		
第４日 ９／20 （木）	⑪【講義】 コンサルテーションについて Q＆A集　Aの作成（グループ）		⑫【演習・協議】 ｺﾝｻﾙﾃｰｼｮﾝ協議 （グループ）	⑬【講義・演習】 校内研修の進め方について （グループ協議）	
会　場	３０１教室			３０１教室	
講師等	岡山市教育委員会 指導係長　青木　将			東京・台東区立忍岡中学校 教諭　前田　光男	
第５日 ９／21 （金）	⑮【講義・演習】 校内研修案の作成	⑯【発表・協議】 校内研修案の発表 研修後の課題	12:15 閉講式		
会　場	３０１教室		301教室		
講師等	東京・台東区立忍岡中学校 教諭　前田　光男				

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成講座（中学校・高等学校－東部４講座）						
研修目的（趣旨）	各都道府県，市町村が実施する情報教育に関する研修の指導者を養成するための研修						
対象	国・公立の中学校，高等学校の保健体育担当教員						
開催期日	平成　１３　年　１０　月　１　日（月）～ 平成　１３　年　１０　月　５　日（金）						
開催日数	５　日間	計画人数	４０人	受講者数	３５人	(参加率)	87.5 %
開催場所	東京都教職員研修センター分館　東京都総合技術教育センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	割合（%）	２１人	60.00%	９人	26.00%	１人	3.00%	４人	11.00%

2．研修内容に関する主な意見

（１）感想
・各学校の実態などを知ることが出来た。（５人）
・情報教育の発展のために頑張りたい。（４人）
・各教科に合わせた教材の工夫があると関心度が高くなる。（２人）
・情報教育においてリーダーの育成、コンサルテーション、法律等の重要性が理解できた。（２人）
・実際にＰＣを活用した授業を見学したかった。
・内容も新鮮で充実しており具体性のある講義進行で勉強になった。
・パソコンのテキストが配布されたことは有り難い。
・コミュニケーションの一つの方法として全ての人が受講する必要がある。
（２）要望・改善点等
・校内研修については一考してもらいたい。（２人）
・協議や発表のときに中・高まじえた方が良い。
・保健体育における先進国の活用事例などを紹介してほしい。
・講座のデータをMOに保存して持ち帰れることを事前に連絡してほしかった。
・ＣＤ－ＲＯＭを使用できる設備がほしい。
・レベルの差がありすぎると感じた。
・内容やある程度の条件を事前に知らせてほしい。
・ＶＴＲなどの視聴覚機器があると学校で活用しやすい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度教育情報化推進指導者養成講座日程

日　程	午　前 9:20 9:40　10:00　12:20			午　後 13:20　14:50 15:00　16:30	
10/1 （月）	受　付	開講式	【講義】 初等中等教育における情報化の対応について 講師：文部科学省 教科調査官 中村　一夫	【講義】 情報化の方向性 情報教育をささえる技術と課題	【講義】 情報教育の内容理解 情報化社会と教育 講師：国立教育研究所教育情報・資料センター教育ソフト開発研究室長 堀口　秀嗣
10/2 （火）	【演習】 情報倫理と著作権 講師：コンピュータ著作権協会 事務局長　久保田　裕			【演習】 教材のプレゼンテーション 講師：都立池袋商業高等学校 教諭　石山　智典	
10/3 （水）	【講義・演習】 校内ネットワークの基礎 校内ネットワークの作成 講師：都立新宿山吹高等学校 教諭　川畑　由彦			【講義・演習】 コンサルテーション 講師：東京都総合技術教育センター 指導主事　三神　幸男	
10/4 （木）	【講義】 校内研修の進め方 講師：田無市立第四中学校 教諭　平出　敏			【演習】 校内研修案の作成 講師：田無市立第四中学校 教諭　平出　敏	
10/5 （金）	研修のまとめ 講師：東京都総合技術教育センター 指導主事　高橋　雅信			閉講式	

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成講座（中学校・高等学校－中部１講座）						
研修目的（趣旨）	各都道府県，市町村が実施する情報教育に関する研修の指導者を養成するための研修						
対象	国・公立の中学校・高等学校の国語・社会担当教員						
開催期日	平成　１３　年　６　月　２５　日（月）～ 平成　１３　年　６　月　２９　日（金）						
開催日数	５　日　間	計画人数	４０　人	受講者数	２９　人	(参加率)	72.5 %
開催場所	岐阜県総合教育センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	１４　人	48.20%	１３　人	44.80%	１　人	3.50%	１　人	3.50%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

（１）感想
・情報教育の担当者として意欲が高まった。（１１人）
・岐阜大学附属中の井上校長先生の話は興味深かった。（２人）
・教科ごとに編成された班以外の先生方とも交流を図りたかった。
・付録のＣＤは良く出来ている。
・各学校の状況把握があれば良かった。
・さまざまな方法論を学ぶことができた。
・先生の手元にある資料を頂きたかった。
・講義よりも演習の方が理解しやすい。
・具体的なソフトの説明があると良かった。
（２）要望・改善点等
・最新、最速の機種でやりたかった。（４人）
・講座で使うソフト、技術レベルをはっきりと示してほしい。（３人）
・講義の際メモが取りにくい。（２人）
・ホームページ作成のマニュアルがほしかった。（２人）
・校内ＬＡＮの構築法を研修したい。
・夏休みの時期の実施を希望する。
・プレゼンテーションやインターネット検索がスムーズにできる環境がほしい。
・ネット犯罪について詳しく教えてほしい。
・宿舎を何とかしてほしい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

研修日程（運営等計画書－別紙資料）

中学校・高等学校－中部１講座

日時	午前 9:00 10:30	午前 10:40 12:10	午後 13:10 14:10	午後 14:20 15:20	午後 15:30 16:30
第１日 6／25 （月）	9:00 受付 9:30 ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ 10:00 開講式	①【講演】 新学習指導要領における情報化への対応	②【講義】 情報化の方向性 情報化社会と教育	③【講義】 情報教育を支える技術と課題、他	④【講義】 情報教育の内容理解
会　場	121研修室	１２１研修室	１３４メディア研修室		
講師等		国立教育政策研究所 教育課程調査官　中村　一夫	岐阜大学教育学部 助教授　村瀬　康一郎		
第２日 6／26 （火）	⑤【講義】 情報教育カリキュラムの作成	⑥【講義・演習】 情報倫理とプライバシー （Q&A事例中心に討議）	⑦【講義】 コンピュータやインターネットの教育利用	⑧【講義・演習】 メール交流演習 演習感想発表	
会　場	１３４メディア研修室		１３４メディア研修室		
講師等	岐阜大学教育学部 助教授　村瀬　康一郎		岐阜県教育委員会 指導主事　田中　正己		
第３日 6／27 （水）	⑨【講義】 ホームページの作成について 教材作成について	⑩【講義・演習】 ホームページの作成 教材作成	⑪【発表・協議】 製作物の発表		
会　場	１３４メディア研修室				
講師等	岡山大学教育学部附属小学校 教諭　河本　政道				
第４日 6／28 （木）	⑫【講義】 コンサルテーションについて Q&A集　Aの作成（グループ）	⑬【演習・協議】 ｺﾝｻﾙﾃｰｼｮﾝ協議 （グループ）	⑭【講義】 校内研修の進め方について （グループ協議）		
会　場	１３４メディア研修室		１３４メディア研修室		
講師等	岡山市教育委員会 指導係長　青木　将		岐阜大学教育学部附属中学校 副校長　井上　志朗		
第５日 6／29 （金）	⑮【講義・演習】 校内研修案の作成	⑯【発表・協議】 校内研修案の発表	12:15 閉講式		
会　場	１３４メディア研修室		121研修室		
講師等	岐阜大学教育学部附属中学校 副校長　井上　志朗				

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成講座（中学校・高等学校－中部２講座）						
研修目的（趣旨）	各都道府県, 市町村が実施する情報教育に関する研修の指導者を養成するための研修						
対象	国・公立の中学校・高等学校の美術担当教員						
開催期日	平成　１３　年　１１　月　２６　日（月）～ 平成　１３　年　１１　月　３０　日（金）						
開催日数	５　日間	計画人数	４０　人	受講者数	２７　人	(参加率)	67.5 %
開催場所	京都市教育委員会事務局　情報教育センター（佐京商業高等学校内）						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	９　人	26.00%	１７　人	50.00%	１　人	3.00%	０　人	0.00%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

（１）感想
・研修を受講できたことに大変満足している。（５人）
・実習グループを通して他の先生方と親しく話しができ良かった。（４人）
・ペースが早く５日間としては無理を感じた。（３人）
・情報教育の重要性を改めて痛感した。（３人）
・日を追うごとに研修目的や内容が具体的に身につく研修構成だった。（２人）
・対話形式のプレゼンテーションが良かった。
・ＰＣ初心者でも比較的取組みやすい内容であった。
・他校の実践例をもっと見たり、聞いたりできたらよい。
・発表内容、プレゼン制作の時間が短かった。
（２）要望・改善点等
・全体の情報交換を場がもっと多くあったら良かった。（２人）
・グループによる演習方式を多く取り入れてほしい。（２人）
・プレゼン制作のための時間的余裕がもう少しほしい。（２人）
・どのように人選をおこなっているのか、研修にふさわしい人材を選ぶべきである。（２人）
・美術科の教員として画材ソフト利用等をもう少し行えたら良かった。（２人）
・体験型がとても身につくと思った。
・すぐに使える資料などの制作や配布があればよい。
・校内ネットワークについての講義は必要ないと思う。
・事前にもう少し詳しい研修内容を知りたかった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

研修日程（運営等計画書）

日時	午前		午後		
	9:00　10:30	10:40　12:10	13:10　14:10	14:20　15:20	15:30　16:30
第１日 11／26 （月）	9:00 受付 9:30 ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ 10:00 開講式	①【講演】 新学習指導要領における情報化への対応	②【講義】 情報化の方向性 情報化社会と教育	③【講義】 情報教育を支える技術と課題、他	④【講義】 情報教育の内容理解
会　場	第２実習室	第２実習室	第２実習室		
講師等		国立教育政策研究所 教育課程研究センター　中村　一夫	上越教育際大学 教　授　南部　昌敏		
第２日 11／27 （火）	⑤【講義】 情報教育カリキュラムの作成	⑥【講義・演習】 情報倫理とプライバシー （Q&A事例中心に討議）	⑦【講義】 コンピュータやインターネットの教育利用	⑧【講義・演習】 メール交流演習 演習感想発表	
会　場	第２実習室		第２実習室		
講師等	静岡大学 助教授　堀田　龍也		筑波大学附属駒場中・高等学校 教　諭　市川　道和		
第３日 11／28 （水）	⑨【講義・演習】 指導案および教材作成と発表		⑩【講義】 ＯＳ、マルチメディア 校内ネットワークの基礎知識 校内ネットワークの設計		
会　場	第２実習室		第２実習室		
講師等	筑波大学附属駒場中・高等学校 教　諭　市川　道和		富士通ラーニングメディア(株) 課　長　戸田　博人		
第４日 11／29 （木）	⑪【講義】 コンサルテーション はじめに Ｑ＆Ａ集　Ａの作成（グループ）		⑫【演習】 コンサルテーション Ａの作成	⑬【演習・協議】 校内研修の進め方	
会　場	第２実習室				
講師等	東京・台東区立忍岡中学校 教　諭　前田　光男				
第５日 11／30 （金）	⑭【講義・演習】 校内研修案の作成	⑮【講義】 校内研修のまとめ 研修後の課題	12:15 閉講式		
会　場	第２実習室		第２実習室		
講師等	東京・台東区立忍岡中学校 教　諭　前田　光男				

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成講座（中学校・高等学校－中部３講座）						
研修目的（趣旨）	各都道府県，市町村が実施する情報教育に関する研修の指導者を養成するための研修						
対象	国・公立の中学校・高等学校の英語担当教員						
開催期日	平成　１３　年　１０　月　１　日（月）～ 平成　１３　年　１０　月　５　日（金）						
開催日数	５　日間	計画人数	４０　人	受講者数	３５　人	(参加率)	87.5 %
開催場所	大阪情報専門学校						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	１５　人	43.00%	１８　人	51.00%	０　人	0.00%	２　人	6.00%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

（1）感想
・同教科、各県の先生方と有意義な時間を過ごせた。（１２人）
・プレゼンテーションを使った自己紹介は大変勉強になった。
・「世界のＩＴ事情」が良くわかった。
・各先生方の表現力には感心した。
・講義の内容が新鮮で充実した研修だった。（８人）
・山内先生の講義は即実践につなげることができそうでよかった。
・ハードの部分の話が聞けるともっとよかった。
・ＣＤを前もって配布してほしかった。
（2）要望・改善点等
・成績に関するアクセスのどのデータベースの高度な活用法。
・レベルに応じた３コース位の研修内容にしてほしい。
・ハード面の設定（ＬＡＮ、ネットワーク）の勉強がしたい。
・英語教育に生かせるコンピュータの利用方法などを話し合う機会もほしかった。（６人）
・ＣＤ－ＲＯＭと同じ冊子がほしかった。
・各先生方が用いた資料を配付してほしかった。
・ＶＢを少しでも教えてほしかった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

研修日程（運営等計画書－別紙資料）

日　時	午前		午後		
	9:00　10:30	10:40　12:10	13:10　14:10	14:20　15:20	15:30　16:30
第１日 10／１ （月）	9:00 受付 9:30 ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ 10:00 開講式	①【講演】 新学習指導要領に おける情報化への対応	②【講義】 情報化の方向性 情報化社会と教育	③【講義】 情報教育を支える 技術と課題、他	④【講義】 情報教育の内容 理解
会　場	４０３教室	４０３教室	４０３教室		
講師等		国立教育政策研究所 教育課程調査官　中村 一夫	大阪大学人間科学部 教　授　前迫　孝憲		
第２日 10／２ （火）	⑤【講義】 情報教育カリキュラムの作成	⑥【講義・演習】 情報倫理と プライバシー	⑦【講義】 コンピュータやインターネットの教育利用	⑧【講義・演習】 ホームページや教材の作成 事例研究と選択	
会　場	４０３教室		４０３教室	４０３教室	
講師等	東京国際大学 助教授　山内　豊			岡山・高梁市立高梁中学校 教諭　小林 朝雄	
第３日 10／３ （水）	⑨【講義・演習】 ホームページや教材の作成			⑩【発表・協議】 製作物の発表 （グループ単位）	
会　場	４０３教室				
講師等	岡山・高梁市立高梁中学校 教　諭　小林 朝雄				
第４日 10／４ （木）	⑪【講義】 コンサルテーション はじめに Ｑ＆Ａ集 Ａの作成（グループ）		⑫【演習】 コンサルテーション Ａの作成	⑬【演習・協議】 校内研修の進め方	
会　場	４０３教室			４０３教室	
講師等	園田学園女子大学 助教授　原　克彦			東京・江東区立砂町第三小学校 教諭　田中 克昌	
第５日 10／５ （金）	⑮【講義】 校内研修案の作成	⑯【講義・演習】 校内研修のまとめ 研修後の課題	12:15 閉講式		
会　場	４０３教室		４０３教室		
講師等	東京・江東区立砂町第三小学校 教諭　田中 克昌				

Ⅰ　研修概要

研 修 名	教育情報化推進指導者養成講座（中学校・高等学校－西部１講座）						
研修目的（趣旨）	各都道府県, 市町村が実施する情報教育に関する研修の指導者を養成するための研修						
対 象	国・公立の中学校・高等学校の国語・社会担当教員						
開催期日	平成 １３ 年 ８ 月 ２０ 日（月）～ 平成 １３ 年 ８ 月 ２４ 日（金）						
開催日数	５ 日間	計画人数	４０ 人	受講者数	３５ 人	(参加率)	87.5 %
開催場所	ＫＣＳ鹿児島情報専門学校						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	２０ 人	57.00%	１３ 人	37.00%	２ 人	6.00%	０ 人	0.00%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

（1）感想
・演習が多く勉強になった。（７人）
・大変充実した研修だった。（４人）
・他県の先生方との情報交換が図れてよかった。（３人）
・各講義の導入部分をもう少し丁寧にしてもらいたい。
・講義が新鮮でよかった。
・「コンピュータやインターネットを利用した学習活動」は授業の助けになる。
・機器に関して学校で導入するヒントになった。
・全教員が指導できることを目指すなら全教員を対象とした研修が必要だ。
（2）要望・改善点等
・５日間は短い。（６人）
・教材の事前準備を通知してほしかった。（３人）
・人選するときに条件を明確に示してほしい（２人）
・受講者のレベルにばらつきがある。（２人）
・グループ協議の時間がもっとほしかった。
・企画のシステム管理者などを講師に迎えての研修があると嬉しい。
・中・高を分けるように提案したい　内容が違いすぎる。
・研修前の指示にある程度の宿題（作品）があったらよかった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

研修日程

日時	午前		午後		
	9:00 10:30	10:40 12:10	13:10 14:10	14:20 15:20	15:30 16:30
第1日 8/20 (月)	9:00 受付 9:30 オリエンテーション 10:00 開講式	①【講演】 これからの情報教育	②【講義】 情報化の方向性 情報化社会と教育	③【講義】 情報教育を支える技術と課題，他	④【講義】 情報教育の内容理解
講師等		東京工業大学 教授 赤堀 侃司	東京工業大学 教授 赤堀 侃司		
第2日 8/21 (火)	⑤【講演】 情報教育カリキュラム	⑥【講義・演習】 情報倫理とプライバシー（Q&A事例中心に討議）	⑦【講演】 コンピュータやインターネットの教育利用	⑧【講義・演習】 メール交流学習 演習感想発表	
講師等	東京工業大学 教授 赤堀 侃司		長崎市立淵中学校 教諭 田中 真		
第3日 8/22 (水)	⑨【講義】 ホームページの作成について 教材作成について	⑩【講義・演習】 ホームページの作成 教材作成		⑪【講義・演習】 製作物の発表	
講師等	長崎市立淵中学校 教諭 田中 真				
第4日 8/23 (木)	⑫【講義・演習】 コンサルテーションについて Q&A集 Aの作成（グループ）		⑬【協議】 コンサルテーション協議（グループ）	⑭【講義・演習】 校内研修の進め方について （グループ協議）	
講師等	東京都台東区立忍岡中学校 教諭 前田 光男				
第5日 8/24 (金)	⑮【演習】 校内研修案の作成	⑯【発表・協議】 校内研修案の発表	12:15 閉講式		
講師等	東京都台東区立忍岡中学校 教諭 前田 光男				

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成講座（中学校・高等学校－西部２講座）						
研修目的（趣旨）	各都道府県，市町村が実施する情報教育に関する研修の指導者を養成するための研修						
対象	国・公立の中学校・高等学校の美術担当教員						
開催期日	平成　１３　年　９　月　１７　日（月）～ 平成　１３　年　９　月　２１　日（金）						
開催日数	５　日間	計画人数	４０人	受講者数	２０人	(参加率)	50.0 %
開催場所	ＫＣＳ大分情報専門学校						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	６人	30.00%	１２人	60.00%	１人	5.00%	１人	5.00%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

（1）感想
・他県の先生方との交流がもててよかった。（４人）
・全て新鮮だった　これを機会に機器の使用を心がけたい。（２人）
・パソコン操作を含め研修を積む必要性を再確認した。
・学習に取り入れていくための実践例や資料の提示があれば参考になった。
・情報倫理と著作権についてもっと詳しく聞きたかった。
・意識改革をすることが出来良かった。
・校内研修の進め方、コンサルテーションについての研修は理論的で活用できる。
・情報教育の指導者に求められる資質が何であるか十分に認識できた。
・事前の知識、技術をもっと積んでいればより良く研修できたし、吸収も多かったと思う。
（2）要望・改善点等
・内容に対して期間が短い。（６人）
・事前に研修にかかわる宿題があれば短期間でも焦点化して望めた。（２人）
・どのような人選であったのか基準を疑問に思う。（２人）
・ＨＰ作成では初めての人もいたようなのでマニュアルがあると良かった。
・各班のパワーポイントでの発表などもＣＤにしてほしかった。
・講義も一方通行ではなく双方からの質問の多い双方向のものであると充実度が高まる。
・いろいろなスキルレベルの人がいたことが研修に厚みを持たせていた。
・ドローソフトが欲しかった。
・講師の先生の資料を配布して欲しかった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

研修日程（運営等計画書－別紙資料）

中学校・高等学校　西部２

日時	午前		午後		
	9:00　10:30	10:40　12:10	13:10　14:10	14:20　15:20	15:30　16:30
第１日 ９／17 （月）	9:00 受付 9:30 ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ 10:00 開講式	①【講演】 新学習指導要領における情報化への対応	②【講義】 情報化の方向性 情報化社会と教育	③【講義】 情報教育を支える技術と課題、他	④【講義】 情報教育の内容理解
会　場	２０２教室	２０２教室	２０２教室		
講師等		国立教育政策研究所 教育課程調査官　松林　巧	武庫川女子大学文学部 教　授　中野　彰		
第２日 ９／18 （火）	⑤【講義】 情報教育カリキュラムの作成	⑥【講義・演習】 情報倫理とプライバシー (Q&A事例中心に討議)	⑦【講義】 コンピュータやインターネットの教育利用	⑧【講義・演習】 メール交流演習 演習感想発表	
会　場	２０２教室		２０２教室		
講師等	武庫川女子大学文学部 教　授　中野　彰		福岡県教育センター 研究主事　奥　浩幸		
第３日 ９／19 （水）	⑨【講義】 ホームページの作成 教材作成について	⑩【講義・演習】 課題選択演習 ホームページの作成 ・教材作成		⑪【発表・協議】 製作物の発表	
会　場	２０２教室				
講師等	福岡県教育センター 研究主事　奥　浩幸				
第４日 ９／20 （木）	⑫【講義】 校内研修の進め方	⑬【演習・協議】 グループ協議		⑭【演習・協議】 校内研修案の作成 校内研修案の発表	
会　場	２０２教室				
講師等	金沢大学教育学部 助教授　中川　一史				
第５日 ９／21 （金）	⑮【講義】 コンサルテーションについて	⑯【講義・演習】 コンサルテーションＡの作成	12:15 閉講式		
会　場	２０２教室		202教室		
講師等	園田学園女子大学 助教授　原　克彦				

Ⅰ　研修概要

研修名	教育情報化推進指導者養成講座（中学校・高等学校－西部３講座）						
研修目的（趣旨）	各都道府県，市町村が実施する情報教育に関する研修の指導者を養成するための研修						
対象	国・公立の中学校・高等学校の英語担当教員						
開催期日	平成　１３　年　１０　月　１５　日（月）～ 平成　１３　年　１０　月　１９　日（金）						
開催日数	５　日間	計画人数	４０人	受講者数	３６人	(参加率)	90.0 %
開催場所	広島情報専門学校						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	割合（%）	１３人	36.00%	１５人	42.00%	５人	14.00%	３人	8.00%

2．研修内容に関する主な意見

(感想)
・視野を大きく、柔軟性をもって、現場で仕事に取り組む姿勢を学ぶことができた。（４人）
・「情報教育」というものが具体的に見えた研修だった。（４人）
・レベルの高い内容、情報教育に携わる者として自覚ができた。（３人）
・山内先生・伊藤先生のように具体的な例を示して講義をしていただくと大変分かりやすい。（３人）
・参加型のワークショップは有意義だった。（２人）
・英語教育で活用できるサイトの紹介、活用方法を教えていただき参考になった。（２人）
・内容の変更は残念、メール交流演習を楽しみにしていた。
（２）要望・改善点等
・内容によっては期間が２週間のほうがよい。（４人）
・夏休み期間の開催を希望する。（２人）
・同県同士のグループより、他県の人とのグループ編成のほうが良かった。（２人）
・校内ネットワークでは、素人では設計まで関わるのは大変、具体的に学校の例をあげてもらいたい。（２人）
・演習において発表のための準備時間が不足していた。（２人）
・時間をかけて作った教材を時間が足りず発表できなかった。（２人）
・日ごとにグループのメンバー構成を変えたらもっと意見交換できた。
・事前資料や参考資料を前もって用意してほしい。
・座席でグループ化しないで、学校別のほうが活用しやすい教材や指導案が作れたのではないか。
・発表のデータを持ち帰ることが出きるようにしてほしい。
・数学・理科・家庭科以外の教師にも情報の免除が取れるようにすれば、日本の情報教育は早く進むのではないか。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

研修日程（運営等計画書－別紙資料）

日　時	午前 9:00 10:30	午前 10:40 12:10	午後 13:10 14:10	午後 14:20 15:20	午後 15:30 16:30
第1日 10／15 (月)	9:00 受付 9:30 ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ 10:00 開講式	①【講演】 新学習指導要領における情報化への対応	②【講義】 情報化の方向性 情報化社会と教育	③【講義】 情報教育を支える技術と課題、他	④【講義】 情報教育の内容理解
会　場	５Ｎ２教室	５Ｎ２教室	５Ｎ２教室		
講師等		国立教育政策研究所 教育課程調査官　中村 一夫	東京国際大学 助教授　山内　豊		
第2日 10／16 (火)	⑤【講義】 情報教育カリキュラムの作成	⑥【講義・演習】 情報倫理とプライバシー (Q&A事例中心に討議)	⑦【講義】 コンピュータやインターネットの教育利用	⑧【講義・演習】 メール交流演習 演習感想発表	
会　場	５Ｎ２教室		５Ｎ２教室		
講師等	東京国際大学 助教授　山内　豊		筑波大学附属駒場中・高等学校 教 諭　市川　道和		
第3日 10／17 (水)	⑨【講義・演習】 指導案および教材作成と発表		⑩【講義】 ＯＳ、マルチメディア 校内ネットワークの基礎知識 校内ネットワークの設計		
会　場	５Ｎ２教室		５Ｎ２教室		
講師等	筑波大学附属駒場中・高等学校 教 諭　市川　道和		富士通ラーニングメディア(株) 課 長　戸田　博人		
第4日 10／18 (木)	⑪【講義】 コンサルテーション はじめに Q＆A集 Aの作成（グループ）		⑫【演習】 コンサルテーション Aの作成	⑬【演習・協議】 校内研修の進め方	
会　場	５Ｎ２教室			５Ｎ２教室	
講師等	園田学園女子大学 助教授　原　克彦			練馬・台東区立忍岡中学校 教諭　前田 光男	
第5日 10／19 (金)	⑭【講義・演習】 校内研修案の作成	⑮【講義】 校内研修のまとめ 研修後の課題	12:15 閉講式		
会　場	５Ｎ２教室		5N2教室		
講師等	東京・台東区立忍岡中学校 教 諭　前田　光男				

Ⅰ　研修概要

研修名	「総合的な学習の時間」研修講座（小学校英語活動研修講座　第１回）						
研修目的（趣旨）	小学校の「総合的な学習の時間」において，各学校が国際理解に関する学習の一環としての英語活動を行う場合に，小学校段階にふさわしい学習活動ができるよう支援するため，指導的な立場を担う小学校教員及び教育委員会の指導主事等に対して，基本的な知識や指導方法等を修得させる。						
対象	各都道府県において指導的立場にある小学校（盲学校，聾学校及び養護学校の小学部を含む）の教員又は教育委員会，教育センター等の指導主事等で，都道府県教育委員会の推薦する者とする。						
開催期日	平成　１３　年　１０　月　２９　日（月）　～　平成　１３　年　１１　月　２　日（金）						
開催日数	５　日間	計画人数	２００人	受講者数	１６５人	(参加率)	82.50 %
開催場所	独立行政法人　国立オリンピック記念青少年総合センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

１　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	１２４人	81.58%	１１人	7.24%	０人	0.00%	１７人	11.18%

２．研修内容に関する主な意見

・大変有意義な研修会だった。講師も日本をリードする立場の先生ばかりで大変参考になった。（多数）
・小学校英語活動に対する動き，現状がわかり，これからの目標が具体的にもてそうだ。この講座に参加しなければ得られなかったさまざまな情報があり，大変有意義な講座だった。（多数）
・英語活動の必要性と意義がよくわかって，とても刺激を受けた。
・前半の講義では，今なぜ英語学習が必要なのか教えていただいたり，授業づくりのポイントを紹介していただいたりし，これから授業を行う上で大変役に立った。後半のワークショップでは実際の教材研究を楽しくさせていただいた。
・各都道府県の方々とも情報交換する場や時間があればよかった。（多数）
・参考図書の紹介があればよかった。（多数）
・今回は第１回ということで，英語に何らかの形でたずさわる教師が多かったが，今後は同様の内容だと難しいと感じる参加者がまちがいなく増えると思う。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

小学校英語活動研修講座講義日程(第1回)

国立オリンピック記念青少年総合センター

10:00	11:30	12:50	14:00	20	30	16:00

10月29日(月)	開会式(10:00 ～ 10:30) 【講義】 「総合的な学習の時間」と英語活動 文部科学省初等中等教育局国際教育課 国際理解教育専門官 新山 雄次	昼休み	【講義】 小学校英語活動の現状と展望 宮崎大学教授 影浦 攻	【講義】 英語活動の基本的な理論 宮崎大学教授 影浦 攻
10月30日(火)	【講義】 年間活動計画の構想 宮崎大学教授 影浦 攻	昼休み	【講義】 英語活動の方法・内容・活動案の構想 岐阜大学教授 松川 禮子	【講義】 授業の観察 岐阜大学教授 松川 禮子
10月31日(水)	【講義】 歌，チャンツ，クイズ，ゲームなどの実際 文化女子大学非常勤講師 久埜 百合	昼休み	【講義】 教材・教具の作成の実際 文化女子大学非常勤講師 久埜 百合	【講義】 教室英語の実際 日本外国語専門学校講師 トム マーナー
11月1日(木)	【グループ別ワークショップ】 授業の構想 ①塩竈市立浦戸第一小学校教諭 小野寺 由起 ②成田市立成田小学校教諭 佐藤 広幸 ③文京区立誠之小学校教諭 三浦 邦子 ④金沢市立南小立野小学校教諭 今井 京 ⑤河内長野市立天野小学校教諭 梅本 多	昼休み	【グループ別ワークショップ】 授業実践への準備 I ①塩竈市立浦戸第一小学校教諭 小野寺 由起 ②成田市立成田小学校教諭 佐藤 広幸 ③文京区立誠之小学校教諭 三浦 邦子 ④金沢市立南小立野小学校教諭 今井 京 ⑤河内長野市立天野小学校教諭 梅本 多	【グループ別ワークショップ】 授業実践への準備 II ①塩竈市立浦戸第一小学校教諭 小野寺 由起 ②成田市立成田小学校教諭 佐藤 広幸 ③文京区立誠之小学校教諭 三浦 邦子 ④金沢市立南小立野小学校教諭 今井 京 ⑤河内長野市立天野小学校教諭 梅本 多
11月2日(金)	【グループ別ワークショップ】 授業実践 I ①塩竈市立浦戸第一小学校教諭 小野寺 由起 ②成田市立成田小学校教諭 佐藤 広幸 ③文京区立誠之小学校教諭 三浦 邦子 ④金沢市立南小立野小学校教諭 今井 京 ⑤河内長野市立天野小学校教諭 梅本 多	昼休み	【グループ別ワークショップ】 授業実践 II ①塩竈市立浦戸第一小学校教諭 小野寺 由起 ②成田市立成田小学校教諭 佐藤 広幸 ③文京区立誠之小学校教諭 三浦 邦子 ④金沢市立南小立野小学校教諭 今井 京 ⑤河内長野市立天野小学校教諭 梅本 多	【グループ別ワークショップ】 授業への反省・意見交換 ①塩竈市立浦戸第一小学校教諭 小野寺 由起 ②成田市立成田小学校教諭 佐藤 広幸 ③文京区立誠之小学校教諭 三浦 邦子 ④金沢市立南小立野小学校教諭 今井 京 ⑤河内長野市立天野小学校教諭 梅本 多 閉会式 (15:30 ～)

【グループ別ワークショップ】は５つのグループに分かれて実施

Ⅰ　研修概要

研修名	「総合的な学習の時間」研修講座（小学校英語活動研修講座　第２回）						
研修目的（趣旨）	小学校の「総合的な学習の時間」において，各学校が国際理解に関する学習の一環としての英語活動を行う場合に，小学校段階にふさわしい学習活動ができるよう支援するため，指導的な立場を担う小学校教員及び教育委員会の指導主事等に対して，基本的な知識や指導方法等を修得させる。						
対象	各都道府県において指導的立場にある小学校（盲学校，聾学校及び養護学校の小学部を含む）の教員又は教育委員会，教育センター等の指導主事等で，都道府県教育委員会の推薦する者とする。						
開催期日	平成　１３　年　１２　月　１０　日（月）～ 平成　１３　年　１２　月　１４　日（金）						
開催日数	５　日間	計画人数	２００人	受講者数	１３８人	(参加率)	69.00 %
開催場所	大阪府教育センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

１　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	８６人	69.35%	２９人	23.39%	１人	0.81%	８人	6.45%
割合（%）								

２．研修内容に関する主な意見

・小学校の英語教育が目指すもの，授業の構成について悩んでいたものが明確になった。理論・実践両方研修できてよかった。（多数）
・講師の意見や考えで「HRTの重要性」について一貫性があり方向性がはっきりわかったのがよかった。
・班別研修の講師とALTがとても優秀で助言・支援・コメントが参考になった。講師の選定は研修のキー要素だと思った。
・このような研修会をできるだけ多くの教員が受けられるとよいと思う。
・英語活動と総合的な学習の時間の関連づけに無理があるような気がした。
・理論的なことよりもまず実践例の紹介を中心に行えればと思う。
・事前調査に英語力のレベル調査があったが，研修の組み方にどう反映しているのか分からなかった。
・グループでの活動をもっと早い段階で行った方が情報交換ができたと思う。（多数）
・総合的な学習の中で自然に英語活動が入るような取り組みも教えていただければありがたい。
・受講者相互の意見交換，情報交換の場が１コマあってもよかった。（多数）
・２０～３０名で１グループをつくり，レポートやビデオなどを用いた実践報告を行う。その後，質疑応答や協議の場を設けるとよい。
・小中連携という意味で，現場の中学校の先生方にも参加していただくとよい。
・実践のVTRを配布することで各市町村に戻ってからの伝達講習がスムーズにできるであろう。（複数）

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

小学校英語活動研修講座講義日程(第2回)

会　場：大阪府教育センター

	9:30	10:00	11:30	12:30	12:40	13:00	14:00	14:30	15:30	16:00	17:00
12月10日(月)				受付		開講式 【行政説明】 「総合的な学習の時間」と英語活動		【講義】 小学校英語活動の現状と展望 宮崎大学教授 影浦　攻		【講義】 英語活動の基本的な理論 宮崎大学教授 影浦　攻	
12月11日(火)		【講義】 年間活動計画の構想 宮崎大学教授 影浦　攻		昼休み		【講義】 英語活動の方法・内容・活動案の構想 近畿大学教授 樋口　忠彦		休憩	【講義】 授業の観察 近畿大学教授 樋口　忠彦		
12月12日(水)		【講義】 歌，チャンツ，クイズ，ゲームなどの実際 文化女子大学非常勤講師 久埜　百合		昼休み		【講義】 教材・教具の作成の実際 文化女子大学非常勤講師 久埜　百合		休憩	【講義】 教室英語の実際 日本外国語専門学校講師 トム・マーナー	16:20	
12月13日(木)	【グループ別ワークショップ】～授業の構想・授業実践への準備～ 1班　塩竈市立浦戸第一小学校教諭　小野寺　由　起，ALT　David　Goldberg 2班　成田市立成田小学校教諭　佐　藤　広　幸，ALT　Ruka　Laladidi 3班　金沢市立南小立野小学校教諭　今　井　　京，ALT　Erin　Hooper 4班　河内長野市立天野小学校教諭　梅　本　　多，ALT　Peter　Ferguson 5班　那珂川町立安徳北小学校教諭　上　原　明　子，ALT　Justin　Kulpa									14:30	15:00
12月14日(金)	【グループ別ワークショップ】～授業実践・反省・意見交換～ 1班　塩竈市立浦戸第一小学校教諭　小野寺　由　起，ALT　David　Goldberg 2班　成田市立成田小学校教諭　佐　藤　広　幸，ALT　Ruka　Laladidi 3班　金沢市立南小立野小学校教諭　今　井　　京，ALT　Erin　Hooper 4班　河内長野市立天野小学校教諭　梅　本　　多，ALT　Peter　Ferguson 5班　那珂川町立安徳北小学校教諭　上　原　明　子，ALT　Justin　Kulpa									閉講式	

【グループ別ワークショップ】は5つのグループに分かれて実施

Ⅰ　研修概要

研修名	「総合的な学習の時間」研修講座（小学校英語活動研修講座　第３回）						
研修目的（趣旨）	小学校の「総合的な学習の時間」において，各学校が国際理解に関する学習の一環としての英語活動を行う場合に，小学校段階にふさわしい学習活動ができるよう支援するため，指導的な立場を担う小学校教員及び教育委員会の指導主事等に対して，基本的な知識や指導方法等を修得させる。						
対象	各都道府県において指導的立場にある小学校（盲学校，聾学校及び養護学校の小学部を含む）の教員又は教育委員会，教育センター等の指導主事等で，都道府県教育委員会の推薦する者とする。						
開催期日	平成　１４　年　２　月　２５　日（月）～ 平成　１４　年　３　月　１　日（金）						
開催日数	５　日間	計画人数	２００　人	受講者数	１６１　人	(参加率)	80.50 %
開催場所	独立行政法人　国立オリンピック記念青少年総合センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	１１４　人	74.03%	２６　人	16.88%	０　人	0.00%	１４　人	9.09%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

・地方の研修でも感銘を受けることはあるが，今回の研修は驚きと感動と喜びの連続だった。今まで受けてきた研修で一番だった。講師陣がすばらしかった。
・理論から実践まで充実した研修ができた。地元ではわからない最新情報を得ることができ，参加して本当によかった。
ここで学んだことを地元に帰って広めていきたい。（多数）
・全国レベルで同じ目的・悩みを持つ教員が情報交換するよい機会となった。（多数）
・研修参加者のレベルが様々であった。年３回ある研修を，実践レベルにより参加者を分け，研修内容を少しずつ変えてはいかがか。
・英語が全く話せず，英語活動の経験のない自分がこの研修に参加することに，はじめは消極的だったが，研修を終えて，「自分の授業でもぜひ実践してみたい」という気持ちになれるような内容で，大変よかった。（多数）
・講師のみなさんのお考えが，根底でしっかりつながっていて，勉強になった。
・講義形式が多すぎる。実践的なものや，演習の時間を増やしてはどうか。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

小学校英語活動研修講座講義日程(第3回)

会　場：国立オリンピック記念青少年総合センター
センター棟５Ｆ「５０１研修室」

	9:30	10:00	11:30	12:30	12:40	13:00	14:00	14:30	15:30	16:00	17:00
2月25日(月)				受付		開講式 【行政説明】「総合的な学習の時間」と英語活動		【講義】小学校英語活動の現状と展望 宮崎大学教授 影浦　攻		【講義】英語活動の基本的な理論 宮崎大学教授 影浦　攻	
2月26日(火)		【講義】年間活動計画の構想 宮崎大学教授 影浦　攻		昼休み		【講義】英語活動の方法・内容・活動案の構想 国立教育政策研究所 総括研究官 渡邉　寛治		休憩	【講義】授業の観察 国立教育政策研究所 総括研究官 渡邉　寛治		
2月27日(水)		【講義】歌，チャンツ，クイズ，ゲームなどの実際 文化女子大学非常勤講師 久埜　百合		昼休み		【講義】教材・教具の作成の実際 文化女子大学非常勤講師 久埜　百合		休憩	【講義】教室英語の実際 日本外国語専門学校講師 トム・マーナー		16:20
2月28日(木)	【グループ別ワークショップ】～授業の構想・授業実践への準備～ 1班　塩竈市立浦戸第一小学校教諭　小野寺　由　起，ALT　David　Goldberg 2班　成田市立成田小学校教諭　佐　藤　広　幸，ALT　Ruka　Laladidi 3班　文京区立誠之小学校教諭　三　浦　邦　子，ALT　Joseph　Guzman 4班　金沢市立南小立野小学校教諭　今　井　　京，ALT　Erin　Hooper 5班　河内長野市立天野小学校教諭　梅　本　　多，ALT　Peter　Ferguson										
3月1日(金)	【グループ別ワークショップ】～授業実践・反省・意見交換～ 1班　塩竈市立浦戸第一小学校教諭　小野寺　由　起，ALT　David　Goldberg 2班　成田市立成田小学校教諭　佐　藤　広　幸，ALT　Ruka　Laladidi 3班　文京区立誠之小学校教諭　三　浦　邦　子，ALT　Joseph　Guzman 4班　金沢市立南小立野小学校教諭　今　井　　京，ALT　Erin　Hooper 5班　河内長野市立天野小学校教諭　梅　本　　多，ALT　Peter　Ferguson									閉講式	

※【グループ別ワークショップ】は５つのグループに分かれて実施します。
※ 閉講式はセンター棟５Ｆ「５０１研修室」で行います。

Ⅰ　研修概要

研修名	総合学科等新科目実技指導講座（第１回）						
研修目的（趣旨）	総合学科設置校の教員等に対し、「産業社会と人間」及び「課題研究」等の指導内容・方法を中心に、生徒の進路選択及び科目選択のためのガイダンスの内容・方法等に関する研修を行う。						
対象	①各都道府県教育委員会の総合学科担当者　②総合学科設置校の教員等 ③総合学科設置予定校の教員等　④「産業社会と人間」を開設又は開設予定の高等学校の教員等						
開催期日	平成　１３　年　７　月　１６　日（月）～ 平成　１３　年　７　月　１９　日（木）						
開催日数	４　日間	計画人数	１００人	受講者数	９０人	(参加率)	90.00 %
開催場所	独立行政法人　教員研修センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	２９人	32.22%	５１人	56.67%	３人	3.33%	７人	7.78%

2．研修内容に関する主な意見

- 知識に乏しい「産業教育と人間」について講義・実践例については、今後の設置を考える参考になった。また、ガイダンスの大切さ、カウンセリングの重要さが分かった。
- 成功例や前向きな話が多かったように感じた。現在苦労されている学校や失敗例、うまくいっていないという具体的な話と取り組みを聞きたい。
- 「産業社会と人間」に関し、他校の計画、特色等をもっと情報交換等ができる機会が欲しい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度総合学科等新科目実技指導講座（第１回）　日程表

日　程	時　程	講　義　等　名　及　び　講　師	会場
7月16日	13:00～13:30	受　付	レセプションホール
(月)	13:30～14:00	開講式	
	14:00～15:30	講　演　「青少年の意志決定力をどう育むか」 講師　ジュニア・アチーブメント本部専任理事　中許　善弘	
	15:45～16:30	オリエンテーション	
7月17日	9:00～10:20	実践発表　「『産業社会と人間』の事例研究」 講師　栃木県立氏家高等学校教諭　深沢二三男	レセプションホール
(火)		講　義　「『産業社会と人間』への期待ーインターンシップを受け入れて」 講師　日興産業株式会社代表取締役社長　水野　安憲	
	10:30～12:00	講　義　「『産業社会と人間』の指導」 講師　文部科学省教育課程課教科調査官　板橋　孝志	
	13:00～16:30	演　習　「『産業社会と人間』の指導計画作成」	別紙参照
7月18日	9:00～10:00	講　義　「ガイダンス・カウンセリングの理論」 講師　筑波大学大学院心理学系教授　渡邊三枝子	レセプションホール
(水)	10:15～12:30	演　習　「ガイダンス・カウンセリングの実際」 講師　筑波大学大学院心理学系教授　渡邊三枝子 講師　東京都立八王子工業高等学校長　内田　雅顕 講師　埼玉県立総合教育センター副所長　高部　博子	別紙参照
	13:30～15:30	演　習　「ガイダンス・カウンセリングの実際」 講師　筑波大学大学院心理学系教授　渡邊三枝子 講師　東京都立八王子工業高等学校長　内田　雅顕 講師　埼玉県立総合教育センター副所長　高部　博子	別紙参照
	15:40～16:30	講　義　「ガイダンス・カウンセリングの実践」 講師　東京都立立川高等学校教諭　大池　公紀	レセプションホール
7月19日	9:00～ 9:50	講　義　「総合学科における入学者選抜の改善」 講師　東京都立桐ヶ丘高等学校長　天井　勝海	レセプションホール
(木)	10:00～10:50	講　義　「総合学科における『総合的な学習の時間』」 講師　文部科学省教育課程課教科調査官　板橋　孝志	
	11:00～12:20	実践発表及び研究協議　「『総合的な学習の時間』への取組」 講師　筑波大学附属坂戸高等学校教諭　青木　猛正 講師　秋田県立西目高等学校教諭　工藤　伸一	
	13:30～15:00	班発表及び研究協議　「『産業社会と人間』の指導計画」 助言　文部科学省教育課程課教科調査官　板橋　孝志	
	15:00～	閉講式	

Ⅰ　研修概要

研修名	総合学科等新科目実技指導講座（第２回）						
研修目的（趣旨）	総合学科設置校の教員等に対し、「産業社会と人間」及び「課題研究」等の指導内容・方法を中心に、生徒の進路選択及び科目選択のためのガイダンスの内容・方法等に関する研修を行う。						
対象	①各都道府県教育委員会の総合学科担当者　②総合学科設置校の教員等 ③総合学科設置予定校の教員等　④「産業社会と人間」を開設又は開設予定の高等学校の教員等						
開催期日	平成　１３　年　９　月　２５　日（火）～ 平成　１３　年　９　月　２８　日（金）						
開催日数	４　日間	計画人数	１００人	受講者数	７８人	(参加率)	78.0 %
開催場所	独立行政法人　教員研修センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人） / 割合（%）	４０人	53.33%	２９人	38.67%	２人	2.67%	４人	5.33%

2．研修内容に関する主な意見

- 実践報告や講義は参考になる面が多かった。
- いろいろな企業の方々から現代の高校生や新規採用者について感じることを聞きたい。
- 他の学校の「産業社会と人間」の取り組みについていろいろな話が聞けて参考になった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度総合学科等新科目実技指導講座（第２回）　日程表

日　程	時　程	講　義　等　名　及　び　講　師	会場
9月25日（火）	13:00～13:30	受　付	201号室（研修棟２階）
	13:30～14:00	開講式	
	14:00～15:30	講　演　「青少年の意志決定力をどう育むか」 講師　ジュニア・アチーブメント本部専任理事　中許　善弘	
	15:45～16:30	オリエンテーション	
9月26日（水）	9:00～10:20	実践発表　「『産業社会と人間』の事例研究」 講師　福岡県立稲築志耕館高等学校教諭　井上　雅水	201号室（研修棟２階）
		講　義　「『産業社会と人間』への期待－インターンシップを受け入れて」 講師　日興産業株式会社代表取締役社長　水野　安憲	
	10:30～12:00	講　義　「『産業社会と人間』の指導」 講師　文部科学省教育課程課教科調査官　板橋　孝志	
	13:00～16:30	演　習　「『産業社会と人間』の指導計画作成」 講師　文部科学省教育課程課教科調査官　板橋　孝志	別紙参照
9月27日（木）	9:00～10:00	講　義　「ガイダンス・カウンセリングの理論」 講師　筑波大学大学院心理学系教授　渡邊三枝子	レセプションホール（食堂棟３階）
	10:15～12:30	演　習　「ガイダンス・カウンセリングの実際」 講師　筑波大学大学院心理学系教授　渡邊三枝子 講師　東京都立八王子工業高等学校長　内田　雅顕 講師　埼玉県立総合教育センター副所長　高部　博子	別紙参照
	13:30～15:30	演　習　「ガイダンス・カウンセリングの実際」 講師　筑波大学大学院心理学系教授　渡邊三枝子 講師　東京都立八王子工業高等学校長　内田　雅顕 講師　埼玉県立総合教育センター副所長　高部　博子	別紙参照
	15:40～16:30	講　義　「ガイダンス・カウンセリングの実践」 講師　東京都立立川高等学校教諭　大池　公紀	レセプションホール（食堂棟３階）
9月28日（金）	9:00～ 9:50	講　義　「総合学科における入学者選抜の改善」 講師　兵庫県立神戸甲北高等学校長　藤井　俊之	レセプションホール（食堂棟３階）
	10:00～10:50	講　義　「総合学科における『総合的な学習の時間』」 講師　文部科学省教育課程課教科調査官　板橋　孝志	
	11:00～12:20	実践発表及び研究協議　「『総合的な学習の時間』への取組」 講師　三重県立昴学園高等学校教諭　森山　隆弘 講師　三重県立昴学園高等学校教諭　寺前　央 講師　高知県立室戸高等学校教頭　田村　昭造	
	13:30～15:00	班発表及び研究協議　「『産業社会と人間』の指導計画」 助言　文部科学省教育課程課教科調査官　板橋　孝志	
	15:00～	閉講式	

Ⅰ　研修概要

研修名	道徳教育連携・推進講座　（第１回中央研修講座）						
研修目的（趣旨）	道徳教育における指導者を養成するための研修。						
対象	小・中学校の校長及び教頭並びに教育委員会の指導主事						
開催期日	平成　１３　年　９　月　１０　日（月）～ 平成　１３　年　９　月　１３　日（木）						
開催日数	４　日間	計画人数	２８０　人	受講者数	２６２　人	(参加率)	93.57　%
開催場所	文部科学省分館　虎ノ門ホール（１、２、４日目） 独立行政法人　国立オリンピック記念青少年総合センター（３日目）						

Ⅱ　アンケート結果の状況

１　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	１６９　人	76.82%	４２　人	19.09%	０　人	0.00%	９　人	4.09%

２．研修内容に関する主な意見

○　特別講演（「熱き感動を求めて」京都市スポーツ政策監　山口良治氏）は本当に感動した。（多数）

○　テーマ演習の中で、各地域の具体的な取組みや課題等について話し合うことができ、参考になった。（多数）

○　文部科学省の最前線の教育方針に直にふれ、大変有効であった。

○　講義やシンポジウム、テーマ演習といろんな形で研修が組まれており、充実していた。

○　内容は充実しており、自己の研修不足を自覚するよい機会となった。

○　管理職としての立場から、どういう心構えを持ったらよいかの助言が頂けてよかった。

○　道徳教育と道徳の時間の指導の、それぞれの意義と役割等が明確になった。

○　シンポジウムについては、それぞれの立場から参考になる話を聞くことができて有意義だったが、時間が足りないせいか、意見の出し合いのみで終わった感がある。

○　演習課題が多く、時間不足のため研究協議に深まりが欠けた。テーマをもう少し絞って頂くと分かりやすかった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度道徳教育連携・推進講座（第１回中央研修講座）

日　程　表

第１日目　於：文部科学省分館　虎ノ門ホール

	10:00	10:30	10:45	11:00	12:30	14:00	15:30	15:45	16:45
９月１０日(月)		受付	開講式	資料説明	講義１「道徳教育の現状と課題」 国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 (併)文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官　押谷　由夫	昼食	特別講演「熱き感動を求めて」 京都市スポーツ政策監　山口　良治	休憩	班別会議 (自己紹介、資料交換、演習の打合せ等)

第２日目　於：文部科学省分館　虎ノ門ホール

	9:30	10:45	11:00	12:30	14:00	15:30	15:45	16:45
９月１１日(火)	講義２「道徳教育推進に求められる姿勢」 国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 (併)文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 柴原　弘志	休憩	講演「子どもの心を育てる道徳教育」 関西学院大学教授　横山　利弘	昼食	シンポジウム１ 「学校、家庭、地域社会の連携による道徳教育の推進に向けて」 コーディネーター 香川大学教育学部教授 (併)文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官　七條　正典 シンポジスト 関西学院大学教授　横山　利弘 新宿区立市谷小学校学校評議員　的場　千子 あかね助産院院長　小木戸千里 小城町立三里小学校校長　森岡　慶彰 綾馬区立石神井中学校校長　瀧島　順一 奈良県教育委員会事務局学校教育課指導主事　大西　節子	休憩	シンポジウム２ 「道徳の時間の充実に向けて」 ーディネーター 香川大学教育学部教授 (併)文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 七條　正 ・ンポジスト 関西学院大学教授　横山　利 新宿区立市谷小学校学校評議員　的場　千 あかね助産院院長　小木戸千 小城町立三里小学校校長　森岡　慶 綾馬区立石神井中学校校長　瀧島　順 奈良県教育委員会事務局学校教育課指導主事 大西　節

第３日目　於：オリンピック記念青少年総合センター

	9:30	12:00	13:30	15:30	15:45	16:45
９月１２日(水)	テーマ演習１「道徳教育の全体計画の充実と具体的推進の方法について」 １班　１０６　青葉学園短期大学講師　富山　保 ２班　１０９　青山学院大学講師　津田　知充 ３班　１１０　世田谷区立松沢小学校校長　橋本　誠司 ４班　５０２　越谷市立越ヶ谷小学校校長　山西　実 ５班　５１０　台東区立東泉小学校校長　袈裟　正子 ６班　５１１　品川区立富士見台中学校校長　海老澤孝夫 ７班　５１２　昭島市立清泉中学校校長　山田　佳子 ８班　５１４　高知県教育委員会学校教育課課長補佐　田邊　重任	昼食	テーマ演習２「道徳の時間の年間指導計画の充実と道徳の授業の工夫について」 １班　１０６　青葉学園短期大学講師　富山　保 ２班　１０９　青山学院大学講師　津田　知充 ３班　１１０　世田谷区立松沢小学校校長　橋本　誠司 ４班　５０２　越谷市立越ヶ谷小学校校長　山西　実 ５班　５１０　台東区立東泉小学校校長　袈裟　正子 ６班　５１１　品川区立富士見台中学校校長　海老澤孝夫 ７班　５１２　昭島市立清泉中学校校長　山田　佳子 ８班　５１４　高知県教育委員会学校教育課課長補佐　田邊　重任	休憩	テーマ演習３「自由テーマ」 班　１０６ 青葉学園短期大学講師　富山 班　１０９ 青山学院大学講師　津田　知 班　１１０ 世田谷区立松沢小学校校長　橋本　誠 班　５０２ 越谷市立越ヶ谷小学校校長　山西 班　５１０ 台東区立東泉小学校校長　袈裟　正 班　５１１ 品川区立富士見台中学校校長 海老澤孝 班　５１２ 昭島市立清泉中学校校長　山田　佳 班　５１４ 高知県教育委員会学校教育課課長補佐 田邊　重

第４日目　於：文部科学省分館　虎ノ門ホール

	9:30	12:00	13:30	15:30	15:45
９月１３日(木)	テーマ演習全体会 （班別報告、質疑及び研究協議） 国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 (併)文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 押谷　由夫 柴原　弘志	昼食	講義３「道徳教育の充実に向けて」 （Q＆Aを含む） 国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 (併)文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官　押谷　由夫 柴原　弘志	閉講式	

Ⅰ　研修概要

研修名	道徳教育連携・推進講座　（第２回中央研修講座）						
研修目的（趣旨）	道徳教育における指導者を養成するための研修。						
対象	小・中学校の校長及び教頭並びに教育委員会の指導主事						
開催期日	平成　１３　年　１２　月　３　日（月）～ 平成　１３　年　１２　月　６　日（木）						
開催日数	４　日間	計画人数	２８０人	受講者数	２５７人	（参加率）	91.79 %
開催場所	文部科学省分館　虎ノ門ホール（１、２、４日目） 独立行政法人　国立オリンピック記念青少年総合センター（３日目）						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	１８３人	80.62%	３８人	16.74%	０人	0.00%	６人	2.64%

2．研修内容に関する主な意見

○　道徳について、各地の教育事情・取り組み、また自分の取り組みを振り返る良い機会になった。（多数）

○　普段の学校運営について、見直す機会となった。

○　何か経営の柱の一つが明らかとなった感がある。

○　毎日毎日得るものが大きく、楽しく意欲的に学習できた。

○　藤永先生のユーモアをもって本質を示す具体的な話、北風と太陽の原理、すばらしかった。

○　講師の先生の、分かり易く楽しい研修への取り組みの様子がよくわかった。

○　中央研修等多様な研修を経験しているが、今回はテーマが明確で各研修内容に一貫性があり、大変良いと思う。

○　管理職の立場から、道徳教育充実のためにどのように関わっていけばよいのかについて、講義等でもう少し触れ欲しかった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

日　程　表

第１日目　文部科学省分館　虎ノ門ホール

	10:00	10:30	10:45	11:00	12:30	14:00	15:30	15:45	16:45
12月3日(月)		受付	開講式	資料説明	講義１「道徳教育の現状と課題」 国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 (併)文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官　柴原　弘志	昼食	講演１「道徳教育と学校経営」 文部科学省初等中等教育局視学官　宮川　八岐	休憩	班別会議 （自己紹介、資料交換、演習の打合せ等）

第２日目　文部科学省分館　虎ノ門ホール

	9:30	10:45	11:00	12:30	14:00	16:45
12月4日(火)	講演２「道徳教育で２１世紀の学校を創ろう」 昭和女子大学教授　押谷　由夫	休憩	講演３「道徳教育は何をするのか」 大阪教育大学教授　藤永　芳純	昼食	シンポジウム「学校、家庭、地域社会の連携による道徳教育の推進に向けて」 コーディネーター　香川大学教育学部教授　七條　正典 (併)文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 シンポジスト　大阪教育大学教授　藤永　芳純 京都市立洛中小学校　ゲストティーチャー　西田　麗子 廿日市市立阿品台東小学校長　岡本美紀子 仙台市立秋保中学校教頭　鈴木　貞一	

第３日目　国立オリンピック記念青少年総合センター

	9:30	12:00	13:30	15:30	15:45	16:45
12月5日(水)	テーマ演習１「道徳教育の全体計画の充実と具体的推進の方法について」 １班　３０４　港区立麻布小学校長　長谷　徹 ２班　３０６　墨田区立第二寺島小学校長　林　和子 ３班　３０７　中央区立常盤小学校長　生越　詔二 ４班　４０４　新宿区立早稲田小学校長　荒川　進 ５班　４１４　立川市教育委員会教育相談員　村野　久子 ６班　５１１　葛飾区立常盤中学校長　加倉井　隆 ７班　５１２　鳩ヶ谷市立里中学校長　山田　一彦 ８班　５１４　奈良県教育委員会学校教育課課長補佐　片倉　照彦	昼食	テーマ演習２「道徳の時間の年間指導計画の充実と道徳の授業の工夫について」 １班　３０４　港区立麻布小学校長　長谷　徹 ２班　３０６　墨田区立第二寺島小学校長　林　和子 ３班　３０７　中央区立常盤小学校長　生越　詔二 ４班　４０４　新宿区立早稲田小学校長　荒川　進 ５班　４１４　立川市立教育委員会教育相談員　村野　久子 ６班　５１１　葛飾区立常盤中学校長　加倉井　隆 ７班　５１２　鳩ヶ谷市立里中学校長　山田　一彦 ８班　５１４　奈良県教育委員会学校教育課課長補佐　片倉　照彦	休憩	テーマ演習３「自由テーマ」 １班　３０４ 港区立麻布小学校長　長谷　徹 ２班　３０６ 墨田区立第二寺島小学校長　林　和子 ３班　３０７ 中央区立常盤小学校長　生越　詔二 ４班　４０４ 新宿区立早稲田小学校長　荒川　進 ５班　４１４ 立川市教育委員会教育相談員　村野　久子 ６班　５１１ 葛飾区立常盤中学校長　加倉井　隆 ７班　５１２ 鳩ヶ谷市立里中学校長　山田　一彦 ８班　５１４ 奈良県教育委員会学校教育課課長補佐　片倉　照彦	

第４日目　文部科学省分館　虎ノ門ホール

	9:30	12:00	13:30	15:30	15:45
12月6日(木)	テーマ演習全体会（班別報告、質疑及び研究協議） 国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 (併)文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官　柴原　弘志 昭和女子大学教授　押谷　由夫	昼食	講義２「道徳教育の充実に向けて」（Q＆Aを含む） 国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 (併)文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官　柴原　弘志 昭和女子大学教授　押谷　由夫	閉講式	

Ⅰ　研修概要

研修名	環境教育担当教員講習会（東部地区）						
研修目的（趣旨）	小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校における環境教育に関する指導内容、指導方法等に関する研修を行い、環境教育を担当する教員の指導力の向上を図り、学校における環境教育の一層の充実に資する。						
対象	国立、公立、私立の小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校の教員及び教育委員会の指導主事等						
開催期日	平成 13 年 10 月 23 日（火）～ 平成 13 年 10 月 26 日（金）						
開催日数	4 日間	計画人数	75 人	受講者数	76 人	(参加率)	101.33 %
開催場所	国立花山少年自然の家						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	37 人	48.68%	35 人	46.05%	2 人	2.63%	2 人	2.63%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

・先行事例をもっと聞きたかった。
・ワークショップを複数体験したい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度　環境教育担当教員講習会（東部地区）プログラム

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
第1日 10月23日 (火)					受付	開講式	講演 「学校における環境教育の基本的な考え方」 文部科学省初等中等教育局 主任視学官　江田　玲	講演 「体験学習法と環境教育」 ㈱生態計画研究所所長 小河原　孝生	実習 「講習をはじめるに当たって～アイスブレイキング～」 国立花山少年自然の家職員	夕べのつどい	実習 「ワークショップの選択」 国立花山少年自然の家職員	情報交換会
第2日 10月24日 (水) 愛知県岡崎市立連尺小学校	朝のつどい	実践事例発表 「体験活動で創る環境教育」	ワークショップ「ともに生きる・ともに創る」～環境教育の充実のために ①「自然を知る・自然から学ぶ」　宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団研究室長　柴崎　徹 ②「自然と遊ぶ・森の標本箱づくり」　フォレストファーム　代表　矢野　正 ③「自然の中でピザを焼く」　神奈川県自然環境保全センター研究部　中川　亜年 ④「地域の宝物探しから始める」　岩手子ども環境研究所　代表　吉成　信夫 ⑤「体験学習法・プロジェクトワイルドの体験」(株) 生態計画研究所　所長　小河原孝生						夕べのつどい		
第3日 10月25日 (木) 神奈川県茅ヶ崎市立円蔵中学校	朝のつどい	実践事例発表 「知識を知恵に変える環境教育の実践」	ワークショップ「ともに生きる・ともに創る」～環境教育の充実のために ①「自然を知る・自然から学ぶ」　宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団研究室長　柴崎　徹 ②「自然と遊ぶ・森の標本箱づくり」　フォレストファーム　代表　矢野　正 ③「自然の中でピザを焼く」　神奈川県自然環境保全センター研究部　中川　亜年 ④「地域の宝物探しから始める」　岩手子ども環境研究所　代表　吉成　信夫 ⑤「体験学習法・プロジェクトワイルドの体験」(株) 生態計画研究所　所長　小河原孝生						夕べのつどい		
第4日 10月26日 (金)	朝のつどい	講演 「　演題未定　」 日本環境教育フォーラム事務理事 岡島　成行			ふりかえり	閉講式	昼食				

※２日目・３日目のワークショップは５つの中から２つを選択して行うことができます。

Ⅰ　研修概要

研修名	環境教育担当教員講習会（西部地区）						
研修目的（趣旨）	小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校における環境教育に関する指導内容、指導方法等に関する研修を行い、環境教育を担当する教員の指導力の向上を図り、学校における環境教育の一層の充実に資する。						
対象	国立、公立、私立の小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校の教員及び教育委員会の指導主事等						
開催期日	平成 13 年 11 月 6 日（火）～ 平成 13 年 11 月 9 日（金）						
開催日数	4 日間	計画人数	75 人	受講者数	74 人	(参加率)	98.67 %
開催場所	国立山口徳地少年自然の家						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	21 人	28.77%	51 人	69.86%	1 人	1.37%	0 人	0.00%

2．研修内容に関する主な意見

・ 各教科など総合的な学習の時間以外での環境教育のあり方等を学ぶ機会が欲しい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度環境教育担当教員講習会（西部地区）日程表

◇第１日　１１月６日（火）

○受付　(9:00~9:50)

○開講式(10:00~10:30)

○講義Ⅰ　「学校における環境教育の基本的な考え方」
(10:30~11:30)　文部科学省教科調査官　三輪　洋次

○班別演習Ⅰ　「参加・体験型学習における導入法」
(13:00~14:00)　フリーランス　川島　憲志
マザーアースエデュケーション　松木　正
環境共育事務所カラーズ　西村　仁志

○講演　「これからの環境教育　～持続可能な社会のために～」
(14:00~15:30)　東京学芸大学教育学部教授　小澤紀美子

○講義Ⅱ　「環境教育と参加・体験型の学び」
(15:30~17:30)　フリーランス　川島　憲志
マザーアースエデュケーション　松木　正
高槻市教育委員会　西原花奈子

○講義Ⅲ　「ワークショップの紹介と登録」
(18:30~19:30)　フリーランス　川島　憲志
マザーアースエデュケーション　松木　正
高槻市教育委員会　西原花奈子
帝塚山大学助教授　宮川　治樹
国立淡路青年の家専門職員　高田　研
環境共育事務所カラーズ　西村　仁志

◇第２日　１１月７日（水）

○班別演習Ⅱ　「体験による学び～ワークショップ体験～」
(9:00~12:00 12:30~17:00)　フリーランス　川島　憲志
国立淡路青年の家専門職員　高田　研
帝塚山大学助教授　宮川　治樹
マザーアースエデュケーション　松木　正
環境共育事務所カラーズ　西村　仁志

◇第３日　１１月８日（木）

○講義Ⅳ　「環境教育と体験学習法」
(9:00~11:00)　フリーランス　川島　憲志
国立淡路青年の家専門職員　高田　研
環境共育事務所カラーズ　西村　仁志

○事例発表　「創造を生み出すワークショップ授業」（仮題）
(11:00~12:00)　愛知県豊田市立堤小学校教諭　河村　竜彦
広島工業大学附属広島高等学校教諭　野中　春樹

○研究協議Ⅰ「学校における環境教育の取り組みと課題」
(13:00~17:00)小学校分科会　司会　フリーランス　川島　憲志
助言　愛知県豊田市立堤小学校教諭　河村　竜彦
中学校分科会　司会　環境共育事務所カラーズ　西村　仁志
助言　熊本県阿蘇郡高森東中学校教諭　太田　雅博
高等学校分科会　司会　マザーアースエデュケーション　松木　正
助言　広島工業大学附属広島高等学校教諭　野中　春樹

※情報交換会
(18:00~20:00)

◇第４日　１１月９日（金）

○研究協議Ⅱ　「全員参加型パネルディスカッション～これからの環境教育～」
(9:30~11:00)

○班別演習Ⅲ　「ふりかえりとわかちあい」
(11:00~11:30)

Ⅰ　研修概要

研修名	自然体験活動担当教員講習会（東日本ブロック）						
研修目的（趣旨）	学校教育における自然体験活動の一層の充実を図るため、自然体験活動の指導内容、実施上の配慮、施設の利用方法等についての研究協議・情報交換を行い、自然体験活動担当教員の資質向上を図る。						
対象	国立、公立、私立の小学校、中学校、中等教育学校（前期課程）の自然体験活動担当教員及び都道府県教育委員会等の自然体験活動担当指導主事。						
開催期日	平成 13 年 10 月 2 日（火）～ 平成 13 年 10 月 5 日（金）						
開催日数	4 日間	計画人数	70 人	受講者数	67 人	(参加率)	95.71 %
開催場所	国立磐梯青年の家						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	割合（%）	35 人	52.24%	30 人	44.78%	1 人	1.49%	1 人	1.49%

2．研修内容に関する主な意見

・４つの体験プログラムをすべて体験したかった。
・自然体験活動の意義や評価のあり方について考える場が欲しい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年自然体験活動担当教員講習会日程表【東日本ブロック】

	時　　間	内　　容
10月2日	13:00～13:30	受　付
	13:30～14:15	開講式・趣旨説明
	14:20～15:00	*オリエンテーション，入室，着替え等*
	15:00～16:30	実　習「アイスブレイキング・仲間づくりゲーム」 講　師　明治大学　多田　聡氏
	16:45～18:15	講　演「総合的な学習の時間と自然体験活動」 講　師　図書館情報大学　坂本昭裕氏
	19:00～20:00	交歓夕食会
	20:30～22:30	*入浴，就寝準備　<消灯23:00>*
10月3日	*6:30～ 9:00*	*起床，清掃，朝のつどい，朝食*
	9:00～12:00 13:30～16:30	実　習「選択プログラムⅠ」 実　習「選択プログラムⅡ」 ＊ⅠとⅡの間に昼食をはさむ 下記のａ～ｄのうち２分野を選択しⅠ・Ⅱで各プログラムを受講する。 ａ．コミュニケーションプログラム・・講　師　図書館情報大学　坂本昭裕氏 ｂ．環境学習プログラム・・・・・・・講　師　明治大学　星野敏男氏 ｃ．情報機器を活用したプログラム・・講　師　メンタルクリニックタダ　太田正義氏 ｄ．林間レクリエーションプログラム・講　師　明治大学　多田　聡氏
	16:30～18:30	*入浴，夕食*
	18:30～20:30	実　習「ナイトプログラム（自由選択）」
	20:30～22:30	*自主学習，就寝準備　<消灯23:00>*
10月4日	*6:30～ 9:00*	*起床，清掃，朝のつどい，朝食*
	9:00～10:00	事例発表「学校現場での活用例」 平成11・12年度講習参加者
	10:00～11:00	講　義「学校教育における自然体験活動プログラムの作り方」 講　師　明治大学　星野敏男氏
	11:00～16:30	演　習「自然体験活動プログラムの企画・立案」 (実習におけるａ～ｄの分野毎にグループを構成し，企画案を作成する) ＊途中昼食をはさむ
	17:00～20:00	*夕食，入浴*
	20:00～21:00	情報交換「相談コーナー・車座トーキング」
	21:00～22:30	*就寝準備　<消灯23:00>*
10月5日	*6:30～ 8:45*	*起床，清掃，朝のつどい，朝食*
	8:45～11:15	事例発表・研究協議 「新しい自然体験活動プログラムの展開と活用」 (学校での活用を念頭において，分野毎にロールプレイングを取り入れた発表及び協議を行う。)
	11:45～12:00	閉講式
	12:00～	*昼食，解散*

Ⅰ　研修概要

研修名	自然体験活動担当教員講習会（西日本ブロック）						
研修目的（趣旨）	学校教育における自然体験活動の一層の充実を図るため、自然体験活動の指導内容、実施上の配慮、施設の利用方法等についての研究協議・情報交換を行い、自然体験活動担当教員の資質向上を図る。						
対象	国立、公立、私立の小学校、中学校、中等教育学校（前期課程）の自然体験活動担当教員及び都道府県教育委員会等の自然体験活動担当指導主事。						
開催期日	平成　13　年　10　月　16　日（火）～平成　13　年　10　月　19　日（金）						
開催日数	4　日間	計画人数	70　人	受講者数	62　人	(参加率)	88.57　%
開催場所	国立江田島青年の家						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	39　人	62.90%	17　人	27.42%	0　人	0.00%	6　人	9.68%

2．研修内容に関する主な意見

・もっと外へ出て活動する内容があると良い。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年自然体験活動担当教員講習会日程表【西日本ブロック】

日程	13:30 14:00	15:00	17:00 17:30	21:00
10月16日(火)	受付 / 開会行事	基調講義「学校教育と自然体験活動」 講師 文部科学省	アイスブレイク 講師 信州大学 平野 吉直	移動 / 特別体験「野外炊事を楽しむ」 講師 中京女子大学 平田 裕一 / 入浴 就寝

日程	6:40 7:10 8:30	12:00 13:00	16:30 19:00	21:00
10月17日(水)	起床 洗面 / 朝のつどい 清掃 朝食	選択実習 1 A. 環境学習 B. コミュニケーション C. 創作活動 D. 情報機器の活用 / 昼食 / 選択実習 2 午前と別のプログラムを選択して実施	夕食 入浴	プレゼンテーション (選択実習の活動状況の発表) / 就寝

日程	6:40 7:10 8:30	10:00	15:00	18:00 19:00	21:00
10月18日(木)	起床 洗面 / 朝のつどい 清掃 朝食	講義「自然体験活動の立案とその展開」 講師 信州大学 平野 吉直	演習 1「自然体験活動の企画・立案」 (備考) 昼食・休憩時間は各グループごとに設定	演習 2 (立案したプログラムを体験し合う) / 入浴	夕食・情報交換会 / 就寝

日程	6:40 7:10	8:30 10:00	11:40	12:00
10月19日(金)	起床 洗面 / 朝のつどい 清掃 朝食	研究協議(全体会)	シンポジウム「総合的な学習の時間と自然体験活動」 コーディネーター 信州大学 平野 吉直 発言者 NPO法人静岡県 キャンプカウンセラー 太田 忠義 発言者 関西国際大学 高見 彰 発言者 中京女子大学 平田 裕一	閉会行事 / 昼食後自由解散

Ⅰ　研修概要

研修名	学校体育指導者中央講習会（東部地区）						
研修目的（趣旨）	学校における体育指導者の資質の向上を図るとともに学校体育実技指導者講習会の指導者の養成を図るための研修						
対象	指導主事又は小学校、中学校及び高等学校の教員等						
開催期日	平成 13 年 5 月 22 日（火）～ 平成 13 年 5 月 25 日（金）						
開催日数	4 日間	計画人数	400 人	受講者数	338 人	(参加率)	84.5 %
開催場所	栃木県：栃木会館小ホール 他						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	243 人	81.00%	44 人	14.67%	0 人	0.00%	13 人	4.33%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

・丁寧な解説（説明）を踏まえながら、わかりやすくゆっくり進めてもらい、補助器具や技を覚えるための補助用具の紹介もあり、参考になった。

・具体的な指導を通して、すぐにでも子ども達に教えてあげたいと思うことができた。

・ダンスのプログラム「お国自慢」で、各地方の踊りの紹介がよかった。新しい振り付けの参考になった。

・難しいというイメージだが、補助者、補助器具の使用、段階的な指導方法により、苦手な子ども達にも楽しく運動が行えるような学習方法を知ることができた。

・改めて授業その他における目的・コンセプトを明確に示すことの大切さを学んだ。1つの技術を伝えるときのインパクトある言語・説明にも学ぶべき点が多くあった。特性・楽しさをいかにして伝え、導くか、自分の指導目標がはっきりした。

・課題解決学習の方法について、様々な勉強をすることができ、これから生かしていけるものだった。また、剣道の授業における、体ほぐし運動の発表会等も参考になった。

・授業で実践できるかどうかの不安がある。しかし専門的ではなくても、ビーチハンドボールを応用してゲーム中心でも十分楽しめると感じた。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度東部地区学校体育指導者中央講習会実施要項

1　目　的

小学校、中学校及び高等学校における体育指導者等の資質向上を図るとともに、都道県における学校体育実技指導者講習会等の指導者の養成を図る。

2　主　催

独立行政法人教員研修センター　栃木県教育委員会　宇都宮市教育委員会

3　地区、開催期日、開催地及び参加都道県

地　区	期　　日	開催地	参　加　都　道　県
東　部	５月２２日(火) ～２５日(金)	栃木県	北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、 福島、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京 神奈川、山梨　（１５都道県）

4　日　程

	9	10	11	12	13	14	15	16	17
（第１日） ５月２２日(火)						受付	開会式	解　説	講師・運営委員長打合せ
（第２日） ５月２３日(水)		班　別　実　技		昼食	班　別　実　技				
（第３日） ５月２４日(木)		班　別　実　技		昼食	班　別　実　技				
（第４日） ５月２５日(金)	受付	班　別 研究協議		閉会式					

※開会式は午後２時、講師・運営委員長打合せは午後５時から行う。
※班別研究協議は９時３０分から行う。閉会式は各班ごとに行う。

5　講習内容

（１）解　説　「新しい学習指導要領の全面実施に向けたこれからの体育・保健体育科の授業」
文部科学省スポーツ・青少年局　本村　清人　体育官

（２）実技及び講師

小学校（６班）

① 基本の運動班　講師　清原　義之　（岡山県教育委員会保健体育課課長補佐）
② ゲーム班　講師　武隈　晃　（鹿児島大学　助教授）
③ 体つくり運動班　講師　川口　啓　（名古屋市立八熊小学校　校長）
④ 器械運動班　講師　神家　一成　（高知大学　助教授）
⑤ 水泳班　講師　椿本　昇三　（筑波大学　助教授）
⑥ 表現運動班　講師　高橋　るみ子　（宮崎大学　助教授）

中学校・高等学校（５班）

⑦ 体つくり運動班　講師　古川　善夫　（北海道教育大学　教授）
⑧ 器械運動班　講師　岡端　隆　（静岡大学　助教授）
⑨ ハンドボール班　講師　佐藤　靖　（秋田大学　助教授）
⑩ 剣道班　講師　岡嶋　恒　（北海道教育大学　教授）
⑪ 弓道班　講師　張替　謙一　（茨城県立境高等学校　教諭）

（３）研究協議（開設班ごとに研究協議を行う）
○協議題　「新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりについて」

Ⅰ　研修概要

研修名	学校体育指導者中央講習会（中部地区）						
研修目的（趣旨）	学校における体育指導者の資質の向上を図るとともに学校体育実技指導者講習会の指導者の養成を図るための研修						
対象	指導主事又は小学校、中学校及び高等学校の教員等						
開催期日	平成　13　年　5　月　15　日（火）～ 平成　13　年　5　月　18　日（金）						
開催日数	4　日間	計画人数	400　人	受講者数	354　人	(参加率)	88.5　%
開催場所	静岡県：静岡県総合社会福祉会館						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	162　人	57.24%	101　人	35.69%	0　人	0.00%	20　人	7.07%

2．研修内容に関する主な意見

・往来からあるものでもどのような注意が必要かという説明がわかりやすかった。
・今まであまり知識がなかったが、今回の実技演習で自分の持ちネタが増え、今後の授業に生かせると思った。
・具体的な指導を通して、すぐにでも子ども達に教えてあげたいと思うことができた。
・予定されていたプログラム通りではなく、いろいろなことが次々と出されていたので、講習の整理がしにくかった。
・少し専門性が強いように感じた。
・実践または既知の内容が多く、新鮮な実技内容がなかった。
・学校に配置されていない用具を使って講習されても、持ち帰って広めることはできない。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度中部地区学校体育指導者中央講習会実施要項

1　目　的

小学校、中学校及び高等学校における体育指導者等の資質向上を図るとともに、府県における学校体育実技指導者講習会等の指導者の養成を図る。

2　主　催

独立行政法人教員研修センター
静岡県教育委員会
静岡市教育委員会

3　開催期日　　平成１３年５月１５日（火）～１８日（金）

4　開催地　　静岡市

5　参加府県

北信越	富山県　石川県　福井県　長野県　新潟県
東　海	岐阜県　静岡県　愛知県　三重県
近　畿	滋賀県　京都府　大阪府　兵庫県　奈良県　和歌山県

6　日　程

	13:30　14:00		15:00		16:00
第１日	５月１５日（火）	受付	開　会　式	解　説	
	8:45　9:00		12:00　13:00		16:00
第２日	５月１６日（水）	受付	班　別　実　技	昼食	班　別　実　技
第３日	５月１７日（木）	受付	班　別　実　技	昼食	班　別　実　技
第４日	５月１８日（金）	受付	班別研究協議	閉会式	

＊閉会式は、各班ごとに行う。

＜開会式＞
平成１３年５月１５日（火）１４時００分
〔受付〕　１３時３０分～１３時５５分
〔会場〕　静岡県総合社会福祉会館　第６会議室（７階）

7　講習内容及び講師

(1) 解説

『新しい学習指導要領の全面実施に向けたこれからの体育・保健体育科の授業』
文部科学省スポーツ・青少年局企画・体育課　今関　豊一　教科調査官

Ⅰ　研修概要

研修名	学校体育指導者中央講習会（西部地区）						
研修目的（趣旨）	学校における体育指導者の資質の向上を図るとともに学校体育実技指導者講習会の指導者の養成を図るための研修						
対象	指導主事又は小学校、中学校及び高等学校の教員等						
開催期日	平成　13　年　5　月　8　日（火）～ 平成　13　年　5　月　11　日（金）						
開催日数	4　日間	計画人数	400人	受講者数	339人	(参加率)	84.75 %
開催場所	大分県：大分市コンパルホール						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	226人	73.86%	60人	19.61%	0人	0.00%	20人	6.54%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

・全体講話で、新学習指導要領のねらいの再確認ができた。
・他県の先生方と、いくつか体育に関する情報交換ができた。
・明日からの実践に生かせる内容だった。
・先生方（自分も含め）が、終始笑顔で全体に和やかな雰囲気で行われた。その笑顔を子どもたちに伝えたいと思った。
・体ほぐしの実践方法が具体的で、すぐに現場で役に立つ。
・（新学習指導要領の導入を考えて受講したが）講師の先生の指導が大変うまく、楽しく受講することができた。
・今後の体育指導における基本的な考えについても、より深まった。
・どの実技講習とも、これからの指導や授業づくりに大変参考になった。
・一部、昨年までに伝達されていたものもあったが、目新しいものも多くあった。
・文部科学省による説明は、いろいろな会でお聞きしていることだったが、更にもう少し詳しく解説を聞きたかった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

1　日程及び講習会本部

日　程

	9:00	12:00	13:00	13:30 14:00		16:00
第１日 ５月８日 (火)				受付	開会式	解説
第２日 ５月９日 (水)	班別実技		昼 食	班別実技		
第３日 ５月10日 (木)	班別実技		昼 食	班別実技		
第４日 ５月11日 (金)	班別研究協議	閉会式				

(注) 閉会式は各班別に行う。

講習会本部

昼　間（８：30～21：00）

大分県庁
大分県教育庁体育保健課学校体育係
〒８７０－８５０３
大分市府内町３丁目１０番１号
ＴＥＬ　０９７－５３６－１１１１（内線５６３９）
ＦＡＸ　０９７－５３３－７７４６

夜　間（21：00～）

大分第一ホテル
〒８７０－００２１
大分市府内町１丁目１番１号
ＴＥＬ　０９７－５３６－１３８８

Ⅰ　研修概要

研修名	健康教育指導者中央研修会						
研修目的（趣旨）	健康教育に関する指導者の指導力の向上を図るための研修						
対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、盲学校、聾学校及び養護学校の健康教育（保健教育、安全教育、給食指導）に関して指導的立場にある教員並びに都道府県及び市（政令指定都市及び中核市を含む）町村教育委員会の健康教育担当指導主事						
開催期日	平成　13　年　10　月　17　日（水）～平成　13　年　10　月　19　日（金）						
開催日数	3　日間	計画人数	210　人	受講者数	253　人	(参加率)	120.48　%
開催場所	東京：独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	割合（%）	128　人	58.72%	67　人	30.73%	2　人	0.92%	21　人	9.63%

2．研修内容に関する主な意見

・新学習指導要領の目指すもの、今後の健康教育のあり方について再確認することができた。

・衛生面に対する専門的な知識を得ることができた(指導の裏付けとなる)。

・学校給食部会は学校保健・安全部会とは別会場での実施であり、いろいろなメリットがあると思うが、通常、学校給食について講義等受ける機会が少ないので、全員の方に受講してもらった方が指導・啓発につながるのではないか。

・総合的な学習の時間の中においての心の健康に関する指導方法についてもっと具体的に教えていただけたらと思った。

・薬物乱用については目新しい情報がなかったように思う。

・現在の状況で非常に重要なモノであると考えていたが、講義の前半、いろいろな事例のアウトラインを述べられ、全て心に通じると話されただけで、どうして心につながっているかとか一番聞きたいところが省かれていて、すっかり話がぼけていた。心の問題は現場は十分大切だという認識が大きく、それなりの勉強をしているので、もっと具体的に話をしていただき、資料の紹介などもっとして欲しかった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度　健康教育指導者中央研修会日程一覧

会場　：　独立行政法人 国立オリンピック記念青少年総合センター

月日	部会	会場	9:30	10:00	10:30	11:00	11:15	12:30	13:30	部会	会場	14:50	15:10	16:30
10月17日(水)	全体会	センター棟 417	受付	開会式	解説1「学校健康教育の現状と課題」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課長 惣脇　宏	休憩	解説2「新学習指導要領と学校健康教育」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 教科調査官　戸田　芳雄	昼食		保健安全 小・中・高	センター棟 417	解説3「喫煙、飲酒及び薬物乱用防止に関する指導」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課健康教育企画室 健康教育調査官　鬼頭　英明	休憩	解説4「心の健康に関する指導」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課健康教育企画室 健康教育調査官　田嶋八千代
										学校給食	センター棟 416	解説5「食中毒発生時における学校の衛生管理体制」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 学校給食調査官　金田　雅代		解説6「食に関する現代的課題と学校給食」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 学校給食調査官　米満　裕

月日	部会	会場	9:30	10:50	11:05	12:30	13:30	14:50	15:10	16:30
10月18日(木)	保健安全 小	センター棟 310	講義1「毎日の生活と健康」 ～子どもの生活と健康状態～ 大妻女子大学教授　大澤　清二	休憩	講義2「育ちゆく体とわたし」 ～子どもの体の発育・発達～ 東京女子医科大学名誉教授 和洋女子大学教授　村田　光範	昼食		講義3「けがの防止」 ～人の行動や環境に潜む危険～ 東京学芸大学助教授　渡邊　正樹	休憩	講義4「病気の予防」 ～喫煙、飲酒、薬物乱用防止～ 兵庫教育大学助教授　西岡　伸紀
	保健安全 中	センター棟 311	講義5「心身の機能の発達と心の健康」 ～思春期の心身の発育・発達～ 東京大学大学院教授　衛藤　隆		講義6「傷害の防止」 ～自然災害時の危険～ (財)社会安全研究所ヒューマンファクター研究部長　首藤　由紀			講義7「健康と環境」 ～空気や飲料水の衛生的管理～ 熊本県立大学教授　有薗　幸司		講義8「健康な生活と疾病の予防」 ～生活習慣病の予防～ 鳥取大学助教授　國土　将平
	保健安全 高	センター棟 401	講義9「現代社会と健康　Ⅰ」 ～ヘルスプロモーション～ 東京都立大学大学院教授　星　旦二		講義10「現代社会と健康　Ⅱ」 ～感染症の予防～ 国立感染症研究所感染症情報センター長　岡部　信彦			講義11「生涯を通じる健康」 ～保健医療制度と地域の保健医療機関の活用～ 産業医科大学教授　松田　晋哉		講義12「社会生活と健康」 ～環境の汚染と健康～ 国立環境研究所環境健康研究領域長　遠山　千春

月日	部会	会場	9:30	11:30	12:30	14:00	14:20	16:00
10月18日(木)	学校給食	センター棟 416	講義13　「子どもの食生活」 女子栄養大学長　香川　芳子	昼食	講義14「変化する日本の食中毒と学校給食」 共立薬科大学客員教授　中村　明子	休憩	講義15「食に関する指導参考資料の活用」 東京家政学院短期大学教授　成田　國英	

月日	部会	会場	9:30	11:30	12:30	15:30
10月19日(金)	保健安全 小	センター棟 501	講義16「実践力を育てるための保健学習の考え方、進め方」 筑波大学助教授　野津　有司	昼食	演習1「実践力を育てるための保健学習の指導方法の工夫」 筑波大学助教授　野津　有司 栃木県宇都宮市立上戸祭小学校教諭　森　良一	
	保健安全 中	センター棟 102	講義17「実践力を育てるための保健学習の考え方、進め方」 宇都宮大学教授　和唐　正勝		演習2「実践力を育てるための保健学習の指導方法の工夫」 宇都宮大学教授　和唐　正勝 筑波大学附属駒場中・高等学校教諭　岡崎　勝博	
	保健安全 高	センター棟 401	講義18「実践力を育てるための保健学習の考え方、進め方」 千葉大学助教授　高橋　浩之		演習3「実践力を育てるための保健学習の指導方法の工夫」 千葉大学助教授　高橋　浩之 文部科学省スポーツ・青少年局企画・体育課教科調査官　今関　豊一	
	学校給食	センター棟 416	実践発表及び研究協議1「食に関する指導について」 発表校　萩市立萩西中学校　主任栄養士　小池　記恵子 佐倉市立上志津小学校　教諭　中村　惠利子 指導助言者　文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課　学校給食調査官　米満　裕		実践発表及び研究協議2「学校給食の衛生管理について」 発表校　岐阜県学校薬剤師会　会長　橋本　毅 伊予三島市立三島小学校　教諭　鈴木　直子 指導助言者　文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課　学校給食調査官　金田　雅代	

注1　白抜きの「保健安全」「学校給食」は、それぞれ「学校保健・学校安全各(小・中・高)部会」「学校給食部会」を示す。

注2　上記の講義、演習等のうち、2時間を超えるものについては、原則休憩を適宜設ける予定。

Ⅰ　研修概要

研修名	先端技術体験プログラム　（工業：K－1）						
研修目的（趣旨）	先端の技術に触れさせ、体験を通じて指導者としての資質の向上を図るための研修。						
対象	高等学校の工業担当教員等又は教育委員会の関係指導主事						
開催期日	平成　13　年　8　月　20　日（月）～ 平成　13　年　8　月　23　日（木）						
開催日数	4　日間	計画人数	30　人	受講者数	30　人	(参加率)	100.0　%
開催場所	宇宙開発事業団筑波宇宙センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	19　人	63.33%	10　人	33.33%	0　人	0.00%	1　人	3.34%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

○　２１世紀の技術は宇宙関連であることがよくわかった。

○　宇宙開発やロケットについての予備知識をほとんど持たずに参加したが、とてもわかりやすく教えてもらった。

○　理科系離れが進んでいる中、それらを阻止するためにも興味深い内容だった。工業教育を推進するためにも、この研修の内容を今後生かしていきたい。

○　宇宙開発について理解するためにはよい研修だと思うので、今後も続けて欲しい。

○　他校の先生方と交流できたことは、いい体験だった。

○　ＮＡＳＤＡを知ることができて、これからの宇宙事業に対して理解し、期待できるようになった。

○　宇宙から見た地球という広い視野で取り組まれている事業に改めて驚いた。

○　衛星データの利用については、もっと様々な事例について勉強できた方がよかった。

○　もう少し詳しい内容がよかった。

○　もっと体験的なものがあるといいと思う。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度先端技術体験プログラム日程

（工業，Ｋ－１）

社団法人全国工業高等学校長協会

日　時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
８月２０日（月）				受　付	オリエンテーション	講　演 宇宙の話 （菊山）	施設見学 （筑波宇宙センター）		
８月２１日（火）		講　義 （宇宙ステーション） （石井）	講　義 （ロケットの構造と性能） （秋元）	昼休み	講義と実習 （モデルロケットの製作と打ち上げ） （山田，アシスタント２名）				
８月２２日（水）		講義と実習 （衛星データ利用） （島田，田殿，松岡）		昼休み	講義と実習 （衛星データの利用） （島田，田殿，松岡）			文部科学省講話 佐藤調査官	
８月２３日（木）		講　義 （宇宙開発技術研究の現状） （吉岡）		閉校式					

実施場所　筑波宇宙センター　宇宙実験棟　他

Ⅰ　研修概要

研修名	先端技術体験プログラム　（水産：K－2）						
研修目的（趣旨）	先端の技術に触れさせ、体験を通じて指導者としての資質の向上を図るための研修。						
対象	高等学校の水産担当教員等又は教育委員会の関係指導主事						
開催期日	平成　13　年　8　月　20　日（月）～ 平成　13　年　8　月　22　日（水）						
開催日数	3　日間	計画人数	24　人	受講者数	22　人	(参加率)	91.67　%
開催場所	海洋科学技術センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	15　人	66.18%	7　人	31.82%	0　人	0.00%	0　人	0.00%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

・データ解析で、観測したデータを応用する方法を教えてもらえればと思う。
・ＲＯＶについて、常に操縦するだけでなく、目的とする場所へ移動する方法や、観測の実際をどうすればいいかもわかればよかった。
・再度研修できる機会や、ステップアップできるメニューを期待している。
・非常に多分野にわたる研修で、中身のあるものとなった。
・実習、講義共に新鮮な内容だった。
・先端分野の研究状況を数多く認識できて、とてもよい講習だった。
・最新の情報に接し、知的好奇心が満たされた。
・「深海２０００、６５００」をはじめ、各調査船等で体験航海をやってほしい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度先端技術体験プログラム講習開催のお知らせ

１．開催期間　　平成１３年８月２０日（月）～８月２２日（水）（３日間）

２．会　　場　　海洋科学技術センター
〒237-0061 横須賀市夏島町２－１５

３．内　　容（講習番号Ｋ－２：海洋科学技術に関する先端技術研修）

月日	9	10	11	12	13	14	15	16	17
8/20（月）				受付	開講式 オリエンテーション	深海調査 （講義）深海6500mの世界	（講義）深海の生物	（施設見学）なつしま しんかい2000	
8/21（火）	沿岸域の利用技術 （講義）海洋深層水	（講義）海底設置型生育システム	（実習）ＲＯＶ操縦	昼休み	潜水技術 （講義）潜水作業の安全管理	（実習）圧力体験実験		（実習）体験潜水	
8/22（水）	２１世紀の地球科学 （実習）海洋観測の将来とデータ解析実習		（講義）深海微生物の応用	昼休み	（講義）深海地球ドリリング計画	（研究協議）討論会	閉講式		

４．集合場所　　京浜急行追浜駅連絡バス乗場（添付地図参照）

５．集合時間　　８月２０日（月）１２時００分　※１２時１０分発の路線バスにて移動しますので、時間厳守で集合願います。（昼食は先に済ませておいてください。）

６．宿　　泊　　８月２０日・２１日・・・・・全員海洋科学技術センター内　宿泊施設

７．用意していただくもの

① 研修費　９，０００円　（宿泊費　２泊　８０００円／資料費　１０００円）

② 保険料　　６１０円　　（傷害保険）

③ 筆記用具、洗面道具、タオル、実習服、水着、保険証

８．その他　① 車で来られる方は、事前に海洋科学技術センターに御連絡下さい。
TEL 0468-67-3958（普及・広報課 大嶋）

② 研修費、保険料は、研修当日校長協会事務局が徴収しますので現金にてお支払い下さい。

③ 洗濯機及び乾燥機は、常設されています。（無料）

④ ８月２１日の講習終了後、教育懇談会が行われますので全員参加お願いします。

⑤ 講習中なにか不都合等ありましたら受講生の世話役の先生に連絡お願いします。

⑥ ご不明な点がございましたら、全国水産高等学校長協会事務局までお問い合わせ願います。

⑦ 詳細は後日、全水協事務局より受講生宛に送付いたします。

Ⅰ　研修概要

研修名	公立小・中学校中堅事務職員研修講座						
研修目的（趣旨）	公立の小学校及び中学校の事務職員に必要な研修を行い、事務職員の資質の向上と学校事務の効率的な運営に資する。						
対象	公立小学校及び中学校の中堅事務職員						
開催期日	平成　13　年　5　月　14　日（月）～ 平成　13　年　5　月　18　日（金）						
開催日数	5　日間	計画人数	100　人	受講者数	96　人	(参加率)	96.00　%
開催場所	独立行政法人　教員研修センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	46　人	47.92%	49　人	51.04%	0　人	0.00%	1　人	1.04%

2．研修内容に関する主な意見

- 教育改革の具体的な内容が聞けて大変良かった。
- 国の方針、施策について大変勉強になった。
- 学校経営への参画において大きな道しるべとなった。
- 他県の事務職員との交流ができ情報交換も有意義なものとなった。
- 講義と課題研究のバランスが良かった。
- 研修で得た知識を学校や地域の研修の場で生かしたい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度公立小・中学校中堅事務職員研修講座日程表

	午前の部	午後の部				
5／14 (月)		入館 12:30	生活オリエンテーション 13:45 ~14:50	開講式 15:20 ~15:30	「学校教育の課題と事務職員の役割」 15:35~17:00 文部科学省初等中等教育局視学官 宮川八岐	研修オリエンテーション 17:10~
5／15 (火)	課題研究 9:00~ 10:20	「地方教育行政について」 10:30~12:00 文部科学省初等中等教育局 初等中等教育企画課教育委員会係長 佐藤弘毅	「教育課程の改善」 13:00~14:30 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教育課程企画室室長補佐 松永賢誕	自由研究 (施設見学) 15:00 ~ 宇宙開発事業団 筑波宇宙センター		
5／16 (水)	課題研究 9:00~ 10:20	「教育財政について」 10:30~12:00 文部科学省初等中等教育局 財務課教育財政室専門職 宇田賢治	「生き抜く力と自己責任」 13:00~14:00 経済同友会調査役 橋口理文	「情報教育の現状と課題」 14:20~15:40 文部科学省初等中等教育局 参事官付情報教育調査官 梅澤敦	課題研究 15:50~	
5／17 (木)	課題研究 9:00~ 9:50	「現代の子どもの現状と課題」 10:00~11:00 文部科学省初等中等教育局 視学官 小田豊	「学校図書館について」 11:00~12:00 文部科学省初等中等教育局 児童生徒課指導調査係長 斎藤光男	課題研究 13:00~17:00 全国公立小中学校事務職員研究会会長 加藤善久 全国公立小中学校事務職員研究会研修部長 吉江琢也		
5／18 (金)	自由研究 9:00~ 9:45	「学校経営の現状と課題」 10:00~11:30 全日本中学校長会会長 髙木清文	閉講式 11:40~ 12:00	退館 12:30		

Ⅰ　研修概要

研修名	養護教諭中央研修会						
研修目的（趣旨）	児童生徒が抱える心の健康問題などを解決するため、専門的な知識・技術を習得させる研修						
対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び盲・聾・養護学校の中堅的養護教諭で今後それぞれの地域において指導的役割を果たす者（平成１２年度以前の参加者を除く。）並びに各教育委員会において養護教諭の指導を担当する者						
開催期日	平成　１３　年　１２　月　１０　日（月）　～　平成　１３　年　１２　月　１４　日（金）						
開催日数	５　日間	計画人数	２４０人	受講者数	２２５人	（参加率）	93.75 %
開催場所	東京：独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	割合（%）	１１０人	60.44%	４９人	26.92%	０人	0.00%	２３人	12.64%

2．研修内容に関する主な意見

・健康問題についての現状や最新のニュース、取り組むべき課題が分かりやすく整理され、ポイントを説明してもらい大変勉強になった。今後に十分生かせるものであったし、やるべきことがはっきりした。

・養護教諭の専門性以外も学ぶ必要があることも再確認でき、勉強しなければという気持ちになった。

・最大関心事の「学校環境衛生の基準の改定について」のプールの件、水質検査についてもう少し時間をかけて欲しかった。薬物の説明はとても良かった。

・ヘルスプロモーションを考える点で役に立った。地域保健等とのつながりの必要性を感じた。

・養護教諭の勤務全般に関わる最新の情報を分かりやすく話してもらい感謝している。（更に詳しく聴きたかった。）

・どの説明も非常に盛り沢山の内容で、全てを聞き取ってメモを取るのに必死だった。それだけ養護教諭の職務は重要であり、責任の重さを改めて感じた。

・県の大会で指導主事から聞く内容と変わらなかった。国の状況・方向性を指導主事が正確に私たちに伝えていること が確認できた。

・たくさんの資料があるのは非常に良いが、もう少し精選したもの、もしくはまとめたものを提供してもらいたい。

・行政説明は養護教諭の方にももちろん参考になると思われるが、予備知識がないと少し難しいのではないかと思う（自分が養護教諭として参加したときの経験から、また資料や情報は一過性で常に意識していないため）。

・内容が重複するものがあったので残念。資料の説明は全部はいらないまでも、もう少し要点を絞った話にして時間配分を考慮して欲しい説明もあった。

・終始「聞く」スタイルだった。時折り、質疑を取り入れるとメリハリがつき、ある程度の緊張感と研修意欲が維持できるのではないか。

・ガイダンス的には参考になるが、もう少しレジュメに沿うなり、ポイントを絞って指導をして欲しかった。

・内容からすると説明時間が不足。時間配分の検討が必要と思われる。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度　養護教諭中央研修会日程一覧

12月10日（月）

9:30	10:00	10:15	10:50	11:00	12:00	13:00	14:00	14:15	15:15	15:30	16:30
受付		開会式	説明１「健康教育の現状と課題」 文部科学省ｽﾎﾟｰﾂ・青少年局 学校健康教育課長 惣脇　宏	休憩	説明２「養護教諭の職務と課題への対応」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課健康教育調査官 田嶋　八千代	昼食	説明３「新学習指導要領と健康教育」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課教科調査官 戸田　芳雄	休憩	説明４「学校環境衛生の課題と対応」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課健康教育調査官 鬼頭　英明	休憩	説明５「学校における保健管理と行政的対応」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課専門官 森光　敬子

12月11日（火）

9:30	10:00	11:30	12:30	14:50	15:00	16:30
受付	講義１「養護教諭の進める調査・研究の進め方とまとめ方」 大妻女子大学教授 大澤　清二	昼食	講義２「総合的な学習の時間と健康教育」 鳴門教育大学教授 村川　雅弘	休憩	講義３「感染症の新たな課題への対応」 国立感染症研究所 感染症情報センター長 岡部　信彦	

12月12日（水）

9:30	10:00	12:30	13:30	16:30
受付	講義４・演習１「保健指導の考え方、進め方の理論と実際」 ～課題のとらえ方と計画化～ 女子栄養大学教授 三木　とみ子	昼食	講義５・演習２「保健学習の考え方、進め方の理論と実際」 <小学校部会>　筑波大学 助教授　野津　有司 <中学校部会>　宇都宮大学 教授　和唐　正勝 <高等学校部会>　千葉大学 助教授　高橋　浩之	

会場	
センター棟	
小	４０１室
中	４０２室
高	４０９室

12月13日（木）

9:30	10:00	12:00	13:00	14:45	15:00	16:30
受付	〔課題別研究協議〕 **第１課題　保健指導、保健学習の進め方** 指導助言者　さいたま市立尾間木小学校長　上迫田　健二 **第２課題　学校保健委員会活性化のための運営と工夫** 指導助言者　千葉敬愛短期大学講師　林　眞示 **第３課題　健康相談活動の進め方** 指導助言者　筑波大学教授　渡辺　三枝子	昼食	◎各会場、原則 12:00～13:00 の時間帯に昼食をとる。 学校健康教育課健康教育調査官　鬼頭　英明 学校健康教育課教科調査官　戸田　芳雄 学校健康教育課健康教育調査官　田嶋　八千代	休憩	講義６「学校における性教育・エイズ教育の進め方」 田能村教育問題研究所長 田能村　祐麒	

会場	
センター棟	
第１課題	４０１室
第２課題	４０２室
第３課題	４０９室

12月14日（金）

9:30	10:00	11:10	11:20	12:30	13:30	15:00	15:30
受付	講義７「薬物乱用防止教育の進め方」 兵庫教育大学教授 勝野　眞吾	休憩	講義８「安全管理・安全教育と養護教諭」 日本体育大学教授 吉田　瑩一郎	昼食	講義９「心の健康問題への対応」 ～ＡＤＨＤ・児童虐待を中心として～ 近畿大学教授 花田　雅憲	閉会式	

※１　「部会別演習」、「課題別研究協議」以外の会場 …… 国際交流棟　『国際会議室』

※２　上記の講義・演習等のうち２時間を超えるものについては、原則休憩を適宜設ける予定。

Ⅰ　研修概要

研修名	保健室相談活動研修会						
研修目的（趣旨）	保健室における健康相談活動に必要な知識・技術を習得させる研修						
対象	小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校の養護教諭で、保健室における相談活動に関し、各都道府県及び市（指定都市及び中核市を含む）において指導的役割を果たす者並びに各教育委員会において養護教諭の指導を担当する者						
開催期日	平成　13　年　7　月　3　日（火）～平成　13　年　7　月　6　日（金）						
開催日数	4　日間	計画人数	200　人	受講者数	188　人	(参加率)	94.0　%
開催場所	東京：独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	122　人	81.88%	21　人	14.09%	1　人	0.67%	5　人	3.36%

2．研修内容に関する主な意見

・班別自主研修は会場を分けて欲しかった（声が聞こえない）。
・あらかじめ事例を配り、当日まで準備をしてもらい、事例提供者から検討してもらいたい柱を２つほど提示してもらえば、当日は事例を深められるのでは。
・急な役割分担で進行を言い渡されたが、手順が分からず、自主研修まで行けず班の人に悪いことをした。
・各校の実態を知ることも勉強になるが、事例検討の本筋からはずれがち。情報交換のような話に傾いてしまった。
・班別自主研修は事例の概要説明と打ち合わせのみで終わった。
・事例研究の司会進行については研修会が始まる前に決めておいて欲しい。
・講義が「事例研究の意義・基本」の内容ではない。午後の事例研究とのつながりが薄い。（研修に役立つ理論と方法を研修できるとよい。）
・「事例研究の進め方と実際」の演習は、事例研究の進め方等理論と実践についてポイントを置いて指導を受けながら行って欲しい。
・事例を討議するにあたり、討議の視点が定まらず、発表者と参加者の意識がかみ合わなかった。
・グループ別演習は指導助言的な人を配置して欲しかった。
・運営者が不在のため、自主研修の内容が全体的に理解されていないので役に立っていない。
・講義３は事例研究に関する知識がないのでどういう内容が事例研究に結びつくのか理解できなかった。
・講義３は事例研究を行う際のまとめ方、協議の視点、要点、評価の仕方など簡潔にまとめて欲しかった。
・講義４は一般論が多く、もっと具体的な症例、説明、治療の手だてなどを聞きたかった。
・７／５．６の講義内容は専門的な内容がよかったのでは。
・７／５の事例研究会にはスーパーバイザー的な先生が入っていたらもっと深く話し合えるのでは。
・講義６は意図するものを最後に言われたので分からなかった。はじめに理論について説明されたかった。自己体験の話が多い。
・グループ別演習での指導主事の立場は一緒に学ぶ立場なのか？指導する立場なのか？（一緒に学ぶ立場であって欲しかった。）

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度 保健室相談活動研修会日程（案）

（会場：独立行政法人オリンピック記念青少年総合センター）

7月3日（火）

9:30	10:00		10:50	11:00		12:00～	13:00		16:30	16:45	17:30
受付	開会式	説明1 「健康教育の現状と課題」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課長 高杉 重夫	休憩	説明2 「保健室における健康相談活動と養護教諭の役割」 -保健室登校を中心として- 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課健康教育企画室 健康教育調査官 田嶋 八千代	昼食		講義1 「学校教育とカウンセリングの基本」 聖徳栄養短期大学 助教授 岡田 弘		休憩	グループ別演習のための班別自主研修	

7月4日（水）

受付

講義2
「養護教諭の行う健康相談活動の理論と実際」
女子栄養大学 教授　三木 とみ子

昼食 11:30～ 12:30～

養護教諭の行う健康相談活動の理論と実際

部会別実習

	会場		
第一部会	502	愛知女子短期大学 教授	徳山 美智子
第二部会	503	日本体育大学 非常勤講師	坪井 美智子
第三部会	510	埼玉県立総合教育センター 指導主事	村木 久美江
第四部会	511	習志野市立第一中学校 養護教諭	塩田 瑠美
第五部会	512	東京都狛江市立狛江第一中学校 養護教諭	中村 泰子
第六部会	514	栃木県鹿沼市立東中学校 養護教諭	渡辺 恵美子

※各会場は「センター棟」内の研修室
※部会分けは調整し、当日周知

7月5日（木）

受付

講義3
「事例研究の意義と基本」
筑波大学 教授　田上 不二夫

昼食 11:30～ 12:30～

グループ別演習
「事例研究の進め方と実際」

区分	小学校グループ				中学校グループ			高等学校グループ		
	1班	4班	7班	10班	2班	5班	8班	3班	6班	9班
会場	407	408	410	411	412	413	504	505	506	507

※各会場は「センター棟」内の研修室
※班分けは調整し、当日周知

7月6日（金）

10:00		11:00	11:10		12:30～	13:30		15:00
受付	講義4 「心の健康問題と身体症状」 社団法人 東京都教職員互助会三楽病院 精神神経科部長 中島 一憲	休憩	講義5 「児童生徒の心の発達と課題や問題行動への対応」 近畿大学 教授 花田 雅憲	昼食	講義6 「健康相談活動における連携の在り方と進め方」 九州女子短期大学 教授 鈴木 美智子		閉会式	

※「開会式」「説明」「講義」及び「閉会式」の会場は、国際交流棟 国際会議室

221

Ⅰ　研修概要

研修名	学校栄養職員等研修会						
研修目的（趣旨）	職務に必要な専門的な知識を深め、指導力の向上を図るための研修						
対象	学校給食を実施する学校又は学校給食共同調理場に１５年以上勤務する学校栄養職員（原則として既受講者は除く。）及び教育委員会に勤務する栄養指導担当者						
開催期日	平成　１３　年　７　月　１０　日（火）～ 平成　１３　年　７　月　１３　日（金）						
開催日数	４　日間	計画人数	１００人	受講者数	１０１人	(参加率)	101.0 %
開催場所	東京：独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	８４人	85.71%	７人	7.14%	０人	0.00%	７人	7.14%

2．研修内容に関する主な意見

・「食物アレルギー」への対応の実践はとても大変。その実践をしている今回の発表内容はとても素晴らしかった。

・講義内容を是非活用したい。

・いろいろな取り組み事例が聴けてとても参考になった。

・資料の提供はありがたかったが、少なくとも栄養士は一読している内容であるので、基本的な考え方やデータを個人的に活用する際の留意事項など、もっと深い内容での専門的な解説を聞きたかった（栄養士のあるべき姿勢を示していただいた点は、勉強になった。）

・（専門的で）難しすぎて、理解するためにはもう一度勉強しなければと思った。

・栄養教育をする上での献立作成、献立の使い方についての例がもっとあれば良かった。

・地域差が感じられ、「生きる教材」となる献立を自校の栄養士が立案できないのはとても残念。

・総論ではなく各論（具体的に日常にありがちな献立の見直し、また教材となるポイント）をしっかり勉強したかった。

・講義の内容が、普段目にする（書籍等で知りうる）以上のものではなかった。もっと具体的で科学的・専門的な内容を期待していた。

・もっと現場に役立てられる、指導するための資料が欲しかった。

・表面的な話に終わり、具体的な事例について話し合えなかった。結論が出ず、あまり得る所がなかった。

・新しい情報があまりなかった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度学校栄養職員等研修会日程一覧

		9:30 10:00 10:10	11:00	12:00 13:00	14:15 14:30	15:45 17:00
第1日目	7月10日（火）	受付 / 開会式	**講義１**「学校給食の現状と課題」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課長 惣脇 宏	**講義２**「平成１２年度学校給食における衛生管理の改善に関する調査研究報告について」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課学校給食調査官 金田雅代	昼食 / **講義３**「最近の食中毒の傾向と対策」 共立薬科大学客員教授 中村明子	休憩 / **講義４**「健康づくりのための栄養指導」 福岡女子大学非常勤講師 管理栄養士 村上祥子 / **講義５**「子供のからだの健康科学」 福井大学教育地域科学部 生涯学習講座 人間健康科学系教授 戎 利光
		9:00	10:30 10:40	12:00 13:00	14:15 14:30	17:00
第2日目	7月11日（水）	**講義６**「カルシウム代謝と食生活」 日本女子大学家政学部 教授 江澤郁子 / 休憩	**講義７**「学校栄養職員の新たな役割と求められる資質」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課学校給食調査官 金田雅代	昼食 / **講義８**「学校栄養職員の推進する食に関する指導」 神戸大学発達科学部 教授 丸谷宣子	休憩 / 食物アレルギーについて **実践発表・研究協議** / **講義９**「食物アレルギーについて」 昭和大学医学部小児科教授 飯倉洋治	
		9:00	10:30 10:40	12:00 13:00		17:00
第3日目	7月12日（木）	**講義10**「生活習慣病を防ぐ食事指導」 聖マリアンナ医科大学病院栄養部長 中村丁次 / 休憩	**講義11**「学校教育活動全体で取り組む食に関する指導」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課学校給食調査官 米満裕	昼食 / **分科会協議** 協議題「学校栄養職員が行う食に関する指導」 「衛生管理責任者としての学校栄養職員の役割」 助言者：文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 学校給食調査官 金田雅代 学校給食調査官 米満裕		
		9:00	10:30 10:40	12:00 13:00	14:45 15:00 15:30	
第4日目	7月13日（金）	**講義12**「生きた教材となる献立作成」 女子栄養大学 教授 鈴木久乃 / 休憩	**講義13**「第６次平均所要栄養量の改訂について」 厚生労働省健康局総務課 生活習慣病対策室栄養指導官 古畑公	昼食 / **分科会報告**	指導助言 / 閉会式	

【講義等会場】

第３日目（７月１２日）「分科会協議」会場 ： センター棟 ３０６、３０７、５１０、５１１、５１２、５１４室

「分科会協議」以外の会場 ： センター棟 １０２室

Ⅰ　研修概要

研修名	国立大学等部長級研修						
研修目的（趣旨）	国立学校等の新任の部長級幹部職員に対し，その職責及び職務の遂行に必要な広範な行政的識見のかん養及び高度の管理能力の充実を図り，もって国立学校等の円滑な管理運営に資することを目的とする。						
対象	平成１２年度の本研修後に新たに国立大学等の部長等（厚生補導に関する部の部長を除く。），厚生補導に関する部の次長，事務部次長及び管理部次長に就任した者のうち，各機関の長の推薦を受けて，独立行政法人教員研修センターが，文部科学省と協議の上決定する。						
開催期日	平成　１３　年　１１　月　２０　日（火）～ 平成　１３　年　１１　月　２２　日（木）						
開催日数	３　日間	計画人数	９０人	受講者数	１１２人	(参加率)	124.44 %
開催場所	独立行政法人　国立オリンピック記念青少年総合センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	８２人	73.87%	２３人	20.72%	０人	0.00%	６人	5.41%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

・素晴らしい講師陣・講義内容であった。
・講義全体をとおして，非常に役立つ・有意義な内容であった。（多数）
・バランスのとれた研修内容であった。
・講義内容・プログラムの組み方等大変よかった。
・部長級のみならずもっと多くの教職員に聴講してもらいたい内容だった。研修ビデオなどで各機関それぞれが活用できるようにはできないだろうか。
・演習（課題研究・ケーススタディ・グループ討議等）も取り入れてはどうか。（多数）
・研修をとおして気持ちを新たにした。
・危機管理・健康管理は来年度以降も取り入れてもらいたい。
・特別講演について，講演自体はとても興味深い内容ではあるが，それを期間の短い部長研修で実施する必要があるのか。
・大学が多いので，現場に役立つ「各論」に近い話題が実質的研修となると思う。
・演習やレポートをという声もあるが，あまり必要ないと思う。（複数）むしろ，質問を気楽に受け付けるような仕組みや工夫が欲しい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度　国立学校等幹部職員研修（部長級）日程

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター
センター棟　３０９号室

１１月２０日（火）	１１月２１日（水）	１１月２２日（木）
	9:30	9:30
10:00 受　　付		
10:30 開　講　式 文部科学省　樋口人事課長 オリエンテーション	「リーダーの危機管理」 電通パブリックリレーションズ 顧問　田中正博	「特別講演」 前九州女子短期大学教授 君原健二
11:00 「大学改革の推進について」 文部科学省大臣官房審議官 （高等教育局担当） 清水　潔	11:00 11:15 「我が国の学術研究について」 文部科学省研究振興局長 遠藤昭雄	11:00 11:15 「人事管理上の諸問題」 文部科学省大臣官房人事課 人事企画官　白間竜一郎
12:00 休　　憩	12:15 休　　憩	12:15 閉　講　式 12:30
13:15 「管理者のリーダーシップ」 話力総合研究所 所長　永崎一則	13:15 「私立大学の経営」 法政大学総長・理事長 清成忠男	
14:45	14:45	
15:00 「行政経営（企業の経営手法）」 野村総合研究所 RC 部門 事業企画室主任コンサルタント 川越啓太 16:30	15:00 「職場の健康管理」 新赤坂クリニック院長 松木康夫 16:30	

17:30
情報交換会
国際交流棟１F
レセプションホール
19:00

Ⅰ　研修概要

研修名	国立大学等課長級研修						
研修目的（趣旨）	国立大学等の新任の課長級幹部職員に対し，その職責及び職務の遂行に必要な広範な行政的識見のかん養及び高度の管理能力の充実を図り，もって国立学校等の円滑な管理運営に資することを目的とする。						
対象	平成１２年度の本研修実施後に新たに国立大学等の課長又は課長相当職（室長は含み，事務長を除く。）に就任した者とする。なお，事務長研修を受講した者は除く。						
開催期日	平成　１３　年　５　月　８　日（火）～平成　１３　年　５　月　１１　日（金）						
開催日数	４　日間	計画人数	２２０人	受講者数	２５５人	（参加率）	115.91 %
開催場所	独立行政法人　国立オリンピック記念青少年総合センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	１２７人		１１８人		１人		２人	
割合（%）		51.21%		47.58%		0.40%		0.81%

2．研修内容に関する主な意見

・課長としての責務と認識を新たにした。
・色々勉強ができ，情報入手もできた。特に身近な問題がカリキュラムにあげてあり，真剣に聞けた。
・同様の悩みを共有し，解決する方法等を聞くことができ，非常に参考になった。
・今回の研修は，今後役に立ってくると思う。いろいろな職種の方々と知り合いになれてよかった。
・開講式の人事課長の挨拶がインパクトがあり，大変よかった。
・人事課長のお話は大変ありがたく拝聴した。初心を忘れることなく常に看脚下を心がけたいと思う。
・時間があれば，もう少しストレスマネジメントについて聞きたかった。
・職種別討議で，演習とは別に半日程度の自由討議の時間を設けて欲しい。
・本研修を通じて多くの知人を得ることができたことに感謝したい。
・比較的若い人，定年が割りと近い人，同じ大学から昇格した人，文部科学省から昇任した人等，状況によって考え方が微妙に違うことがよくわかった。
・職種別演習で議論するには，時期が早すぎる感がある。一般論としての議論しかできない。
・質疑応答をするのかしないのかわからないことがあった。講師がとまどっていた。また，質問するのであれば，官職・
氏名は名のらせるべき。
・職種別演習の班分けはもっと細分化して欲しい。（話が通じない人がいた。）
・講演者の話し方が下手。下手でも聞き手が理解しやすいような工夫があればよいが，総じて準備不足。
・ＯＨＰ等を使って，視覚で訴える講義をお願いしたい。
・研修生も参加するような「講義」もあった方がよいのでは。
・職種別討議の班分けで相容れない方もいた。また人数が多すぎて３時間半では時間が不足した。
・個性がなく，有効な設備を活用していない講義の多くが文科省関係者のものであった。
・研修会場が狭く暑苦しかった。
・今回の研修で改めてどう職責を果たしていくべきか，責任の重さを認識した。
・パワーポイントを使用する講義の際は，画面をプリントアウトして配付してはどうか。
・講師の質（話し方，話の内容）についてはもっと考えていただきたい。説得力のない，話術のない講演・講義はつらい。
・誰か一人，著名人の講演会があっても良かったのではないかと思う。
・幹部研修なら，各講義の資料を事前配付し，各々の考え方をまとめさせ，レポート提出させるといったことをすべき。
各講義の内容は，それぞれ大変大切なものであるのでそれらについてビジョンをもてない（レポートを書けない）者は，管理職たる資格はない。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度　国立学校等幹部職員研修（課長級）日程

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター
「４１７」セミナーホール

5月　8日（火）	5月　9日（水）	5月１０日（木）	5月１１日（金）
	9:15	9:15	
9:30	「私立大学の経営ノウハウ」	「ストレスマネジメント」	9:30
受　付	明治大学　理事 藤　田　幸　男	㈱東京ストレスマネジメント 企画グループチーフ 渡　辺　章　二	「公務員の服務規律について」 文部科学省大臣官房人事課副長 伯　井　美　徳
10:30			10:30
開　講　式 （人事課長） オリエンテーション	10:45	10:45	セクハラビデオ教材
11:00	11:00	11:00	11:15
「我が国の学術研究と科学技術政策」 文部科学省科学技術・学術政策局　次長 井　上　正　幸	「管理者のリーダーシップ」 話し方研究所　主任講師 後　藤　貞　行	「企業の経営戦略」 日本ＩＢＭ　副会長 本　林　理　郎	閉　講　式
12:30	12:30	12:30	
休　憩	休　憩	休　憩	
	13:30	13:30	
13:45	「情報公開法について」		
「大学改革の推進について」 文部科学省大臣官房審議官（高等教育局担当） 清　水　　潔	文部科学省大臣官房総務課情報開示官 苫　米　地　　令	演　習 ［職種別討議］	
	14:30		
15:15	14:40		
15:30			
「人事・労務・服務管理の法律問題」 弁護士 清　水　幹　裕	演　習 ［班別討議］		
17:00	17:00	17:00	

17:30
情　報　交　換　会
国立オリンピック記念青少年総合センター
レセプションホール
19:00

Ⅰ　研修概要

研修名	国立大学事務長研修						
研修目的（趣旨）	国立大学の事務長に対し，その職責及び職務の遂行に必要な広範な行政的識見のかん養及び高度の管理能力の充実を図り，もって国立大学の円滑な管理運営に資することを目的とする。						
対象	平成１２年度の本研修後に新たに国立大学の事務長に就任した者で，年齢５６歳以下の者のうち，各機関の長の推薦を受けて，独立行政法人教員研修センターが，文部科学省と協議の上決定する。						
開催期日	平成　１３　年　１１　月　７　日（水）～ 平成　１３　年　１１　月　９　日（金）						
開催日数	３　日間	計画人数	１００人	受講者数	３９人	(参加率)	39.00 %
開催場所	独立行政法人　国立オリンピック記念青少年総合センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	２８人	71.80%	８人	20.51%	０人	0.00%	３人	7.69%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

・自己開発に役立った。
・文部科学省の考え方を知り得たこと，また，班別討議で各大学と情報交換をできたことは今後大いに役立つ。
・大学における部局の事務長は，部，課長と違って，本省の方々の直接的な話を聞く機会がない。こういう機会に中央の考え方などを聞けたことはありがたい。今後の業務に反映させたい。
・非常に内容の濃い研修だったように思う。タイムリーなテーマで講演者が分かりやすく具体的に講義してくださり，大変勉強になった。これからは独法化へ向けての心構えと準備のための取り組み強化になお一層努める必要があることを痛感した。
・役職が共通している研修だったので，有意義な意見交換ができ，また，人事交流，人脈ができ，大変役に立った。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度　国立大学事務長研修　日程

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター
センター棟　３０９号室

１１月　７日（水）	１１月　８日（木）	１１月　９日（金）
	9:15	9:30
10:00	「管理者のリーダーシップ」	「我が国の留学生の状況」
受　付	日本能率協会ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｾﾝﾀｰ講師 斎　藤　之　幸	文部科学省高等教育局留学生課長 坪　井　　裕
10:30		10:30
開　講　式 （人事課長） オリエンテーション	10:45	10:45
11:00	11:00	「人事管理上の諸問題」
「国立大学の構造改革について」	「科学技術や学術研究の動向」	文部科学省大臣官房人事課副長 白　間　竜一郎
文部科学省高等教育局大学課長 合　田　隆　史	文部科学省科学技術・学術政策局 政策課長　磯　田　文　雄	11:45
12:00		閉　講　式
休　憩	12:30	
	休　憩	
13:00		
「私立大学の経営」	13:30	
前中央大学事務局長 高　橋　輝　義	「大学の評価」	
	文部科学省高等教育局 高等教育企画課大学評価専門官 淵　上　　孝	
14:30	14:30	
14:45	14:45	
【　班　別　討　議　】	【　班　別　討　議　】	
17:00	17:00	

17:30
懇　親　会
国際交流棟１Ｆ
ﾚｾﾌﾟｼｮﾝﾎｰﾙ
19:00

Ⅰ　研修概要

研修名	国立大学等課長補佐級研修						
研修目的（趣旨）	国立大学等の課長補佐，室長補佐，事務長補佐，専門員及び主任専門職員に対し，その職責及び職務の遂行に必要な行政的識見を更に深めさせ，相当高度の管理及び指導能力を修得させることにより，国立大学等の円滑な管理運営に資することを目的とする。						
対象	平成１２年度の本研修後に新たに国立大学等の課長補佐，室長補佐，事務長補佐，専門員（職制定数上の専門員をいう。）及び主任専門職員に就任した者で，原則として年齢５０歳以下の者のうち，各機関の長の推薦を受けて，独立行政法人教員研修センターが文部科学省と協議の上決定する。						
開催期日	平成　１３　年　１０　月　９　日（火）～ 平成　１３　年　１０　月　１２　日（金）						
開催日数	４　日間	計画人数	２１５人	受講者数	２０１人	(参加率)	93.48 %
開催場所	独立行政法人　国立オリンピック記念青少年総合センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	１０６人	53.54%	８１人	40.91%	１人	0.51%	１０人	5.05%

2．研修内容に関する主な意見

・独法化を控えたこの時期に評価や経営の講義が非常に感心を持って聞くことができた。
・他の機関の方々と知り合う事ができ，今後業務を実施していくうえで，良い機会を得ることが出来た。（多数）
・法人化へ向けての意識の改革等に大いに役立った。講義，演習，交換会を通して知識が増した。（多数）
・大学を取り巻く諸課題に対応したテーマを取り上げており大変有意義であった。
・補佐クラスと専門員とは，分けて研修した方がより実務に向いている。
・庶務系，会計系，施設系，教務系の系別の班別は良かった。なお，系別のほかに，各系も混ぜた班別討議もあって良いのではないか。
・講演を討議形式としたり，シンポジウム形式としたり，各参加者の意見や考えを表明できる方法が良い。
・各業務区分毎の講演，講義もあって良い。
・法人化を数年後にひかえた機関の「補佐級」の研修内容にしては，いささか「甘い」ように感じた。
・課題を与えられてた演習も必要と思うが，午後の半日を使って，同種の職種の人が折角集まっているのでフリートーク出来るようにしていただきたい。
・現在自分の置かれている立場を改めて見つめ直す機会が得られ，大変有意義だった。
・大学間において，問題発生時等に討議する際，各部門（総務経理学務等）において温度差があり，より良い結論が得られにくく，部門の壁を感じることがあることから，今回このような研修の場においては，１つのテーマに対し，あらゆる分野（部・課）の方々と意見交換することも有意義ではないかと思う。違った立場の方々と討議することにより，新たな意識改革を得ることができる場もあると思うが・・・。
・独法化に向けて，サービスは重要な項目になると思う。具体的実践的サービス研修も取り入れて欲しい。
・大学改革が問われている現状において，様々な事について創意工夫・意識改革が求められている。その中で，従来型踏襲の研修ではなく，徹底的に外部講師の導入をはかり，民間的な厳しさを研修として行う方法もあるのではないか。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度　国立学校等課長補佐級研修日程

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター
「４１７」セミナーホール

１０月　９日（火）	１０月１０日（水）	１０月１１日（木）	１０月１２日（金）
	9:45	9:45	9:45
	「管理者の リーダーシップ」 話し方研究所主任教授 八　木　康　子	「大学の評価」 文部科学省高等教育局 高等教育企画課大学評価専門官 淵　上　　孝	「私立大学の経営」 芝浦工業大学常務理事 小日向　　允
		10:45	11:15
	11:15	11:00	11:30
	11:30		
	「科学技術や学術研究の動向」 文部科学省科学技術・学術政策局 政策課企画官 渡　邊　淳　平	「職場の健康管理」 メンタルヘルス総合研究所代表 久保田　浩　也	管理職向け ビデオ教材
12:15			12:00
受　　付	12:30	12:30	休　　憩
13:15	休　　憩	休　　憩	13:00
開　講　式 （人事課長） オリエンテーション	13:30	13:30	「人事管理上の諸問題」 文部科学省大臣官房人事課副長 白　間　竜一郎
13:45			14:00
「国立大学の 構造改革について」 文部科学省高等教育局 大学課大学改革推進室大学改革官 杉　野　　剛	演　　習 ［職種別討議①］	演　　習 ［職種別討議②］	閉　講　式
15:15			
15:30			
「企業の経営手法」 三菱総合研究所 経営市場戦略センター長 奥　山　伸　弘		15:30	
		演　習　発　表	
17:00	17:00	17:00	

17:30
情　報　交　換　会
国立オリンピック記念青少年総合センター
レセプションホール
（国際交流棟１Ｆ）
19:00

Ⅰ　研修概要

研修名	会計事務研修　地区別会計事務研修（北海道地区）						
研修目的（趣旨）	各地区の国立学校等の事務職員に対して国の会計法規に関する初歩的な知識を修得させ，かつ，大学改革等に必要な見識を授けることにより，各職員の資質の向上を図ることを目的とする。						
対象	会計に関する事務の経験が１年以上の者で原則として初級者を対象とする。						
開催期日	平成　１３　年　１０　月　１　日（月）～ 平成　１３　年　１０　月　５　日（金）						
開催日数	５　日間	計画人数	４５　人	受講者数	４１　人	(参加率)	91.11 %
開催場所	北海道地区国立学校大滝セミナーハウス						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について　　(回答者数　３８人，　回収率　９０．４７%)

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	３５　人	92.11%	３　人	7.89%	０　人	0.00%	０　人	0.00%

2．研修内容に関する主な意見

（カリキュラム）
- 講義の日程の組み方がきつかった。もう少しゆとりがほしい。
- 会計事務の流れがひととおりわかったことがよかった。
- 独法化に向けた関係の講義と現在の会計法規の研修を同時に限られた日程で行うことはきつかった。
- 同一のテーマで２４０分の講義は長いような気がした。

（講義テーマ）
- 会計事務全般がカバーできていてよかった。
- 職務にいかせるテーマだったのでよかった。
- 民間の講師を呼んで話しを聞くのもよいのでは。
- 講師が資料等を作成してくれた方が法規集を見るより分かり易い。
- 概論が多かったがもう少し実務に沿った内容であればよかった。

（班別討議）
- 独法化に向けて考えるいい機会となった。
- 各大学等の取り組みの違い等自由に討論、意見交換ができたことが有意義だった。
- 発表の場があった方がよかった。
- テーマが難しすぎた。

（その他）
- 他大学の人と知り合いになれてよかった。
- 法律の条文を強制的に読まざるを得ないことは、これからのよいきっかけとなった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度北海道地区会計事務研修日程表

於：北海道地区国立大学大滝セミナーハウス

| 月日（曜） | | |

Ⅰ　研修概要

研修名	会計事務研修　地区別会計事務研修（東北地区）						
研修目的（趣旨）	各地区の国立学校等の事務職員に対して国の会計法規に関する初歩的な知識を修得させ，かつ，大学改革等に必要な見識を授けることにより，各職員の資質の向上を図ることを目的とする。						
対象	会計に関する事務の経験が１年以上の者で原則として初級者を対象とする。						
開催期日	平成　１３　年　１０　月　１５　日（月）　～　平成　１３　年　１０　月　１９　日（金）						
開催日数	５　日間	計画人数	５０人	受講者数	４６人	（参加率）	92.0 %
開催場所	独立行政法人　国立岩手山青年の家						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について　　（回答者総数　４４人，　回答率　９５．６５%）

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	４１人	93.18%	３人	6.82%	０人	0.00%	０人	0%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

（カリキュラム）
- 短い期間で会計事務を幅広く学ぶことができてよかった。
- 本省の方の講義と外部講師の特別講義が組み合わせのバランスが良かった。
- 講師が，企業の方等さまざまな方面から構成されていたことがよかった。
- 民間の方々等の講義をもっと増やした方がよいのでは。

（講義テーマ）
- 「国立大学の独法化」を意識した講義が多く，緊張感を持つことができてよかった。
- 基本的なことからなのでわかりやすかった。
- 各テーマとも単なる条文の説明だけでなく，もう少し掘り下げて説明して欲しかった。
- 私学の関係者の講義が聞きたかった。
- もう少しテーマを絞った方がよいのでは。

（班別討議）
- 独法化について考える機会を得られてよかった。
- いろいろな意見が聞けてよかった。
- テーマが難しすぎ正解がないものだったため，受講者によっては取り組み方に違いがあった。主催者からもう少し詳しい説明・アドバイスがあった方が良かった。
- もう少し時間が長かった方がよかった。
- 班の人数が少し多すぎるのでは。
- 前もって各大学から独法化についての資料を収集し，それに基づいて討議した方がいろいろな意見がだされたのでは。

（その他）
- 岩手山青年の家は自然が素晴らしく，また，食事が非常においしかった。
- 質問をしやすい工夫が必要なのでは。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度　東北地区国立学校等会計事務研修日程表

当番校　岩　手　大　学

月日＼時間	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	13:30	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
第１日 １０月１５日 （月）					受付	開講式 事務局長あいさつ	写真撮影	今後の大学職員に求められるもの （60分） （岩手大学副学長）	移動	オリエンテーション	懇親会		
第２日 １０月１６日 （火）		科学研究費及び外部資金 （90分） （文部科学省）	物品管理事務 （90分） （文部科学省）	昼食	契約事務（政府調達を含む） （180分） （文部科学省）				特別講義 「地域連携の在り方」 （90分） （県又は市の講師）	夕食	自由研修		
第３日 １０月１７日 （水）		国有財産管理事務 （90分） （文部科学省）	文教予算 （90分） （文部科学省）	昼食	講話 「服務規律」 （60分） （岩手大学）		特別講義 「大学への期待感」 （90分） （民間企業の講師）		班別討議 （今後の国立大学等の在り方について） （120分）	夕食	自由研修		
第４日 １０月１８日 （木）		収入・債権管理 （90分） （文部科学省）	支出・支出負担行為 （90分） （文部科学省）	昼食	決算事務 （90分） （文部科学省）			班別討議 （全体発表） （150分） （助言者　文部科学省）		夕食	自由研修		
第５日 １０月１９日 （金）		会計経理上の諸問題 （120分） （文部科学省）	閉講式	昼食	移動								

（注）研修日程は、都合により変更する場合があります。

245

Ⅰ　研修概要

研修名	地区別会計事務研修（関東甲信越地区）						
研修目的（趣旨）	各地区の国立学校等の事務職員に対して国の会計法規に関する初歩的な知識を修得させ，かつ，大学改革等に必要な見識を授けることにより，各職員の資質の向上を図ることを目的とする。						
対象	会計に関する事務の経験が１年以上の者で原則として初級者を対象とする。						
開催期日	平成　１３　年　１０　月　２９　日（月）　～　平成　１３　年　１１　月　２　日（金）						
開催日数	５　日　間	計画人数	１００人	受講者数	８２人	(参加率)	82.00 %
開催場所	独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について　　(回答者総数　７９人，　回答率　９６．３４%)

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	割合（%）	７０人	88.61%	９人	11.39%	０人	0.00%	０人	0%

2．研修内容に関する主な意見

（カリキュラム）
- 会計事務全般を学習できてよかった。
- 独法化に向けたカリキュラムがあればなおよかった。
- 受講科目を選択制にして欲しい。
- レクレーション・校外学習があればよかった。
- もう少し実務に関する講義があった方がよい。
- 担当の職務毎に分かれて日常の実務について検討する機会があれば、今後の会計事務によりフィードバックされるのでは。
- 給与・旅費・病院系会計事務の講義があればよかった。

（講義テーマ）
- 特別講義は身近な問題であり最新の情報を知ることができた。
- 独法化に関する講義があった方がよかった。
- 幅広いテーマで勉強になったが中には実務を行ってないと全く理解できなかったものもあった。
- 実務経験のある人を講師として迎えて欲しい。
- レジュメが用意されている講義は分かりやすい。法規集等の棒読みの講義は理解しにくい。
- 細部については研修生本人の学習に任せるとして、ポイントを絞った講義にして欲しい。
- 最初にそれぞれの講義の概要があればよかった。

（班別討議）
- 意見交換が活発にでき、各機関の取り組み等情報交換ができ非常に有意義だった。
- 討議時間をもう少し長くして欲しい。
- 討議のテーマが難しすぎる。
- 範囲が広すぎてまとめづらかった。

（その他）
- 宿泊施設で必要なものを連絡して欲しい。
- 各大学の教官の考えを伺いたかった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

第36回　関東甲信越地区国立大学等会計事務研修　講義科目及び時間割表

【日程等】

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
10月29日(月)						受付		開講式	オリエンテーション	【講義】予算（120分）	休憩	夕食	自主研修		就寝
10月30日(火)	洗面 室内整理	朝食	移動	【講義】収入・債権（120分）		【講義】支出・支出負担行為①（60分）	昼食	【講義】支出・支出負担行為②（60分）	【講義】契約・政府調達①（180分）		休憩	夕食	自主研修		就寝
10月31日(水)	洗面 室内整理	朝食	移動	【講義】契約・政府調達②（60分）	【講義】物品管理（120分）		昼食	【講義】国有財産管理及び処分（120分）	【講義】外部資金（120分）		休憩	懇親会	自主研修		就寝
11月1日(木)	洗面 室内整理	朝食	移動	【講義】決算（90分）	【特別講義】我が国の税制の現状と課題（90分）		昼食	【講義】会計経理上の諸問題（120分）	【班別討議】（120分）		休憩	夕食	自主研修		就寝
11月2日(金)	洗面 室内整理	朝食	移動	【講話】服務規律（120分）		【班別討議】（60分）	閉校式	写真撮影							

【講義科目及び講師（時間割順）】

1．予算　文部科学省大臣官房会計課特別会計第一予算班　国立学校第二係長　吉原秀昭

2．収入・債権　文部科学省大臣官房会計課経理班　経理第四係長　鈴木康彦

3．支出・支出負担行為　文部科学省大臣官房会計課総務班　企画係長　篠田智志

4．契約・政府調達　文部科学省大臣官房会計課政府調達室　企画渉外係長　廣岡信行

5．物品管理　文部科学省大臣官房会計課用度班　物品係主任　矢島大彰

6．国有財産管理及び処分　文部科学省大臣官房会計課管財班　管財第二係長　梅津美昭

7．外部資金　文部科学省研究振興局研究環境産業連携課　技術移転推進室室長補佐　柴田正紀

8．決算　文部科学省大臣官房会計課監査班　決算係長　齊藤康行

9．特別講義　一橋大学長　石弘光

10．会計経理上の諸問題　文部科学省大臣官房会計課総務班　法規係長　松本歩

11．講話（服務規律）　一橋大学総務部人事課長　江原滋

12．班別討議　文部科学省大臣官房会計課総務班　法規係長　松本歩

Ⅰ　研修概要

研修名	会計事務研修　地区別会計事務研修（東海・北陸地区）						
研修目的（趣旨）	各地区の国立学校等の事務職員に対して国の会計法規に関する初歩的な知識を修得させ，かつ，大学改革等に必要な見識を授けることにより，各職員の資質の向上を図ることを目的とする。						
対象	会計に関する事務の経験が１年以上の者で原則として初級者を対象とする。						
開催期日	平成　１３　年　１０　月　１５　日（月）～ 平成　１３　年　１０　月　１９　日（金）						
開催日数	５　日間	計画人数	６５　人	受講者数	５７　人	(参加率)	87.69 %
開催場所	福井簡易保険保養センター「かんぽの宿ふくい」						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について　　（回答者総数　５７人，　回答率　９６．６１%）

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	４６　人		１０　人		０　人		１　人	
割合（%）		80.70%		17.54%		0.00%		1 %

2．研修内容に関する主な意見

（カリキュラム）
- 無理のないスケジュールでよかった。
- 会計事務に必要とされる内容がしっかりと含まれていたのがよかった。
- 独法化に向けた講義（企業会計）を設けたことがよかった。
- ４時間ある講義（契約・政府調達）は長すぎると思う。
- 講義が中心であったため，班別討議や意見交換の時間をもう少し増やした方がよい。
- すでに独法化した機関の現状を説明する機会を設けて欲しかった。
- 旅費・科研費・共済等の講義があった方がよかった。
- 経営管理・企業会計論等の講義を充実させて欲しい。

（講義テーマ）
- 内容が幅広く，必要なテーマがそろっていたと思う。
- 企業会計は非常にわかりやすくよい講義だった。
- 細かく項目ごとの講義を受けたので分かり易かった。
- 全体的に講義が規則・制度の話しが中心であったため，もっと実務的な話しが聞けたらよかった。
- 独法化を視野に入れた内容を盛り込んだテーマが少なすぎた。
- 声が小さい講師の方がいて聞き取りずらかった。

（班別討議）
- 他大学等のいろいろな意見，現状等を情報交換でき有意義だった。
- 国立大学の独法化を考えるのによい機会となった。
- 独法化の件も大事ですが，もう少し，実際の仕事に直結したテーマがあってもよかった。
- テーマが大きすぎて討議が難しかった。
- 係員の立場で討議するにはかなり高度な内容だった。

（その他）
- 一つの机に３人掛けは窮屈だった。
- 研修会場と宿泊場所が近いことはありがたかった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度（第３８回）東海・北陸地区国立学校等会計事務職員研修講義時間割振表

当番校：福井大学

研修会場：かんぽの宿福井

月　日	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
10月15日（月）							受付	開講式 オリエンテーション	特別講義（１８０分） 企業会計について			交換研修 懇親会		自由研修		就寝
10月16日（火）	朝　食		予算関係（１２０分） 文部科学省担当官		班別討議（６０分） 文部科学省担当官		昼食	収入・債権関係（１２０分） 文部科学省担当官		決算関係（９０分） 文部科学省担当官	講話 服務規律について（１２０分）		夕食及び自由時間	自由研修		就寝
10月17日（水）	朝　食		国有財産管理及び処分関係（１２０分） 文部科学省担当官		班別討議（６０分） 文部科学省担当官		昼食	物品管理関係（１２０分） 文部科学省担当官		外部資金関係（１２０分） 文部科学省担当官		夕食及び自由時間		自由研修		就寝
10月18日（木）	朝　食		支出・支出負担行為関係（１２０分） 文部科学省担当官		班別討議（６０分）		昼食	契約・政府調達関係（２４０分） 文部科学省担当官				夕食及び自由時間		自由研修		就寝
10月19日（金）	朝　食		会計経理上の諸問題（１２０分） 文部科学省担当官		閉講式											

Ⅰ　研修概要

研修名	会計事務研修　地区別会計事務研修（近畿地区）						
研修目的（趣旨）	各地区の国立学校等の事務職員に対して国の会計法規に関する初歩的な知識を修得させ，かつ，大学改革等に必要な見識を授けることにより，各職員の資質の向上を図ることを目的とする。						
対象	会計に関する事務の経験が１年以上の者で原則として初級者を対象とする。						
開催期日	平成　１３　年　１０　月　２２　日（月）～ 平成　１３　年　１０　月　２６　日（金）						
開催日数	５　日　間	計画人数	５０　人	受講者数	６５　人	(参加率)	130.0 %
開催場所	文部科学省共済組合京都宿泊所御車会館						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について　　（回答者総数　６４人，　回答率　９８．４６%）

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	４０　人	62.50%	２３　人	35.94%	１　人	1.56%	０人	0%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

（カリキュラム）
- 研修の内容が初心者向けでわかりやすかった。
- 短期間で多様な内容を行うのは若干無理があるように思えた。
- 同じテーマ（契約・政府調達）で４時間以上続けて講義を行うのは見直した方がよい。
- 始めに会計事務の全体像がわかる話が聞きたかった。

（講義テーマ）
- 講義が会計事務全般に渡っていることがよかった。
- 国立大学の今後に関わるテーマを増やして欲しかった。
- もう少し会計事務の現状に沿ったテーマを盛り込んだ方が良い。
- 共済や給与計算，旅費，委任経理金，科研費等日頃気になっていることを知る機会がなかった。
- 独法化についての講義の割合を増やして欲しい。
- 条文を読み上げるだけのような講義があったが，改善した方が良いと思う。
- 先行独法の会計事務に携わっている人の講演があればよかった。

（班別討議）
- 他大学の現状が聞けたり，意見交換ができて有意義だった。
- テーマが大きすぎた。議題をもう少し絞った方がよかった。
- テーマがタイムリーでよかった。

（その他）
- 宿泊研修にして欲しかった。
- 机と椅子が狭すぎた。
- 参考図書を厳選したほうがよいのでは。
- 講義に際して資料等を用意していただくとより一層わかりやすくなる。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度近畿地区国立学校等会計事務研修日程表

当番校：京都大学
研修場所：御車会館

時間 月日	9:00 9:30	10:00 10:30	11:00 11:30	12:00 12:30	13:00 13:30	14:00 14:30	15:00 15:30	16:00 16:30	17:00 17:30
10月15日 (月)					受付	オリエンテーション	開講式	記念写真	＜外部資金＞ (文部科学省担当官)
10月16日 (火)	＜物品管理＞ (文部科学省担当官)		＜決算＞ (文部科学省担当官)	昼食	＜契約・政府調達＞ (文部科学省担当官)				
10月17日 (水)	＜特別講義＞			昼食	＜予算＞ (文部科学省担当官)		＜支出・支出負担行為＞ (文部科学省担当官)		
10月18日 (木)	＜班別討議＞ (文部科学省担当官)			昼食	＜国有財産管理及び処分＞ (文部科学省担当官)		＜収入・債権＞ (文部科学省担当官)		
10月19日 (金)	＜講話＞	＜会計経理上の諸問題＞ (文部科学省担当官)		閉講式					

(注) 研修日程については、講師等の都合により一部変更することがあります。

Ⅰ　研修概要

研修名	会計事務研修　地区別会計事務研修（中国・四国地区）						
研修目的（趣旨）	各地区の国立学校等の事務職員に対して国の会計法規に関する初歩的な知識を修得させ，かつ，大学改革等に必要な見識を授けることにより，各職員の資質の向上を図ることを目的とする。						
対象	会計に関する事務の経験が１年以上の者で原則として初級者を対象とする。						
開催期日	平成　１３　年　１０　月　２２　日（月）～ 平成　１３　年　１０　月　２６　日（金）						
開催日数	５　日間	計画人数	７５　人	受講者数	６４　人	(参加率)	85.33 %
開催場所	中国・四国地区国立大学大山共同研修所						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について　　（参加者総数　６４人，　参加率　１００%）

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	割合（%）	５１　人	79.69%	１０　人	15.63%	２　人	3.13%	１　人	1.

2．研修内容に関する主な意見

（カリキュラム）
- 講義数など適量でよかった。
- レクレーションの時間を設けて欲しかった。
- 講義だけでなく事例研究の時間があればよかった。
- １２０分の講義は長かった。（講義の間に休憩があったのはよかったが）
- ５日間は日程的に長い。３日程に短縮できないか。

（講義テーマ）
- 講義が会計全般に渡っていることがよかった。
- 独法化に向けて必要不可欠な講義が多かったことがよかった。
- ただずっと法律を読んでいるだけの講義は，頭に入りずらかった。
- 民間の講師による授業が半分くらいあってもよかったのでは。
- 独法化に向けた新たな制度の説明の講義を設けて欲しかった。

（班別討議）
- 独法化を考えるいい機会となった。
- テーマーがタイムリーでよかった。
- 他大学の方の意見等を聞くことができてとても有意義であった。
- テーマが大きすぎて，意見がうまくまとまらなかった。（もう少しテーマを絞ったほうが討議しやすかった）
- 討議の内容についてあらかじめアンケートのようなものをとったほうがよいのでは。

（その他）
- 机が狭かった。
- 「国立学校会計事務必携」は事前に配布して目を通したほうがよかった。
- 喫煙者にソファーを占領されくつろげなかった。分煙化について考えて欲しい。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度地区別会計事務研修（中国・四国地区）日程

共催：文部科学省
独立行政法人教員研修センター
鳥取大学

	7:00 8:00 9:00 10:00 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00 16:00 17:00 18:00 19:00 20:00 21:00 22:00 7:30 8:30 9:30 10:30 11:30 12:30 13:30 14:30 15:30 16:30 17:30 18:30 19:30 20:30 21:30													
10月22日 （月）										受付	オリエンテーション	入浴 自由時間	懇親会	自由時間	消灯 就寝
10月23日 （火）	起床 寝具整理 清掃	朝食	開記念撮影	講話（60分）「服務規律について」 鳥取大学	講義(90分)「予算について」 講師：文部科学省	昼食	講義(120分)「契約・政府調達について」 講師：文部科学省	講義(120分)「支出・支出負担行為について」 講師：文部科学省	夕食 入浴	自由時間	消灯 就寝			
10月24日 （水）	起床 寝具整理 清掃	朝食	講義(90分)「決算について」 講師：文部科学省	講義(90分)「物品管理について」 講師：文部科学省	昼食	特別講義(120分)「　　」(未定) 講師：	班別討議(120分) 指導助言：文部科学省	夕食 入浴	自由時間	消灯 就寝				
10月25日 （木）	起床 寝具整理 清掃	朝食	講義(120分)「国有財産管理及び処分について」 講師：文部科学省	班別討議(60分) 全体発表	昼食	講義（120分）「収入・債権について」 講師：文部科学省	講義（120分）「外部資金について」 講師：文部科学省	夕食 入浴	自由時間	消灯 就寝				
10月26日 （金）	起床 寝具整理 清掃	朝食	講義(120分)「会計経理上の諸問題について」 講師：文部科学省	閉講式	退所 （退所後、米子駅まで送ります。）									

Ⅰ　研修概要

研修名	会計事務研修　地区別会計事務研修（九州地区）						
研修目的（趣旨）	各地区の国立学校等の事務職員に対して国の会計法規に関する初歩的な知識を修得させ，かつ，大学改革等に必要な見識を授けることにより，各職員の資質の向上を図ることを目的とする。						
対象	会計に関する事務の経験が１年以上の者で原則として初級者を対象とする。						
開催期日	平成　１３　年　１０　月　１　日（月）～ 平成　１３　年　１０　月　５　日（金）						
開催日数	５　日間	計画人数	７０人	受講者数	８１人	(参加率)	115.71 %
開催場所	中国・四国地区国立大学大山共同研修所						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について　　（参加者総数　６４人，　参加率　１００%）

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	６２人	78.48%	１７人	21.52%	０人	0.00%	０人	( )%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

（カリキュラム）
- 会計事務に必要となる法律等が網羅されていてよかった。
- 講義中心ではなく，ビデオ等の教材を使用して欲しい。
- 班別討議の時間を増やして欲しかった。
- 独立行政法人化を見据えた企業会計等の講話が有れば良かった。

（講義テーマ）
- 独立行政法人のことを詳しく知りたかった。
- 実務に基づくテーマ等身近な内容の講義が有れば良かった。

（班別討議）
- 独立行政法人化について考えるきっかけとなってよかった。
- 各大学の現状課題等の意見交換はよかった。
- 議題が難しかった。
- 会計事務をテーマとした討議のほうがよかった。
- 班別討議の時間を増やして欲しい。
- 班員が多いのでもう少し人数を減らして欲しい。

（その他）
- 講師の方に質問を受け付けてもらいたかった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度地区別会計事務研修（九州地区）講義時間割表

独立行政法人
場所　国立阿蘇青年の家

区分		午前 9:00	10:00	11:00	:10	12:00	13:10	:30	14:00	:30	15:10	:20	16:30	17:00	17:30	19:30	21:00
第1日	１０月　１日（月）						入所準備	入所	開講式	オリエーション	休憩	講話（７０分）服務規律に関すること 講師：熊本大学 石坂人事課専門員	休憩	夕べのつどい	夕食	自主研修（９０分）懇親会	
第2日	１０月　２日（火）	契約事務（１２０分）講師：文部科学省 神達総務班専門職	休憩	特定調達契約（５０分）講師：文部科学省 神達総務班専門職	昼食		特定調達契約（７０分）講師：文部科学省 神達総務班専門職	休憩	支出負担行為・支出事務（１２０分）講師：文部科学省 渡邉庁舎管理班専門職				休憩	夕べのつどい	夕食	自主研修（９０分）	
第3日	１０月　３日（水）	収入・債権管理事務（１２０分）講師：文部科学省 洞口経理班経理第一係長	休憩	決算（５０分）講師：文部科学省 齋藤監査班決算係長	昼食		決算 30分	休憩	班別討議・各大学における検討状況等について（８０分）講師：文部科学省 齋藤監査班決算係長		休憩	全体発表・国立大学等の職員と何をすべきか(70分)講師：文部科学省 齋藤監査班決算係長	休憩	夕べのつどい	夕食	自主研修（９０分）	
第4日	１０月　４日（木）	外部資金について（１２０分）講師：文部科学省 溝口研究環境産業連携課技術移転推進室専門職	休憩	予算について（５０分）講師：文部科学省 長井特別会計第三予算班研究所係長	昼食		予算について（７０分）講師：文部科学省	休憩	物品管理事務（１２０分）講師：文部科学省 久保用度班物品係長				休憩	夕べのつどい	夕食	自主研修（９０分）	
第5日	１０月　５日（金）	国有財産管理事務（９０分）講師：文部科学省 吉永管財班主査	休憩	会計経理上の諸問題（８０分）講師：文部科学省 西村監査班主査	昼食		特別講演（９０分）講師：阿蘇青年の家所長 大瀧　富夫	休憩	反省会	閉講式							

Ⅰ　研修概要

研修名	留学生担当者研修会						
研修目的（趣旨）	大学、高等専門学校、専修学校、準備教育施設及び関係団体において、留学生関係事務担当者（初任職員）に対し、留学生の受入れ及び派遣に伴う諸問題に関する研修の機会を提供し、資質の向上を図ることにより、我が国における留学生交流体制の整備充実資することを目標とする。						
対象	国公私立大学、高等専門学校、専修学校、準備教育施設及び留学生関係団体職員で、原則として留学生担当業務経験年数が２年以下のもの						
開催期日	平成　１３　年　１１　月　７　日（水）～平成　１３　年　１１　月　９　日（金）						
開催日数	３　日間	計画人数	２００人	受講者数	２０４人	(参加率)	102.0 %
開催場所	独立行政法人　教員研修センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	５８人	29.59%	１１２人	57.14%	６人	3.06%	２０人	10.20%

2．研修内容に関する主な意見

- 研修者が留学生事務経験の浅い職員であることをふまえた講座内容であることが徹底して図られていたので難しすぎずかといって必要な新しい知識の吸収や自己啓発を損ねることがなく非常に有意義であった。
- 全体の講義・部会の内容及び時間のバランスはちょうど良かった。
- 出入国管理等の講義は大変興味深かった。
- 他大学も同じようなことで悩み、課題等に挑戦していることが分かり共感がもてた。また、そう言った面で話が弾みたくさん交流ができた。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成13年度留学生担当者研修会 日程表

時間 / 月日	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00 30 50	14:00	15:00 15	16:15	17:00 45	18:00	20:00
11月 7日 (水) 第1日					受付	オリエンテーション 開講式	講義1 (仮) 我が国の留学生政策の現状と課題について (文部科学省) (60分) 休憩	講義2 (仮) 「留学生の派遣について」 (文部科学省) 「留学生の受入れについて」 (文部科学省) (60分)	宿泊オリエンテーション等 (45分)	司会打合せ	懇親会 (120分) 入浴等
11月 8日 (木) 第2日	7:30 洗面・朝食等 9:00	30 講義3 (仮) 日本留学試験について (財)日本国際教育協会試験課長 吉野 利雄 (60分)	10:00 30 休憩 50	班別討議 (事例研究) (60分)	11:50 昼食	13:00 講義4(予定) (仮) 国際交流の意義について 小松親次郎 (60分)	14:00 15 休憩 講義5 (仮) 出入国管理の現状と留学生の受入れについて (法務省) (60分)	15:15 30 休憩	設置者部会別討議 (国立大学)及び(公私立大学) 受入業務部会, 生活支援部会, 奨学金部会 (高等専門学校) 高専部会 (専修学校) 専修学校部会 (120分)	17:30 夕食・休憩	19:00 自主研修 20:00 入浴等
11月 9日 (金) 第3日	7:30 洗面・朝食 9:00	宿舎清掃 10:00	全体会議 (設置者部会別討議報告) (120分)	11:00 12:00	修了証書授与・閉講式 (30分) 30						

Ⅰ　研修概要

研修名	人権教育セミナー　（第１回）						
研修目的（趣旨）	学校における人権教育の一層の充実を図るための研修。						
対象	教育委員会の指導主事及びその他の職員 幼稚園、小・中・高等学校及び中等教育学校の教職員						
開催期日	平成　１３　年　８　月　２１　日（火）～ 平成　１３　年　８　月　２２　日（水）						
開催日数	２　日間	計画人数	３００人	受講者数	１８６人	(参加率)	62.00 %
開催場所	文部科学省分館　虎ノ門ホール						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	２８人	22.76%	８１人	65.85%	２人	1.63%	１２人	9.76%

2．研修内容に関する主な意見

○　専門的な立場から、わかりやすい講義でよかった。
○　講義では、具体的な事例、内容をあげてわかりやすく話をしてもらい、学校に持ち帰り広めていく必要を痛感した。
○　どの説明、講義もわかりやすく、とても役に立つ内容だった。
○　今回のセミナーを現場に持ち帰り、幅広い人権に関する研修のスタートにしたい。
○　２日間の研修を通して、人権教育の重要性を再認識した。
○　全体的に大体わかっていることの復習的な講習が多いように思った。もっと極論的な講義がほしかった。
○　一般的な話より、実践例の話を聞きたい。
○　もう少し人権教育における方向性について、具体的に示してほしかった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度人権教育セミナー（第１回）日　程　表

日　　時：平成１３年８月２１日（火）～平成１３年８月２２日（水）２日間
場　　所：虎ノ門ホール
（東京都千代田区霞が関3-2-3 文部科学省分館）

第１日目

	13:00	13:30	13:50	14:30	14:40	15:20	15:30	16:10
8月21日(火)	受付	開講式	行政説明１ 法務省 人権擁護局 人権啓発課 補佐官 小島　寛	休憩	行政説明２ 総務省 大臣官房 地域改善対策室 参事官補 酒井　健治	休憩	行政説明３ 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 課長補佐 佐藤　安紀	

第２日目

	9:30	10:50	10:55	12:15	13:30	15:00
8月22日(水)	講義１ 「学校における人権教育」 文部科学省 初等中等教育局 視学官　宮川　八岐	休憩	講義２ 「人権啓発のあり方」 財団法人 人権教育啓発推進センター 理事長　宮崎　繁樹	昼　食	講義３ 「人権教育と児童虐待」 大阪市立大学 教授　森田　洋司	

Ⅰ　研修概要

研修名	人権教育セミナー　（第２回）						
研修目的（趣旨）	学校における人権教育の一層の充実を図るための研修。						
対象	教育委員会の指導主事及びその他の職員 幼稚園、小・中・高等学校及び中等教育学校の教職員						
開催期日	平成　１３　年　１１　月　１２　日（月）～ 平成　１３　年　１１　月　１３　日（火）						
開催日数	２　日間	計画人数	３００人	受講者数	２４４人	(参加率)	81.33 %
開催場所	独立行政法人　国立オリンピック記念青少年総合センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	６３人	34.24%	１０３人	55.98%	２人	1.09%	１６人	8.70%

2．研修内容に関する主な意見

○　行動を規定するのは意識であるという講演での話は、印象深かった。（多数）

○　校内研修を実施し、セミナーで学んだことを全教職員へ伝えていきたい。実践発表であった他校の研究活動を参考に、研究推進を図っていきたい。（多数）

○　「今、なぜ人権なのか」ということが、十分に理解できた。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度人権教育セミナー（第２回）
日　　程　　表

日　　時：平成１３年１１月１２日（月）～平成１３年１１月１３日（火）の２日間

場　　所：国立オリンピック記念青少年総合センター
開講式、講演：センター棟４１７
幼稚園、小・中学校部会：センター棟４１７
高等学校部会：センター棟３０９
全　体　会：センター棟４１７

第１日目

	12:45	13:15	13:30		15:00	15:15		16:45	
11月12日(月)		受付	開講式	講演１ 「国際理解教育の今日的課題」 筑波大学助教授 嶺井　明子		休憩	講演２ 「人権教育における指導方法について」 筑波大学教授 福田　弘		

第２日目

	10:00		12:00	13:00		14:00	14:15		15:30	
11月13日(火)		分科会１ 事例発表・研究協議 幼稚園、小・中学校部会 高等学校部会	昼食	分科会２ 研究協議 幼稚園、小・中学校部会 高等学校部会		休憩	全体会 報告等 文部科学省 初等中等教育局視学官 宮川　八岐		

Ⅰ　研修概要

研修名	エイズ・薬物乱用防止教育研修会						
研修目的（趣旨）	エイズ教育の推進についての理解を促すとともに学校における薬物乱用防止教育の一層の充実を図るための研修						
対象	小学校、中学校及び高等学校等の保健教育について、都道府県内で指導的立場にある教員並びに都道府県及び市（指定都市及び中核市を含む）町村教育委員会の保健教育担当指導主事						
開催期日	平成　13　年　6　月　20　日（水）～平成　13　年　6　月　21　日（木）						
開催日数	2　日間	計画人数	250　人	受講者数	312　人	(参加率)	124.8　%
開催場所	東京：文部科学省分館　虎ノ門ホール						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	78　人	53.42%	67　人	45.89%	1　人	0.68%	0　人	0.00%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

・内容は核心をついていたと思うし、生徒指導上にも役に立つ内容だった（ライフスキルの部分）。

・坪井先生のお話は養護教諭が各学校を大きく動かし、確実に生徒に生きる力を身につけさせたという実績に感動した。話の仕方も上手だった。

・形の違った３校における性教育、生徒の求めている性教育、集団と個別指導の在り方など、本音のトークはとても胸を打った。坪井先生の「人生への温かさを伝える努力」をしていきたい。

・グラフや表をどこから取ったか、教えていただけると（例えば、インターネットから取り出せるとか）ありがたい。また、この講義２を研修第１日目の最後に聞ければ、もっと効果的に聞くことが出来たと思う。

・いろいろな学校で実践されているようなもので、先生（講師）が大切にしていること、主張したいことが何かが分からなかった。養護教員としての特質、保健室で行っている個別指導をもっと詳しく具体的に聞きたかった。

・ほとんど現場で必要に迫られ、集めていた情報だった。

・医学的な内容としては参考になったが、学校教育における喫煙防止教育に焦点を当てて欲しかった（指導方法等）。

・スクリーンの文字が見にくかった。

・たばこの有害性、有毒性についての内容であったように思うが、話の意図が今一つ伝わらなかった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度エイズ・薬物乱用防止教育研修会日程表

	9:30	10:00		12:00	13:00		14:30	15:00		16:30
6月20日(水)		受付	**講義１** 薬物乱用防止教育の進め方 神戸大学発達科学部助教授 川畑徹朗	昼食	**講義２** 喫煙防止教育の必要性 国立公衆衛生院特別研究員 淺野牧茂	休憩	**講義３** 飲酒防止教育の必要性 国立療養所久里浜病院臨床研究部長 樋口進			

	9:30	10:00		12:00	13:00		14:15	14:30		16:00
6月21日(木)		受付	**講義４** エイズ教育及び性教育の進め方 －「みんなで生きるために」の改訂にあたって－ 田能村教育問題研究所所長 田能村祐麒	昼食	**講義５** 性感染症の基礎知識と動向 厚生労働省健康局結核感染症課課長補佐 藤井紀男	休憩	**講義６** 「学校におけるエイズ教育(性教育)の実践について－個別指導を含む視点から－」 千葉県佐原市立第五中学校養護教諭 小林芳枝 日本体育大学非常勤講師　坪井美智子			

（研修会会場）

虎ノ門ホール（文部科学省分館　旧国立教育会館内）

〒100-0013　東京都千代田区霞が関３－２－３

Ⅰ　研修概要

研修名	公立学校（高等学校・特殊教育諸学校）事務職員研修講座						
研修目的（趣旨）	職務に必要な専門的な知識を習得させ事務職員の資質の向上を図るための研修。						
対象	公立の高等学校及び特殊教育諸学校の事務職員並びに教育委員会事務職員						
開催期日	平成　13　年　11　月　29　日（木）～ 平成　13　年　11　月　30　日（金）						
開催日数	2　日間	計画人数	900人	受講者数	794人	(参加率)	88.22 %
開催場所	文部科学省分館　虎ノ門ホール（1日目） 文部科学省分館　虎ノ門ホール（2日目）、東京都教職員研修センター　講堂（2日目） 東京医科歯科大学　5号館（2日目）、東京商船大学　越中島会館　講堂（2日目）						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	240人	33.33%	438人	60.83%	11人	1.53%	31人	4.31%
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

○　会計官の話は元気があり、分かり易い説明だった。
○　「教育改革への取り組みについて」がとても参考になった。
○　自分の仕事・職務を見直す良い機会になったと思う。
○　21世紀教育新生プランとこれからの学校運営が特に良かった。
○　内容的には役に立つものもあった。
○　自治体ごとの条件の違いはあるが、ある程度の経験を経た者が集まっているので、内容的に充実していると思った。
○　役に立った部分もあったが、ほんの少しだった。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度公立学校（高等学校・特殊教育諸学校）事務職員研修講座
日　　程　　表

日　　時：平成１３年１１月２９日（木）～平成１３年１１月３０日（金）の２日間

場　　所：（第１日）全　体　会：文部科学省分館　虎ノ門ホール
（第２日）第１分科会：東京都教職員研修センター　講堂
第２分科会：文部科学省分館　虎ノ門ホール
第３分科会：東京医科歯科大学　５号館
第４分科会：東京商船大学　越中島会館　講堂

第１日

	13:00	13:30	13:50	14:00		15:30	15:45		16:50
11月29日(木)		受付	開講式	日程説明等	講演 「２１世紀教育新生プランとこれからの学校運営」 文部科学省大臣官房 総括会計官　徳永　保		休憩	解説 「教職員の定数改善について」 文部科学省初等中等教育局 財務課定数企画係長 宮崎　孝	

第２日

	9:30		11:45	13:00		15:30
11月30日(金)		分科会（発表・討議①）	休　憩	分科会（発表・討議②）		

Ⅰ　研修概要

研修名	衛生管理研修会						
研修目的（趣旨）	学校給食を行う上での衛生管理に関する研修						
対象	都道府県及び指定都市教育委員会の給食担当者、指導主事、学校栄養職員、共同調理場長、校長等指導的立場の担当者						
開催期日	平成　13　年　5　月　24　日（木）～ 平成　　年　　月　　日（　）						
開催日数	1　日間	計画人数	110　人	受講者数	103　人	(参加率)	93.64　%
開催場所	東京：独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	78　人	78.79%	10　人	10.10%	0　人	0.00%	11　人	11.11%

2．研修内容に関する主な意見

・具体的に分かり易い話だった。夏の調理員向けの研修会に衛星配信録画ビデオを使用したい。

・今課題としている「栄養職員のいない学校への指導」について、O157から今日までの対応等の説明は、これから管理職等への理解を深めることにとって大切だと感じた。

・現場での具体事例は大変役立った。協力者会議報告を最初から見直していきたい。

・校長、栄養士の立場からの衛生管理実践の現況が話されて分かり易かった。

・管理職の意識改革の大切さを感じた。

・校長も替わる（異動する）ので、「衛生管理の基準」の精読について（域内の）研修会で指導したい。

・校長の立場、栄養職員の立場というように、同じ学校の各々の立場からの実践発表で大変参考になった。

・管理職の給食に対する認識や理解、指導により（現場の意識を）変えていけるものだと再確認することができた。

・自分たちが変えてゆく必要があることはよく分かっていたが、発表を聞いて「頑張らなくてはいけない」と思った。

・取り組む姿勢の素晴らしさに励まされた。

・管理職としての発表は新鮮で、こうあって欲しいものと思った。

・給食関係者向けの研修会で、その啓発に役立てたい。また、「できることからの改善」をクリアしながらも、周りを抱き込んだ意識改革と行動を起こす重要性を痛感した。

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度衛生管理研修会開催要項

1　趣　旨

近年、腸管出血性大腸菌Ｏ１５７等による大規模な食中毒が発生しており、学校給食において、その防止対策等について各学校給食実施校等まで確実に周知徹底を図ることが喫緊の課題である。

このため、学校給食関係者を対象とした学校給食における衛生管理の推進に係る研修会を行う。

2　企　画

文部科学省

3　実　施

独立行政法人教員研修センター

4　期　日

平成１３年５月２４日（木）　１０：００ ～ １７：００

5　会　場

独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター
〒151-0052　東京都渋谷区代々木神園町３番１号

6　日　程

10:00	10:15		12:15	13:15		14:15	14:30		17:00
受付	開会式	説　明	昼食	講　義		休憩	実践発表、班別研究協議及び全体研究協議		

7　内　容

（１）説明

「学校給食における衛生管理の充実について」

文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課
学校給食調査官　金田　雅代

（２）講義

「平成１２年度学校給食における衛生管理の改善に関する調査研究報告」について

学校食事研究会　事務局長　　阿部　裕吉
（学校給食における衛生管理の改善に関する調査研究協力者会議座長）

（３）実践発表及び研究協議

①衛生管理推進地域事業実践発表
「衛生管理推進地域指定事業の取組み」（滋賀県八日市市）

②班別研究協議及び全体研究協議

Ⅰ　研修概要

研修名	外国語指導助手に対する研修　新規来日外国語指導助手研修　（４月期）						
研修目的（趣旨）	「語学指導等を行う外国青年招致事業」による招致外国青年の中で語学指導に従事する中国語・韓国語指導助手（新規に来日する者及び契約更新者の中で国際交流員から外国語指導助手へ職種変更をする者）に対して，日本の学校教育制度，授業の実施方法などの職務上必要とされる知識・指導技術等に関する理解を深めさせ，もって，我が国の中学校及び高等学校等における円滑な勤務に資する。						
対象	開催要項上の趣旨項目において，上記「招致外国青年の中で語学指導に従事する中国語・韓国語指導助手（新規に来日する者及び契約更新者の中で国際交流員から外国語指導助手へ職種変更をする者）」としてい						
開催期日	平成　１３　年　４　月　１２　日（木）～ 平成　１３　年　４　月　１３　日（金）						
開催日数	２　日間	計画人数	１０人	受講者数	１０人	(参加率)	100.0 %
開催場所	ホテル　ルポール麹町						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について　　**アンケートは実施していない**

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	割合（%）	人		人		人		人	

2．研修内容に関する主な意見

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度外国語指導助手来日直後オリエンテーション（４月期）日程

月日	時　間	研　修　内　容　等	備　考
4月11日(水)		新規来日者　成田空港到着 バス移動　ホテル到着	
4月12日(木)	10:00～10:30	○開会式	ＣＩＲとは，別れて実施。
		Ａ　Ｌ　Ｔ	
	10:30～12:00	○文部科学省担当官による講義 「日本の学校教育制度及び外国語教育の現状等」 「外国語指導助手の役割とﾃｨｰﾑ・ﾃｨｰﾁﾝｸﾞの基本的考え方」	
		(昼食)	
	13:15～14:00	○先輩ＡＬＴからの指導助言等Ⅰ	
	14:15～15:05	○先輩ＡＬＴからの指導助言等Ⅱ	
		○質疑応答，意見交換等	
	14:35～15:45	○ﾃｨｰﾑ･ﾃｨｰﾁﾝｸﾞに関するビデオ視聴等	
		○文部科学省担当官によるまとめ	
		○閉会式	
		○レセプション	
4月13日(金)		取りまとめ団体別国内移動	

Ⅰ　研修概要

研修名	外国語指導助手に対する研修　新規来日外国語指導助手研修　（A日程・B日程・第２次）						
研修目的（趣旨）	「語学指導等を行う外国青年招致事業」による招致外国青年の中で語学指導に従事する外国語指導助手（新規に来日する者及び再契約者の中で国際交流員から外国語指導助手への職種変更をする者）に対して，日本の学校教育制度，授業の実施方法などの職務上必要とされる知識・指導技術等に関する理解を深めさせ，もって我が国の中学校及び高等学校等における円滑な勤務に資する。						
対象	開催要項上の趣旨項目において，上記「招致外国青年の中で語学指導に従事する外国語指導助手（新規に来日する者及び再び契約更新者の中で国際交流員から外国語指導助手へ職種変更をする者）」としている。						
開催期日	A日程　平成１３年７月３０日（月）～平成１３年７月３１日（火）						
	B日程　平成１３年８月６日（月）～平成１３年８月７日（火）						
	第2次　平成１３年８月２３日（木）						
開催日数	１～２　日間	計画人数	２７５０人	受講者数	２８１５人	(参加率)	102.36 %
開催場所	新宿京王プラザホテル						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について　　**アンケートは実施していない**

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	割合（%）	人		人		人		人	

2．研修内容に関する主な意見

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度外国語指導助手来日直後オリエンテーション日程

A	B	時　間	項　目		
7月29日(日)	8月5日(日)	終　日	JET参加者来日		
7月30日(月)	8月6日(月)	9:30～11:15	AJET分科会（希望者のみ）		
		11:30～12:30	（昼食）		
		13:00～13:30	開会式		
		13:30～13:50	テクニカルマター（事務連絡）及びエッセンシャルインフォメーション（重要情報）		
		13:50～14:00	AJETプレゼンテーション		
		14:00～14:40	特別講演		
			ＡＬＴ	時　間	ＣＩＲ
		15:00～15:30	講　義 ・「外国語指導助手の役割及びﾃｨｰﾑ･ﾃｨｰﾁﾝｸﾞの基本的考え方」 “The ALT Role in Foreign Language Education and Basics in Team-Teaching”	15:00～17:00	(15:00～ ｸﾚｱ)
		15:30～16:00	ＡＬＴアドバイザーからの話		
		16:00～17:00	ティーム・ティーチングに関するビデオ視聴 ・「ＡＬＴの学校での１日」 “An ALT's Day at School”		
		19:00～20:30	レセプション		
7月31日(火)	8月7日(火)		ＡＬＴ	時　間	ＣＩＲ
		9:00～10:20	分科会Ｉ 「ＡＦＴ／ＡＧＴの職務」 “Working as an AFT/AGT” 「第２外国語としての仏語／独語教授法」 “Teaching French / German as a second Language”	9:00～12:00	(9:00～分科会 (ｸﾚｱ))
		10:35～11:55	希望分科会に参加		
		12:00～13:00	（昼　食）		
		13:00～13:40	クレアワークショップ１		
		14:00～14:40	クレアワークショップ２		
		15:00～15:40	クレアワークショップ３		
		16:00～16:40	クレアワークショップ４		
		16:45～19:00	荷物回収・AJETインフォメーション		
8月1日(水)	8月8日(水)	7:30～11:30	取りまとめ団体別国内移動		

平成１３年度外国語指導助手来日直後オリエンテーション（第２次）日程

○ ８月２２日（水）ＪＥＴ青年来日

○ ８月２３日（木）オリエンテーション（京王プラザホテル）

時　　間	内　　容　　等	備　　考
9:30～ 9:45	受　付	
9:45～10:05	開　会　式 ・開会挨拶　二橋　正弘　理事長 ・三省・ＣＬＡＩＲ役員等紹介	
10:05～11:20	ＴＯＡ（東京オリエンテーションアシスタント）プレゼンテーション	
11:20～11:30	ＡＪＥＴインフォメーション	
11:30～12:00	重要情報	
12:00～13:00	昼　食	
13:00～13:30 13:30～14:45	講　義 ・「日本の教育制度及び外国語教育の概要」 ・「外国語指導助手の役割，ﾃｨｰﾑ・ﾃｨｰﾁﾝｸﾞの基本的考え方及びﾃｨｰﾑ・ﾃｨｰﾁﾝｸﾞについてのデモンストレーション」	適宜，10分程度の休憩を設ける
14:45～15:00 15:00～16:00	・ＡＬＴアドバイザーとの質疑応答 ・ビデオプレゼンテーション「An ALT's Day at School」	
16:10～16:30	取りまとめ団体別ミーティング	
18:30～20:00	レセプション 歓迎挨拶・乾杯発声　中田　正昭　専務理事	

○ ８月２４日（金）

都道府県別に集合（国内移動）

Ⅰ　研修概要

研修名	外国語指導助手に対する研修　契約更新予定者研修会　（A日程 ・ B日程）
研修目的（趣旨）	「語学指導等を行う外国語青年招致事業」による招致外国青年の中で，中学校・高等学校等において語学指導に従事する者（以下，「外国語指導助手」という。）の契約更新予定者に対し，一層効果的な職務遂行ができるよう，授業の実施方法などの職務上必要な知識・指導技術等を修得させるとともに，外国語教育に係る諸問題について研究協議を行い，もって我が国の外国語教育の充実に資する。
対象	平成１３年度に契約更新を予定している外国語指導助手のうち，更新が１回目の者とする。なお，A日程，B日程の参加区分については下記のとおりとする。 A日程：　滋賀県，京都府，大阪府，兵庫県，奈良県，和歌山県，鳥取県，島根県，岡山県，広島県，山口県，徳島県，香川県，愛媛県，高知県，福岡県，佐賀県，長崎県，熊本県，大分県，宮崎県，鹿児島県，沖縄県 B日程：　北海道，青森県，岩手県，宮城県，秋田県，山形県，福島県，茨城県，栃木県，群馬県，埼玉県，千葉県，東京都，神奈川県，新潟県，山梨県，長野県，静岡県，富山県，石川県，福井県，岐阜県，愛知県，三重県 ※政令指定都市及び中核市については，その所在する道府県として取り扱う
開催期日	A日程　平成 13 年 5 月 28 日（月）～平成 13 年 5 月 30 日（水）
開催期日	B日程　平成 13 年 5 月 30 日（水）～平成 13 年 6 月 1 日（金）
開催日数	3 日間　計画人数 1,800 人　受講者数 1,930 人　(参加率) 107.2 %
開催場所	神戸ポートピアホテル

ただし，外国語指導助手に関する研修については，A及びB日程とも1日と半日の日程となる。

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について　　**アンケートは実施していない**

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	割合（%）	人		人		人		人	

2．研修内容に関する主な意見

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

平成１３年度外国語指導助手契約更新予定者研修会日程（Ａ日程）

期日	時間	内容		備考
5 ／ 28 (月)	14:45~15:30 15:30~16:00 16:00~17:30	開会式 日程案内 基調講演		ALT・CIR 合同
5 ／ 29 (火)	9:15~10:00	文部科学省 講演	演題 “ New Directions in Foreign Language Education ” （文部科学省平田和人教科調査官）	
	10:00~10:30	質疑応答	（文部科学省平田教科調査官、ヒュー・オリファント）	ＡＬＴ
	10:30~10:45	（休憩）		
	10:45~12:00	文部科学省 ワークショップ I	〔下記２５のテーマから各自４テーマを選択〕 1) Audio-visual Aids 2) CALL(Computer-assisted Language Learning)	
	12:00~13:15	昼食	3) Classroom Management 4) Drama in the Classroom	
	13:15~14:30	文部科学省 ワークショップ II	5) Elementary School Visits 6) Enhancing Students' Motivation 7) Evaluation	
	14:45~16:00	文部科学省 ワークショップ III	8) Extracurricular Activities 9) Global Issues in the Foreign Language Classroom	
	16:15~17:30	文部科学省 ワークショップ IV	10) Lesson Designing 11) Life as a Second-year ALT 12) Music in the Classroom 13) One-shot Visits 14) Oral Communication A/B 15) Phonics and the *Ichi Nen Sei* 16) Principles of Activity Design 17) Special Needs Education 18) TEFL/TESOL Basic Theory 19) Teaching Adult Classes 20) Teaching Debate/ Discussion 21) Trading Places (Afrikaans) (Welsh) 22) Workplace Relations 23) Non-academic Schools 24) Teaching Conversation Strategies 25) Long-term Projects	
5 ／ 30 (水)	9:00~10:00 10:15~11:15 11:30~12:30	クレアワークショップ 1 クレアワークショップ 2 質疑応答及び閉会式	〔設定する5テーマから各自2テーマを選択〕 （クレアによる質疑応答）	ALT・CIR 合同

平成１３年度外国語指導助手契約更新予定者研修会日程（Ｂ日程）

期日	時間	内容		備考
5 ／ 30 (水)	14:45~15:30 15:30~16:00 16:00~17:30	開会式 日程案内 基調講演		ALT・CIR 合同
5 ／ 31 (木)	9:15~10:00 10:00~10:30 10:30~10:45 10:45~12:00 12:00~13:15 13:15~14:30 14:45~16:00 16:15~17:30	文部科学省 講演 質疑応答 (休憩) 文部科学省 ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ I 昼食 文部科学省 ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ II 文部科学省 ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ III 文部科学省 ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ IV	演題 “Expectations for Second-year ALTs ” (文部科学省加納幹雄教科調査官) (加納教科調査官、ﾋｭｰ・ｵﾘﾌｧﾝﾄ) 〔下記２５のテーマから各自４テーマを選択〕 1) Audio-visual Aids 2) CALL(Computer-assisted Language Learning) 3) Classroom Management 4) Drama in the Classroom 5) Elementary School Visits 6) Enhancing Students' Motivation 7) Evaluation 8) Extracurricular Activities 9) Global Issues in the Foreign Language Classroom 10) Lesson Designing 11) Life as a Second-year ALT 12) Music in the Classroom 13) One-shot Visits 14) Oral Communication A/B 15) Phonics and the *Ichi Nen Sei* 16) Principles of Activity Design 17) Special Needs Education 18) TEFL/TESOL Basic Theory 19) Teaching Debate/Discussion 20) Teaching Second Foreign Languages 21) Trading Places (Irish) (Bambara) 22) Workplace Relations 23) Non-academic Schools 24) International Projects Using the Internet 25) Long-term Projects	
6 ／ 1 (金)	9:00~10:00 10:15~11:15 11:30~12:30	ｸﾚｱﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ 1 ｸﾚｱﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ 2 質疑応答及び閉会式	〔設定する5テーマから各自2テーマを選択〕 (クレアによる質疑応答)	ALT・CIR 合同

Ⅰ　研修概要

研修名	留学生交流研究協議会（北海道、東北、関東地区）						
研修目的（趣旨）	大学等における留学生受入れ体制を整備、充実するため、留学生の受入れ・派遣に関する諸問題について、関係大学等の教員、幹部事務職員及び関係省庁等により研究協議を行う。						
対象	①大学・短期大学・高等専門学校・専修学校・準備教育機関の留学生交流関係教員及び幹部事務職員 ②関係省庁担当職員 ③（財）日本国際教育協会職員 ④（財）国際学友会職員 ⑤（財）関西国際学友会職員 ⑥（財）内外学生センター職員 ⑦（財）留学生支援企業協力 ⑧（財）日本語教育振興協会職員 ⑨UMAP国内委員会職員						
開催期日	平成 13 年 7 月 18 日（水）～ 平成 13 年 7 月 19 日（木）						
開催日数	2 日間	計画人数	350 人	受講者数	448 人	(参加率)	128.0 %
開催場所	国際研究交流大学村東京国際交流館プラザ平成						

Ⅱ　アンケート結果の状況

アンケートは実施していない。

1　研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	割合（%）	人		人		人		人	

2．研修内容に関する主な意見

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

日　　程

7月18日（水）

9:00～　受付

10:00～　開会式（国際交流会議場）

・司会　東京大学研究協力部留学生課長　　霜　田　浩　二

1．あいさつ

東京大学総長特別補佐　　廣　渡　清　吾

文部科学省高等教育局留学生課
留学生教育企画室長　　田　中　　充

2．日程説明等　東京大学研究協力部留学生課長　霜　田　浩　二

10:15～　全体会議（国際交流会議場）

(10:15～)　1．文部科学省所管事項説明（２０分）
文部科学省高等教育局留学生課
留学生教育企画室長　　田　中　　充

(10:35～)　2．法務省所管事項説明（２０分）
法務省入国管理局入国在留課補佐官　　佐々木　聖　子

(10:55～)　3．外務省所管事項説明（２０分）
外務省大臣官房文化交流部人物交流課　　上　田　　肇

(11:15～)　4．UMAP日本国内委員会事業説明（１５分）
専門委員（帝京大学国際教育研究所研究員）　　呉　　俐　里

11:30　　終了

11:30～13:30　昼食

12:40～13:30　分科会運営打合会（各会場は２ページの日程表・備考欄を参照）

13:30～17:15　分科会

○　交流部会（国際交流会議場）（３階）

・司会	岩手大学留学生センター長	岡田　仁
・議題提供者	東京外国語大学留学生課　課長補佐	梅田由美子
	武蔵大学学長室企画調整課	佐藤　雪雄
	東京医科歯科大学　教授	都河　明子
	青山学院大学　係長	細井　良和
	UMAP日本国内委員会専門委員	毛利　勝彦
・記録	東京大学研究協力部留学生課	清水　正一

○　教育指導部会（会議室１）（４階）

・司会	東京大学留学生センター　教授	栖原　暁
・議題提供者	杏林大学　教授	椎名　和男
	國学院大学　主査	石山　昭彦
	東京大学　教授	栖原　暁
	東京工業大学　助教授	江川　緑
・記録	東京大学研究協力部留学生課	藤枝　伸

○　生活部会（メディアホール）（３階）

・司会	立教大学国際センター　課長	斉藤喜美子
・議題提供者	中央大学　事務長	富田　和正
	政策研究大学院大学　教授	西澤　弘
	西武文理大学　講師	金子　章予
	東京大学　助手	高野　靖子
・記録	東京大学研究協力部留学生課	小杉　真人

○ 高等専門部会（会議室２）（４階）

・司会	仙台電波工業高等専門学校　教授	鹿股　昭雄
・議題提供者	福島工業高等専門学校　教授	大森　房子
	宮城工業高等専門学校　助教授	本郷　哲
	鶴岡工業高等専門学校　助教授	栁本　憲作
	東京工業高等専門学校　学生課長	山田　重美
・記録	東京大学研究協力部研究協力課	鳥羽　敏樹

○専修学校部会（会議室３）（４階）

・司会	米山ファッションビジネス専門学校 校長	米山　実
・議題提供者	日本外国語専門学校　マネージャー	今野　智也
	華学園ビジネス専門学校　教務部	原田　明美
	国際観光専門学校　学生部係長	前原　優介
	東京国際情報ビジネス専門学校　課長	川口　博
・記録	東京大学研究協力部国際交流課	佐藤　洋之

17:45～19:45　自由討議及び懇親会
（青海フロンティアビル１階 「直久　青海店」）

7月19日(木)

10:00～11:30　分科会報告・質疑応答（国際交流会議場）

・司会　東京大学留学生センター長　　小　島　孝　之

1．各分科会報告（各分科会　15分）

2．質疑応答

11:30～　　閉会式（国際交流会議場）

・司会　　東京大学研究協力部留学生課長　霜　田　浩　二

あいさつ

文部科学省高等教育局留学生課
留学生教育企画室長　　田　中　　充

東京大学留学生センター長　　小　島　孝　之

Ⅰ　研修概要

研修名	留学生交流研究協議会（中部、近畿地区）						
研修目的（趣旨）	大学等における留学生受入れ体制を整備、充実するため、留学生の受入れ・派遣に関する諸問題について、関係大学等の教員、幹部事務職員及び関係省庁等により研究協議を行う。						
対象	①大学・短期大学・高等専門学校・専修学校・準備教育機関の留学生交流関係教員及び幹部事務職員 ②関係省庁担当職員 ③（財）日本国際教育協会職員 ④（財）国際学友会職員 ⑤（財）関西国際学友会職員 ⑥（財）内外学生センター職員 ⑦（財）留学生支援企業協力 ⑧（財）日本語教育振興協会職員 ⑨UMAP国内委員会職員						
開催期日	平成 13 年 6 月 21 日（木）～ 平成 13 年 6 月 22 日（金）						
開催日数	2 日間	計画人数	250 人	受講者数	370 人	(参加率)	148.0 %
開催場所	千里阪急ホテル						

Ⅱ　アンケート結果の状況

アンケートは実施していない。

1　研修会全体について

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	割合（%）	人		人		人		人	

2．研修内容に関する主な意見

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

日　　程

6月21日（木）

9：00～　受　　付　（2階 ホワイエ）

10：00～　開 会 式　（2階「仙寿の間」）

・司　会　　大阪大学研究協力部留学生課長　　山 角　　盟

・挨　拶　　大阪大学総長　　岸 本 忠 三
　　文部科学省高等教育局留学生課課長補佐　　荒 木　　亨

関係機関紹介

日程説明等

10：10～　全体会議　（2階「仙寿の間」）

(10:10～)　文部科学省所管事項説明
　　文部科学省高等教育局留学生課課長補佐　　小 椋 史 朗

(10:35～)　法務省所管事項説明
　　法務省入国管理局入国在留課留学審査係長　　金 子 憲 一

(10:55～)　外務省所管事項説明
　　外務省大臣官房文化交流部人物交流課　　保 明 昌 恵

(11:15～)　UMAP国内委員会事業説明
　　UMAP国内委員会専門委員・一橋大学教授　　水 岡 不二雄

11：40～　昼食休憩
　　シンポジウム運営打合会（2階「紅梅の間」及び「サンラウンジ」）

13：00～17：00　シンポジウム

第　1　部

A.これからの短期交換留学における「受入れ」と「派遣」のあり方

（2階「クリスタルホール」）

・司　会	名古屋大学 留学生センター 教授	三宅政子
・基調報告	広島大学 留学生センター長	二宮皓
・パネリスト	関西外国語大学 外国語学部 教授	山本甫
	京都大学 留学生センター 助教授	青谷正妥
	奈良高等工業専門学校 教授	京兼純

B．日本語教育に関する総合的検証と期待される教育システムの構築
—留学生の多様化が進む中で—

（2階「葵の間」）

・司　会	京都外国語大学 外国語学部 助教授	由井紀久子
・基調報告	大阪大学 留学生センター 教授	西口光一
・パネリスト	愛知県立大学 外国語学部 助教授	土屋千尋
	富山大学 留学生センター 助教授	深澤のぞみ

C．留学生交流の推進を支える制度の現状と期待される方向
—「保証人の問題」を中心に—

（2階「樹林の間」）

・司　会	関西大学 事務局長	小西靖洋
・基調報告	東京大学 留学生センター 教授	栖原暁
・パネリスト	大阪府立大学 学生課 課長補佐	黒越孝仁
	国際大学 学生センター係長	武田里子

D．地域の国際化と留学生交流
—期待される地域社会との新たな連携—

（2階「アイヴィーホール」）

・司　会	三重大学 留学生センター 教授	花見槇子
・基調報告	関西インターメディア株式会社 プログラムスタッフ	松尾カニタ
・パネリスト	財団法人とよなか国際交流協会 事業課長	榎井縁
	京都府木津町教育委員会外国語指導助手	カーク・アカホシ
	大阪大学大学院基礎工学研究科教授	久保井亮一

E.「日本留学試験」の実施を目前に控えて
—その効果と課題を考える—

（ 2階「樹林の間」）

・司　　会	大阪外国語大学 留学生日本語教育センター 教授	山　本　　進
・基調報告	文部科学省 高等教育局留学生課 課長補佐	小　椋　史　朗
・パネリスト	コミュニカ学院 学院長	奥　田　純　子
	信州大学 経済学部 教授	金　　早　雪
	龍谷大学 経済学部 教授	田　尻　英　三

F. 大学等における留学生交流の拠点のあり方
—留学生センター・国際センター等の役割と将来の方向—

（ 2階「アイヴィーホール」）

・司　　会	神戸大学 留学生センター 教授	中　西　泰　洋
・基調報告	南山大学 副学長・国際教育センター長	岡　部　朗　一
・パネリスト	岐阜大学 留学生センター 教授	中須賀　徳　行
	京都産業大学 国際交流センター長・教授	森　　捨　信

G.「日本留学」をより意義深くするための方策
—学位・就職・フォローアップの観点から—

（ 2階「葵の間」）

・司　　会	京都大学 留学生センター 教授	大　東　祥　孝
・基調報告	金沢大学 留学生センター 教授	八重澤　美知子
・パネリスト	甲南女子大学 文学部 講師	リリアン テルミ ハタノ
	大阪大学 大学院工学研究科 講師	金　久　展　子
	大阪大学 大学院経済学研究科 助手	スワンラーダ・ウォラウェット

H. 留学生受入れ機関の留学生施策の推進とエキスパート
—その職域の確立と求められる役割を考える—

（2階「クリスタルホール」）

・司　　会	新潟大学 留学生センター 教授	中　村　正　董
・基調報告	南山大学 外国語学部 助教授	近　藤　祐　一
・パネリスト	立命館大学 国際交流課長	相　根　　誠
	神戸芸術工科大学 広報・国際交流課 課長補佐	塩　川　雅　美
	神戸大学 庶務部 留学生課長	福　留　純　郎

17：30～19：30　自由討議及び懇親会（ 2階「仙寿の間」）

6月22日（木）

10：00～　全体会議　（2階「仙寿の間」）
シンポジウム報告及び質疑応答（テーマ A～H）

・進　行　大阪大学留学生センター 副センター長・教授
古城紀雄

・発表者　シンポジウムA
名古屋大学 留学生センター 教授　三宅政子
シンポジウムB
京都外国語大学 外国語学部 助教授　由井紀久子
シンポジウムC
関西大学 事務局長　小西靖洋
シンポジウムD
三重大学 留学生センター 教授　花見槇子
シンポジウムE
大阪外国語大学 留学生日本語教育センター 教授
山本進
シンポジウムF
神戸大学 留学生センター 教授　中西泰洋
シンポジウムG
京都大学 留学生センター 教授　大東祥孝
シンポジウムH
新潟大学 留学生センター 教授　中村正薫

11：30～　閉会式　（2階「仙寿の間」）

・司　会　大阪大学研究協力部留学生課長　山角盟

・挨　拶　文部科学省高等教育局留学生課課長補佐　荒木亨
大阪大学副学長　宮西正宜

Ⅰ　研修概要

研修名	留学生交流研究協議会（中国、四国、九州地区）						
研修目的（趣旨）	大学等における留学生受入れ体制を整備、充実するため、留学生の受入れ・派遣に関する諸問題について、関係大学等の教員、幹部事務職員及び関係省庁等により研究協議を行う。						
対象	①大学・短期大学・高等専門学校・専修学校・準備教育機関の留学生交流関係教員及び幹部事務職員 ②関係省庁担当職員 ③（財）日本国際教育協会職員 ④（財）国際学友会職員 ⑤（財）関西国際学友会職員 ⑥（財）内外学生センター職員 ⑦（財）留学生支援企業協力 ⑧（財）日本語教育振興協会職員 ⑨UMAP国内委員会職員						
開催期日	平成 13 年 6 月 28 日（木）～ 平成 13 年 6 月 29 日（金）						
開催日数	2 日間	計画人数	200 人	受講者数	221 人	(参加率)	110.5 %
開催場所	香川県教育会館ミューズホール（28日午前中、29日） ラポールイン・タカマツ（28日午後）						

Ⅱ　アンケート結果の状況

アンケートは実施していない。

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	人		人		人		人	
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

Ⅲ　研修日程（プログラム）

次ページのとおり

日　程

6月28日(木)

9:30～ 受 付(ミューズホール1階)

10:00～ 開会式(ミューズホール)

◎ 司　会　香川大学学生課長　造田義雄

挨　拶　香川大学長　近藤浩二

文部科学省高等教育局留学生課課長補佐　中村浩之

関係機関紹介

日程説明等

10:10～ 全体会議(ミューズホール)

(10：10～)　文部科学省所管事項説明

文部科学省高等教育局留学生課課長補佐　中村浩之

(10：35～)　法務省所管事項説明

法務省入国管理局入国在留課留学審査係長　金子憲一

(11：00～)　外務省所管事項説明

外務省大臣官房文化交流部人物交流課事務官　佐野香穂

(11：20～)　UMAP日本国内委員会事業説明

ＵＭＡＰ日本国内委員会専門委員　堀田泰司

11:40～ 昼食(弁当予約者)　(ミューズホール)

分科会運営打合せ会　(ラポールイン・タカマツ 2階「牡丹」)

13:00～ 分 科 会

★ 交 流 部 会(ラポールイン・タカマツ「桔梗」)

◎司　　会	山口大学教育学部助教授	高橋俊章
◎話題提供者	安田女子大学教務課員	中西泰恵
	鹿児島大学留学生課留学生係長	中島晃一
	大分大学経済学部講師	金森由美
	岡山短期大学編入学・就職フォロー室長	原田隆光
	UMAP日本国内委員会専門委員	堀田泰司
◎記　　録	島根大学学生課専門員	堀尾　誠
	香川大学学生部学生課総務係長	細谷謙次

★ 教 育 指 導 部 会(ミューズホール「第1・2会議室」)

◎司　　会	広島大学留学生センター助教授	深見兼孝
◎話題提供者	長崎大学留学生専門教育教官	森永春乃
	山口大学経済学部講師	河野笙子
	香川大学経済学部教授	堀　啓造
	四国学院大学国際交流委員長	加瀬豊司
◎記　　録	徳山大学留学生センター係長	河本博史
	香川大学学生部学生課専門職員	尾松俊嗣

★ 生 活 部 会(ラポールイン・タカマツ「桐」)

◎司　　会	福岡教育大学教育学部助教授	中村俊哉
◎話題提供者	香川大学農学部講師	永瀬雅啓
	沖縄国際大学国際交流センター係長	徳原峰一
	広島大学留学生課留学生係長	近藤博明
	熊本大学留学生センター講師	ﾏｽﾃﾞﾝ真理子
◎記　　録	沖縄国際大学国際交流センター係長	徳原峰一
	香川大学学生部学生課専門職員	田中正昭

★ 高等専門学校部会(ミューズホール「第３会議室」)

◎司　　会	詫間電波工業高等専門学校教務主事	國井洋臣
◎話題提供者	熊本電波工業高等専門学校情報通信工学科教授	原　憲昭
	鹿児島工業高等専門学校電気工学科助教授	加治屋徹実
	徳山工業高等専門学校学生課専門職員	三國治夫
	八代工業高等専門学校情報電子工学科教授	森内　勉
◎記　　録	阿南工業高等専門学校学生課教務係長	大前志郎
	香川大学学生部学生課総務係主任	井上早江子

17:30～19:30 自由討議及び懇談会(ラポールイン・タカマツ２階「芙蓉」)

6月29日(金)

10:00～11:30 分科会報告・質疑応答(ミューズホール)

◎司　会　香川大学副学長(教学担当)　岡田順直

1．各分科会報告（各分科会15分程度）

2．質疑応答

11:30～11:50 閉会式(ミューズホール)

◎司　会　香川大学学生課長　造田義雄

挨　拶　文部科学省高等教育局留学生課課長補佐　中村浩之

香川大学副学長(教学担当)　岡田順直

Ⅰ　研修概要

研修名	道徳教育連携・推進講座　（地区別研修講座）						
研修目的（趣旨）	地域社会が連携した道徳教育を進めるための指導計画・指導方法等の工夫・改善についての研修。						
対象	教育委員会の指導主事、国・公・私立学校の教員及びＰＴＡ関係者（保護者・地域住民） （ＰＴＡ関係者については、単なる参加者としてではなく、シンポジストやオブザーバー、実践事例発表者として参加を得るよう工夫を図る。）						
開催期日	平成　１３　年　４　月　～　平成　１４　年　３　月						
開催日数	２～３　日　間	計画人数	30,000 人	受講者数	46,587 人	(参加率)	155.29 %
開催場所	各都道府県で設定						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	人		人		人		人	
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

Ⅰ　研修概要

研修名	外国語指導助手に対する研修　招致期間中外国語指導助手研修（中間期）						
研修目的（趣旨）	都道府県教育委員会との連携・協力の下，「語学指導等を行う外国青年招致事業」による招致外国青年のうち，中学校・高等学校等において語学指導に従事する者（以下，「外国語指導助手」という。）に対し，一層効果的な語学指導ができるよう，授業の実施方法などの職務上必要な知識・指導技術等を修得させるとともに，外国語教育に係る諸問題について研究協議を行い，もって我が国の外国語教育の充実に資する。						
対象	（1）外国語指導助手 （2）外国語指導助手と同数以上の中学校・高等学校の日本人外国語担当教員（以下，「担当教員」という。） （3）都道府県・指定都市及び市町村教育委員会の外国語担当指導主事等						
開催期日	平成１３年１０月中旬から平成１４年１月下旬の間において，概ね３日間の日程で各都道府県教育委員会が定める期間とする。						
開催日数	3　日間程度	計画人数	10,000 人	受講者数	10,926 人	(参加率)	109.26 %
開催場所	各都道府県教育委員会において設定する。						

Ⅱ　アンケート結果の状況

1　研修会全体について　　**アンケートは実施していない**

		大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	割合（%）	人		人		人		人	

2．研修内容に関する主な意見

Ⅰ　研修概要

研修名	教員情報リテラシー向上プロジェクト事業						
研修目的（趣旨）	各学校で実施するコンピュータ操作研修を担当する校内リーダーを養成するための研修						
対象	公・私立の小学校，中学校，高等学校，中等教育学校及び特殊教育諸学校の教員						
開催期日	平成　13　年　4　月　16　日（月）～ 平成　14　年　3　月　15　日（金）						
開催日数	1～6　日間	計画人数	15,000 人	受講者数	14,836 人	(参加率)	98.9 %
開催場所	各都道府県が設定						

Ⅱ　アンケート結果の状況　（未調査）

1　研修会全体について

	大変役に立った		おおむね役に立った		あまり役に立たなかった		回答なし	
人数（人）	人		人		人		人	
割合（%）								

2．研修内容に関する主な意見

研修事業名	衛星配信研修

研修事業名	配信した講義及び数	特記事項
教職員等中央研修講座 (校長・教頭等)	「教育改革の推進」 外17	・エルネットにより都道府県等へ配信 ・ビデオ録画を可として各種研修に活用するよう依頼
教職員等中央研修講座 (中堅教員)	「世界と日本 ～日本を取巻く国際環境」 外38	・エルネットにより都道府県等へ配信 ・ビデオ録画を可として各種研修に活用するよう依頼
生徒指導総合研修講座	「不登校児童生徒への援助の在り方」 外13	・エルネットにより都道府県等へ配信 ・ビデオ録画を可として各種研修に活用するよう依頼 ・講義「不登校児童生徒への援助の在り方」については、京都市と双方向で実施 ・事例研究「体験活動を生かした生徒指導」については、北海道及び兵庫県と双方向で実施
教育情報化推進指導者養成研修	「教育の情報化に関する国の施策」 外4	・エルネットにより都道府県等へ配信 ・ビデオ録画を可として各種研修に活用するよう依頼
エイズ・薬物乱用防止教育研修会	「薬物乱用防止教育の進め方」 外5	・エルネットにより都道府県等へ配信 ・ビデオ録画を可として各種研修に活用するよう依頼
学校安全教育指導者研修会	「学校における交通安全教育の考え方、進め方」 外9	・エルネットにより都道府県等へ配信 ・ビデオ録画を可として各種研修に活用するよう依頼
衛生管理研修会	「学校給食における衛生管理の充実について」 外1	・エルネットにより都道府県等へ配信 ・ビデオ録画を可として各種研修に活用するよう依頼
保健室相談活動研修会	「健康教育の現状と課題」 外1	・エルネットにより都道府県等へ配信 ・ビデオ録画を可として各種研修に活用するよう依頼
7 研修事業	96 講義	